



System i

システム管理  
パフォーマンスの参照情報

バージョン 6 リリース 1







System i

システム管理  
パフォーマンスの参照情報

バージョン 6 リリース 1

**ご注意！**

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、257 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM i5/OS (製品番号 5761-SS1) のバージョン 6、リリース 1、モディフィケーション 0 に適用されます。また、改訂版で断りがない限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

IBM 発行のマニュアルに関する情報のページ

<http://www.ibm.com/jp/manuals/>

こちらから、日本語版および英語版のオンライン・ライブラリーをご利用いただけます。また、マニュアルに関するご意見やご感想を、上記ページよりお送りください。今後の参考にさせていただきます。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典：	System i System management Performance reference information Version 6 Release 1
発行：	日本アイ・ビー・エム株式会社
担当：	ナショナル・ランゲージ・サポート

---

## 目次

パフォーマンスの参照情報 . . . . .	1		Disk Watcher データ・ファイル: QAPYDWOBJR	242
収集サービス・データ・ファイル . . . . .	1		Disk Watcher データ・ファイル:	
時間間隔データを含む収集サービス・データ・ファイル . . . . .	1		QAPYDWPGRM . . . . .	243
収集サービス・データ・ファイル: 構成データベース・ファイルのフィールド・データ . . . . .	229		Disk Watcher データ・ファイル: QAPYDWRUNI	244
収集サービス・データベース・ファイル: トレース・データベース・ファイルのフィールド・データ . . . . .	236		Disk Watcher データ・ファイル:	
収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリとファイルの関係 . . . . .	236		QAPYDWTDER. . . . .	247
収集サービス・データ・ファイル: Task type extender . . . . .	238		Disk Watcher データ・ファイル: QAPYDWTRC	248
Disk Watcher データ・ファイル . . . . .	241		データ・ファイル: ファイルの略語 . . . . .	251
Disk Watcher データ・ファイル: QAPYDWINTI	242		パフォーマンス用の CL コマンド . . . . .	252
			<b>付録. 特記事項 . . . . .</b>	<b>257</b>
			プログラミング・インターフェース情報 . . . . .	258
			商標 . . . . .	259
			使用条件 . . . . .	259



---

## パフォーマンスの参照情報

パフォーマンスに関連した追加参照資料。

---

### 収集サービス・データ・ファイル

収集サービスが管理する収集オブジェクトからデータベース・ファイルを生成できます。これらのデータベース・ファイルの名前、説明、および属性については、このトピックを参照してください。

パフォーマンス・データとは、応答時間およびスループットを理解するために使用できるシステム（システムのネットワーク）の操作に関する一連の情報です。パフォーマンス・データを使用することにより、プログラム、システム属性、および操作に調整を加えることができます。これらの調整を行うことにより応答時間とスループットを向上させることができます。また調整は、システム、操作、またはプログラムへの特定の変更の影響を予測する上で役立ちます。

収集サービスは、管理収集オブジェクト (\*MGTCOL) にパフォーマンス・データを収集します。パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドは、その収集オブジェクトからデータを処理し、パフォーマンス・データベース・ファイルに結果を保管します。

バイト数およびバッファ位置などの追加のフィールド情報は、ファイル・フィールド記述の表示 (DSPFFD) コマンドを使用すれば、利用可能になります。たとえば、コマンド行で以下のコマンドを入力します。

DSPFFD file(QSYS/QAPMCONF)

#### 関連情報

##### 収集サービス

収集サービスは、後で分析するパフォーマンス・データを収集するために使用します。

##### パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンド

パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンドを参照してください。

##### ファイル・フィールド記述の表示 (DSPFFD) コマンド

フィールド情報の表示方法については、『ファイル・フィールド記述の表示 (DSPFFD) コマンド』を参照してください。

### 時間間隔データを含む収集サービス・データ・ファイル

これらのファイルには、それぞれの間隔を収集されるパフォーマンス・データが含まれています。

#### 収集サービス・データ・ファイル: QAPMAPPN

このデータベース・ファイルは、拡張分散ネットワーク機能® (APPN) データ・ファイル・レコード内のフィールドを定義します。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)

フィールド名	説明	属性
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
ANTGU	送信グループ (TG) の更新処理の合計数。	PD (11,0)
ATTGU	TG の更新処理の累積時間 (ミリ秒)。	PD (11,0)
ANTGUM	1 つまたは複数の資源をトポロジー・データベース更新 (TDU) バッファーに追加する必要がある TG 更新の数。	PD (11,0)
ANRATG	TG の更新処理のために、TDU バッファーに追加された資源の数。	PD (11,0)
ANTSTG	TG の更新用のために初めて TDU バッファーを作成した結果として送信された TDU の数。	PD (11,0)
ANNTTG	TG の更新処理用に TDU が作成されたため、その TDU が送信されたネットワーク・ノードの数。	PD (11,0)
ANNCTC	処理されたノード輻輳変位の変更の数。	PD (11,0)
ATNCTC	輻輳変位の変更処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATRSNC	トポロジー経路指定サービス (TRS) が非負荷過剰状態に入った回数。	PD (11,0)
ATRSC	TRS が非負荷過剰状態に入った回数。	PD (11,0)
ATNCS	システムが非負荷過剰状態に入っている累積経過時間 (ミリ秒)。	PD (11,0)
ATCS	システムが非負荷過剰状態に入っているときの累積経過時間 (ミリ秒)。	PD (11,0)
ATSCP	ノード輻輳処理のために初めて TDU バッファーを作成した結果として送信された TDU の数。	PD (11,0)
ANTSCP	ノード輻輳処理用に TDU が作成されたため、その TDU が送信されたネットワーク・ノードの数。	PD (11,0)
ANTDUP	このノードによって処理された受信済み TDU の数。	PD (11,0)
ATTDUP	受信済み TDU の処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANNRTD	資源を TDU バッファーに追加する原因となる TDU で受信された新規資源の数。	PD (11,0)
ANORTN	資源を TDU バッファーに追加する必要のない TDU で受信された古い資源の数。	PD (11,0)
ANORTA	資源を TDU バッファーに追加する必要がある TDU で受信された古い資源の数。	PD (11,0)
ANTSRT	受信済み TDU の処理のために初めて TDU バッファーを作成した結果として送信された TDU の数。	PD (11,0)
ANNTST	受信済み TDU の処理用に TDU が作成されたため、その TDU が送信されたネットワーク・ノードの数。	PD (11,0)
ACNTID	間隔内のほとんどの TDU を受信したノードのネットワーク ID。	C (8)
ACCPNM	間隔内のほとんどの TDU を受信したノードの制御点 (CP) 名。	C (8)
ANTRFN	間隔内のほとんどの TDU を受信したノードによって、この間隔で受信された TDU の数。	PD (11,0)



フィールド名	説明	属性
ANITEP	このノードによって処理された初期トポロジー交換の合計数。	PD (11,0)
ATPIE	初期交換処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANTECT	初期トポロジー交換によって、全ネットワーク・ノード・トポロジーが送信された回数。	PD (11,0)
ANTDE	トポロジー・データベース全体に入っている項目の合計数 (この値はデルタではありません)。	PD (11,0)
ANTERS	初期トポロジー交換のために、TDU バッファに追加された資源 (ノードと TG) の数。	PD (11,0)
ANTETS	初期トポロジー交換の結果として送信された TDU の数。	PD (11,0)
ANGCP	古いトポロジー項目が除去された回数。	PD (11,0)
ATGCP	古いトポロジー項目の除去にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANTEDG	削除されたトポロジー項目の数。	PD (11,0)
ANTGC	古いトポロジー項目が除去されたときに送信された TDU の数。	PD (11,0)
ANNTGC	古いトポロジー項目が除去されたときに TDU が送信されたネットワーク・ノードの数。	PD (11,0)
ANRRP	処理された登録要求の合計数。	PD (11,0)
ANNLRR	登録要求で処理されたロケーションの合計数。	PD (11,0)
ATPRR	登録要求の処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANDRP	処理された削除要求の合計数。	PD (11,0)
ANLDDR	削除要求で処理されたロケーションの合計数。	PD (11,0)
ATPDR	削除要求の処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANCNAP	処理されたネットワーク属性変更要求の合計数。	PD (11,0)
ATCNA	ネットワーク属性変更要求の処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANDDRC	ネットワーク属性変更要求の処理のために、ディレクトリー・データベースが削除され再作成された回数。	PD (11,0)
ANLRSC	ネットワーク属性変更要求の処理のために送信されたロケーション登録要求の数。	PD (11,0)
ANLDSC	ネットワーク属性変更要求の処理のために送信されたロケーション削除要求の数。	PD (11,0)
ANTDRC	ネットワーク属性変更要求の処理のために、トポロジー・データベースが削除され再作成された回数。	PD (11,0)
ANCART	ネットワーク属性変更要求によって、ノード項目資源が TDU バッファに追加された回数。	PD (11,0)
ANTSTC	ネットワーク属性変更要求のために初めて TDU バッファを作成した結果として送信された TDU の数。	PD (11,0)
ANNTSC	ネットワーク属性変更要求の処理用に TDU が作成されたため、その TDU が送信されたネットワーク・ノードの数。	PD (11,0)
ANDAI	APPN 情報が表示された回数 (DSPAPPNINF コマンド)。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
ANLLUP	処理されたローカル・ロケーション・リストの更新の合計数。	PD (11,0)
ATLLUP	ローカル・ロケーション・リストの更新処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANLRSL	ローカル・ロケーション・リストの更新処理のために送信されたロケーション登録要求の数。	PD (11,0)
ANLDLL	ローカル・ロケーション・リストの更新処理のために送信されたロケーション削除要求の数。	PD (11,0)
ANRLUP	処理されたリモート・ロケーション・リスト更新の合計数。	PD (11,0)
ATRLUP	リモート・ロケーション・リストの更新処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANMDUP	APPN によって処理されたモード記述更新の合計数。	PD (11,0)
ATMDUP	モード記述更新処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANCSUP	APPN によって処理されたサービス・クラス更新の合計数。	PD (11,0)
ATCSUT	TRS によるサービス・クラス (COS) の更新処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATCSUC	CPMGR タスクによる COS の更新処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANCSSA	試行された回線争奪 CP-CP セッションのセットアップの数。	PD (11,0)
ANCSSS	成功した回線争奪 CP-CP セッションのセットアップの数。	PD (11,0)
ANRRS	送信された登録要求の合計数。	PD (11,0)
ANLRRR	登録要求で登録されたロケーションの合計数。	PD (11,0)
ATSRR	登録要求の送信にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANSTC	回線争奪 CP セッションのセットアップのために、TRS に対して出された単一ホップ経路要求の数。	PD (11,0)
ANSTCS	成功した回線争奪 CP セッションのセットアップのために、トポロジー経路指定サービス (TRS) に対して出された単一ホップ経路要求の数。	PD (11,0)
ATSTCS	回線争奪 CP セッションのセットアップのために、単一ホップ経路要求の処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANARMC	回線争奪 CP セッションのセットアップのために、MSCP に対して出された経路活動化要求の数。	PD (11,0)
ANSARM	回線争奪 CP セッションのセットアップのために、MSCP が正常に処理した経路活動化要求の数。	PD (11,0)
ATARMC	回線争奪 CP セッションのセットアップのために、経路活動化要求にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANTDSC	回線争奪 CP セッションのセットアップのために、T2 SIOM に対して出された装置選択実行要求の数。	PD (11,0)
ATTDSC	回線争奪 CP セッションのセットアップのために、装置選択処理が完了するのににかかった累積経過時間。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
ANDSS	回線争奪 CP セッションのセットアップのために、成功した装置選択要求の数。	PD (11,0)
ATCCSA	回線争奪 CP セッションの活動化要求の処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANLSAP	処理された回線争奪 CP セッションの活動化の数。	PD (11,0)
ANCST	回線争奪 CP-CP セッションの終了の数。	PD (11,0)
ATCST	回線争奪 CP-CP セッションの終了処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANLST	回線争奪 CP-CP セッションの終了の数。	PD (11,0)
ATLST	回線争奪 CP-CP セッションの終了処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANCWSA	現在活動状態の勝者 CP-CP セッションの数 (これはデルタではありません)。	PD (11,0)
ANCLSA	現在活動状態の敗者 CP-CP セッションの数 (これはデルタではありません)。	PD (11,0)
ANCDRR	処理されたデータ受信要求の数 (CP 機能)。	PD (11,0)
ANCBDR	受信されたデータのバイト数 (CP 機能)。	PD (11,0)
ATCDRR	データ受信要求の処理にかかった累積経過時間 (CP 機能)。	PD (11,0)
ANCSDR	処理されたデータ送信要求の数 (CP 機能)。	PD (11,0)
ANCBDS	データ送信要求によって送信されたデータのバイト数 (CP 機能)。	PD (11,0)
ATCSDR	データ送信要求の処理にかかった累積経過時間 (CP 機能)。	PD (11,0)
ANTDRR	処理されたデータ受信要求の数 (トポロジー・データベースの更新)。	PD (11,0)
ANTBDR	受信されたデータのバイト数 (トポロジー・データベースの更新)。	PD (11,0)
ATDRR	データ受信要求の処理にかかった累積経過時間 (トポロジー・データベースの更新)。	PD (11,0)
ANTSDR	処理されたデータ送信要求の数 (トポロジー・データベースの更新)。	PD (11,0)
ANTBDS	データ送信要求によって送信されたデータのバイト数 (トポロジー・データベースの更新)。	PD (11,0)
ATTSDR	データ送信要求の処理にかかった累積経過時間 (トポロジー・データベースの更新)。	PD (11,0)
ANDDRR	処理されたデータ受信要求の数 (ディレクトリー検索)。	PD (11,0)
ANDBDR	受信されたデータのバイト数 (ディレクトリー検索)。	PD (11,0)
ATDRR	データ受信要求の処理にかかった累積経過時間 (ディレクトリー検索)。	PD (11,0)
ANDSDR	処理されたデータ送信要求の数 (ディレクトリー検索)。	PD (11,0)
ANDBDS	データ送信要求によって送信されたデータのバイト数 (ディレクトリー検索)。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
ATDSDR	データ送信要求の処理にかかった累積経過時間 (ディレクトリー検索)。	PD (11,0)
ANRDRR	処理されたデータ受信要求の数 (登録/削除)。	PD (11,0)
ANRBDR	受信されたデータのバイト数 (登録/削除)。	PD (11,0)
ATRDRR	データ受信要求の処理にかかった累積経過時間 (登録/削除)。	PD (11,0)
ANRSDR	処理されたデータ送信要求の数 (登録/削除)。	PD (11,0)
ANRBDS	データ送信要求によって送信されたデータのバイト数 (登録/削除)。	PD (11,0)
ATRSDR	データ送信要求の処理にかかった累積経過時間 (登録/削除)。	PD (11,0)
ローカル・システムが開始したセッション		
ANWAPI	処理済みのこのタイプの作業活動の合計数。	PD (11,0)
ATWAPI	このタイプの作業活動を完了するのにかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATWAS1	このタイプの作業活動のうち、正常な結果を出した作業活動の合計数。	PD (11,0)
ASSSA1	既存の APPN セッションの中で、成功したセッション・セットアップの試行数。	PD (11,0)
AASNA1	非 APPC 装置記述を使用することによって成功した APPC セッション要求の数。	PD (11,0)
ASPAC1	ディレクトリー、経路選択、および装置選択処理用の APPN ディレクトリー制御サービスを必要とする、セッション・セットアップ要求の数。	PD (11,0)
ASPSPI	同じローカル・ロケーション、リモート・ロケーション、およびモードについて別のセッション・セットアップが進行中であるために、保留にされているセッション・セットアップ要求の数。	PD (11,0)
ASLNS1	ローカル・エンド・ノードがローカルに (つまり、そのネットワーク・ノード (NN) サーバーに検索を送信しないで) 実行した検索の数。	PD (11,0)
AS1HS1	エンド・ノード (EN) が送信した単一ホップ検索要求の数。	PD (11,0)
A1HSS1	エンド・ノードが単一ホップ検索要求を送信することによって実行した検索の数。	PD (11,0)
ASSBN1	(エンド・ノードにサーバーへの CP-CP セッションがないために) 接続されているネットワーク・ノード・サーバーに直接 BIND を結合することによって実行された検索の数。	PD (11,0)
ASFNS1	ローカル・エンド・ノードに利用可能なネットワーク・サービスがなかったために失敗した検索の数。	PD (11,0)
ATILP1	エンド・ノードが開始した検索フェーズが完了するのにかかった累積経過時間。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
ANSSL1	ローカルに実行された (トポロジー・データベースやディレクトリー・サービス (DS) データベースを使用し、CP セッションをサポートしないエンド・ノードの項目を検出することによって) 検索の数。	PD (11,0)
ANIHS1	ネットワーク・ノードが送信した単一ホップ検索要求の数。	PD (11,0)
ANSS11	ネットワーク・ノードが単一ホップ検索要求を送信することによって実行した検索の数。	PD (11,0)
ANDSS1	送信された有向検索の数。	PD (11,0)
ASSDS1	有向検索を送信することによって実行された検索の数。	PD (11,0)
ATDSR1	有向検索の応答の受信にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANDBE1	実行されていたドメイン・ブロードキャストの数。	PD (11,0)
ANNDB1	それらのドメイン・ブロードキャストが送信されたノードの数。	PD (11,0)
ATRDB1	ドメイン・ブロードキャストで最初の肯定応答が戻されるのににかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATLRD1	ドメイン・ブロードキャストで最後の応答が戻されるのににかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ASSDB1	ドメイン・ブロードキャストを送信することによって実行された検索の数。	PD (11,0)
ANBSE1	実行されていたブロードキャスト検索の数。	PD (11,0)
ANNBS1	それらのブロードキャスト検索が送信された隣接ノードの数。	PD (11,0)
ATRBS1	ブロードキャスト検索で最初の肯定応答が戻されるのににかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATLRB1	ブロードキャスト検索で最後の応答が戻されるのににかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANSBS1	ブロードキャスト検索を送信することによって実行された検索の数。	PD (11,0)
ATSPR1	ローカル・ノードで検索処理を開始してから、ローカル・ユーザーに肯定応答が返されるまでにかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATSPC1	検索処理を開始してから、ローカル・ディレクトリー・サービス・タスクがすべての要求処理を完了するまでにかかった累積経過時間。この測定では、すでにローカル・ユーザーに肯定応答が返信されている場合でも、ドメイン・ブロードキャストやブロードキャスト検索応答の処理に要する時間が考慮に入れます。	PD (11,0)
ANIHT1	トポロジー経路指定サービス (TRS) に対して出された単一ホップ経路要求の数。	PD (11,0)
ASIHT1	TRS に対して出され、成功した単一ホップ経路要求の数。	PD (11,0)
ATIHC1	単一ホップ経路要求の処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANRRT1	TRS に対して出された経路要求の要求の数。	PD (11,0)
ASRRT1	TRS に対して出され、成功した経路要求の要求の数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
ATRR1	経路要求の要求の処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
AARRM1	マシン・サービス制御点 (MSCP) に対して出された経路活動化要求の数。	PD (11,0)
AARCV1	制御装置記述を自動的に作成するか、またはシステムでオンに変更する (あるいはその両方) 必要のある経路活動化要求の数。	PD (11,0)
ATRCV1	制御装置を自動的に作成するか、またはオンに変更する (あるいはその両方) 処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ASARR1	MSCP によって正常に処理された経路活動化要求の数。	PD (11,0)
ATARP1	MSCP による経路活動化要求の処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ARDS1	T2 SIOM に対して出された、装置選択の実行要求の数。	PD (11,0)
ATDS1	装置選択処理が完了するのににかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ADSS1	成功した装置選択要求の数。	PD (11,0)
エンド・ノードとしての検索要求の受信側		
ANWAP2	処理済みのこのタイプの作業活動の合計数。	PD (11,0)
ATWAP2	このタイプの作業活動を完了するのににかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATWAS2	このタイプの作業活動のうち、正常な結果を出した作業活動の合計数。	PD (11,0)
エンド・ノードのために検索要求を実行するネットワーク・ノード		
ANWAP3	処理済みのこのタイプの作業活動の合計数。	PD (11,0)
ATWAP3	このタイプの作業活動を完了するのににかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATWAS3	このタイプの作業活動のうち、正常な結果を出した作業活動の合計数。	PD (11,0)
ANSSL3	ローカルで (トポロジー・データベースを参照するか、ディレクトリー・サービス・データベースを使用して、制御点セッションをサポートしないエンド・ノードの項目を検出することによって) 実行された検索の数。	PD (11,0)
ANIHS3	ネットワーク・ノードが送信した単一ホップ検索要求の数。	PD (11,0)
ANSS13	ネットワーク・ノードが単一ホップ検索要求を送信することによって実行した検索の数。	PD (11,0)
ANDSS3	送信された有向検索の数。	PD (11,0)
ASSDS3	有向検索を送信することによって実行された検索の数。	PD (11,0)
ATDSR3	有向検索の応答の受信にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANDBE3	実行されていたドメイン・ブロードキャストの数。	PD (11,0)
ANNDB3	それらのドメイン・ブロードキャストが送信されたノードの数。	PD (11,0)
ATRDB3	ドメイン・ブロードキャストで最初の肯定応答が戻されるのににかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATLRD3	ドメイン・ブロードキャストで最後の応答が戻されるのににかかった累積経過時間。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
ASSDB3	ドメイン・ブロードキャストを送信することによって実行された検索の数。	PD (11,0)
ANBSE3	実行されていたブロードキャスト検索の数。	PD (11,0)
ANNBS3	それらのブロードキャスト検索が送信された隣接ノードの数。	PD (11,0)
ATRBS3	ブロードキャスト検索で最初の肯定応答が戻されるのにかけた累積経過時間。	PD (11,0)
ATLRB3	ブロードキャスト検索で最後の応答が戻されるのにかけた累積経過時間。	PD (11,0)
ANSBS3	ブロードキャスト検索を送信することによって実行された検索の数。	PD (11,0)
ATSPR3	ローカル・ノードで検索処理を開始してから、ローカル・システムで検索処理を開始したローカル・ユーザーまたはリモート・システムに応答が返されるまでにかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATSPC3	検索処理を開始してから、ローカル・ディレクトリー・サービス・タスクがすべての要求処理を完了するまでにかかった累積経過時間。この測定では、検索を開始したローカル・ユーザーまたはリモート・システムにすでに肯定応答が返信されている場合でも、ドメイン・ブロードキャストやブロードキャスト検索応答の処理に要する時間が考慮に入れます。	PD (11,0)
ANRRT3	TRS に対して出された経路要求の要求の数。	PD (11,0)
ASRRT3	TRS に対して出され、成功した経路要求の要求の数。	PD (11,0)
ATRRT3	経路要求の要求の処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
有向検索要求での中間ノード		
ANWAP4	処理済みのこのタイプの作業活動の合計数。	PD (11,0)
ATWAP4	このタイプの作業活動を完了するのにかけた累積経過時間。	PD (11,0)
ATWAS4	このタイプの作業活動のうち、正常な結果を出した作業活動の合計数。	PD (11,0)
有向検索要求の宛先ノードとなるネットワーク・ノード		
ANWAP5	処理済みのこのタイプの作業活動の合計数。	PD (11,0)
ATWAP5	このタイプの作業活動を完了するのにかけた累積経過時間。	PD (11,0)
ATWAS5	このタイプの作業活動のうち、正常な結果を出した作業活動の合計数。	PD (11,0)
ANSSL5	ローカルで (トポロジー・データベースを参照するか、ディレクトリー・サービス・データベースを使用して、制御点セッションをサポートしないエンド・ノードの項目を検出することによって) 実行された検索の数。	PD (11,0)
ANIHS5	ネットワーク・ノードが送信した単一ホップ検索要求の数。	PD (11,0)
ANSS15	ネットワーク・ノードが単一ホップ検索要求を送信することによって実行した検索の数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
ANDBE5	実行されていたドメイン・ブロードキャストの数。	PD (11,0)
ANNDB5	それらのドメイン・ブロードキャストが送信されたノードの数。	PD (11,0)
ATRDB5	ドメイン・ブロードキャストで最初の肯定応答が戻されるのににかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATLRD5	ドメイン・ブロードキャストで最後の応答が戻されるのににかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ASSDB5	ドメイン・ブロードキャストを送信することによって実行された検索の数。	PD (11,0)
受信済みブロードキャスト検索要求を処理するネットワーク・ノード		
ANWAP6	処理済みのこのタイプの作業活動の合計数。	PD (11,0)
ATWAP6	このタイプの作業活動を完了するのににかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATWAS6	このタイプの作業活動のうち、正常な結果を出した作業活動の合計数。	PD (11,0)
ANSSL6	ローカルで (トポロジー・データベースを参照するか、ディレクトリー・サービス・データベースを使用して、制御点セッションをサポートしないエンド・ノードの項目を検出することによって) 実行された検索の数。	PD (11,0)
ANIHS6	ネットワーク・ノードが送信した単一ホップ検索要求の数。	PD (11,0)
ANSS16	ネットワーク・ノードが単一ホップ検索要求を送信することによって実行した検索の数。	PD (11,0)
ANDBE6	実行されていたドメイン・ブロードキャストの数。	PD (11,0)
ANNDB6	それらのドメイン・ブロードキャストが送信されたノードの数。	PD (11,0)
ATRDB6	ドメイン・ブロードキャストで最初の肯定応答が戻されるのににかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATLRD6	ドメイン・ブロードキャストで最後の応答が戻されるのににかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ASSDB6	ドメイン・ブロードキャストを送信することによって実行された検索の数。	PD (11,0)
System i™ 以外のネットワーク内のノードからの受信済み検索要求を処理するネットワーク・ノード		
ANWAP7	処理済みのこのタイプの作業活動の合計数。	PD (11,0)
ATWAP7	このタイプの作業活動を完了するのににかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATWAS7	このタイプの作業活動のうち、正常な結果を出した作業活動の合計数。	PD (11,0)
ANSSL7	ローカルで (トポロジー・データベースを参照するか、ディレクトリー・サービス・データベースを使用して、制御点セッションをサポートしないエンド・ノードの項目を検出することによって) 実行された検索の数。	PD (11,0)
ANIHS7	ネットワーク・ノードが送信した単一ホップ検索要求の数。	PD (11,0)



フィールド名	説明	属性
ANSS17	ネットワーク・ノードが単一ホップ検索要求を送信することによって実行した検索の数。	PD (11,0)
ANDSS7	送信された有向検索の数。	PD (11,0)
ASSDS7	有向検索を送信することによって実行された検索の数。	PD (11,0)
ATDSR7	有向検索の応答の使用にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANDBE7	実行されていたドメイン・ブロードキャストの数。	PD (11,0)
ANNDB7	それらのドメイン・ブロードキャストが送信されたノードの数。	PD (11,0)
ATRDB7	ドメイン・ブロードキャストで最初の肯定応答が戻されるのににかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATLRD7	ドメイン・ブロードキャストで最後の応答が戻されるのににかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ASSDB7	ドメイン・ブロードキャストを送信することによって実行された検索の数。	PD (11,0)
ANBSE7	実行されていたブロードキャスト検索の数。	PD (11,0)
ANNBS7	それらのブロードキャスト検索が送信された隣接ノードの数。	PD (11,0)
ATRBS7	ブロードキャスト検索で最初の肯定応答が戻されるのににかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATLRB7	ブロードキャスト検索で最後の応答が戻されるのににかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANSBS7	ブロードキャスト検索を送信することによって実行された検索の数。	PD (11,0)
ATSPR7	ローカル・ノードで検索処理を開始してから、ローカル・システムで検索処理を開始したりリモート・システムに応答が返されるまでにかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATSPC7	検索処理を開始してから、ローカル・ディレクトリー・サービス・タスクがすべての要求処理を完了するまでにかかった累積経過時間。この測定では、検索を開始したりリモート・システムにすでに肯定応答が返信されている場合でも、ドメイン・ブロードキャストやブロードキャスト検索応答の処理に要する時間が考慮に入れられません。	PD (11,0)
ANRRT7	トポロジー経路指定サービス (TRS) サービスに対して出された経路要求の要求の数。	PD (11,0)
ASRRT7	トポロジー経路指定サービス (TRS) サービスに対して出され、成功した経路要求の要求の数。	PD (11,0)
ATTRT7	経路要求の要求の処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
System i ネットワーク内のノードから経路指定情報なしで受信した結合要求を処理するネットワーク・ノード		
ANWAP8	処理済みのこのタイプの作業活動の合計数。	PD (11,0)
ATWAP8	このタイプの作業活動を完了するのににかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATWAS8	このタイプの作業活動のうち、正常な結果を出した作業活動の合計数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
ASPSP8	同じローカル・ロケーション、リモート・ロケーション、およびモードについて別のセッション・セットアップが進行中であるために、保留にされているセッション・セットアップ要求の数。	PD (11,0)
ANSSL8	ローカルで (トポロジー・データベースを参照するか、ディレクトリー・サービス・データベースを使用して、制御点セッションをサポートしないエンド・ノードの項目を検出することによって) 実行された検索の数。	PD (11,0)
ANIHS8	ネットワーク・ノードが送信した単一ホップ検索要求の数。	PD (11,0)
ANSS18	ネットワーク・ノードが単一ホップ検索要求を送信することによって実行した検索の数。	PD (11,0)
ANDSS8	送信された有向検索の数。	PD (11,0)
ASSDS8	有向検索を送信することによって実行された検索の数。	PD (11,0)
ATDSR8	有向検索の応答の使用にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANDBE8	実行されていたドメイン・ブロードキャストの数。	PD (11,0)
ANNDB8	それらのドメイン・ブロードキャストが送信されたノードの数。	PD (11,0)
ATRDB8	ドメイン・ブロードキャストで最初の肯定応答が戻されるのにかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATLRD8	ドメイン・ブロードキャストで最後の応答が戻されるのにかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ASSDB8	ドメイン・ブロードキャストを送信することによって実行された検索の数。	PD (11,0)
ANBSE8	実行されていたブロードキャスト検索の数。	PD (11,0)
ANNBS8	それらのブロードキャスト検索が送信された隣接ノードの数。	PD (11,0)
ATRBS8	ブロードキャスト検索で最初の肯定応答が戻されるのにかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATLRB8	ブロードキャスト検索で最後の応答が戻されるのにかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANSBS8	ブロードキャスト検索を送信することによって実行された検索の数。	PD (11,0)
ATSPR8	ローカル・ノードで検索処理を開始してから、ローカル・システムに結合処理の継続を許可する応答が返されるまでにかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATSPC8	検索処理を開始してから、ローカル・ディレクトリー・サービス・タスクがすべての要求処理を完了するまでにかかった累積経過時間。この測定では、検索を開始したローカル・システムにすでに結合処理の継続を許可する肯定応答が返信されている場合でも、ドメイン・ブロードキャストやブロードキャスト検索応答の処理に要する時間が考慮に入れます。	PD (11,0)
ANRRT8	トポロジー経路指定サービス (TRS) サービスに対して出された経路要求の要求の数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
ASRRT8	TRS に対して出され、成功した経路要求の要求の数。	PD (11,0)
ATRR8	経路要求の要求の処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
AARRM8	マシン・サービス制御点 (MSCP) に対して出された経路活動化要求の数。	PD (11,0)
AARCV8	制御装置記述を自動的に作成するか、またはシステムでオンに変更する (あるいはその両方) 必要のある経路活動化要求の数。	PD (11,0)
ATRCV8	制御装置を自動的に作成するか、またはオンに変更する (あるいはその両方) 処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ASARR8	MSCP によって正常に処理された経路活動化要求の数。	PD (11,0)
ATARP8	MSCP による経路活動化要求の処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
System i 以外のネットワーク内のノードから経路指定情報なしで受信した結合要求を処理するネットワーク・ノード		
ANWAP9	処理済みのこのタイプの作業活動の合計数。	PD (11,0)
ATWAP9	このタイプの作業活動を完了するのにかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATWAS9	このタイプの作業活動のうち、正常な結果を出した作業活動の合計数。	PD (11,0)
ASPSP9	同じローカル・ロケーション、リモート・ロケーション、およびモードについて別のセッション・セットアップが進行中であるために、保留にされているセッション・セットアップ要求の数。	PD (11,0)
ANSSL9	ローカルで (トポロジー・データベースを参照するか、ディレクトリー・サービス・データベースを使用して、制御点セッションをサポートしないエンド・ノードの項目を検出することによって) 実行された検索の数。	PD (11,0)
ANIHS9	ネットワーク・ノードが送信した単一ホップ検索要求の数。	PD (11,0)
ANSS19	ネットワーク・ノードが単一ホップ検索要求を送信することによって実行した検索の数。	PD (11,0)
ANDSS9	送信された有向検索の数。	PD (11,0)
ASSDS9	有向検索を送信することによって実行された検索の数。	PD (11,0)
ATDSR9	有向検索の応答の受信にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANDBE9	実行されていたドメイン・ブロードキャストの数。	PD (11,0)
ANNDB9	それらのドメイン・ブロードキャストが送信されたノードの数。	PD (11,0)
ATRDB9	ドメイン・ブロードキャストで最初の肯定応答が戻されるのにかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATLRD9	ドメイン・ブロードキャストで最後の応答が戻されるのにかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ASSDB9	ドメイン・ブロードキャストを送信することによって実行された検索の数。	PD (11,0)
ANBSE9	実行されていたブロードキャスト検索の数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
ANNBS9	それらのブロードキャスト検索が送信された隣接ノードの数。	PD (11,0)
ATRBS9	ブロードキャスト検索で最初の肯定応答が戻されるのにかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATLRB9	ブロードキャスト検索で最後の応答が戻されるのにかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANSBS9	ブロードキャスト検索を送信することによって実行された検索の数。	PD (11,0)
ATSPR9	ローカル・ノードで検索処理を開始してから、ローカル・システムに結合処理の継続を許可する応答が返されるまでにかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATSPC9	検索処理を開始してから、ローカル・ディレクトリー・サービス・タスクがすべての要求処理を完了するまでにかかった累積経過時間。この測定では、検索を開始したローカル・システムにすでに結合処理の継続を許可する肯定応答が返信されている場合でも、ドメイン・ブロードキャストやブロードキャスト検索応答の処理に要する時間が考慮に入れます。	PD (11,0)
ANRRT9	トポロジー経路指定サービス (TRS) サービスに対して出された経路要求の要求の数。	PD (11,0)
ASRRT9	TRS に対して出され、成功した経路要求の要求の数。	PD (11,0)
ATRRT9	経路要求の要求の処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
AARRM9	マシン・サービス制御点 (MSCP) に対して出された経路活動化要求の数。	PD (11,0)
AARCV9	制御装置記述を自動的に作成するか、またはシステムでオンに変更する (あるいはその両方) 必要のある経路活動化要求の数。	PD (11,0)
ATRCV9	制御装置を自動的に作成するか、またはオンに変更する (あるいはその両方) 処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ASARR9	MSCP によって正常に処理された経路活動化要求の数。	PD (11,0)
ATARP9	MSCP による経路活動化要求の処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
System i ネットワーク内のノードから経路指定情報と共に受信した結合要求を処理するネットワーク・ノード		
ANWAPA	処理済みのこのタイプの作業活動の合計数。	PD (11,0)
ATWAPA	このタイプの作業活動を完了するのにかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATWASA	このタイプの作業活動のうち、正常な結果を出した作業活動の合計数。	PD (11,0)
ASPSA	同じローカル・ロケーション、リモート・ロケーション、モードの 3 つについて別のセッション・セットアップが進行中であるために、保留にされているセッション・セットアップ要求の数。	PD (11,0)
AARRMA	マシン・サービス制御点 (MSCP) に対して出された経路活動化要求の数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
AARCVA	制御装置記述を自動的に作成するか、またはシステムでオンに変更する (あるいはその両方) 必要のある経路活動化要求の数。	PD (11,0)
ATRCVA	制御装置を自動的に作成するか、またはオンに変更する (あるいはその両方) 処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ASARRA	MSCP によって正常に処理された経路活動化要求の数。	PD (11,0)
ATARPA	MSCP による経路活動化要求の処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
System i 以外のネットワーク内のノードから経路指定情報と共に受信した結合要求を処理するネットワーク・ノード		
ANWAPB	処理済みのこのタイプの作業活動の合計数。	PD (11,0)
ATWAPB	このタイプの作業活動を完了するのにかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATWASB	このタイプの作業活動のうち、正常な結果を出した作業活動の合計数。	PD (11,0)
ASPSPB	同じローカル・ロケーション、リモート・ロケーション、モードの 3 つについて別のセッション・セットアップが進行中であるために、保留にされているセッション・セットアップ要求の数。	PD (11,0)
AARRMB	マシン・サービス制御点 (MSCP) に対して出された経路活動化要求の数。	PD (11,0)
AARCVB	制御装置記述を自動的に作成するか、またはシステムでオンに変更する (あるいはその両方) 必要のある経路活動化要求の数。	PD (11,0)
ATRCVB	制御装置を自動的に作成するか、またはオンに変更する (あるいはその両方) 処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ASARRB	MSCP によって正常に処理された経路活動化要求の数。	PD (11,0)
ATARPB	MSCP による経路活動化要求の処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)

### 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリーとファイルの関係』  
収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

### 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンド  
パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成  
(CRTPFRDTA) コマンドを参照してください。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMARMTRT

このデータベース・ファイルには、QAPMUSRTNS ファイルに報告される、Application Response  
Measurement (ARM) トランザクション・タイプについての情報が含まれています。

このオプションの 2 次ファイルは、システムが ARM トランザクションのパフォーマンス・データを収集するときのみ、作成されます。QAPMARMTRT ファイルは、システムが認識しているそれぞれの ARM トランザクションごとに、1 つのレコードを含んでいます。

アプリケーションは、ARM API を使用して、アプリケーション・レベルでの トランザクションの進行に関する情報を提供します。ARM トランザクションがシステムで使用可能になっている場合、ARM アプリケーションおよびミドルウェアからの ARM トランザクションのパフォーマンス・データが、QAPMUSRTNS ファイルに報告されます。

ARM トランザクション・タイプは、ARM アプリケーション名と ARM アプリケーション・グループ名の組み合わせによって識別できます。

ARM トランザクション・タイプ名は、接頭部に 『QARM』 を持ち、その後 8 バイトの内部 ARM トランザクション ID の 16 文字表記が続きます。

フィールド名	説明	属性
ATTYP	ARM トランザクション・タイプ。	C (20)
ATANAME	ARM アプリケーション名。 注: このフィールドは Unicode です。	G (127)
ATAGNAME	ARM アプリケーション・グループ名。 注: このフィールドは Unicode です。	G (255)

**注:**

1. QAPMUSRTNS ファイルには、報告される各ジョブに関して最初の 15 トランザクション・タイプの特定データが含まれます。残りのデータは、\*OTHER トランザクション・タイプに結合されます。ただし、QAPMARMTRT ファイルには、システムに認識されている、すべての ARM トランザクション・タイプのレコードが含まれます。
2. ARM API は、使用不可の状態で出荷されます。ARM API をシステム上で使用可能にする方法に関する情報は、『Enable ARM on IBM-instrumented applications』を参照してください。
3. 異なる ARM インストルメント・アプリケーションおよびミドルウェア製品は、ARM インストルメントを使用可能にするために、特定の構成ステップを必要とすることがあります。
4. ARM トランザクション・データは、オペレーティング・システムに付属の ARM API インプリメンテーションを呼び出すアプリケーションに対してのみ報告されます。

**関連資料**

211 ページの『収集サービス・データ・ファイル: QAPMUSRTNS』

このデータベース・ファイルは、ユーザー定義トランザクションおよび Application Response Measurement (ARM) トランザクションのパフォーマンス・データを含んでいます。

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリーとファイルの関係』

収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL) オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』

データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

**関連情報**



Enable ARM on IBM-instrumented applications

ARM API をシステム上で使用可能にする方法に関する情報は、『Enable ARM on IBM-instrumented applications』を参照してください。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMASYN

このデータベース・ファイルには非同期ファイルの項目が含まれており、非同期ファイル内のフィールドをリストしています。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
AIOPID	予約済み	C (1)
ASTYPE	このレコードに表示されている IOP またはアダプターの資源タイプ。	C (4)
ASLND	回線記述: この回線の記述の名前。	C (10)
ASLSP	回線速度: 回線のビット/秒 (bps) 速度。	PD (11,0)
ASBTRN	エラーのために再送信されたバイトを含む、送信されたバイト数 (データ文字および制御文字)。	PD (11,0)
ASBRCV	エラーで受信された文字を含む、受信されたバイト数 (データ文字および制御文字)。	PD (11,0)
ASPRCL	プロトコル・タイプ: A (非同期)。	C (1)
ASPDUR	受信されたプロトコル・データ単位 (PDU) の合計数。	PD (11,0)
ASPDUE	受信時にパリティ・エラーやストップ・ビット・エラーのあったプロトコル・データ単位 (PDU) の合計数。	PD (11,0)
ASPDUT	正常に送信されたプロトコル・データ単位 (PDU) の合計数と応答されたデータ回線終端装置 (DCE)。	PD (11,0)
ASDUP	回線の二重状況。いくつかの回線では、時間がたつと、この値は変化する可能性があります。このフィールドには、以下のような値が含まれることがあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ブランク - 二重状況は通知されていません。</li> <li>• F - 全二重。回線は、データの送信と受信を同時に行うことができます。</li> <li>• H - 半二重。回線は、データの送信かデータの受信のいずれかを行うことができますが、データの送信と受信を同時に行うことはできません。</li> </ul>	C (1)

### 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリーとファイルの関係』  
収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』

データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

### 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンド

パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンドを参照してください。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMBSC

このデータベース・ファイルには、2 進データ同期ファイル項目が含まれており、2 進データ同期ファイル内のフィールドをリストしています。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
BIOPID	予約済み	C (1)
BSTYPE	このレコードに表示されている IOP またはアダプターの資源タイプ。	C (4)
BSLND	回線記述: この回線の記述の名前。	C (10)
BSLSP	回線速度: 回線のビット/秒 (bps) 速度。	PD (11,0)
BSBTRN	送信されたバイト数: 再送信されたバイト数を含む、送信されたバイト数 (データおよび制御文字)。	PD (11,0)
BSBRCV	受信されたバイト数: エラーで受信されたバイト数を含む、受信されたバイト数 (データおよび制御文字)。	PD (11,0)
BSPRCL	プロトコル・タイプ: B (2 進データ同期用)。	C (1)
BSDCRV	受信されたデータ文字数: データ・モードの間に正常に受信されたデータ文字数 (同期文字数を除く)。機能タイプ 2507 および 6150 の場合、この値はフィールド BSBRCV と同じです。	PD (11,0)
BSDCRE	エラーで受信されたデータ文字数: データ・モードになっているときにブロック検査文字エラーで受信されたデータ文字数。機能タイプ 2507 および 6150 の場合、この値はフィールド BSCRER と同じです。	PD (11,0)
BSDCTR	送信されたデータ文字数: データ・モードになっているときに正常に送信されたデータ文字数。機能タイプ 2507 および 6150 の場合、この値はフィールド BSBTRN と同じです。	PD (11,0)
BSCRER	エラーで受信された文字数: ブロック検査文字エラーで受信された文字数。	PD (11,0)
BSLNK	送信されるテキストに受信された否定応答文字 (注を参照)。リモート・ステーションまたは装置がホスト・システムから送信されたコマンドを理解しなかった回数。	PD (11,0)
BSLWA	送信されたテキストへの間違った肯定応答文字 (注を参照)。ホスト・システムは、予期されなかったリモート装置からの肯定応答を受信しました。たとえば、システムは ACK0 を予期しましたが、ACK1 を受信しました。	PD (11,0)



フィールド名	説明	属性
BSLQTS	送信されたテキストへのエンキュー (注を参照): テキストはステーションによって送信され、ENQ 文字が戻されました。受信ステーションは、ACK0、ACK1、または NAK などいくつかの形式の応答を予期しました。	PD (11,0)
BSLINV	無効 (認識されない形式): 送受信されているデータを大括弧で囲む区切り文字のうちの 1 つが無効です (注を参照)。	PD (11,0)
BSLQAK	応答された文字へのエンキュー: リモート・ステーションは応答 (例: ACK0) を戻し、ホスト・システムは ENQ 文字を送信しました。これは、ホスト・ステーションがその肯定応答を有効な肯定応答として認識しなかったことを示しています (注を参照)。	PD (11,0)
BSLTNK	送信されるテキストに受信された否定応答文字数 (合計): リモート・ステーションがホスト・システムから送信されたコマンドを理解しなかった回数 (注を参照)。	PD (11,0)
BSLTWA	送信されるテキストへの間違った肯定応答文字数 (合計): ホスト・システムは、予期されないリモート・デバイスから肯定応答を受信しました。たとえば、ホスト・システムは ACK0 を予期しましたが、ACK1 を受信しました (注を参照)。	PD (11,0)
BSLTQT	送信されたテキストへのエンキュー (合計): テキストはステーションによって送信され、ENQ 文字が戻されました。受信ステーションは、ACK0、ACK1、または NAK などいくつかの形式の応答を予期しました (注を参照)。	PD (11,0)
BSLTIV	無効 (認識されない形式) (合計): 送受信されているデータを大括弧で囲む区切り文字のうちの 1 つが無効です (注を参照)。	PD (11,0)
BSLTQA	応答文字へのエンキュー (合計): リモート・ステーションは応答 (例: ACK0) を戻し、ホスト・ステーションは ENQ 文字を送信しました。これは、ホスト・ステーションがその肯定応答を有効な肯定応答として認識しなかったことを示しています (注を参照)。	PD (11,0)
BSLDRA	受信された切断: リモート・ステーションは、異常終了を出して切断を発行しました。これは、エラー回復が成功しなかったか、または 2 進データ同期ジョブが終了されたときに発生します。	PD (11,0)
BSLEAB	受信された送信の終了 (EOT) (異常終了): 切断と類似。	PD (11,0)
BSLDFA	受信された切断 (異常終了の転送): ホスト・ステーションは、異常終了を出して切断を発行しました。これは、エラー回復が成功しなかったか、または 2 進データ同期ジョブが終了されたときに発生します。	PD (11,0)
BSLEFA	受信された EOT (異常終了の転送): 切断と類似。	PD (11,0)
BSLDBT	送信されたデータ・ブロックの数。	PD (11,0)
BSLDBR	受信されたデータ・ブロックの数。	PD (11,0)
BSLBKR	再送信されたデータ・ブロックの数。	PD (11,0)
BSLBKE	エラーで受信されたデータ・ブロックの数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
BSLTRT	制御文字を含む、再送信された文字の合計数。	PD (11,0)
BSLDRT	再送信されたデータ文字の合計数。	PD (11,0)

注: カウンター BSLNK から BSLQAK はエラー回復カウンターであり、エラーが初めて検出されるときに増加します。カウンター BSLTNK および BSLTQA はエラー回復カウンターであり、エラーが発生するたびに増加します。それぞれのカウンター・セットごとに同じエラーがカウントされます。したがって、最初のセットはエラーが検出された回数を示しており、2番目のセットは、エラーから回復するために行った再試行の回数を示しています。

#### 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリーとファイルの関係』  
収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL) オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

#### 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンド  
パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンドを参照してください。

### 収集サービス・データ・ファイル: QAPMBUS

このデータベース・ファイルには、ライセンス内部コード・バス・カウンターが含まれており、バス・カウンター・ファイル内のフィールドをリストします。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
BUIOPB	システム・バス番号。バス番号付けは 1 で始まります。V4R5 以前は、バス番号付けはゼロで始まりました。	PD (3,0)
BUOPSR	受信された OPSTART の数: サーバー記憶域内の RRCB。	PD (11,0)
BUSGLR	受信した信号。	PD (11,0)
BUOPSS	送信された OPSTART の数。	PD (11,0)
BUSGLS	送信された信号。	PD (11,0)
BURSTQ	送信された再始動待ち行列。	PD (11,0)
BUBNAR	受信した BNA のオカレンス。	PD (11,0)
BUTPKT	合計パケット数 (送信または受信した)。	PD (11,0)
BUKBYO	予約済み	PD (11,0)
BUKBYI	予約済み	PD (11,0)
BUNOSR	受信された通常フロー OPSTART。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
BUNRDR	受信された作動不能状態。	PD (11,0)
BUORQS	送信された OPSTART 要求。	PD (11,0)
BUTIMO	バス・タイムアウト。	PD (11,0)
BUBNAS	送信された BNA。	PD (11,0)
BUQSAS	送信された使用可能な待ち行列スペース。	PD (11,0)
BUTYPE	バス・タイプ。サポートされている値には、S (SPD バス) および P (PCI バス) が含まれます。	C (1)

### 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリとファイルの関係』  
 収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
 オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
 データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

### 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンド  
 パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成  
 (CRTPFRDTA) コマンドを参照してください。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMCIOP

このデータベース・ファイルには通信 IOP ファイル項目が含まれており、通信 IOP ファイル内のフィールドをリストしています。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
CIOP	予約済み	C (1)
CITYPE	このレコードによって説明されている IOP のタイプ。	C (4)
CTIPKT	転送されたパケットの合計。	PD (11,0)
CIKBYO	バス間で IOP からシステムに送信された KB の合計。	PD (11,0)
CIKBYI	バスを介してシステムから IOP に送信された KB の合計。	PD (11,0)
CIOPSR	通常フローを使用する別のバス単位から受信した、OPSTART バス単位メッセージ。	PD (11,0)
CIOPSS	反転フロー方法 2 を使用する別のバス単位から受信した、OPSTART バス単位メッセージ (常に 0)。	PD (11,0)
CISGLR	受信した信号。	PD (11,0)
CIOPST	送信された OPSTART。	PD (11,0)
CISLGS	送信された信号。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
CIRSTQ	送信された再始動待ち行列。	PD (11,0)
CIRQDO	データの出力のために送信された DMA 要求: IOP がシステムに送信する、IOP からバスを介してシステムにデータを送信する要求の数。	PD (11,0)
CIRQDI	データの入力のために送信された DMA 要求: IOP がシステムに送信する、システムからバスを介して IOP にデータを送信する要求の数。	PD (11,0)
CIBNAR	受信した BNA のオカレンス。	PD (11,0)
CIPRCU	プロセッサ使用率: この通信 IOP がアイドル状態で経過した固定時間間隔の数。	PD (11,0)
CHIDLC	アイドル・ループ・カウント (注を参照): 通信 IOP がアイドル・ループを実行した回数。これは、IOP に実行すべき作業がないときに実行されます。このカウントとアイドル・ループ時間を使用して、1 次 IOP プロセッサ使用率 (秒単位) を計算します。	PD (11,0)
CHIDLT	アイドル・ループ時間 (注を参照): 1 次 IOP プロセッサがアイドル・ループを 1 回実行する時間 (マイクロ秒の 100 分の 1 単位)。	PD (11,0)
CIRAMU	使用可能ローカル・ストレージ (バイト単位): IOP 内の使用可能な空きローカル・ストレージのバイト数。空きローカル・ストレージは、フラグメント化のためおそらく不連続になっています。	PD (11,0)
CISYSF	1 次 IOP プロセッサで実行している基本システム機能の IOP で使用される合計時間 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
CICOMM	1 次 IOP プロセッサで実行しているすべての通信プロトコル・タスクで使用される結合処理時間 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
CISDLC	1 次 IOP プロセッサで実行している SDLC 通信タスクで使用される処理時間 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
CIASYN	1 次 IOP プロセッサで実行している非同期通信タスクで使用される処理時間 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
CIBSC	1 次 IOP プロセッサで実行している 2 進同期プロトコル・タスクで使用される処理時間 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
CIX25L	1 次 IOP プロセッサで実行している X.25 LLC タスクで使用される処理時間 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
CIX25P	1 次 IOP プロセッサで実行している X.25 PLC タスクで使用される処理時間 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
CIX25D	1 次 IOP プロセッサで実行している X.25 DLC タスクで使用される時間 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
CILAN	LAN 通信時間: 1 次 IOP プロセッサで実行しているトークンリング・ネットワーク、イーサネット、フレーム・リレー、およびファイバー分散データ・インターフェース (FDDI) 通信タスクで使用される処理装置時間の合計 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
CILAP	1 次 IOP プロセッサで実行している ISDN LAPD、LAPE、および PMI タスクで使用される処理時間 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
CIQ931	1 次 IOP プロセッサで実行している ISDN Q.931 タスクで使用される処理時間 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
CIF1ID	副次機能 1 の ID: 1 次 IOP プロセッサで実行できる追加機能の ID。	C (2)
CIF1TM	副次機能 1 の時間: 1 次 IOP プロセッサで実行している IOP 機能で使用される合計処理装置時間 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
CICPU2	2 番目の IO プロセッサの処理時間 (ミリ秒単位)。これは、特殊機能を処理します。このフィールドは、統合 xSeries® サーバー (入出力アダプター・バージョンは除く) および無線 IOP に適用されます。他の IOP の場合、このフィールドはゼロです。収集サービスでは、統合 xSeries サーバー の値は報告されません。	PD (11,0)

#### 注:

アイドル・ループ・カウントおよびアイドル・ループ時間が以下のように使用されて、通信 IOP 使用率が計算されます。

1. アイドル・ループ・カウント回数とアイドル・ループ時間の積を、マイクロ秒の 100 分の 1 単位から秒に変換します。これを間隔時間から引き、その結果を間隔時間で割ります。たとえば、次のようにします。

$$\text{IOP 使用率} = (\text{INTSEC} - (\text{CIIDLC} * \text{CIIDLT})/10^{**}8) / \text{INTSEC}$$

2. バージョン 3 リリース 7 から、パフォーマンス・モニターで報告される入出力処理機構 (IOP) の統計は変更され、バージョン 3 リリース 7 以降のリリースに導入されている IOP のパフォーマンス統計は、QAPMMIOP ファイルで報告されます。パフォーマンス統計は、IOP が 3 つの IOP 機能 (通信、ディスク、ローカル・ワークステーション) の 1 つしかサポートしていない場合でも、QAPMMIOP ファイルで報告されます。バージョン 3 リリース 7 より前で導入されていた IOP のパフォーマンス統計は、引き続き適切な IOP ファイル (QAPMCIOP、QAPMDIOP、QAPMLIOP、および QAPMMIOP) で報告されます。
3. 機能 1 から 5 の ID は、1 次 IOP で実行できる追加機能で使用されます。各機能 ID には、関連付けられている機能時間値があります。機能 ID は以下の値を持っています。

値	説明
00	時間値が与えられていません
11	統合 xSeries サーバー のパイプ・タスク (統合 xSeries サーバー は、以前のファイル・サーバー入出力処理機構および FSIOP です)
42	ローカル・トーク・タスク
43	無線タスク

#### 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリとファイルの関係』  
 収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
 オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
 データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

#### 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンド  
 パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成  
 (CRTPFRDTA) コマンドを参照してください。

### 収集サービス・データ・ファイル: QAPMDDI

このデータベース・ファイルは、分散データ・インターフェース (DDI) ファイル・レコード内のフィールド  
 を定義しています。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過した間隔 (秒単位)。	PD (7,0)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
DDIOPI	予約済み	C (1)
DITYPE	このレコードに表示されている IOP またはアダプターの資源タイプ。	C (4)
DDLND	回線記述: この回線の記述の名前。	C (10)
DDLSP	回線速度: ビット/秒 (bps) で表される回線速度。	PD (11,0)
DLTFT	送信されたタイプ II フレームの合計数。	PD (11,0)
DLTFR	受信されたタイプ II フレームの合計数。	PD (11,0)
DLIFT	送信された I フレームの合計数。	PD (11,0)
DLIFR	受信された I フレームの合計数。	PD (11,0)
DLICT	送信された I フレーム文字の合計数。	PD (11,0)
DLICR	受信された I フレーム文字の合計数。	PD (11,0)
DLPRCL	プロトコル・タイプ: C (DDI 用)。	C (1)
DLRFT	送信された受信不可フレームの合計数。	PD (11,0)
DLRFR	受信された受信不可フレームの合計数。	PD (11,0)
DLFFT	送信されたフレーム拒否 (FRMR) フレームの合計数。	PD (11,0)
DLFFR	受信されたフレーム拒否 (FRMR) フレームの合計数。	PD (11,0)
DLRJFR	受信された拒否フレームの数。	PD (11,0)
DLRJFT	送信された拒否フレームの数。	PD (11,0)
DLSFT	送信された拡張非同期平衡モード設定のフレームの数。	PD (11,0)
DLSFR	受信された拡張非同期平衡モード設定のフレームの数。	PD (11,0)
DLDFR	送信された切断 (DISC) フレームの数。	PD (11,0)
DLDFR	受信された切断 (DISC) フレームの数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
DLDMT	送信された切断モード (DM) フレームの数。	PD (11,0)
DLDMR	受信された切断モード (DM) フレームの数。	PD (11,0)
DLN2R	N2 再試行終了カウント: このカウントは、ホストが端末への通信を n 回試行し、端末が応答する前に T1 タイマーが n 回終了した時点で更新されます。	PD (11,0)
DLT1T	T1 タイマー終了カウント: T1 が終了した回数。このカウントは、ホストが端末への通信を n 回試行し、端末が応答する前に T1 タイマーが n 回終了した時点で更新されます。	PD (11,0)
DMFRV	受信された MAC フレームの数。	PD (11,0)
DMFCC	コピーされた MAC フレームの数。	PD (11,0)
DMFTR	送信された MAC フレームの数。	PD (11,0)
DMTKN	受信された MAC トークンの数。	PD (11,0)
DMERR	MAC エラー・カウント。	PD (11,0)
DMLFC	消失フレーム・カウント。	PD (11,0)
DMTVX	TVX の満了カウント。	PD (11,0)
DMNCC	コピー不可カウント。	PD (11,0)
DMLAT	MAC 遅延カウント。	PD (11,0)
DLROP	リング操作カウント。	PD (11,0)
DMABE	ポート A の順応バッファ (EB) エラー。	PD (11,0)
DMATF	ポート A の LCT カウント: 連続して失敗した信頼性テスト (LCT) の回数。	PD (11,0)
DMALR	ポート A の拒否カウント。	PD (11,0)
DMAEC	ポート A のリンク・エラー・モニター (LEM) カウント。	PD (11,0)
DMBBE	ポート B の順応バッファ (EB) エラー。	PD (11,0)
DMBTF	ポート B の LCT カウント: 連続して失敗した信頼性テスト (LCT) の回数。	PD (11,0)
DMBLR	ポート B の拒否カウント。	PD (11,0)
DMBEC	ポート B のリンク・エラー・モニター (LEM) カウント。	PD (11,0)
DMANR	認識されなかったアドレス。	PD (11,0)
DMFNC	コピーされなかったフレーム。	PD (11,0)
DMTKE	予約済み	PD (11,0)
DMDUP	重複アドレスの数。	PD (11,0)
DMDFR	破棄されたフレームの数。	PD (11,0)
DMTXU	送信アンダーラン。	PD (11,0)
DMRER	回復可能エラー。	PD (11,0)
DMNER	回復不能エラー。	PD (11,0)
DMSIN	不明確な中断。	PD (11,0)

## 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリとファイルの関係』  
 収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
 オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
 データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

#### 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンド  
 パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成  
 (CRTPFRDTA) コマンドを参照してください。

### 収集サービス・データ・ファイル: QAPMDIOP

このデータベース・ファイルには、記憶装置 (ディスク) の IOP ファイル項目が含まれています。

これには、記憶装置の IOP ファイル内のフィールドがリストされています。これらのフィールド内の情報は、次のように解釈してください。

- 装置とはディスクを意味します。
- 記憶装置制御機構の IOP 使用率の計算には、アイドル・ループの回数と時間が用いられます。次のようにします。

アイドル・ループ・カウント回数とアイドル・ループ時間の積を、マイクロ秒の 100 分の 1 単位から秒に変換します。その値を間隔時間から差し引き、その結果を間隔時間で割ります。たとえば、次のようにします。

$$\text{IOP の使用率} = (\text{INTSEC} - (\text{DIIDLCL} * \text{DIIDLTL})/10^{**}8)/\text{INTSEC}$$

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
DIIOP	予約済み	C (1)
DITYPE	IOP タイプ。	C (4)
DIIDLCL	アイドル・ループ・カウント: ディスク制御装置 IOP がアイドル・ループを実行した回数。これは、IOP に実行すべき作業がないときに実行されます。この回数は、アイドル・ループの時間と共に利用されます。	PD (11,0)
DIIDLTL	アイドル・ループの時間: アイドル・ループを 1 回実行するのにかかる時間 (マイクロ秒の 100 分の 1 単位)。	PD (11,0)
DITPK	転送されたパケットの合計。	PD (11,0)
DIKBYO	バス間で IOP からシステムに送信された KB の合計。	PD (11,0)
DIKBYI	バスを介してシステムから IOP に送信された KB の合計。	PD (11,0)
DIOPSR	通常フローを使用する別のバス単位から受信した、OPSTART バス単位メッセージ。	PD (11,0)



フィールド名	説明	属性
DIOPSS	反転フロー方法 2 を使用する別のバス単位から受信した、OPSTART バス単位メッセージ (常に 0)。	PD (11,0)
DISGLR	受信した信号。	PD (11,0)
DIOPST	送信された OPSTART。	PD (11,0)
DISGLS	送信された信号。	PD (11,0)
DIRSTQ	送信された再始動待ち行列。	PD (11,0)
DIRQDO	データの出力のために送信された DMA 要求: IOP がシステムに送信する、IOP からバスを介してシステムにデータを送信する要求の数。	PD (11,0)
DIRQDI	データの入力のために送信された DMA 要求: IOP がシステムに送信する、システムからバスを介して IOP にデータを送信する要求の数。	PD (11,0)
DIBNAR	受信した BNA のオカレンス。	PD (11,0)
DIRID0	予約済み	C (8)
DISMP0	予約済み	PD (11,0)
DIQLN0	予約済み	PD (11,0)
DINRQ0	予約済み	PD (11,0)
DIRID1	予約済み	C (8)
DISMP1	予約済み	PD (11,0)
DIQLN1	予約済み	PD (11,0)
DINRQ1	予約済み	PD (11,0)
DIRID2	予約済み	C (8)
DISMP2	予約済み	PD (11,0)
DIQLN2	予約済み	PD (11,0)
DINRQ2	予約済み	PD (11,0)
DIRID3	予約済み	C (8)
DISMP3	予約済み	PD (11,0)
DIQLN3	予約済み	PD (11,0)
DINRQ3	予約済み	PD (11,0)
DIRID4	予約済み	C (8)
DISMP4	予約済み	PD (11,0)
DIQLN4	予約済み	PD (11,0)
DINRQ4	予約済み	PD (11,0)
DIRID5	予約済み	C (8)
DISMP5	予約済み	PD (11,0)
DIQLN5	予約済み	PD (11,0)
DINRQ5	予約済み	PD (11,0)
DIRID6	予約済み	C (8)
DISMP6	予約済み	PD (11,0)
DIQLN6	予約済み	PD (11,0)
DINRQ6	予約済み	PD (11,0)
DIRID7	予約済み	C (8)

フィールド名	説明	属性
DISMP7	予約済み	PD (11,0)
DIQLN7	予約済み	PD (11,0)
DINRQ7	予約済み	PD (11,0)
DIRID8	予約済み	C (8)
DISMP8	予約済み	PD (11,0)
DIQLN8	予約済み	PD (11,0)
DINRQ8	予約済み	PD (11,0)
DIRID9	予約済み	C (8)
DISMP9	予約済み	PD (11,0)
DIQLN9	予約済み	PD (11,0)
DINRQ9	予約済み	PD (11,0)
DIRIDA	予約済み	C (8)
DISMPA	予約済み	PD (11,0)
DIQLNA	予約済み	PD (11,0)
DINRQA	予約済み	PD (11,0)
DIRIDB	予約済み	C (8)
DISMPB	予約済み	PD (11,0)
DIQLNB	予約済み	PD (11,0)
DINRQB	予約済み	PD (11,0)
DIRIDC	予約済み	C (8)
DISMPC	予約済み	PD (11,0)
DIQLNC	予約済み	PD (11,0)
DINRQC	予約済み	PD (11,0)
DIRIDD	予約済み	C (8)
DISMPD	予約済み	PD (11,0)
DIQLND	予約済み	PD (11,0)
DINRQD	予約済み	PD (11,0)
DIRIDE	予約済み	C (8)
DISMPE	予約済み	PD (11,0)
DIQLNE	予約済み	PD (11,0)
DINRQE	予約済み	PD (11,0)
DIRIDF	予約済み	C (8)
DISMPF	予約済み	PD (11,0)
DIQLNF	予約済み	PD (11,0)
DINRQF	予約済み	PD (11,0)

注: バージョン 3 リリース 7 から、パフォーマンス・モニターで報告される入出力処理機構 (IOP) の統計は変更され、バージョン 3 リリース 7 以降のリリースに導入されている IOP のパフォーマンス統計は、QAPMMIOP ファイルで報告されます。パフォーマンス統計は、IOP が 3 つの IOP 機能 (通信、ディスク、ローカル・ワークステーション) の 1 つしかサポートしていない場合でも、

QAPMMIOP ファイルで報告されます。バージョン 3 リリース 7 より前で導入されていた IOP のパフォーマンス統計は、引き続き適当な IOP ファイル (QAPMCIOP、QAPMDIOP、QAPMLIOP、および QAPMMIOP) で報告されます。

#### 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリとファイルの関係』  
収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

#### 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFDRDTA) コマンド  
パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成  
(CRTPFDRDTA) コマンドを参照してください。

### 収集サービス・データ・ファイル: QAPMDISK

このデータベース・ファイルには、ディスク・ファイルの項目が含まれ、各ディスク資源ごとに 1 つずつ  
のレコードが含まれています。

関連する複数のディスク資源を持つマルチパス・ディスク装置を除くと、通常ディスク装置あたり 1 つの  
ディスク資源があります。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFDRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく $n$ 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yyymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
DIOPID	予約済み	C (1)
DSARM	ディスク装置 (アーム) 番号: 装置の固有 ID を指定します。マシンに設けられているディスク・ドライブ上の各アクチュエーター・アームは、補助記憶域装置を示します。装置番号の値は、装置が補助記憶域プールに割り振られるときに、システムによって割り当てられます。	C (4)
DSTYPE	ディスク装置タイプ (4326 または 2105 など)。	C (4)
DSDRN	装置の資源名。関連する複数のディスク資源を持つマルチパス・ディスク装置を除くと、通常ディスク装置あたり 1 つのディスク (デバイス) 資源があります (注 3 (44 ページ) を参照)。	C (10)

フィールド名	説明	属性
DSSCAN	検索ストリング・コマンドの数: 検索ストリング・コマンドをサポートしないディスク・タイプの場合、この数はゼロです。	PD (5,0)
DSBLKR	ブロックの読み取り回数。ブロックはディスク装置上の 1 つのセクターです。	PD (11,0)
DSBLKW	ブロックの書き込み回数。ブロックはディスク装置上の 1 つのセクターです。	PD (11,0)
DSIDLC	プロセッサ・アイドル・ループ・カウンタ (注 1 (43 ページ) を参照): ディスク制御装置がアイドル・ループを通過した回数。専用ディスク・プロセッサがないディスク・タイプの場合、このフィールドはゼロです。  DSIDLC と DSIDLT は、同一のディスク制御装置にアタッチされたすべてのディスク装置間で重複しています。	PD (11,0)
DSIDLT	プロセッサ・アイドル・ループの時間 (注 1 (43 ページ) を参照): アイドル・ループを 1 回パススルーするのにかかる時間 (マイクロ秒の 100 分の 1 単位)。専用ディスク・プロセッサがないディスク・タイプの場合、このフィールドはゼロです。報告された値が、実際のアイドル・ループ時間の倍数になっている場合があります。この場合、プロセッサ・アイドル・ループ・カウント (DSIDLC) のフィールドに報告された値は、相応に削減して、計算されたプロセッサ使用率を訂正します。  DSIDLC と DSIDLT は、同一のディスク制御装置にアタッチされたすべてのディスク装置間で重複しています。	PD (11,0)
DSSK1	シーク (> 2/3) の数: シークで、アームの移動距離がディスクの 2/3 を超えた回数。	PD (11,0)
DSSK2	シーク (> 1/3 かつ < 2/3) の数: シークで、アームの移動距離がディスクの 1/3 を超えたが、2/3 には至らなかった回数。	PD (11,0)
DSSK3	シーク (> 1/6 かつ < 1/3) の数: シークで、アームの移動距離がディスクの 1/6 を超えたが、1/3 には至らなかった回数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
DSSK4	シーク (> 1/12 かつ < 1/6) の数: シークで、アームの移動距離がディスクの 1/12 を超えたが、1/6 には至らなかった回数。	PD (11,0)
DSSK5	シーク (< 1/12) の数: アームがその現在位置から移動したが、その移動距離がディスク 1/12 に満たなかった回数。	PD (11,0)
DSSK6	ゼロ・シークの数: シーク要求で、アクセス・アームが物理的には移動しなかった回数。この操作の結果として、ヘッド・スイッチが起きていることがあります。	PD (11,0)
DSQUEL	待ち行列要素の合計: サンプル時間にサービスを待っていた入出力操作の数。この数には、進行中の入出力操作も含まれます。待ち行列の長さの平均を出すには、これを DSSMPL で割ります。	PD (11,0)
DSNBSY	アームが使用されなかった回数: サンプル時間に、活動中の未解決な入出力操作がなかった回数。	PD (11,0)
DSSMPL	採取したサンプル数: DSQUEL および DSNBSY フィールドに関して採取されたサンプル数。	PD (11,0)
DSCAP	ドライブ・キャパシティー (バイト): 補助記憶域プールがチェックサム保護の下にないときに、オブジェクトや内部機械機能の記憶域として使用するために装置上に備えられている、補助記憶域プール内の補助記憶域の合計バイト数。このキャパシティーを計算するには、装置のキャパシティーから、装置に予約されているシステム・スペースの値を引きます。	PD (15,0)
DSAVL	装置の有効スペース (バイト): 現在、オブジェクトにも、内部機械機能にも割り当てられておらず、ゆえに装置上での使用が可能な補助記憶域の合計バイト数。	PD (15,0)

フィールド名	説明	属性
DSASP	補助記憶域プール番号: 装置が現在割り振られている補助記憶域プールを示します。値 1 は、システム補助記憶域プールを示します。2 から 32 までの値は、基本補助記憶域プールを示します。33 から 255 の値は独立した補助記憶域プールを示します。値 0 は、装置は現在割り振られていないことを示します。	PD (5,0)
DSCSS	予約済み	C (2)
DSPCAP	予約済み	PD (11,0)
DSPAFL	予約済み	PD (11,0)
DMFLAG	' ' は、そのディスク装置がローカルにミラー保護されていないことを意味します。'A' は、これが指定されている、ローカルにミラー保護された対の最初の装置であることを意味します。'B' は、これが指定されている、ローカルにミラー保護された対の 2 番目の装置であることを意味します。	C (1)
DMSTS	ローカルのミラー状況。1 = 活動中、2 = 再開中、3 = 中断	PD (1,0)
DMIRN	ローカルにミラー保護された IOP 資源の名前。	C (10)
DMDRN	ローカルにミラー保護された装置資源の名前。	C (10)
DSRDS	データ読み取りコマンドの数。	PD (11,0)
DSWRTS	データ書き出しコマンドの数。	PD (11,0)
DSBUFO	バッファオーバーランの数: ディスクからディスク制御装置バッファへのデータの読み取りが可能であったが、ディスク制御装置バッファに、まだ記憶装置制御機構に検索されないデータが含まれていた回数。この結果、ディスクは、バッファがデータを受信できるようになるまで、さらに回転しなければなりません。	PD (11,0)
DSBUFU	バッファアンダーランの数: ディスク制御装置には、書き出しのためにデータをディスクに送信する用意があったが、制御装置が空であった回数。データは、ディスク IOP によってディスク制御装置バッファに時間内に送信されませんでした。ディスクは、データを待ちながら、さらに回転しなければなりません。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
DSMDLN	型式番号: ディスク装置の型式番号。	C (4)
DSDCRH	装置キャッシュ読み取りのヒット: 読み取り操作で要求されたすべてのデータが、装置読み取り (または書き出し) キャッシュから取得された回数。	PD (11,0)
DSDCPH	装置キャッシュ部分読み取りのヒット: 読み取り操作で要求されたデータの一部 (すべてではない) が、装置読み取り (または書き出し) キャッシュから取得された回数。残りのデータを読み取るには、装置メディアへの物理操作が必要でした。	PD (11,0)
DSDCWH	制御装置キャッシュ書き出しのヒット: 書き出し操作に関連したデータが、装置書き出しキャッシュ内の既存データと置き換わったり、結合したりして、書き出し操作を除去した回数。	PD (11,0)
DSDCFV	装置キャッシュ高速書き出し: 書き出し操作に関連したデータに対して装置書き出しキャッシュ内のスペースを使用することができ、即座に応答が返された回数。	PD (11,0)
DSDROP	装置読み取り操作: 制御装置により、装置に対して発行される読み取り操作の数。これには、データ保護 (RAID) またはデータ圧縮に対して制御装置が実行した操作が含まれます。これには、このアイドル時間内に行われる診断や、制御装置予約区域へのアクセスのための操作は含まれません。	PD (11,0)
DSDWOP	装置書き出し操作: 制御装置により、装置に対して発行される書き出し操作の数。これには、データ保護 (RAID) またはデータ圧縮に対して制御装置が実行した操作が含まれます。これには、このアイドル時間内に行われる診断や、制御装置予約区域へのアクセスのための操作は含まれません。	PD (11,0)
DSCCRH	制御装置キャッシュ読み取りのヒット: 読み取り操作で要求されたすべてのデータが、制御装置読み取り (または書き出し) キャッシュから取得された回数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
DSPCPH	制御装置キャッシュ部分読み取りのヒット: 読み取り操作で要求されたデータの一部が、制御装置読み取り (または書き出し) キャッシュから取得された回数。残りのデータを読み取るには、装置への操作が必要でした。	PD (11,0)
DSCCWH	制御装置キャッシュ書き出しのヒット: 書き出し操作に関連したデータが、制御装置書き出しキャッシュ内の既存データと置き換わる、または結合される回数。これは書き込み操作を除去します。	PD (11,0)
DSCCFW	制御装置キャッシュ高速書き出し: 書き出し操作に関連したすべてのデータに対して制御装置書き出しキャッシュ内のスペースを使用することができ、即座に応答が返された回数。	PD (11,0)
DSCOMP	圧縮済み装置の標識。ディスク・データが圧縮されていない場合は '0' で、ディスク・データが圧縮済みの場合は '1' です。	C (1)
DSPBU	使用されている物理ブロック。圧縮済み装置の場合、このフィールドには、装置のユーザー・データ域で使用された (書き出された) 物理ブロックの合計数が入ります。圧縮されていない装置の場合、このフィールドには 0 が入ります。	PD (11,0)
DSPBA	割り振られている物理ブロック。圧縮済み装置の場合、このフィールドには、装置のユーザー・データ域で、DASD 範囲用にコミットされた (予約された) 物理ブロックの合計数が入ります。この値には、使用されている物理ブロックがすべて含まれます。圧縮されていない装置の場合、このフィールドには 0 が入ります。	PD (11,0)
DSLWBW	書き出されている論理ブロック。圧縮済み装置の場合、このフィールドには、装置のユーザー・データ域に書き出されている論理ブロックの合計数が入ります。この値は、割り振られている範囲に書き出されているデータの総量を表します。圧縮されていない装置の場合、このフィールドには 0 が入ります。	PD (11,0)



フィールド名	説明	属性
DSLBA	割り振られている論理ブロック。圧縮済み装置の場合、このフィールドには、割り振られている圧縮グループに含まれている論理ブロックの合計数が入ります。この値は、装置のユーザー・データ域内に割り当てられているすべての圧縮グループの総計を表します。圧縮されていない装置の場合、このフィールドには 0 が入ります。	PD (11,0)
DSPBCO	圧縮オーバーヘッド用の物理ブロック。圧縮済み装置の場合、このフィールドには、圧縮ディレクトリー構造と、ユーザー・データの保管に使用できる未使用の区域のための物理ブロックの合計数が入ります。圧縮されていない装置の場合、このフィールドには 0 が入ります。	PD (11,0)
DSFGDR	前景ディレクトリー読み取り。圧縮済みの装置の場合、このフィールドは、ホスト・システム・コマンドを完了するのに必要なディレクトリー構造を読み取るために実行された、装置読み取り操作の数となります。圧縮されていない装置の場合、このフィールドには 0 が入ります。	PD (11,0)
DSFGDW	前景ディレクトリー書き出し。圧縮済みの装置の場合、これは、ホスト・システム・コマンドを完了するのに必要なディレクトリー構造を書き出すために実行された、装置書き出し操作の数となります。圧縮されていない装置の場合、このフィールドには 0 が入ります。	PD (11,0)
DSBGDR	背景ディレクトリー読み取り。圧縮済みの装置の場合、これは、圧縮ディレクトリー構造の管理で実行されたが、ホスト・システム・コマンドの完了するために即座に必要とされたわけではない装置読み取り操作の数となります。圧縮されていない装置の場合、このフィールドには 0 が入ります。	PD (11,0)
DSBGDW	背景ディレクトリー書き出し。圧縮済みの装置の場合、これは、装置書き出し操作の数です。圧縮されていない装置の場合、このフィールドには 0 が入ります。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
DSFGRE	<p>前景読み取りの例外。圧縮済み装置の場合、これは、圧縮済み装置上の例外区域に保管されたデータを読み取るために、追加の装置読み取り操作が発行された回数です (このカウントは複数ページ操作にのみ適用されています)。この回数は、ホスト・システム・コマンドを実行するためにすぐにも必要とされる操作だけを反映します。</p>	PD (11,0)
DSFGWE	<p>前景書き出しの例外。圧縮済み装置の場合、このフィールドは、圧縮済み装置上の例外区域にデータを書き出すために、追加の装置書き出し操作が発行された回数です (このカウントは複数ページ操作にのみ適用されています)。この回数は、ホスト・システム・コマンドを実行するためにすぐにも必要とされる操作だけを反映します。圧縮されていない装置の場合、このフィールドには 0 が入ります。</p>	PD (11,0)
DSFGS	<p>前景スイープ。圧縮済み装置の場合、スイープとは、データ領域内に未使用区域ができたり、例外領域内に使用区域ができたりしないよう、正しいセクター番号で 1-MB 圧縮グループを保管するために行われる処理です。前景スイープの数は、ホスト・システム・コマンドを完了するのに、1-MB 圧縮グループ全体をスイープ処理する必要のあった回数です。スイープは、ホスト・システムの書き込み操作のデータが、予約されている物理スペースにフィットしない場合に必要となります。新規データは、以前にスペース内にあったデータ程には圧縮されません。圧縮されていない装置の場合、このフィールドには 0 が入ります。</p>	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
DSBGS	背景スイープ。圧縮済み装置の場合、スイープとは、データ領域内に未使用領域ができたり、例外領域内に使用領域ができたりしないよう、正しいセクター番号で 1-MB 圧縮グループを保管するために行われる処理です。背景スイープの数は、圧縮済みのデータ記憶域の能率を維持するために、1-MB 圧縮グループ全体がスイープ処理された回数です。この回数は、ホスト・システム・コマンドを実行するためにすぐに必要ではなかったスイープだけを反映します。背景スイープは、パフォーマンスの向上や、ドライブの使用可能容量の増加を目的としています。圧縮されていない装置の場合、このフィールドには 0 が入ります。	PD (11,0)
DSCERC	制御装置がシミュレートした読み取りキャッシュのヒット: 読み取り操作で要求されたすべてのデータが、制御装置読み取りキャッシュ (制御装置書き出しキャッシュではなく) から読み取られていることが予測されている回数 (読み取られた回数ではない)。このフィールドは、拡張キャッシュ・シミュレーターが使用可能になっている場合にのみ更新されます。	PD (11,0)
DSASPN	補助記憶域プールの資源名。装置が現在割り振られている補助記憶域プールの資源名を示します。値をブランクにすると、システム補助記憶域プールまたは基本補助記憶域プールが指定されます。	C (10)
DSPS	パリティ・セット。このフィールドに対する有効な値は、1 または 0 です。このフィールドの値は、ディスク装置がパリティ・セットにある場合 1、そうでない場合 0 です。	C (1)
DSHAPS	高可用性パリティ・セット。このフィールドに対する有効な値は、1 または 0 です。このフィールドの値は、ディスク装置が高可用性パリティ・セットにある場合 1、そうでない場合 0 です。	C (1)

フィールド名	説明	属性
DSMU	マルチパス装置。このフィールドに対する有効な値は、1 または 0 です。このフィールドの値は、ディスク資源がマルチパス・ディスク装置の場合は 1、そうでない場合は 0 です。(注 3 (44 ページ) を参照)	C (1)
DSIP	マルチパス装置の初期パス。このフィールドに対する有効な値は、1 または 0 です。このフィールドの値は、ディスク資源がマルチパス・ディスク装置の初期パスの場合は 1、そうでない場合は 0 です。初期パスは、システムが認識した最初のパスです。システムの再始動 (IPL) 後に変更できます。初期パスの資源名は、単一資源名の下でマルチパス・ディスク装置を報告するために使用できます。	C (1)
DSPC	リモートにミラー保護された独立補助記憶域プールの実動コピー。このフィールドに対する有効な値は、1 または 0 です。このフィールドの値は、ディスク装置がリモートにミラー保護された独立補助記憶域プールの実動コピーにある場合 1、そうでない場合は 0 です。	C (1)
DSMC	リモートにミラー保護された独立補助記憶域プールのミラー・コピー。このフィールドに対する有効な値は、1 または 0 です。このフィールドの値は、ディスク装置がリモートにミラー保護された独立補助記憶域プールのミラー・コピーにある場合「1」、そうでない場合「0」です。	C (1)
DSRDT	RAID タイプ: このディスク装置の RAID パリティ・セットのタイプ。このフィールドに対する有効な値は、1 または 0 です。このフィールドは、パリティ・セットにある (DSPA フィールドが 1 に設定) ディスク装置に関してのみ意味があります。0 = RAID 5 パリティ・セット、1 = RAID 6 パリティ・セット。	C (1)

フィールド名	説明	属性
DSIOPF	IOP による管理。このフィールドに対する有効な値は、1 または 0 です。このフィールドの値は、ディスク装置が IOP によって管理されるディスク・ストレージ・アダプターに接続している場合は 1、そうでない場合は 0 です。V5R4 より前のオペレーティング・システム・バージョンによりデータが収集された場合、このフィールドは常時 1 に設定されます。以前のバージョンは、ディスク装置が IOP ベースのものかどうか判別できないからです。	C (1)
DSCAT	<p>ディスク装置のカテゴリ。このフィールドは、パフォーマンス・データの特別な解釈を必要とするような特性を、ディスク装置が持っているかどうかを示します。このフィールドの各ビットには、次のような独立した意味があります。</p> <p>X'00' = 特別なカテゴリの適用外、</p> <p>X'01' = このディスク装置は、外部ストレージ・メディア内にある。このディスク装置の、装置タイプおよびモデルを調べることによって、これを判別できます。</p> <p>X'02' = このディスク装置上のデータは暗号化される。</p> <p>X'04' = これは仮想ディスク装置である。このディスク装置の、装置タイプおよびモデルを調べることによって、これを判別できます。</p>	C (1)
DSSRVT	ディスク・サービス時間 (注 4 (44 ページ) を参照)。最終サンプル以降に完了したすべてのディスク操作の結合サービス時間 (ミリ秒単位)。平均サービス時間を入手するには、読み取りおよび書き込みコマンドの数で除算します。データが入手できない場合はゼロに設定されます。	B(9,0)

フィールド名	説明	属性
DSWT	ディスク待ち時間。最終サンプル以降に完了したすべてのディスク操作の結合待機 (待ち行列) 時間 (ミリ秒単位)。平均待機 (待ち行列) 時間を入手するには、読み取りおよび書き込みコマンドの数で除算します。ディスク応答時間を入手するには、ディスク・サービス時間に追加します。データが入手できない場合はゼロに設定されます。	B(9,0)
DSBKCT1	ディスク応答時間バケット 1 のディスク操作 (5 (44 ページ) の注を参照)。最終サンプル以降のディスク操作の数。この応答時間は最初のディスク応答時間境界に達していませんでした。ディスク応答時間境界は QAPMCONF ファイルにレポートされます。	B(9,0)
DSBKRT1	ディスク応答時間バケット 1 のディスク応答時間。最終サンプル以降のすべてのディスク操作の結合応答時間。この応答時間は最初のディスク応答時間境界に達していませんでした (ミリ秒単位)。	B(9,0)
DSBKST1	ディスク応答時間バケット 1 のディスク・サービス時間。最終サンプル以降のすべてのディスク操作の結合サービス時間。この応答時間は最初のディスク応答時間境界に達していませんでした (ミリ秒単位)。	B(9,0)
DSBKCT2	ディスク応答時間バケット 2 のディスク操作 (5 (44 ページ) の注を参照)。最終サンプル以降のディスク操作の数。この応答時間は最初のディスク応答時間境界は超えていましたが、2 番目のディスク応答時間境界には達していませんでした。ディスク応答時間境界は QAPMCONF ファイルにレポートされます。	B(9,0)
DSBKRT2	ディスク応答時間バケット 2 のディスク応答時間。最終サンプル以降のすべてのディスク操作の結合応答時間。この応答時間は最初のディスク応答時間境界は超えていましたが、2 番目のディスク応答時間境界には達していませんでした (ミリ秒単位)。	B(9,0)

フィールド名	説明	属性
DSBKST2	ディスク応答時間バケット 2 のディスク・サービス時間。最終サンプル以降のすべてのディスク操作の結合サービス時間。この応答時間は最初のディスク応答時間境界は超えていましたが、2 番目のディスク応答時間境界には達していませんでした (ミリ秒単位)。	B(9,0)
DSBKCT3	ディスク応答時間バケット 3 のディスク操作 (5 (44 ページ) の注を参照)。最終サンプル以降のディスク操作の数。この応答時間は 2 番目のディスク応答時間境界は超えていましたが、3 番目のディスク応答時間境界には達していませんでした。ディスク応答時間境界は QAPMCONF ファイルにレポートされます。	B(9,0)
DSBKRT3	ディスク応答時間バケット 3 のディスク応答時間。最終サンプル以降のすべてのディスク操作の結合応答時間。この応答時間は 2 番目のディスク応答時間境界は超えていましたが、3 番目のディスク応答時間境界には達していませんでした (ミリ秒単位)。	B(9,0)
DSBKST3	ディスク応答時間バケット 3 のディスク・サービス時間。最終サンプル以降のすべてのディスク操作の結合サービス時間。この応答時間は 2 番目のディスク応答時間境界は超えていましたが、3 番目のディスク応答時間境界には達していませんでした (ミリ秒単位)。	B(9,0)
DSBKCT4	ディスク応答時間バケット 4 のディスク操作 (5 (44 ページ) の注を参照)。最終サンプル以降のディスク操作の数。この応答時間は 3 番目のディスク応答時間境界は超えていましたが、4 番目のディスク応答時間境界には達していませんでした。ディスク応答時間境界は QAPMCONF ファイルにレポートされます。	B(9,0)
DSBKRT4	ディスク応答時間バケット 4 のディスク応答時間。最終サンプル以降のすべてのディスク操作の結合応答時間。この応答時間は 3 番目のディスク応答時間境界は超えていましたが、4 番目のディスク応答時間境界には達していませんでした (ミリ秒単位)。	B(9,0)

フィールド名	説明	属性
DSBKST4	ディスク応答時間バケット 4 のディスク・サービス時間。最終サンプル以降のすべてのディスク操作の結合サービス時間。この応答時間は 3 番目のディスク応答時間境界は超えていましたが、4 番目のディスク応答時間境界には達していませんでした (ミリ秒単位)。	B(9,0)
DSBKCT5	ディスク応答時間バケット 5 のディスク操作 (5 (44 ページ) の注を参照)。最終サンプル以降のディスク操作の数。この応答時間は 4 番目のディスク応答時間境界は超えていましたが、5 番目のディスク応答時間境界には達していませんでした。ディスク応答時間境界は QAPMCONF ファイルにレポートされます。	B(9,0)
DSBKRT5	ディスク応答時間バケット 5 のディスク応答時間。最終サンプル以降のすべてのディスク操作の結合応答時間。この応答時間は 4 番目のディスク応答時間境界は超えていましたが、5 番目のディスク応答時間境界には達していませんでした (ミリ秒単位)。	B(9,0)
DSBKST5	ディスク応答時間バケット 5 のディスク・サービス時間。最終サンプル以降のすべてのディスク操作の結合サービス時間。この応答時間は 4 番目のディスク応答時間境界は超えていましたが、5 番目のディスク応答時間境界には達していませんでした (ミリ秒単位)。	B(9,0)
DSBKCT6	ディスク応答時間バケット 6 のディスク操作 (5 (44 ページ) の注を参照)。最終サンプル以降のディスク操作の数。この応答時間は 5 番目のディスク応答時間境界を超えていました。ディスク応答時間境界は QAPMCONF ファイルにレポートされます。	B(9,0)
DSBKRT6	ディスク応答時間バケット 6 のディスク応答時間。最終サンプル以降のすべてのディスク操作の結合応答時間。この応答時間は 5 番目のディスク応答時間境界を超えていました (ミリ秒単位)。	B(9,0)



フィールド名	説明	属性
DSBKST6	ディスク応答時間バケット 6 のディスク・サービス時間。最終サンプル以降のすべてのディスク操作の結合サービス時間。この応答時間は 5 番目のディスク応答時間境界を超えていました (ミリ秒単位)。	B(9,0)
DSSECT	ディスク装置のセクター・サイズ。	B(4,0)
DSIOARN	ディスク・ストレージ・アダプター (IOA) 資源名。	C(15)
DSSRLN	ディスク装置通し番号。	C(15)

注:

1. 記憶装置制御機構の使用率の計算には、アイドル・ループの回数と時間が用いられます。次のようになります。

アイドル・ループ・カウント回数とアイドル・ループ時間の積を、マイクロ秒の 100 分の 1 単位から秒に変換します。その値を間隔時間から差し引き、その結果を間隔時間で割ります。たとえば、次のようになります。

$$\text{ディスク・プロセッサの使用率} = (\text{INTSEC} - (\text{DSIDLC} * \text{DSIDLT})/10^{**}8) / \text{INTSEC}$$

2. 次の公式は、前のテーブルのフィールドのいくつかを使用して、各アームごとの使用率とサービス時間を計算する従来の方法を示しています。好ましい方法は DSSRVCT フィールドの使用です。マルチパス・ディスク装置の場合、これらの公式は使用率および各パスごとのサービス時間 (資源) を計算します。

- アームの使用率 (DSUTL): 合計間隔のうち、入出力操作にアームが使用された部分。

$$\text{DSUTL} = \text{Arm Busy} = (\text{DSSMPL} - \text{DSNBSY}) / \text{DSSMPL}$$

- 1 秒あたりのアーム・アクセス回数 (DSAS): 間隔内にこのアームに対して行われた 1 秒あたりの読み取りと書き出しの回数。

$$\text{DSAS} = (\text{DSRDS} + \text{DSWRTS}) / \text{INTSEC}$$

- サービス時間 (DSSRVCT): アームの入出力操作のための平均時間。これには、ディスク制御装置時間が含まれます。

$$\text{DSSRVCT} = \text{DSUTL} / \text{DSAS}$$

次の公式は、マルチパス・ディスク装置のサービス時間 (DSSTM) を計算します。Xi は i 番目のパスについての値 X の計算値、および sum(Xi) はすべてのパス全体での Xi の合計です。

$$\text{DSSTM} = \text{sum}(\text{DSSRVCT}_i * (\text{DSRDS}_i + \text{DSWRTS}_i)) / \text{sum}(\text{DSRDS}_i + \text{DSWRTS}_i)$$

ディスク装置が IOP (DSIOPF = '1') により管理され、操作率が非常に低い場合、この公式で算出されるサービス時間は無視する必要があります。これは、サンプリングにより入手されたデータに基づく計算値です。操作の数がサンプルの数に比べて少ない場合、統計エラーにより結果は信頼できないものになります。

ディスク使用状況とディスク・サービス時間についての上を示した公式は、簡素化された統計モデルに基づいています。これらの公式により出された結果は、見積もりとしてのみ使用すべきです。

- パフォーマンス・データは、マルチパス・ディスク装置と関連する、各ディスク資源ごとに報告されます。マルチパス・ディスク装置については、以下のカウンターが装置から出されます。つまり、その値は報告される各ディスク資源ごとに重複するという事です。

- DSIDLK - プロセッサ・アイドル・ループ・カウント
- DSIDLT - プロセッサ・アイドル・ループ時間
- DSSK1-6 - シークの数
- DSBUFO - バッファ・オーバーランの数
- DSBUFU - バッファ・アンダーランの数
- DSDCRH - 装置キャッシュ読み取りヒット
- DSDCPH - 装置キャッシュ部分読み取りヒット
- DSDCWH - 装置キャッシュ書き込みヒット
- DSDCFW - 装置キャッシュ高速書き込み

重複する他のフィールド値には、ディスク装置キャパシティー (DSCAP)、ディスク装置使用可能スペース (DSAVL)、ディスク装置通し番号、ディスク装置セクター・サイズ (DSSECT) が含まれません。

特定のマルチパス・ディスク装置のアーム番号 (DSARM) およびミラー・フラグ (DMFLAG) は、その装置に関連したレコードを識別するのに使用されます。

- 測定されるサービス時間は、上記の注 2 (43 ページ) の公式を使用して計算されるサービス時間とは異なる場合があります。これは公式が単純化された統計モデルに基づいているからです。
- IOP (DSIOPF = '1') により管理されるディスク装置の場合、ディスク応答時間バケットのデータは、上記の注 2 (43 ページ) の公式で使用されたデータと比較して、プログラム・スタック内の異なるレベルで測定されます。この理由から、このデータとこれらの公式を使用して入手した結果とを比較する場合には相違があることを予期すべきです。

#### 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリーとファイルの関係』  
収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL) オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

229 ページの『収集サービス・データ・ファイル: QAPMCONF』  
このデータベース・ファイルには、収集に関する一般情報が含まれています。

#### 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRTA) コマンド  
パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRTA) コマンドを参照してください。

### 収集サービス・データ・ファイル: QAPMDOMINO

このデータベース・ファイルには、Domino® for i5/OS® カテゴリーによって収集されたデータが含まれます。

このファイルには、システム上で活動状態になっている各 Domino サーバーの間隔につき 1 つのレコードが含まれています。

注: これらの説明には、ドミノ (Domino) の「状況表示」機能で示されるメトリックの名前も含まれています。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yyymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
DTECEN	世紀桁: 0 は 19XX を示し、1 は 20XX を示します。	C (1)
DMSUBS	サーバー・サブシステム。	C (10)
DMJNAM	サーバー・ジョブ名。	C (10)
DMJUSR	サーバー・ジョブ・ユーザー。	C (10)
DMJNBR	サーバー・ジョブ番号。	C (6)
DMSRVN	サーバー名 (名前がこのフィールドよりも長い場合は、先頭から 25 文字が取られます)。	C (25)
DMSSDT	サーバー開始日時 (yyyymmddhhmmss)。	C (14)
DMDBPM	Database.BufferPool.Maximum.Megabytes: 構成された使用できるデータベース制御プールの最大サイズ。	B (9,0)
DMDBPP	Database.BufferPool.Peak.Megabytes: サーバーの稼働時間中に Domino が使用したバッファ・プールの最大量。	B (9,0)
DMDBPR	Database.Database.BufferPool.PerCentReadsInBuffer: バッファ・プール内に存在するデータベース読み取りの割合 (%)。	B (5,2)
DMDBCH	Database.DbCache.Hits: データベース・キャッシュへのヒット数。	B (18,0)
DMDBCL	Database.DbCache.Lookups: データベース・キャッシュへの検索数。	B (18,0)
DMNLCH	Database.NAMELookupCacheHits: サーバーの名前とアドレス帳で名前の検索を行った際のキャッシュ・ヒットの数。	B (18,0)
DMNLCL	Database.NAMELookupCacheLookups: サーバーの名前とアドレス帳における検索の数。	B (18,0)
DMASPN	Platform.LogicalDisk.1.AuxStoragePool: Domino データ・ディレクトリーが含まれている補助記憶域プールの数。	B (4,0)
DMASPU	Platform.LogicalDisk.1.PctUsed: Domino データ・ディレクトリーが含まれている補助記憶域プールのディスク・スペース使用率 (%)。 注: このメトリックは、各サーバーで構成された内部サンプル間隔に基づき、サーバーによって計算されます。	B (5,2)
DMASPB	Platform.LogicalDisk.1.PctUtil: Domino データ・ディレクトリーが含まれている補助記憶域プールでの読み取りや書き込みでドライブが使用中になっている時間の割合 (%)。 注: このメトリックは、各サーバーで構成された内部サンプル間隔に基づき、サーバーによって計算されます。	B (5,2)

フィールド名	説明	属性
DMTRNS	Server.Trans.Total: トランザクションの数。	B (18,0)
DMUSRO	Server.Users: サーバー上にオープン・セッションを持つユーザーの数。(これは、データがサンプリングされた時点での現行値です。)	B (9,0)
DMUSRP	Server.Users.Peak: サーバーが開始されてからの最大同時ユーザー数。	B (9,0)
DMUSRT	Server.Users.Peak.Time: 最後にユーザーが最大数に達した時刻 (YYYYMMDDHHMMSS)。	C (14)
DMMLCP	Mail.TotalPending: サーバーの MAIL.BOX で、Domino ルーター・ジョブによる処理を待っているアウトバウンド・メール・メッセージの数。メールは、ルーター・ジョブが起動され、発信メールが MAIL.BOX から宛先メール・サーバーに移されるまで保留状態になります。メール・サーバーに接続できなければ、メッセージは MAIL.BOX で保留にされたままになります。(これは、データがサンプリングされた時点での現行値です。)	B (9,0)
DMMLWR	Mail.WaitingRecipients: サーバーの MAIL.BOX で、Domino ルーター・ジョブによる処理を待っているインバウンド・メール・メッセージの数。メールは、ルーター・ジョブが起動され、着信メールが MAIL.BOX からユーザーのメール・ファイルに移されるまで保留状態になります。(これは、データがサンプリングされた時点での現行値です。)	B (9,0)
DMMLBX	Mail.Delivered: サーバーの MAIL.BOX に置かれているインバウンド・メール・メッセージとアウトバウンド・メール・メッセージを合わせた数。	B (18,0)
DMCMCD	Domino.Command.CreateDocument: サーバーに入ってきた 'CreateDocument' URL のカウント。	B (18,0)
DMCMDD	Domino.Command.DeleteDocument: サーバーに入ってきた 'DeleteDocument' URL のカウント。	B (18,0)
DMCMED	Domino.Command.EditDocument: サーバーに入ってきた 'EditDocument' URL のカウント。	B (18,0)
DMCMOA	Domino.Command.OpenAgent: サーバーに入ってきた 'OpenAgent' URL のカウント。	B (18,0)
DMCMOB	Domino.Command.OpenDatabase: サーバーに入ってきた 'OpenDatabase' URL のカウント。	B (18,0)
DMCMOD	Domino.Command.OpenDocument: サーバーに入ってきた 'OpenDocument' URL のカウント。	B (18,0)
DMCMOF	Domino.Command.OpenForm: サーバーに入ってきた 'OpenForm' URL のカウント。	B (18,0)
DMCMOI	Domino.Command.OpenImageResource: サーバーに入ってきた 'OpenImageResource' URL のカウント。	B (18,0)
DMCMOV	Domino.Command.OpenView: サーバーに入ってきた 'OpenView' URL のカウント。	B (18,0)
DMCMSD	Domino.Command.SaveDocument: サーバーに入ってきた 'SaveDocument' URL のカウント。	B (18,0)

フィールド名	説明	属性
DMCMTU	Domino.Command.Total: サーバーに入ってきたすべての URL のカウント。	B (18,0)
DMRQ1M	Domino.Requests.Per1Minute.Total: 過去 1 分間の合計要求数。(これは、データがサンプリングされた時点での現行値です。)	B (9,0)
DMNPT1	NET.*: データが報告されている Domino ポート (4 つのうち 1 つ)。 注: ノード名のアスタリスク (*) は、ポートの名前を示します。	C (32)
DMNBR1	NET.*.BytesReceived: このポートで受信されたネットワーク・バイト数。 注: ノード名のアスタリスク (*) は、ポートの名前を示します。	B (18,0)
DMNBS1	NET.*.BytesSent: このポートで送信されたネットワーク・バイト数。 注: ノード名のアスタリスク (*) は、ポートの名前を示します。	B (18,0)
DMNSI1	NET.*.Sessions.Established.Incoming: このポートで確立された着信セッションの数。 注: ノード名のアスタリスク (*) は、ポートの名前を示します。	B (9,0)
DMNSO1	NET.*.Sessions.Established.Outgoing: このポートで確立された発信セッションの数。 注: ノード名のアスタリスク (*) は、ポートの名前を示します。	B (9,0)
DMN*	注: 上の 5 のフィールドは、ポート 2、3、および 4 に関して報告されます。	

## 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリとファイルの関係』  
収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

## 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンド  
パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成  
(CRTPFRDTA) コマンドを参照してください。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMDPS

このデータベース・ファイルには、データ・ポート・サービスのパフォーマンス・データが入ります。データ・ポート・サービスは、ソース・システムと、System i クラスタ内の *N* 個の指定された (切り替え可能) ターゲット・システムのうちの 1 つとの間での、データの大量ボリューム転送をサポートするライセンス内部コード (LIC) です。

遠隔独立 ASP ミラーリングのような、データ・ポート・サービスは LIC クライアントによって使用されます。それぞれの収集間隔のクライアントごとの各 IP アドレスに 1 つのレコードが存在します。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
DTECEN	世紀桁。0 は 19xx を示し、1 は 20xx を示します。	C (1)
DPTYPE	クライアント・タイプ。データ・ポート・サービスに登録されるクライアントのタイプは次のとおりです。 • 1 -- 遠隔独立 ASP ミラー保護。	B (4,0)
DPNAME	クライアント名。データ・ポート・サービスに登録されたクライアントの名前。この名前は特定のクライアント・タイプで固有ですが、すべてのクライアント全体に渡って固有でなければならないということではありません。この名前は、クライアント・タイプによって次のように定義されます。 • 1 -- リモートにミラー保護された 1 次独立 ASP の ASP 資源名。	C (10)
DPIPV	IP バージョン。このフィールドは、ターゲット IP アドレスに関して IP バージョン (4 または 6) を定義します。	B (4,0)
DPIPAD	ターゲット IP アドレス。ターゲット・システムの IP アドレス。このレコードは、この IP アドレスと関連する接続上のクライアント通信に、統計を報告します。4 バイト幅の IP バージョン 4 のアドレスは、右寄せされてゼロが埋め込まれます。	H (16)
DPIPAS	ターゲット IP アドレス状況。このフィールドに対する有効な値は、1 または 0 です。このフィールドの値は、ターゲット IP アドレスが現在メッセージング用に使用中の場合 1、そうでない場合 0 です。	C (1)
DPNID	ターゲット・ノード ID。クラスター内のターゲット・システムのノード ID。	C (8)

フィールド名	説明	属性
DPDTA1	クライアント・データ 1。クライアントが提供するオプションのデータ。このデータは、クライアント・タイプによって次のように定義されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 -- リモートにミラー保護された 1 次独立 ASP の数。</li> </ul>	B (9,0)
DPDTA2	クライアント・データ 2。クライアントが提供するオプションのデータ。このデータは、クライアント・タイプによって次のように定義されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 -- 未定義。</li> </ul>	B (9,0)
DPDTA3	クライアント・データ 3。クライアントが提供するオプションのデータ。このデータは、クライアント・タイプによって次のように定義されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 -- 未定義。</li> </ul>	C (10)
DPDTA4	クライアント・データ 4。クライアントが提供するオプションのデータ。このデータは、クライアント・タイプによって次のように定義されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 -- 未定義。</li> </ul>	C (40)
DPASYN	非同期モード。このフィールドに対する有効な値は、1 または 0 です。このフィールドの値は、非同期モードの場合 1、そうでない場合は同期モードで 0 です。非同期モードの場合、クライアントはメッセージを送信し、メッセージ受信時に ACK を再度受け取りますが、それは遠隔クライアントが処理する前です。同期モードの場合、クライアントはメッセージを送信し、メッセージ受信後、および遠隔クライアントの処理後に ACK を再度受け取ります。	C (1)
DPMS	送信されたメッセージ。クライアントが送信するメッセージの数。この値はクライアントが送信を要求すると増えます。送信が正常に行われるかどうかには依存しません。	B (18,0)
DPAS	送信された確認通知。クライアントが送信する確認通知 (ACK) の数。	B (18,0)
DPNS	送信された否定通知。クライアントが送信する否定通知 (NACK) の数。	B (18,0)
DPMR	受信したメッセージ。クライアントが受信したメッセージの数。	B (18,0)
DPAR	受信した確認通知。クライアントが受信した確認通知 (ACK) の数。	B (18,0)

フィールド名	説明	属性
DPNR	受信した否定通知。クライアントが受信した否定通知 (NACK) の数。	B (18,0)
DPMRO	1 度再試行されたメッセージ。1 度だけ再試行されたクライアント・メッセージの数。カウントされるメッセージは、データ・ポート・サービスが開始した再試行と関連するもので、TCP が開始した再試行ではありません。	B (18,0)
DPMRM	複数回再試行されたメッセージ。複数回再試行されたクライアント・メッセージの数。カウントされるメッセージは、データ・ポート・サービスが開始した再試行と関連するもので、TCP が開始した再試行ではありません。メッセージが複数回再試行されると、この値は 1 ずつ増えていきます。	B (18,0)
DPTMR	合計メッセージ再試行。クライアント・メッセージ再試行の合計数。カウントされる再試行は、データ・ポート・サービスが開始した再試行で、TCP が開始した再試行ではありません。メッセージが $n$ 回再試行されると、この値は $n$ ずつ増えていきます。	B (18,0)
DPMRR	代替アドレスに転送されるメッセージ。メッセージを送信する試みがタイムアウトになる回数が多すぎて、代替 IP アドレスに転送されるメッセージの数。	B (18,0)
DPMNA	確認されないメッセージ。応答で ACK または NACK を受け取らなかった、送信済みクライアント・メッセージの数。	B (18,0)
DPMBR	受信したメッセージ・バイト。クライアントが受信したメッセージに関連したバイト数。これには、再試行または ACK および NACK 応答に関連したバイトは含まれません。	B (18,0)
DPMBS	送信されたメッセージ・バイト。クライアントに送信されたメッセージに関連したバイト数。これには、再試行または ACK および NACK 応答に関連したバイトは含まれません。この値はクライアントが送信を要求すると増えます。送信が正常に行われるかどうかには依存しません。	B (18,0)



フィールド名	説明	属性
DPSMS	送信された小さいメッセージ。クライアントが送信した、4K 以下のサイズのメッセージ数。	B (18,0)
DPMMS	送信された中程度のメッセージ。クライアントが送信した、4K より大きく、64 K 以下のサイズのメッセージ数。	B (18,0)
DPLMS	送信された大きいメッセージ。クライアントが送信した、64K より大きいサイズのメッセージ数。	B (18,0)
DPSRTT	マイクロ秒単位の平滑化された往復時間。データが収集された時間までの平均往復時間の現在の推定値 (DTETIM フィールドを参照)。この推定値は、データ・ポート・サービスによって保守されます。往復時間とは、クライアント・メッセージが送信され、正常に応答されるのにかかる時間です。	B (18,0)
DPTRTT	マイクロ秒単位の合計往復時間。往復時間全部の合計。往復時間とは、クライアント・メッセージが送信され、正常に応答されるのにかかる時間です。この値を往復回数で除算し、平均往復時間を出します。	B (18,0)
DPRT	往復回数。往復の回数。この値で合計往復時間を除算し、平均往復時間を出します。	B (18,0)

### 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリーとファイルの関係』  
収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL) オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

### 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRTA) コマンド  
パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRTA) コマンドを参照してください。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMECL

このデータベース・ファイルは、トークンリング・ネットワーク・ファイルの項目を含み、トークンリングのローカル・エリア・ネットワーク (LAN) ファイル内のフィールドをリストしています。

トークンリング・プロトコル統計は、トークンリング・ポートとトークンリングの LAN エミュレーションをサポートしている非同期伝送モード・ポートに関連した、活動中のトークンリング回線記述について報告します。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
EIOPI	予約済み	C (1)
ELITYPE	このレコードに表示されている IOP またはアダプターの資源タイプ。	C (4)
ELLND	回線記述: この回線の記述の名前。	C (10)
ELLSP	回線速度: ビット/秒 (bps) で表される回線速度。	PD (11,0)
ELTFT	送信されたタイプ II フレームの合計数。	PD (11,0)
ELTFR	受信されたタイプ II フレームの合計数。	PD (11,0)
ELIFT	送信された I フレームの合計数。	PD (11,0)
ELIFR	受信された I フレームの合計数。	PD (11,0)
ELICT	送信されたすべての I フレーム内の文字の合計数。	PD (11,0)
ELICR	受信されたすべての I フレーム内の文字の合計数。	PD (11,0)
ELPRCL	プロトコル・タイプ: E (トークンリング・ネットワーク用)	C (1)
ELRFT	送信された受信不可のフレームの数。	PD (5,0)
ELRFR	受信された受信不可のフレームの数。	PD (5,0)
ELFFT	送信されたフレーム拒否のフレームの数。	PD (5,0)
ELFFR	受信されたフレーム拒否のフレームの数。	PD (5,0)
ELRJFR	受信された拒否フレームの数。	PD (5,0)
ELRJFT	送信された拒否フレームの数。	PD (5,0)
ELSFT	送信された拡張非同期平衡モード設定のフレームの数。	PD (5,0)
ELSFR	受信された拡張非同期平衡モード設定のフレームの数。	PD (5,0)
ELDFT	送信された切断フレームの数。	PD (5,0)
ELDFR	受信された切断フレームの数。	PD (5,0)
ELDMT	送信された切断モード・フレームの数。	PD (5,0)
ELDMR	受信された切断モード・フレームの数。	PD (5,0)
ELN2R	N2 再試行終了カウント: このカウントは、ホストが端末への通信を n 回試行し、端末が応答する前に T1 タイマーが n 回終了した時点で更新されます。	PD (5,0)
ELT1T	T1 タイマー終了カウント: T1 タイマーが終了した回数。このカウントは、ホストが端末への通信を n 回試行し、端末が応答する前に T1 タイマーが n 回終了した時点で更新されます。	PD (5,0)
EMFTR	合計送信フレーム数: 送信されたフレーム (LLC および MAC) の合計数。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
EMFRV	合計受信フレーム数: 受信されたフレーム (LLC および MAC) の合計数。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (11,0)
EMMFT	MAC 送信フレーム数: 送信された MAC フレームの合計数。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (11,0)
EMMFR	MAC フレーム: 受信された MAC フレームの合計数。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (11,0)
EMRIT	送信された経路指定情報フレーム: 送信された、経路指定情報フィールドを持つフレーム (LLC および MAC) の合計数。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (11,0)
EMRIR	受信された経路指定情報フレーム: 受信された、経路指定情報フィールドを持つフレーム (LLC および MAC) の合計数。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (11,0)
EMLNE	回線エラー: フレーム検査シーケンス・エラーのコード違反。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
EMINE	内部エラー: アダプターの内部エラー。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
EMBRE	バースト・エラー: フレームまたはトークンの開始区切り文字の後に、物理装置によって同じ極性のバーストが検出されています。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
EMAFE	確認済みアドレス標識エラーまたはコピー済みフレーム標識エラー: 物理制御フィールドの拡張フィールド・エラー。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
EMABT	異常終了区切り文字: 内部エラーのために送信された異常終了区切り文字。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
EMLST	消失フレーム: IOA が送信除去状態にあるときに終了した物理トレーラー・タイマー。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
EMRXC	受信輻輳: IOA が使用できる受信のためのバッファがないため、フレームがコピーされませんでした。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
EMFCE	コピー済みフレーム・エラー: 特定の宛先アドレスを持つフィールドが、違ったアダプターにコピーされました。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)

フィールド名	説明	属性
EMFQE	アダプターの頻度エラー。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
EMTKE	トークン・エラー: トークン・タイマーがフレームやトークンを検出せずに終了したアダプター。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
EMDBE	直接メモリー・アクセス・バス・エラー: IOP/IOA バスの DMA エラー。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
EMDPE	直接メモリー・アクセス・パリティエラー: IOP/IOA の DMA パリティエラー。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
EMANR	アドレス確認不可エラーのあるフレームの合計数。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
EMFNC	フレーム・コピー不可エラーのあるフレームの合計数。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
EMTSE	アダプターのフレーム送信エラーまたはフレーム・ストリップ処理エラーの合計数。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
EMUAP	無許可アクセス優先順位: 要求されたアクセス優先順位は未認可です。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
EMUMF	未認可 MAC フレーム: アダプターが、指定されたソース・クラスで MAC フレームを送信することを許可されていないか、MAC フレームに、ゼロのソース・クラスが含まれているか、MAC フレームの物理制御フィールドのアテンション・フィールドが > 1 になっています。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
EMSFT	ソフト・エラー: アダプターが報告したソフト・エラーの合計数。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
EMTBC	送信されたビーコン・フレームの合計数。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
EMIOA	IOA 状況オーバーラン: アダプターの中断状況待ち行列のオーバーラン。前の状況が破棄されました。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
EMFDC	破棄されたフレームの合計数。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
EMSIN	MAC がデコードできなかった中断の合計数。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (11,0)
EMBRV	正常に受信された MAC バイトの合計: これには、正常に受信されたフレーム内のバイト数が含まれます。これには、受信したマルチキャストやブロードキャスト・フレームのバイトが含まれます。この数には、宛先アドレスから開始して FCS に至るまでの、FCS を除外したすべてが含まれます。ソース・アドレス、宛先アドレス、長さまたはタイプ、パッドが含まれています。	PD (11,0)
EMBTR	正常に送信された MAC バイトの合計: 正常に送信されたバイトの合計数。この数には、宛先アドレスから開始して FCS に至るまでの、FCS を除外したすべてが含まれます。ソース・アドレス、宛先アドレス、長さまたはタイプ、パッドが含まれています。	PD (11,0)
EMFNTR	送信されなかったフレームの合計: これには、ハードウェアが時間を超過して完了した送信の信号を出していないために送信できなかったフレームの数が含まれます。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (11,0)
EMRGUC	リング使用カウント。LAN 使用率 (パーセント) = $EMRG * C$ 。ごく少数のアダプターしかこの機能を使用しないので、ほとんどの場合このフィールドの値はゼロです。	PD (11,0)
EMRGSC	リング・サンプル・カウント。LAN 使用率 (パーセント) = $EMRG * C$ 。ごく少数のアダプターしかこの機能を使用しないので、ほとんどの場合このフィールドの値はゼロです。	PD (11,0)
EMCVRF	反復フレーム内に検出された FCS またはコード違反: このカウンターは、コード違反のある反復フレームや、フレーム検査順序 (FCS) 巡回冗長検査に失敗した反復フレームごとに増加します。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
EMFNRR	戻らなかった送信フレーム数: このカウンターは、タイムアウトや他のフレームの受信のために、送信されたフレームがリングから戻らなかった場合に増加します。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
EMUNDR	アンダーランの数: このカウンターは、DMA カウンターが検出されるごとに増加します。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)

フィールド名	説明	属性
EMDUP	<p>回線の二重状況。いくつかの回線では、時間がたつと、この値は変化する可能性があります。このフィールドには、以下のような値が含まれることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ブランク -- 二重状況は通知されていません。</li> <li>• F -- 全二重: 回線は、データの送信と受信を同時に行うことができます。</li> <li>• H -- 半二重: 回線は、データの送信かデータの受信のいずれかを行うことができますが、データの送信と受信を同時に行うことはできません。</li> </ul>	C (1)
EMUPF	<p>サポートされていないプロトコル・フレーム: サポートされていないプロトコルとして指定されたために破棄されたフレームの数。この数は、破棄されたフレーム・カウンターに含まれます。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。</p>	PD (11,0)

### 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリーとファイルの関係』  
収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

### 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンド  
パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成  
(CRTPFRDTA) コマンドを参照してください。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMETH

このデータベース・ファイルは、イーサネット・ファイルを含み、イーサネット・ファイル内のフィールド  
をリストしています。

イーサネット LAN プロトコル統計は、イーサネット・ポートとイーサネットの LAN エミュレーション  
をサポートしている非同期伝送モード・ポートに関連した、活動中のイーサネット回線記述について報告し  
ます。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	<p>間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプ ル・データベース間隔。</p>	PD (5,0)
DTETIM	<p>間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日 付と時刻。</p>	C (12)
INTSEC	<p>経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。</p>	PD (7,0)
IOPRN	<p>IOP 資源名。</p>	C (10)
ETIOPI	<p>予約済み</p>	C (1)
ETTYPE	<p>このレコードに表示されている IOP またはアダプターの 資源タイプ。</p>	C (4)

フィールド名	説明	属性
ETLLND	回線記述: この回線の記述の名前。	C (10)
ETLLSP	回線速度: ビット/秒 (bps) で表される回線速度。複数の回線の場合、この値は時間によって変わることがあります。	PD (11,0)
ETLTFT	送信されたタイプ II フレームの合計数。	PD (11,0)
ETLTFR	受信されたタイプ II フレームの合計数。	PD (11,0)
ETLIFT	送信された I フレームの合計数。	PD (11,0)
ETLIFR	受信された I フレームの合計数。	PD (11,0)
ETLICT	送信されたすべての I フレーム内の文字の合計数。	PD (11,0)
ETLICR	受信されたすべての I フレーム内の文字の合計数。	PD (11,0)
ETLPRCL	プロトコル・タイプ: T (イーサネット)。	C (1)
ETLRFT	送信された受信不可のフレームの数。	PD (5,0)
ETLRFR	受信された受信不可のフレームの数。	PD (5,0)
ETLFFT	送信されたフレーム拒否のフレームの数。	PD (5,0)
ETLFFR	受信されたフレーム拒否のフレームの数。	PD (5,0)
ETLRJR	受信された拒否フレームの数。	PD (5,0)
ETLRJT	送信された拒否フレームの数。	PD (5,0)
ETLSFT	送信された拡張非同期平衡モード設定のフレームの数。	PD (5,0)
ETLSFR	受信された拡張非同期平衡モード設定のフレームの数。	PD (5,0)
ETLDFT	送信された切断フレームの数。	PD (5,0)
ETLDFR	受信された切断フレームの数。	PD (5,0)
ETLDMT	送信された切断モード・フレームの数。	PD (5,0)
ETLDMR	受信された切断モード・フレームの数。	PD (5,0)
ETLN2R	N2 再試行終了カウント: このカウントは、ホストが端末への通信を n 回試行し、端末が応答する前に T1 タイマーが n 回終了した時点で更新されます。	PD (5,0)
ETLT1T	T1 タイマー終了カウント: T1 タイマーが終了した回数。このカウントは、ホストが端末への通信を n 回試行し、端末が応答する前に T1 タイマーが n 回終了した時点で更新されます。	PD (5,0)
ETLTIT	TI タイマー (非活動タイマー) が満了した回数。このカウントは、ホストが端末への通信を n 回試行し、端末が応答する前に T1 タイマーが n 回終了した時点で更新されます。	PD (5,0)
ETLFRT	I フレームの再送信が発生した回数。	PD (11,0)
ETLBRT	再送信された I フレームのバイト。	PD (11,0)
ETLLBC	ローカル・ビジー・カウント: 端末がローカル・ビジー副状態になった回数。	PD (5,0)
ETMFTG	エラー・フリーで送信されたフレーム。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
ETMFRG	エラー・フリーで受信されたフレーム。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (11,0)
ETMIFM	インバウンド・フレームの欠落: IOA がレシーバー・バッファ・エラーか、欠落フレームを検出しました。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
ETMCRE	CRC エラー: レシーバーが検出したチェックサム・エラー。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
ETMEXR	16 を超える再試行: 再試行が多すぎるために、正常に送信されなかったフレーム。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (11,0)
ETMOWC	期間外衝突: チャンネルのスロット・タイムが経過した後に発生した衝突。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
ETMALE	位置合わせエラー: インバウンド・フレームに非整数のバイト数と CRC エラーが含まれていました。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
ETMCRL	キャリア・ロス: 送信中、IO アダプター上のチップ・セットへのキャリア入力が false です。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
ETMTDR	タイム・ドメイン屈折: ケーブル障害までの距離の概算に使用されるカウンター。この値は、最後に発生した「16 を超える再試行」に関連します。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
ETMRBE	受信バッファ・エラー: フレームの受信の際にサイロ・オーバーフローが発生しました。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
ETMSPI	不明確な中断: 中断が受信されましたが、認識可能な中断にデコードすることができませんでした。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
ETMDIF	破棄されたインバウンド・フレーム: AIF 項目の欠損のため、レシーバーがフレームを破棄しました。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (11,0)
ETMROV	受信オーバーラン: バッファ不足のために、レシーバーが着信フレームのすべて、または一部を失いました。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)



フィールド名	説明	属性
ETMMEE	メモリー・エラー: IO アダプター上のチップ・セットはバス・マスターですが、これが、DAL** 回線にアドレスを代入するための 25.6 usecs 内に、準備完了信号を受信しませんでした。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
ETMIOV	中断オーバーラン: 状況待ち行列項目の不足のため、中断が処理されませんでした。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
ETMTUN	送信アンダーフロー: データ遅延のため、送信側がメモリーからメッセージを切り捨てました。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
ETMBBE	バブル・エラー: 送信側がチャンネル上の最大許容時間を超過しました。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
ETMSQE	信号品質エラー: 送信が正常に完了されていることを示す信号が、正常な送信の 2 usecs 内に到着しませんでした。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
ETMM1R	送信の再試行 (2 回以上): 正常に送信を行うまでにフレームには 2 回以上の再試行が必要でした。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (11,0)
ETM1R	送信の再試行 (1 回のみ): 正常に送信を行うまでにフレームには 1 回の再試行が必要でした。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (11,0)
ETMDCN	据え置き状態: チャンネルが使用中であったために、IO アダプター上のチップ・セットが送信を据え置きました。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (11,0)
ETMBRV	正常に受信された MAC バイトの合計: これには、正常に受信されたフレーム内のバイト数が含まれます。これには、受信したマルチキャストやブロードキャスト・フレームのバイトが含まれます。この数には、宛先アドレスから開始して FCS に至るまでの、FCS を除外したすべてが含まれます。ソース・アドレス、宛先アドレス、長さまたはタイプ、パッドが含まれています。	PD (15,0)
ETMBTR	正常に送信された MAC バイトの合計: 正常に送信されたバイトの合計数。この数には、宛先アドレスから開始して FCS に至るまでの、FCS を除外したすべてが含まれます。ソース・アドレス、宛先アドレス、長さまたはタイプ、パッドが含まれています。	PD (15,0)

フィールド名	説明	属性
ETMFNT	送信されなかったフレームの合計: これには、ハードウェアが時間を超過して完了した送信の信号を出していないために送信できなかったフレームの数が含まれます。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (11,0)
ETMMFD	破棄されたメール・フレームの合計。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
ETMTFD	破棄された送信フレーム。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
ETMDUP	回線の二重状況。いくつかの回線では、時間がたつと、この値は変化する可能性があります。このフィールドには、以下のような値が含まれることがあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ブランク -- 二重状況は通知されていません。</li> <li>• F -- 全二重: 回線は、データの送信と受信を同時に行うことができます。</li> <li>• H -- 半二重: 回線は、データの送信かデータの受信のいずれかを行うことができますが、データの送信と受信を同時に行うことはできません。</li> </ul>	C (1)
ETMUPF	サポートされていないプロトコル・フレーム: サポートされていないプロトコルとして指定されたために破棄されたフレームの数。この数は、破棄されたインバウンド・フレーム・カウンターに含められます。このフィールドは、非同期伝送モードの LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (11)

## 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリとファイルの関係』  
収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

## 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンド  
パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成  
(CRTPFRDTA) コマンドを参照してください。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMFRLY

このデータベース・ファイルには、フレーム・リレー・カウンターの項目が含まれています。

QAPMFRLY は、フレーム・リレー・カウンター用のデータベース・ファイルです。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5 0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過した間隔 (秒単位)。	PD (7 0)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
YIOPI	予約済み	C (1)
YITYPE	このレコードに表示されている IOP またはアダプターの資源タイプ。	C (4)
YLND	ネットワーク・インターフェース (NWI) 記述: このネットワーク・インターフェースの記述の名前。	C (10)
YLSP	回線速度: ビット/秒 (bps) で表される回線速度。	PD (11,0)
YLTFI	送信されたフレームの合計数。	PD (11,0)
YLTFR	受信されたフレームの合計数。	PD (11,0)
YLIFT	送信された I フレームの合計数。	PD (11,0)
YLIFR	受信された I フレームの合計数。	PD (11,0)
YLICT	送信された I フレーム文字の合計数。	PD (11,0)
YLICR	受信された I フレーム文字の合計数。	PD (11,0)
YLPRCL	プロトコル・タイプ: Y (フレーム・リレー用)	C (1)
YLRFT	送信された受信不可 (RNR) フレームの数。	PD (11,0)
YLRFR	受信された受信不可 (RNR) フレームの数。	PD (11,0)
YLFFT	送信されたフレーム拒否のフレームの数。	PD (11,0)
YLFFR	受信されたフレーム拒否フレームの合計数。	PD (11,0)
YLRJFR	受信された拒否フレームの数。	PD (11,0)
YLRJFT	送信された拒否フレームの数。	PD (11,0)
YLSFT	送信された拡張非同期平衡モード設定 (SABME) のフレームの数。	PD (11,0)
YLSFR	受信された拡張非同期平衡モード設定 (SABME) のフレームの数。	PD (11,0)
YLDFT	送信された切断 (DISC) フレームの数。	PD (11,0)
YLDFR	受信された切断 (DISC) フレームの数。	PD (11,0)
YLDMT	送信された切断モード (DM) フレームの数。	PD (11,0)
YLDMR	受信された切断モード (DM) フレームの数。	PD (11,0)
YLN2R	N2 再試行終了カウント: このカウントは、ホストが端末への通信を n 回試行し、端末が応答する前に T1 タイマーが n 回終了した時点で更新されます。	PD (11,0)
YLT1T	T1 タイマー終了カウント: T1 タイマーが終了した回数。このカウントは、ホストが端末への通信を n 回試行し、端末が応答する前に T1 タイマーが n 回終了した時点で更新されます。	PD (11,0)
YMLTI	ローカル管理インターフェース (LMI) タイムアウト。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
YMLSE	ローカル管理インターフェース (LMI) シーケンス・エラー。	PD (11,0)
YMLPE	ローカル管理インターフェース (LMI) プロトコル・エラー。	PD (11,0)
YMPDE	ポート・モニターのデータ・セット・レディー (DSR) エラー。	PD (11,0)
YMPCE	ポート・モニターの送信可 (CTS) エラー。	PD (11,0)
YMMER	MAC エラー。	PD (11,0)

### 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリとファイルの関係』  
収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

### 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンド  
パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成  
(CRTPFRDTA) コマンドを参照してください。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMHDLC

このデータベース・ファイルには、ハイレベル・データ・リンク制御 (HDLC) ファイルの項目が含まれて  
います。

統計は、HDLC ファイル内のフィールドに対して 1 行を基本に保持されます。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプ ル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日 付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
SHIOP	予約済み	C (1)
SHTYPE	このレコードに表示されている IOP またはアダプターの 資源タイプ。	C (4)
SHLND	回線記述: この回線の記述の名前。	C (10)
SHLSP	回線速度: 回線のビット/秒 (bps) 速度。	PD (11,0)
SHBTRN	送信済みバイト: 再送信されたバイトを含む、送信済み バイトの数。	PD (11,0)
SHBRCV	受信済みバイト: エラーのあるフレーム内のバイトもす べて含んだ、受信済みバイトの数。	PD (11,0)
SHPRCL	プロトコル・タイプ: S (SDLC)。	C (1)

フィールド名	説明	属性
SHFTRN	再送信されたフレームを除外した、送信済みフレーム (I フレーム、監視フレーム、番号のないフレーム) の数。	PD (11,0)
SHIFTR	再送信された I フレームを除外した、送信済み I フレームの数。	PD (11,0)
SHIFRT	再送信された I フレームの数。	PD (11,0)
SHFRT	再送信された、I フレームと監視フレームと番号のないフレームの数。	PD (11,0)
SHEFFR	エラー・フリーの受信フレーム数: エラー・フリーで受信された I フレームと監視フレームと番号なしのフレームの数 (これらがリモート側から再送信されているかどうかにはかかわらない)。	PD (11,0)
SHEFIR	エラー・フリーの受信 I フレーム数: エラー・フリーで受信された I フレームの数 (これらがリモート側から再送信されているかどうかにはかかわらない)。	PD (11,0)
SHFRIE	エラーの受信フレーム数: エラーで受信された I フレームと監視フレームと番号なしフレームの数。3つのエラーの可能性があります。(1) 監視フレームまたは I フレームが、フレームの再送信を要求する Nr カウントと共に受信された。(2) I フレームが、フレームが欠落したことを示す Ns カウントと共に受信された。(3) フレームが、検査シーケンス・エラー、異常終了、受信オーバーラン、フレーム切り捨てエラーのいずれかのエラーで受信された。	PD (11,0)
SHIFR	受信された無効フレーム: 受信された無効フレームの数。これらは次のような状況で受信されたフレームです。(1) 短フレーム・エラーのフレームが 32 ビット未満だった。(2) 残りのエラー・フレームはバイト境界上にはない。	PD (11,0)
SHRRFT	送信された受信可監視フレームの数。	PD (11,0)
SHRRFR	受信された受信可監視フレームの数。	PD (11,0)
SHRNRT	送信された受信不可監視フレームの数。	PD (11,0)
SHRNRR	受信された受信不可監視フレームの数。	PD (11,0)
SHLNKR	データ・リンク・リセット: 端末が既に正規応答モードにあるときに、通常応答モード設定 (SNRM) が受信された回数。	PD (11,0)
SHCPT	次のステーションにポーリングする前の、正規切断モードにあるときに、システムが、ポーリングへの応答を待つ時間の長さ (秒)。	PD (3,0)

## 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリーとファイルの関係』  
 収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
 オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
 データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

## 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRTA) コマンド

パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRTA) コマンドを参照してください。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMHTTBP

このデータベース・ファイルには、IBM® HTTP Server (powered by Apache) カテゴリによって収集された基本データが含まれます。

このファイルは、それぞれのサーバー・インスタンスに関連した基本的なデータです。このファイルには、各サーバー・インスタンスごとに、1 間隔につき 1 つのレコードが格納されます。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
DTECEN	世紀桁: 0 は 19XX を示し、1 は 20XX を示します。	C (1)
HTJNAM	サーバー・ジョブ名 (サーバー名): このフィールドと次の 2 つのサーバー・ジョブ・フィールドは、そのサーバーの子ジョブを識別します。	C (10)
HTJUSR	サーバー・ジョブ・ユーザー。	C (10)
HTJNBR	サーバー・ジョブ番号。	C (6)
HTSSDT	サーバーの始動日時 (yyyymmddhhmmss): 最新の始動または再始動の日時。	C (14)
HTTHDA	活動状態のスレッド: データのサンプリング時に活動していたスレッドの数。	B (9,0)
HTTHDI	活動停止中のスレッド: データのサンプリング時に活動を停止していたスレッドの数。	B (9,0)
HTNINC	インバウンド接続 (SSL 以外): サーバーによって受け入れられた SSL 以外のインバウンド接続の数。	B (18,0)
HTSINC	インバウンド接続 (SSL): サーバーによって受け入れられた SSL インバウンド接続の数。	B (18,0)
HTRRCV	受信された要求: サーバーが受信した、すべてのタイプの要求の数。	B (18,0)
HTRSND	送信された応答: サーバーが送信した、すべてのタイプの応答の数。	B (18,0)
HTBRQR	拒否された要求: 受信されたが、無効であった要求の数。	B (18,0)

### 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリとファイルの関係』  
収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL) オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

## 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFDRDTA) コマンド

パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成 (CRTPFDRDTA) コマンドを参照してください。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMHTTPD

このデータベース・ファイルには、HTTP Server (powered by Apache) カテゴリによって収集された詳細データが含まれます。

このファイルには、サーバーが処理するさまざまな要求タイプに関して報告される詳細データが含まれます。活動状態の各サーバー、および各間隔ごとに、構成されているそれぞれの要求タイプにつき 1 つのレコードがこのファイルに書き込まれます。

注: 要求タイプによってデータが処理されたかどうかにかかわらず、サーバーに関して構成されているすべての要求タイプが報告されます。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFDRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
DTECEN	世紀桁: 0 は 19XX を示し、1 は 20XX を示します。	C (1)
HTJNAM	サーバー・ジョブ名 (サーバー名): このフィールドと次の 2 つのサーバー・ジョブ・フィールドは、そのサーバーの子ジョブを識別します。	C (10)
HTJUSR	サーバー・ジョブ・ユーザー。	C (10)
HTJNBR	サーバー・ジョブ番号。	C (6)
HTRTYP	要求タイプ: このレコードによって報告される要求タイプを識別します。通常、次のような値になります。 <ul style="list-style-type: none"><li>SR - サーバーによって内部的に処理された要求</li><li>SL - SSL を介して受信されたすべてのタイプの要求 (SSL は、実際には要求タイプではありません。このレコードは SSL 接続を介して発生した活動を報告します。それらの活動は、該当する他の要求タイプでも報告されます。)</li><li>PX - プロキシ要求</li><li>CG - CGI 要求</li><li>WS - WebSphere® 要求</li><li>JV - IBM Java™ サブレット・エンジン要求</li><li>UM - ユーザー・モジュールによって処理された要求</li><li>FS - FRCA (Fast Response Cache Accelerator) によって処理された静的要求</li><li>FX - FRCA によってプロキシ処理された要求</li></ul>	C (2)
HTRQSR	受信された要求。	B (18,0)

フィールド名	説明	属性
HTRQSS	送信された応答。	B (18,0)
HTBRQS	送信されたエラー応答。	B (18,0)
HTNOCR	処理された、キャッシュされない要求。 注: 要求タイプ SL、CG、WS、JV、および UM はキャッシュが使用されないため、このフィールドはこれらの要求タイプ用に予約されています。	B (18,0)
HTBRCV	受信されたバイト数。	B (18,0)
HTBSND	送信されたバイト数。	B (18,0)
HTNRMT	キャッシュされない要求の処理時間 (ミリ秒)。	B (9,0)
HTCRTM	キャッシュされる要求の処理時間 (ミリ秒)。 注: 要求タイプ SL、CG、WS、JV、および UM はキャッシュが使用されないため、このフィールドはこれらの要求タイプ用に予約されています。	B (9,0)

### 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリとファイルの関係』  
収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

### 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRTA) コマンド  
パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成  
(CRTPFRTA) コマンドを参照してください。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMIDLC

このデータベース・ファイルには、サービス総合ディジタル網 (ISDN) データ・リンク制御ファイル項目が  
含まれており、ISDN データ・リンク制御 (IDLC) ファイル内のフィールドをリストしています。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプ ル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日 付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
ISIOP	予約済み	C (1)
ISTYPE	このレコードに表示されている IOP またはアダプターの 資源タイプ。	C (4)
ISLND	回線記述: 回線記述の名前。	C (10)
ISNWI	ネットワーク・インターフェース記述: ネットワーク・ インターフェース記述の名前。	C (10)
ISLSP	リンク速度: このチャンネルの速度 (ビット/秒単位)。	PD (11,0)



フィールド名	説明	属性
ISPRCL	プロトコル・タイプ: I (IDLIC)。	C (1)
ILCRCE	受信 CRC エラー: サイクル冗長検査 (CRC) エラーがあった受信フレームの数。	PD (11,0)
ILSFE	短フレーム・エラー: 受信した短フレームの数。短フレームは、開始フラグと終了フラグとの間のオクテットが許容限界より少ないフレームです。	PD (11,0)
ILORUN	受信オーバーラン: ローカル制御装置の過負荷が原因で、ISDN サブシステムが着信データのペースを維持できなかった回数。	PD (11,0)
ILURUN	送信アンダーラン: ローカル制御装置の過負荷が原因で、ISDN サブシステムが発信データのペースを維持できなかった回数。	PD (11,0)
ILABRT	打ち切り受信数: 受信したフレームに HDLC 打ち切り標識が含まれていたフレームの数。	PD (11,0)
ILFRIE	エラーの受信フレーム数: 受信 (CRC) エラー、短フレーム・エラー、受信オーバーラン、送信アンダーラン、打ち切り受信数、およびフレーム・シーケンス・エラー (ILCRCE、ILSFE、ILORUN、ILURUN、ILABRT、ISSEQE) の合計。	PD (11,0)
ISFRT	再送信されたフレーム。	PD (11,0)
ISSEQE	シーケンス・エラー: フレームが失われたことを示す順序番号が入った受信フレームの数。	PD (11,0)
ISFTRN	送信フレームの合計数: これには、リモート・リンク・ステーションに送信された情報 (I)、非番号付き情報 (UI) および監視 (S) フレームが含まれます。これには、正常に送信されたものの他に、再送信されたフレーム、および送信アンダーランによって停止された転送で送信されたフレームも含まれます。	PD (11,0)
ISFRCV	受信フレーム数の合計数: これには、リモート・リンク・ステーションから受信した情報 (I)、非番号付き情報 (UI) および監視 (S) フレームが含まれます。これにはエラーは含まれません。	PD (11,0)
ISBTRN	送信したバイトの合計: リモート・リンク・ステーションに送信したバイトの合計数。これには、正常に送信されたものの他に、再送信されたバイト、および送信アンダーランによって停止された転送で送信されたバイトも含まれます。	PD (11,0)
ISBRCV	受信したバイトの合計: リモート・リンク・ステーションから受信したバイトの合計数。これにはエラーは含まれません。	PD (11,0)
ISB1	B1 チャンネル: B1 チャンネルが使用されていた場合は 1 に設定されます。	PD (1,0)
ISB2	B2 チャンネル: B2 チャンネルが使用されていた場合は 1 に設定されます。	PD (1,0)

フィールド名	説明	属性
ISCHAN	使用されている B チャンネル: 使用されている B チャンネルは、このフィールドが 1 に設定されているときに、この中に含まれているビットと関連しています。ビット 0 (最大重みビット (MSB)) と 31 (最小重みビット (LSB)) は予約済みです。ビット 1 から 30 は、それぞれ、B チャンネル 30 から 1 に関連しています。	C (4)

#### 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリとファイルの関係』  
収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

#### 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンド  
パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成  
(CRTPFRDTA) コマンドを参照してください。

### 収集サービス・データ・ファイル: QAPMIOPD

このデータベース・ファイルは、IOP 拡張データ・ファイル内のフィールドをリストします。

ネットワーク・サーバー (\*IPCS カテゴリ)、および入出力アダプター (\*IOPBASE カテゴリ) に関するデータが報告されます。ネットワーク・サーバーのデータには、統合 xSeries サーバーのデータおよび仮想入出力データが含まれます。仮想入出力データは、使用中の仮想装置ごとに 1 つのレコードで構成されます。ネットワーク・サーバーがネットワーク・サーバー・ホスト・アダプターと関連付けられている場合、仮想装置は時間間隔あたり 2 つ以上のレコードを持つことがあります。この仮想装置によって使われる、それぞれのネットワーク・サーバー・ホスト・アダプターごとに、1 つのレコードが存在します。並行保守をする場合 (IOP 下のハードウェアの追加または除去)、入出力アダプターのデータが正しく確実に報告されるためには、コレクターの停止/再始動を繰り返す必要があります。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。オペレーティング・システム・データ (データ・タイプ 2) の場合、この値は、間隔の間隔日時 (DTETIM) での変更と同じでないことがあります。これは、経過した間隔時間が 統合 xSeries サーバーから直接来るためです。	PD (7,0)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
XIIOP	予約済み	C (1)

フィールド名	説明	属性
XITYPE	このレコードに表示されている IOP のタイプ。	C (4)
XIDTYP	データ・タイプ: <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 -- 予約済み</li> <li>• 2 -- OS/2<sup>®</sup> またはその他のオペレーティング・システム (*IPCS カテゴリー)</li> <li>• 3 -- HPF386 (*IPCS カテゴリー)</li> <li>• 4 -- LAN サーバー (*IPCS カテゴリー)</li> <li>• 5 -- 仮想入出力 (*IPCS カテゴリー)</li> <li>• A -- 入出力アダプター (*IOPBASE カテゴリー)</li> </ul>	C (1)
XIDTA1	データ・フィールド 1	C (2)
XIDTA2	データ・フィールド 2	C (12)
XICT01	カウンター 1	PD (11)
XICT02	カウンター 2	PD (11)
XICT03	カウンター 3	PD (11)
XICT04	カウンター 4	PD (11)
XICT05	カウンター 5	PD (11)
XICT06	カウンター 6	PD (11)
XICT07	カウンター 7	PD (11)
XICT08	カウンター 8	PD (11)
XICT09	カウンター 9	PD (11)
XICT10	カウンター 10	PD (11)
XICT11	カウンター 11	PD (11)
XICT12	カウンター 12	PD (11)
XICT13	カウンター 13	PD (11)
XICT14	カウンター 14	PD (11)
XICT15	カウンター 15	PD (11)
XICT16	カウンター 16	PD (11)
XICT17	カウンター 17	PD (11)
XICT18	カウンター 18	PD (11)
XICT19	カウンター 19	PD (11)
XICT20	カウンター 20	PD (11)
XICT21	カウンター 21	PD (11)
XICT22	カウンター 22	PD (11)
XICT23	カウンター 23	PD (11)
XICT24	カウンター 24	PD (11)
XICT25	カウンター 25	PD (11)
XICT26	カウンター 26	PD (11)

フィールド名	説明	属性
XICT27	カウンター 27	PD (11)
XICT28	カウンター 28	PD (11)
XICT29	カウンター 29	PD (11)
XICT30	カウンター 30	PD (11)
XICT31	カウンター 31	PD (11)
XICT32	カウンター 32	PD (11)
XICT33	カウンター 33	PD (11)
XICT34	カウンター 34	PD (11)
XICT35	カウンター 35	PD (11)
XICT36	カウンター 36	PD (11)
XICT37	カウンター 37	PD (11)
XICT38	カウンター 38	PD (11)
XICT39	カウンター 39	PD (11)
XICT40	カウンター 40	PD (11)
XICT41	カウンター 41	PD (11)
XICT42	カウンター 42	PD (11)
XICT43	カウンター 43	PD (11)
XICT44	カウンター 44	PD (11)
XICT45	カウンター 45	PD (11)
XICT46	カウンター 46	PD (11)
XICT47	カウンター 47	PD (11)
XICT48	カウンター 48	PD (11)
XICT49	カウンター 49	PD (11)
XICT50	カウンター 50	PD (11)
XIADRN	アダプター資源名: 報告された資源がアダプターである場合は、このフィールドにはそのアダプターの資源名が入ります。報告された資源が IOP である場合は、このフィールドにはその IOP の資源名が入ります。	C (10)
XINWSD	ネットワーク・サーバーの記述名 (ネットワーク・サーバー記述 (NWSD) 名が適用外である場合ブランクが報告される)。	C (10)
XINWSH	ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター名 (ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター (NWSH) 名が適用外である場合ブランクが報告される)。	C (10)

注:

以下の表は、使用されるカウンターのタイプを表示しています。

**D (デルタ・カウンター):** 間隔内の発生回数 (ほとんどのパフォーマンス・カウンターはこのタイプです)。

**S (状態カウンター):** コレクション時の値、または間隔内の最大値。

<b>XIDTYP = '1' (予約済み)</b>	
<b>XIDTYP = '2' (OS/2 またはその他のオペレーティング・システム)</b>	
<b>カウンター</b>	<b>説明</b>
(CTO1) D	CPU 時間 (ミリ秒)。複数のプロセッサを持つアダプターの場合、この値はシングル・プロセッサの範囲に正規化されます。
(CTO2) D	スレッドがスケジュール変更された回数。
(CTO3) D	中断の数。
(CTO4) D	中断にかかった CPU 時間 (ミリ秒)。
(CTO5) D	ページ障害の数。
(CTO6) D	スワップイン・ページの数。
(CTO7) D	要求時ロードされたページ数。
(CTO8) D	スワップアウトされたページ数。
(CTO9) D	破棄されたページ数。
(CT10) D	回復されたアイドル・ページ数。
(CT11) D	アイドル・ページ数。
(CT12) D	再割り当てされたアイドル・ページ数。
(CT13) S	空き待ち行列内の要素の数。
(CT14) S	空き待ち行列内の時間要素の長さ (ミリ秒)。
(CT15) S	使用済み待ち行列内の要素の数。
(CT16) S	使用済み待ち行列内の時間要素の長さ (ミリ秒)。
<b>XIDTYP = '3' (HPFS386)</b>	
<b>XIDTYP = '4' (LAN サーバー)</b>	
レコード・タイプ 3 (HPFS386) および 4 (LAN サーバー) はすでにサポートされなくなった機能を表しています。	
<b>XIDTYP = '5' (仮想入出力)</b>	
<b>カウンター</b>	<b>説明</b>
(DTA1) S	仮想装置のタイプ: <ul style="list-style-type: none"> <li>• '1' = アダプター</li> <li>• '2' = ディスク</li> <li>• '3' = 光ディスク</li> <li>• '4' = テープ</li> </ul>
(DTA2) S	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 から 10 文字: 仮想装置名。注: テープおよび光ディスク装置の場合、これは装置資源名です。ディスク装置の場合は、ネットワーク・サーバー記憶域スペースの名前です。</li> <li>• 11 から 12 文字: 予約済み (ブランク)。</li> </ul>
(CTO1) D	読み取り操作
(CTO2) D	書き込み操作
(CTO3) D	その他の操作

<b>XIDTYP = '1' (予約済み)</b>	
<b>XIDTYP = '2' (OS/2 またはその他のオペレーティング・システム)</b>	
<b>カウンター</b>	<b>説明</b>
(CTO4) D	エラーになった操作
(CTO5) D	仮想装置から読み取られるキロバイト
(CTO6) D	仮想装置に書き出されるキロバイト
(CTO7) S	予約済み
(CTO8) S	予約済み
<b>XIDTYP = 'A'(入出力アダプター・データ)</b>	
(DTA1) S:	予約済み (ブランク)
(DTA2) S:	<ul style="list-style-type: none"> <li>文字 1 から 4: 入出力アダプター・タイプ</li> <li>文字 5 から 7: 入出力アダプター・モデル</li> <li>文字 8 から 12: 予約済み (ブランク)</li> </ul>
(CTO1) D:	アダプター時間: 1 次 IOP プロセッサで実行しているアダプター・タスクによる処理時間の合計。アダプター・タスクは、アダプターとそれに接続されたハードウェアをサポートします。一部の旧式の IOP (例: 6112) の場合、アダプター時間は報告されません。

### 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリとファイルの関係』  
収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

### 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンド  
パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成  
(CRTPFRDTA) コマンドを参照してください。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMJOBMI

これらのデータベース・ファイルの項目には、\*JOBMI カテゴリで収集されるタスク、1 次および 2 次  
スレッド・データが含まれます。『ジョブ』は、ジョブ、タスク、またはスレッドを暗黙指定していま  
す。

収集サービスが提供するものは、一定の間隔内で CPU を消費するジョブに関するデータのみです。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	ジョブ間隔項目およびジョブ完了日に関する間隔の日付 (yyymmdd) と、ジョブ完了項目に関する時間 (hhmmss)。	C (12)

フィールド名	説明	属性
INTSEC	経過した間隔 (秒単位)。	PD (7,0)
DTECEN	世紀桁。	C (1)
JBNAME	ジョブ名/ワークステーション名。	C (16)
JBUSER	ジョブのユーザー。	C (10)
JBNBR	ジョブ番号。	C (6)
JBTYPE	ジョブ・タイプ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• A: 自動開始</li> <li>• B: バッチ</li> <li>• I: 対話式</li> <li>• M: サブシステム・モニター</li> <li>• R: スプール読み取りプログラム</li> <li>• S: システム</li> <li>• V: SLIC タスク</li> <li>• W: スプール書き出しプログラム</li> <li>• X: SCPF ジョブ</li> </ul>	C (1)
JBSTYP	ジョブ・サブタイプ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• T:MRT (System/36™ 環境のみ)</li> <li>• E: Evoke (通信バッチ)</li> <li>• P: 印刷ドライバー・ジョブ</li> <li>• J: 事前開始ジョブ</li> <li>• F: M36 (アドバンスト/36 サーバー・ジョブ)</li> <li>• D: バッチ即時ジョブ</li> <li>• U: 代替スプール・ユーザー</li> </ul>	C (1)
JBSTSF	状況フラグ: この間隔に関連するジョブ状況を示します。値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 -- 通常の間隔のコレクション</li> <li>• 1 -- 間隔内で開始したジョブ</li> <li>• 2 -- 間隔内で終了したジョブ</li> <li>• 3 -- 開始し、終了したジョブ</li> </ul> <b>注:</b> 経路指定または転送されたジョブは、終了レコード (JBSTSF = 2) および新規ジョブ・レコード (JBSTSF = 1) になります。	PD (1,0)
JBTTYP	タスク・タイプ (01: 常駐タスク、02: 監視プログラム・タスク、03: MI プロセス・タスク、04: S36 エミュレーション・タスク)。	C (2)
JBTTYE	タスク・タイプ・エクステンダー。	C (2)
JBPOOL	ジョブ・プール。	C (2)
JBPRTY	ジョブ優先順位。	C (3)

フィールド名	説明	属性
JBCPU	スレッドが使用した処理装置時間 (ミリ秒単位)。	PD (15,3)
JBRSP	合計トランザクション時間 (秒単位)。	PD (15,3)
JBSLC	タイム・スライス値 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
JBNTR	トランザクションの数。	PD (11,0)
JBDBR	同期的なデータベースの読み取りの数: データベース機能での、同期的な物理データベースの読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
JBNDDB	同期的な非データベースの読み取りの数: 非データベース機能での、同期的な物理データベースの読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
JBWRT	書き出しの数: 物理データベースおよび非データベースの書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
JBAW	このジョブでの活動状態から待ち状態への変更の合計数。	PD (11,0)
JBWI	このジョブでの待ち状態から不適格状態への変更の合計数。	PD (11,0)
JBAI	このジョブでの活動状態から不適格状態への変更の合計数。	PD (11,0)
JBNDW	同期的な非データベースの書き出しの数: 非データベース機能での、同期的な物理非データベースの書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
JBDBW	同期的なデータベースの書き出しの数: データベース機能での、同期的な物理データベースの書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
JBANDW	非同期的な非データベースの書き出しの数: 非データベース機能での、非同期的な物理非データベースの書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
JBADBW	非同期的なデータベースの書き出しの数: データベース機能での、非同期的な物理データベースの書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
JBANDR	非同期的な非データベースの読み取り数: 非データベース機能での、非同期的な物理非データベースの読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
JBADBR	非同期的なデータベースの読み取りの数: データベース機能での、非同期的な物理データベースの読み取り操作の合計数。	PD (11,0)



フィールド名	説明	属性
JBPW	同期的な永続的書き出しの数。	PD (11,0)
JBPAGF	PAG 障害の数。プログラム・アクセス・グループ (PAG) が参照されたが主記憶装置になかった合計回数。ライセンス内部コードでは、データをキャッシュに入れるための処理アクセス・グループは使用しなくなりました。このインプリメンテーションのため、現行リリース以降ではこのフィールドは必ず 0 になります。	PD (11,0)
JBOBIN	2 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
JBODEC	10 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
JBOFLP	浮動小数点オーバーフローの数。	PD (11,0)
JBIPF	補助記憶域入出力操作に使われていたアドレスでページ不在が発生した回数。	PD (11,0)
JBWIO	未解決の非同期入出力操作の完了を明示的に待機した回数。	PD (11,0)
JBSZWT	占有待ち時間の合計 (ミリ秒)。	PD (15,3)
JBSKSC	ソケット送信の数。	PD (11,0)
JBSKBS	送信されたソケット・バイトの数。	PD (11,0)
JBSKRC	ソケット受信の数。	PD (11,0)
JBSKBR	受信されたソケット・バイトの数。	PD (11,0)
JBXRFR	ストリーム・ファイル読み取り。	PD (11,0)
JBXRFW	ストリーム・ファイル書き出し。	PD (11,0)
JBTCPU	合計ジョブ CPU 時間 (ミリ秒単位)。マルチスレッド・ジョブのすべてのスレッドによって使用された合計 CPU 時間。これらの値の収集と報告には時間のずれがあるため、これは、すべてのジョブ・スレッドの JBCPU の合計と等しくはならない可能性があります。	PD (15,3)
JBTHDF	2 次スレッド・フラグ。マルチスレッド・ジョブの 2 次スレッドを識別します。値は、タスクおよび 1 次スレッドの場合は 0、2 次スレッドの場合は 1 です。	PD (1,0)
JBTHID	スレッド ID。4 バイトの表示可能スレッド ID。プロセス内でのスレッドで固有の HEX ストリング。タスクおよび以前のリリースのデータの場合は空白です。	C (8)

フィールド名	説明	属性
JBTHAC	活動状態のスレッド。データのサンプリング時にプロセス内で活動状態になっていたスレッドの数 (その時点での)。活動状態スレッドは、その資源に対して活動状態で実行、中断、または待機のいずれかを行っていることが考えられます。1 次スレッドも含まれます。	PD (11,0)
JBTHCT	作成されたスレッド。このジョブで開始されたスレッドの数。活動状態のスレッドと終了されたスレッドの両方を含まれます。	PD (11,0)
JBMTXT	mutex 待ち時間 (ミリ秒単位)。スレッドが mutex を待っている累積時間。	PD (15,3)
JBIBM1	予約済み	PD (11,0)
JBINSX	予約済み	PD (11,0)
JBSVIF	サーバー対話式フラグ。機能によって消費される資源がシステムの対話型のフィーチャーに充てられている場合、1 に設定されます。	C (1)
JBTFLT	ページ不在の合計。	PD (11,0)
JBTDE	システム・タスク ID。	C (8)
JBPTDE	1 次スレッド ID。	C (8)
JBLDUM	予約済み	PD (1,0)
JBEDBC	データベース CPU 時間。単一のスレッドまたはタスクにおいてデータベース処理を実行するために使用される CPU 時間の総計 (ミリ秒単位)。このフィールドは、個々のタスクまたはスレッドごとに作成されます。マルチスレッド・ジョブの場合、値はスレッド間で合計されていません。	P (15,3)
JBTDBC	データベース CPU 時間の合計。マルチスレッド化されたジョブのすべてのスレッドでデータベース処理を実行するために使用される CPU 時間の総計 (ミリ秒単位)。 注: これは、ジョブ内のすべてのスレッドにおける JBEDBC の合計とは異なる場合があります。このフィールドは、1 次スレッドに対してのみ作成されます。	P (15,3)
JBCOP	タスクの下で実行された 1 次コミット操作の回数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
JBCOS	タスクの下で実行された 2 次コミット操作の回数。これには、アプリケーションおよびシステムによって提供された参照保全コミットも含まれます。	PD (11,0)
JBDOP	タスクの下で実行された 1 次コミット解除操作の回数。	PD (11,0)
JBDOS	タスクの下で実行された 2 次コミット解除操作の回数。これには、アプリケーションおよびシステムによって提供された参照保全コミット解除も含まれます。	PD (11,0)
JBPJE	タスクの下で実行されたディスクへの物理ジャーナル書き込み操作の回数。	PD (11,0)
JBNSJE	SMAPP に直接関連していないジャーナル項目の数。	PD (11,0)
JBUJD	ユーザー提供のジャーナルに保管された、SMAPP に起因するジャーナル項目の数。	PD (11,0)
JBSJD	システム提供 (デフォルト) のジャーナルに保管された、SMAPP に起因するジャーナル項目の数。	PD (11,0)
JBBFW	ディスクに書き込まれたジャーナル・バイトの数。これらの項目は、ジャーナル・レシーバーの永続域にパッケージされます。これらは、検索および表示が可能な従来のジャーナル項目です。	PD (15,0)
JBBFA	ジャーナル・レシーバーの永続域に保管されたバイト数。このカウントには、ディスクにすでに書き込まれたバイト数、およびメイン・メモリーにまだキャッシュされているバイト数が含まれます。これらは、検索および表示が可能な従来のジャーナル項目です。	PD (15,0)
JBBTW	ディスクに書き込まれた一時域ジャーナル・レシーバー・バイトの数。一時域には、ユーザーが CHGJRN コマンドで *RmvIntEnt を指定した場合のみ、システムによって作成され、IPL 時に使用され、この一時域に送られる隠れジャーナル項目が入っています。この一時域は、ディスク上の別個の区域であり、通常のジャーナル項目を保管するために使用されるディスク・スペースとは区別されています。	PD (15,0)

フィールド名	説明	属性
JBETA	ジャーナル・レシーバーの一時域用に生成されたバイト数。このカウントには、ディスクにすでに書き込まれた一時バイト数、およびメイン・メモリーにまだキャッシュされているバイト数が含まれます。一時域には、ユーザーが CHGJRN コマンドで *RmvIntEnt を指定した場合にのみ、システムによって作成され、IPL 時に使用され、この一時域に送られる隠れジャーナル項目が入っています。この一時域は、ディスク上の別個の区域であり、通常のジャーナル項目を保管するために使用されるディスク・スペースとは区別されています。	PD (15,0)
JBTWT	ジャーナル・バンドルがディスクに書き込まれるのをこのタスクが待機するのに費やした時間の長さ (ミリ秒)。これには、サービスを受けるタスクによって開始された物理ディスク書き込み操作の待機時間が含まれるほか、同じジャーナル・バンドルに常駐するジャーナル項目を持つ他のタスクによって開始された物理ディスク書き込み操作の待機時間が含まれます。	PD (11,0)
JBTNW	ジャーナル・バンドルがディスクに書き込まれるのをこのタスクが待機した回数。	PD (11,0)
JBXRRR	ランダム・ストリーム・ファイル読み取り操作の数。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (11,0)
JBXRRW	ランダム・ストリーム・ファイル書き込み操作の数。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
JBXRFS	fsync 操作の数。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (11,0)
JBXRBR	ストリーム・ファイルの読み取られたバイト数。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (15,0)
JBXRBW	ストリーム・ファイルの書き込まれたバイト数。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (15,0)
JBFSH	サーバー認証を使用するフル Secure Sockets Layer (SSL) ハンドシェイクの数。	PD (11,0)
JBASH	サーバー認証を使用する省略 (高速) Secure Sockets Layer (SSL) ハンドシェイクの数。	PD (11,0)
JBFSHA	サーバーおよびクライアントの認証を使用するフル Secure Sockets Layer (SSL) ハンドシェイクの数。	PD (11,0)
JBASHA	サーバーおよびクライアントの認証を使用する省略 (高速) Secure Sockets Layer (SSL) ハンドシェイクの数。	PD (11,0)
JBPGA	ジョブが開始してから、ジョブによって割り振られている一時、および永続記憶域のページの合計数。	P (11,0)
JBPGD	ジョブが開始してから、ジョブによって割り振り解除されている一時、および永続記憶域のページの合計数。	P (11,0)
JBCUSR	データがサンプルとされたときにジョブが実行していたユーザー・プロフィール。	C (10)

フィールド名	説明	属性
JBACPU	累計ジョブ CPU 時間 (ミリ秒単位)。ジョブの開始以降、マルチスレッド・ジョブのすべてのスレッドによって使用された累計 CPU 時間。注: このフィールドは、1 次スレッドに対してのみ作成されます。	PD (15,3)
JBIPAF	リモート IP アドレス・ファミリー・フラグは、フィールド JBIPAD で提供されている IP アドレス情報のタイプを示します。以下がサポートされています。(これらの値について詳しくは、<sys/socket.h> および JBIPAD の下で参照されている API を参照してください。)  <ul style="list-style-type: none"> <li>• Hex 00 = 未設定</li> <li>• Hex 02 = AF_INET ( IPv4)</li> <li>• Hex 18 = AF_INET6 (IPv6)</li> </ul> 注: 現行接続がない場合は、アドレスは使用可能ではありません。	C (1)
JBIPAD	ソケットを通じて最近に通信した、バイナリー形式の IPv4 または IPv6 リモート IP アドレス。ソケット接続が確立されていないか、または終了した場合は (JBIPAF = X'00')、このフィールドはブランクの可能性がります。IPv4 アドレスは 4 バイト長で、このフィールド内で左寄せです。IPv6 アドレスはすべて 16 バイトを使用します。例およびさらに詳しい説明に関しては、「Convert IPv4 and IPv6 Addresses Between Text and Binary Form (inet_pton) API」内の Usage Notes (使用上の注意) のセクションを参照してください。	C (16)
JBIPPT	この接続で使用された、リモート・ポート番号。	P (5,0)
JBUAUF	予約済み	C (1)
JBPGRQ	要求されたページ・フレーム。ページ不在、読み取り、またはクリア操作を満たすためにスレッドにより必要とされる新規ページ・フレームの数。	B (9,0)
JBPGRL	解放されたページ・フレーム。スレッドにより明示的に解放されたページ・フレームの数。	B (9,0)

フィールド名	説明	属性
JBMSLR	ファイル・システム・シンボリック・リンク読み取り。このカウントの中には、以下のファイル・システムが含まれます。ルート・ファイル・システム (l)、QOpenSys ファイル・システム、およびユーザー定義ファイル・システム。	B (9,0)
JBMDYR	ファイル・システム・ディレクトリー読み取り。このカウントの中には、以下のファイル・システムが含まれます。ルート・ファイル・システム (l)、QOpenSys ファイル・システム、およびユーザー定義ファイル・システム。	B (9,0)
JBMLCH	ファイル・システム・ディレクトリー検索キャッシュ・ヒット。このカウントの中には、以下のファイル・システムが含まれます。ルート・ファイル・システム (l)、QOpenSys ファイル・システム、およびユーザー定義ファイル・システム。	B (9,0)
JBMLCM	ファイル・システム検索キャッシュ脱落。このカウントの中には、以下のファイル・システムが含まれます。ルート・ファイル・システム (l)、QOpenSys ファイル・システム、およびユーザー定義ファイル・システム。	B (9,0)
JBMOPN	ファイル・システムのオープン。このカウントの中には、以下のファイル・システムが含まれます。ルート・ファイル・システム (l)、QOpenSys ファイル・システム、およびユーザー定義ファイル・システム。	B (9,0)
JBMNDC	ファイル・システムのディレクトリー以外の作成。ファイルやシンボリック・リンクなど、非ディレクトリー・オブジェクトの作成操作のカウントです。このカウントの中には、以下のファイル・システムが含まれます。ルート・ファイル・システム (l)、QOpenSys ファイル・システム、およびユーザー定義ファイル・システム。	B (9,0)

フィールド名	説明	属性
JBMNDD	ファイル・システムのディレクトリー以外の削除。ファイルやシンボリック・リンクなど、非ディレクトリー・オブジェクトの削除操作のカウントです。このカウントの中には、以下のファイル・システムが含まれます。ルート・ファイル・システム (/)、QOpenSys ファイル・システム、およびユーザー定義ファイル・システム。	B (9,0)
JBSCPU	スレッドにより使用された見積もり CPU 時間 (マイクロ秒単位)。JBSCPU 対 JBCPU の比率は、通常のプロセッサ速度と比較した現行のプロセッサ速度を示します。	B (18,0)
JBTCPU	ジョブにより使用された合計見積もり CPU 時間 (マイクロ秒単位)。マルチスレッド・ジョブのすべてのスレッドによって使用された合計見積もり CPU 時間。これらの値の収集と報告には時間のずれがあるため、これは、すべてのジョブ・スレッドの JBSCPU の合計と等しくはならない可能性があります。JBSTCPU 対 JBTCPU の比率は、通常のプロセッサ速度と比較した現行のプロセッサ速度を示します。	B (18,0)
JBFLDR1	予約済み	B (18,0)
JBFLDR2	予約済み	B (18,0)
JBFLDR3	予約済み	B (9,0)
JBFLDR4	予約済み	B (9,0)
JBVMF	開始した JVM。このプロセスが JVM を開始しているかどうかを示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ‘ ’ = 不明/未定義</li> <li>• ‘0’ = No</li> <li>• ‘1’ = Yes</li> <li>• ‘2’ = JVM はサンプリングの時点で活動状態でした。</li> </ul> <b>注:</b> 注: このフィールドは、1 次スレッドに対してのみ作成されます。	C (1)



フィールド名	説明	属性
JBVMVT	<p>JVM タイプ。JBVMVF が x'00'以外のものに設定されている場合は、開始された JVM のタイプを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>x'00' = 不明/未定義</li> <li>x'01' = IBM Technology for Java - 32 ビット</li> <li>x'02' = IBM Technology for Java - 64 ビット</li> <li>x'99' = Classic JVM</li> </ul> <p>注: 注: このフィールドは、1 次スレッドに対してのみ作成されます。</p>	H (1)
JBPASE	<p>i5/OS PASE ランタイム - i5/OS PASE ランタイムが、このデータのサンプリング時にスレッド内で活動状態であったかどうかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>' ' = 不明/未定義</li> <li>'0' = No</li> <li>'1' = Yes</li> </ul>	C (1)
JBTHDT	<p>JVM スレッド・タイプ。活動状態の JVM があるプロセス内の 2 次スレッドの場合、このフィールドはスレッドのタイプまたは機能を識別するために使用できます。定義されている以外の値は予約済みです。</p> <p>IBM Technology for Java VM がサポートする値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>x'00' = スレッドは未割り当て</li> <li>x'1E' - x'3B' = GC スレッド</li> <li>x'3C' - x'59' = 完了スレッド</li> <li>x'5A' - x'77' = JIT スレッド</li> <li>x'78' - x'95' = JVM 内部スレッド</li> </ul>	H (1)

### 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリーとファイルの関係』  
収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL) オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

238 ページの『収集サービス・データ・ファイル: Task type extender』  
タスク・タイプ・エクステンダーは、タスクによって提供される機能的なサポートの区域を識別します。

### 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFDRDTA) コマンド

パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成 (CRTPFDRDTA) コマンドを参照してください。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMJOBOS

これらのデータベース・ファイル項目には、システム・ジョブに固有なデータが含まれています。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFDRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	ジョブ間隔項目およびジョブ完了日に関する間隔の日付 (yymmdd) と、ジョブ完了項目に関する時間 (hhmmss)。	C (12)
INTSEC	経過した間隔 (秒単位)。	PD (7,0)
DTCEN	世紀桁。	C (1)
JBNAME	ジョブ名/ワークステーション名。	C (10)
JBUSER	ジョブのユーザー。	C (10)
JBNBR	ジョブ番号。	C (6)
JBTYPE	ジョブ・タイプ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• A: 自動開始</li> <li>• B: バッチ</li> <li>• I: 対話式</li> <li>• M: サブシステム・モニター</li> <li>• R: スプール読み取りプログラム</li> <li>• S: システム</li> <li>• V: SLIC タスク</li> <li>• W: スプール書き出しプログラム</li> <li>• X: SCPF ジョブ</li> </ul>	C (1)
JBSTYP	ジョブ・サブタイプ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• T:MRT (System/36 環境のみ)</li> <li>• E: Evoke (通信バッチ)</li> <li>• P: 印刷ドライバー・ジョブ</li> <li>• J: 事前開始ジョブ</li> <li>• F: M36 (アドバンスド/36 サーバー・ジョブ)</li> <li>• D: バッチ即時ジョブ</li> <li>• U: 代替スプール・ユーザー</li> </ul>	C (1)

フィールド名	説明	属性
JBSTSF	<p>状況フラグ: この間隔に関連するジョブ状況を示します。値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 -- 通常の間隔のコレクション</li> <li>• 1 -- 間隔内で開始したジョブ</li> <li>• 2 -- 間隔内で終了したジョブ</li> <li>• 3 -- 開始し、終了したジョブ</li> </ul> <p>注: 経路指定または転送されたジョブは、終了レコード (JBSTSF = 2) および新規ジョブ・レコード (JBSTSF = 1) になります。</p>	PD (1,0)
JBSSYS	ジョブが実行されているサブシステムの名前。	C (10)
JBSLIB	サブシステム記述が含まれているライブラリーの名前。	C (10)
JBROUT	このジョブが実行されるサブシステムの経路指定項目の索引。	PD (5,0)
JBACCO	ジョブ・アカウント・コード。フィールドは表示できません。	C (15)
JBRSP	<p>合計トランザクション時間 (秒単位)。</p> <p>注: いくつかの i5/OS 機能がトランザクションの概念をサポートしています。トランザクションの定義およびトランザクションの特性は、ジョブのタイプまたはジョブの特定の機能によって異なります。対話式ジョブの場合、表示入出力トランザクションも含まれます。トランザクションは、ワークステーションからの入力を検出した時点で開始され、キーボードがアンロックされた時点で終了します。SNADS ジョブの場合、トランザクションは配布の処理です。</p>	PD (15,3)
JBNTR	<p>トランザクションの数。</p> <p>注: いくつかの i5/OS 機能がトランザクションの概念をサポートしています。トランザクションの定義およびトランザクションの特性は、ジョブのタイプまたはジョブの特定の機能によって異なります。対話式ジョブの場合、表示入出力トランザクションも含まれます。トランザクションは、ワークステーションからの入力を検出した時点で開始され、キーボードがアンロックされた時点で終了します。SNADS ジョブの場合、トランザクションは配布の処理です。</p>	PD (11,0)
JBAIQT	アプリケーション入力のキューイング時間の合計 (100分の1秒単位)。	PD (15,1)
JBNAIQ	アプリケーション入力のキューイング・トランザクションの数。	PD (11,0)
JBRUT	資源使用時間の合計 (秒単位)。	PD (15,3)
JBNRU	資源使用トランザクションの数。	PD (11,0)
JBPLN	印刷行の数: プログラムによって書き出された行の数。実際に印刷される行数とは異なります。スプール・ファイルでは、最終的に複数のコピーが作成または印刷される場合があります。	PD (11,0)
JBPPG	印刷ページの数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
JBPFL	印刷ファイルの数。	PD (11,0)
JBLWT	データベース書き出しの数 (論理): 内部データベース書き出し機能が呼び出された回数。これには、読み取りプログラム/書き出しプログラムへの入出力操作や、CPYSPLF または DSPSPLF コマンドによる入出力操作は含まれていません。 SEQONLY(*YES) が指定されている場合、これらの数は、書き出された個々のレコードの数ではなく、書き出されたレコードの各ブロックを示しています。	PD (11,0)
JBLRD	データベース読み取りの数 (論理): データベース・モジュールが呼び出された回数。これには、読み取りプログラム/書き出しプログラムへの入出力操作や、CPYSPLF または DSPSPLF コマンドによる入出力操作は含まれていません。 SEQONLY(*YES) が指定されている場合、これらの数は、読み取られた個々のレコードの数ではなく、読み取られたレコードの各ブロックを示しています。	PD (11,0)
JBDBU	さまざまなデータベース操作の数: 更新、削除、データの強制終了、コミット、ロールバック、および解放 (論理)。	PD (11,0)
JBCPT	通信書き出しの数: これには、リモート・ワークステーションの活動は含まれません。入出力がシステム間通信機能 (ICF) 装置に対するものである場合、システム間通信機能 (ICF) ファイルに関連した活動のみがこれに含まれます。	PD (11,0)
JBCGT	通信読み取りの数 (論理): これには、リモート・ワークステーションの活動は含まれません。入出力がシステム間通信機能 (ICF) 装置に対するものである場合、システム間通信機能 (ICF) ファイルに関連した活動のみがこれに含まれます。	PD (11,0)
JBSPD	合計の中断時間 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
JBRRT	再経路指定中にジョブが待機した合計時間 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
JBLND	回線記述: このワークステーションとその制御装置が接続されている通信回線の名前。これはリモート・ワークステーションの場合にのみ使用可能です。	C (10)
JBCUD	制御装置記述: このワークステーションが接続されている制御装置の名前。	C (10)
JB2LND	2 次回線記述 (パススルーおよびエミュレーションのみ)。	C (10)
JB2CUD	2 次制御装置記述 (パススルーおよびエミュレーションのみ)。	C (10)
JBIRN	IOP 資源名。	C (10)
JBDRN	装置の資源名。	C (10)
JBPORT	ワークステーションのポート番号。	PD (3,0)
JBSTN	ワークステーション番号。	PD (3,0)

フィールド名	説明	属性
JBPTSF	パススルー・ソース・フラグ。	PD (1,0)
JBPTTF	パススルー・ターゲット・フラグ。	PD (1,0)
JBEAF	エミュレーション活動状態フラグ。	PD (1,0)
JBPCSF	System i Access アプリケーション・フラグ。	PD (1,0)
JBDDMF	ターゲット DDM ジョブ・フラグ。	PD (1,0)
JBMRTF	MRT フラグ。	PD (1,0)
JBS36E	ジョブが System/36 環境で実行されているか?(Y/N)	C (1)
JBQT	MRT を入力するためのキューイング時間の合計 (100 分の 1 秒単位)。	PD (11,0)
JBMMT	MRTMAX で経過した合計時間 (秒単位)。	PD (11,0)
JBNEQT	MRT への項目の合計数。	PD (11,0)
JBPUTN	ユーザーまたは制御データを送信するために、ACPUT が呼び出された回数。データが送信されない呼び出しは含まれません。	PD (11,0)
JBPUTA	ユーザーのプログラムによって送信されたユーザーおよび制御データの量の合計。この値には、LLID、MAPNAME、または FMH-7 データ長は含まれません。	PD (11,0)
JBGETN	ユーザーまたは制御データを受信するために、ACGET が呼び出された回数。ユーザー・アプリケーションにデータを提供しない呼び出しは含まれません。	PD (11,0)
JBGETA	ユーザーのプログラムによって受信されたユーザーおよび制御データの量の合計。この値には、LLID、MAPNAME、または FMH-7 データ長は含まれません。	PD (11,0)
JBPGIN	連鎖の最初の書き込みで始まり、CD がユーザーに戻された時点で終わる間隔の数。	PD (11,0)
JBPGIL	連鎖の最初の書き込みで始まり、CD がユーザーに戻された時点で終わる間隔で経過した時間 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
JBGGIL	取得連鎖の最初の取得が完了した時点で始まり、新しい連鎖の最初の取得が発行された時点で終わる間隔で経過した時間 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
JBRTI	これは、何らかのデータ (FMH-7 を含む) を送信するために発行された要求入出力コマンドの数です。	PD (11,0)
JBRI	これは、何らかのデータ (FMH-7 を含む) を受信するために発行された REQIO の数です。	PD (11,0)
JBXSLR	ファイル・システム・シンボリック・リンク読み取り。このカウントの中には、以下のファイル・システムが含まれます。ルート・ファイル・システム、QOpenSys ファイル・システム、およびユーザー定義ファイル・システム。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
JBXDYR	ファイル・システム・ディレクトリー読み取り。このカウントの中には、以下のファイル・システムが含まれます。ルート・ファイル・システム、QOpenSys ファイル・システム、およびユーザー定義ファイル・システム。	PD (11,0)
JBDLCH	ファイル・システム・ディレクトリー検索キャッシュ・ヒット。	PD (11,0)
JBDLCM	ファイル・システム検索キャッシュ脱落。このカウントの中には、以下のファイル・システムが含まれます。ルート・ファイル・システム、QOpenSys ファイル・システム、およびユーザー定義ファイル・システム。	PD (11,0)
JBSJNM	実行依頼者のジョブ名。	C (10)
JBSJUS	実行依頼者のジョブのユーザー。	C (10)
JBSJNB	実行依頼者のジョブ番号。	C (6)
JBSJFG	発行されたジョブ・フラグ。このフラグは、ローカルで発行されたジョブを、リモート・システムから発行されたジョブと区別するために設計されています。現時点でこのフラグがサポートしているのは、ローカルで発行されたジョブのみです。	C (1)
JBRSYS	予約済み	C (10)
JBDEVN	予約済み	C (10)
JBRLNM	予約済み	C (8)
JBLLNM	予約済み	C (8)
JBMODE	予約済み	C (8)
JBRMNT	予約済み	C (8)
JBBUP	予約済み	PD (11,0)
JBBDL	予約済み	PD (11,0)
JBBFE	予約済み	PD (11,0)
JBBCO	データベースのコミット操作。	PD (11,0)
JBBRO	データベースのロールバック操作。	PD (11,0)
JBLBO	完全にオープンされた SQL カーソルの累積数。	PD (11,0)
JBLBC	予約済み	PD (11,0)
JBLBI	予約済み	PD (11,0)
JLBBS	疑似オープンされた SQL カーソルの累積数。疑似オープンは、再利用された SQL カーソルとも呼ばれます。	PD (11,0)
JBDQS	予約済み	PD (11,0)
JBDQR	予約済み	PD (11,0)
JBNDA	予約済み	PD (11,0)
JBNUS	予約済み	PD (11,0)
JBSIT1	予約済み	PD (11,0)
JBSIT2	予約済み	PD (11,0)
JBSIT3	予約済み	PD (11,0)
JBGRUP	ジョブ・グループ。	C (3)

フィールド名	説明	属性
JBTDE	システム・タスク ID。このフィールドは表示できません。	C (8)
JBFLAG	ジョブ・フラグ (注を参照)。フィールドは表示できません。	C (2)
JBSVRT	サーバー・タイプ。ジョブによって表されているサーバーのタイプ。値がブランク (またはブランク・スペース) である場合そのジョブはサーバーの一部ではないことを示しています。  サーバー・タイプについて、詳しくは サーバー・ジョブ および サーバー表を参照してください。	C (30)
JBFSOPN	ファイル・システムのオープン。このカウントの中には、以下のファイル・システムが含まれます。ルート・ファイル・システム、QOpenSys ファイル・システム、およびユーザー定義ファイル・システム。	PD (11,0)
JBFSDC	ファイル・システム・ディレクトリーの作成。このカウントの中には、以下のファイル・システムが含まれます。ルート・ファイル・システム、QOpenSys ファイル・システム、およびユーザー定義ファイル・システム。	PD (11,0)
JBFSNDC	ファイル・システムのディレクトリー以外の作成。ファイルやシンボリック・リンクなど、非ディレクトリー・オブジェクトの作成操作のカウントです。このカウントの中には、以下のファイル・システムが含まれます。ルート・ファイル・システム、QOpenSys ファイル・システム、およびユーザー定義ファイル・システム。	PD (11,0)
JBFSDD	ファイル・システム・ディレクトリーの削除。このカウントの中には、以下のファイル・システムが含まれます。ルート・ファイル・システム、QOpenSys ファイル・システム、およびユーザー定義ファイル・システム。	PD (11,0)
JBFSNDD	ファイル・システムのディレクトリー以外の削除。ファイルやシンボリック・リンクなど、非ディレクトリー・オブジェクトの削除操作のカウントです。このカウントの中には、以下のファイル・システムが含まれます。ルート・ファイル・システム、QOpenSys ファイル・システム、およびユーザー定義ファイル・システム。	PD (11,0)

注:

表 1. ジョブ・フラグ:

ビット
0 パススルー・サービス
1 パススルー・ターゲット
2 エミュレーション活動状態
3 System i Access アプリケーション
4 ターゲット DDM ジョブ

表 1. ジョブ・フラグ: (続き)

5 MRT
6-15 未使用

### 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリとファイルの関係』  
収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

### 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンド  
パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成  
(CRTPFRDTA) コマンドを参照してください。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMJOBS および QAPMJOBL

QAPMJOBL ファイルはパフォーマンス・モニターとの互換性を持たせるために用意されており、  
QAPMJOBMI ファイルと QAPMJOBOS ファイルの間でデータを結合させます。

QAPMJOBS ファイルは、パフォーマンス・データの変換 (CVTPFRDTA) コマンドを使用して、パフォー  
マンス・モニター・データベース・ファイルを新しいリリースにマイグレーションする際に作成されます。  
収集サービスでは QAPMJOBS ファイルは作成されません。

データベース・ファイルには、各ジョブ、タスク、またはスレッドごとのデータ (ジョブ、タスク、または  
スレッドごとに 1 つのレコード) が含まれています。収集サービスが提供するものは、一定の間隔内で CPU  
を消費するジョブに関するデータのみです。『ジョブ』は、ジョブ、タスク、またはスレッドを意味しま  
す。このファイル内のデータは、\*JOBMI および \*JOBOS カテゴリからのものです。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの 作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定 された開始時刻に基づく n 番目のサ ンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	ジョブ間隔項目およびジョブ完了日に 関する間隔の日付 (yymmdd) と、ジ ョブ完了項目に関する時間 (hhmmss)。	C (12)
INTSEC	経過した間隔 (秒単位)。	PD (7,0)
JBSSYS	ジョブが実行されているサブシステム の名前。	C (10)
JBSLIB	サブシステム記述が含まれているライ ブラリーの名前。	C (10)
JBNAME	ジョブ名/ワークステーション名。	C (16)
JBUSER	ジョブのユーザー。	C (10)
JBNBR	ジョブ番号。	C (6)
JBACCO	ジョブ・アカウント・コード。 フィールドは表示できません。	C (15)



フィールド名	説明	属性
JBTYPE	ジョブ・タイプ (A: 自動開始、 B: バッチ、 I: 対話式、 M: サブシステム・モニター、 R: スプール読み取りプログラム、 S: システム、 V: SLIC タスク、 W: スプール書き出しプログラム、 X: SCPF ジョブ)。	C (1)
JBSTYP	ジョブ・サブタイプ。(T:MRT (System/36 環境のみ)、 E: 呼び出し (通信バッチ)、 P: 印刷ドライバー・ジョブ、 J: 事前開始ジョブ、 F: M36 (アドバンスト/36 サーバー・ジョブ)、 D: バッチ即時ジョブ、 U: 代替スプール・ユーザー)	C (1)
JBTTYP	タスク・タイプ。(01: 常駐タスク、 02: 監視プログラム・タスク、 03: MI プロセス・タスク、 04: S36 エミュレーション・タスク)	C (2)
JBTTYE	タスク・タイプ・エクステンダー。タスク・タイプ・エクステンダーの詳細については、『タスク・タイプ・エクステンダー』での定義を参照してください。(注 1 (105 ページ) を参照してください。)	C (2)
JBFLAG	ジョブ・フラグ。(ビット 0: パススルー・ソース、 1: パススルー・ターゲット、 2: エミュレーション活動状態、 3: System i Access アプリケーション、 4: ターゲット DDM ジョブ、 5: MRT、 6-15: 使用されない) フィールドは表示できません。	C (2)
JBS36E	ジョブが System/36 環境で実行されているか? (Y/N)	C (1)
JBPOOL	ジョブ・プール。	C (2)
JBPRTY	ジョブ優先順位。	C (3)
JBCPU	使用された処理装置時間 (ミリ秒単位)。(注 2 (105 ページ) を参照してください。)	PD (15,3)

フィールド名	説明	属性
JBRSP	合計トランザクション時間 (秒単位)。いくつかの i5/OS 機能がトランザクションの概念をサポートしています。トランザクションの定義およびトランザクションの特性は、ジョブのタイプまたはジョブの特定の機能によって異なります。対話式ジョブの場合、表示入出力トランザクションも含まれます。トランザクションは、ワークステーションからの入力を検出した時点で開始され、キーボードがアンロックされた時点で終了します。SNADS ジョブの場合、トランザクションは配布の処理です。	PD (15,3)
JBSLC	タイム・スライス値 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
JBNTR	トランザクションの数。いくつかの i5/OS 機能がトランザクションの概念をサポートしています。トランザクションの定義およびトランザクションの特性は、ジョブのタイプまたはジョブの特定の機能によって異なります。対話式ジョブの場合、表示入出力トランザクションも含まれます。トランザクションは、ワークステーションからの入力を検出した時点で開始され、キーボードがアンロックされた時点で終了します。SNADS ジョブの場合、トランザクションは配布の処理です。	PD (11,0)
JBDBR	同期的なデータベースの読み取りの数: データベース機能での、同期的な物理データベースの読み取り操作の合計数。(注 2(105 ページ)を参照してください。)	PD (11,0)
JBNDDB	同期的な非データベースの読み取りの数: 非データベース機能での、同期的な物理データベースの読み取り操作の合計数。(注 2(105 ページ)を参照してください。)	PD (11,0)
JBWRT	書き出しの数: 物理データベースおよび非データベースの書き出し操作の合計数。(注 2(105 ページ)を参照してください。)	PD (11,0)
JBAW	このジョブでの活動状態から待ち状態への変更の合計数。(注 2(105 ページ)を参照してください。)	PD (11,0)
JBWI	このジョブでの待ち状態から不適格状態への変更の合計数。(注 2(105 ページ)を参照してください。)	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
JBAI	このジョブでの活動状態から不適格状態への変更の合計数。(注 2 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBPLN	印刷行の数: プログラムによって書き出された行の数。実際に印刷される行数とは異なります。スプール・ファイルでは、最終的に複数のコピーが作成または印刷される場合があります。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBPPG	印刷ページの数。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBPFL	印刷ファイルの数。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBLWT	データベース書き出しの数 (論理): 内部データベース書き出し機能が呼び出された回数。これには、読み取りプログラム/書き出しプログラムへの入出力操作や、CPYSPLF または DSPSPLF コマンドによる入出力操作は含まれていません。 SEQONLY(*YES) が指定されている場合、これらの数は、書き出された個々のレコードの数ではなく、書き出されたレコードの各ブロックを示しています。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBLRD	データベース読み取りの数 (論理): データベース・モジュールが呼び出された回数。これには、読み取りプログラム/書き出しプログラムへの入出力操作や、CPYSPLF または DSPSPLF コマンドによる入出力操作は含まれていません。SEQONLY(*YES) が指定されている場合、これらの数は、読み取られた個々のレコードの数ではなく、読み取られたレコードの各ブロックを示しています。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBDBU	さまざまなデータベース操作の数: 更新、削除、データの強制終了、コミット、ロールバック、および解放 (論理)。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
JBCPT	通信書き出しの数: これには、リモート・ワークステーションの活動は含まれません。入出力が ICF デバイスに対するものである場合、システム間通信機能 (ICF) ファイルに関連して行われた活動のみがこれに含まれます。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBCGT	通信読み取りの数 (論理): これには、リモート・ワークステーションの活動は含まれません。入出力が ICF デバイスに対するものである場合、システム間通信機能 (ICF) ファイルに関連して行われた活動のみがこれに含まれます。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBSPD	合計の中断時間 (ミリ秒単位)。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBRRT	再経路指定中にジョブが待機した合計時間 (ミリ秒単位)。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBLND	回線記述: このワークステーションとその制御装置が接続されている通信回線の名前。これはリモート・ワークステーションの場合にのみ使用可能です。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	C (10)
JBCUD	制御装置記述: このワークステーションが接続されている制御装置の名前。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	C (10)
JB2LND	2 次回線記述 (パススルーおよびエミュレーションのみ)。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	C (10)
JB2CUD	2 次制御装置記述 (パススルーおよびエミュレーションのみ)。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	C (10)
JBBRG	予約済み	PD (9,0)
JBPRG	予約済み	PD (9,0)
JBNDW	同期的な非データベースの書き出しの数: 非データベース機能での、同期的な物理非データベースの書き出し操作の合計数。(注 2 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
JBDBW	同期的なデータベースの書き出しの数：データベース機能での、同期的な物理データベースの書き出し操作の合計数。(注 2 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBANDW	非同期的な非データベースの書き出しの数: 非データベース機能での、非同期的な物理非データベースの書き出し操作の合計数。(注 2 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBADBW	非同期的なデータベースの書き出しの数: データベース機能での、非同期的な物理データベースの書き出し操作の合計数。(注 2 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBANDR	非同期的な非データベースの読み取り数: 非データベース機能での、非同期的な物理非データベースの読み取り操作の合計数。(注 2 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBADBR	非同期的なデータベースの読み取りの数: データベース機能での、非同期的な物理データベースの読み取り操作の合計数。(注 2 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBPW	同期的な永続的書き出しの数。(注 2 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBCS	予約済み	PD (11,0)
JBPAGF	PAG 障害の数。プログラム・アクセス・グループ (PAG) が参照されたが主記憶装置になかった合計回数。ライセンス内部コードでは、データをキャッシュに入れるための処理アクセス・グループは使用しなくなりました。このインプリメンテーションのため、現行リリース以降ではこのフィールドは必ず 0 になります。(注 2 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBEAO	予約済み	PD (11,0)
JBOBIN	2 進数オーバーフローの数。(注 2 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBODEC	10 進数オーバーフローの数。(注 2 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBOFLP	浮動小数点オーバーフローの数。(注 2 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
JBIPF	補助記憶域入出力操作に使われていたアドレスでページ不在が発生した回数。(注 2 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBWIO	未解決の非同期入出力操作の完了を明示的に待機した回数。(注 2 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBIRN	IOP 資源名。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	C (10)
JBDRN	装置の資源名。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	C (10)
JIOPB	予約済み	PD (3,0)
JIOPA	予約済み	PD (3,0)
JBPORT	ワークステーションのポート番号。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	PD (3,0)
JBSTN	ワークステーション番号。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	PD (3,0)
JBPTSF	パススルー・ソース・フラグ。	PD (1,0)
JBPTTF	パススルー・ターゲット・フラグ。	PD (1,0)
JBEAF	エミュレーション活動状態フラグ。	PD (1,0)
JBPCSF	System i Access アプリケーション・フラグ。	PD (1,0)
JBDDMF	ターゲット DDM ジョブ・フラグ。	PD (1,0)
JBMRTF	MRT フラグ。	PD (1,0)
JBROUT	このジョブが実行されるサブシステムの経路指定項目の索引。	PD (5,0)
JBAPT	予約済み	PD (11,0)
JBNSW	予約済み	PD (11,0)
JBSST	予約済み	PD (11,0)
JBQT2	予約済み	PD (11,0)
JBCDR	予約済み	PD (11,0)
JBCDS	予約済み	PD (11,0)
JBAIQT	アプリケーション入力のキューイング時間の合計 (100 分の 1 秒単位)。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	PD (15,1)
JBNAIQ	アプリケーション入力のキューイング・トランザクションの数。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBRUT	資源使用時間の合計 (秒単位)。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	PD (15,3)
JBNRU	資源使用トランザクションの数。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
JBQT	MRT を入力するためのキューイング時間の合計 (100 分の 1 秒単位)。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBMMT	MRTMAX で経過した合計時間 (秒単位)。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBNEQT	MRT への項目の合計数。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBPUTN	ユーザーまたは制御データを送信するために、ACPUT が呼び出された回数。データが送信されない呼び出しは含まれません。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBPUTA	ユーザーのプログラムによって送信されたユーザーおよび制御データの量の合計。この値には、LLID、MAPNAME、または FMH-7 データ長は含まれません。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBGETN	ユーザーまたは制御データを受信するために、ACGET が呼び出された回数。ユーザー・アプリケーションにデータを提供しない呼び出しは含まれません。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBGETA	ユーザーのプログラムによって受信されたユーザーおよび制御データの量の合計。この値には、LLID、MAPNAME、または FMH-7 データ長は含まれません。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBPGIN	連鎖の最初の書き込みで始まり、CD がユーザーに戻された時点で終わる間隔の数。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBPGIL	連鎖の最初の書き込みで始まり、CD がユーザーに戻された時点で終わる間隔で経過した時間 (ミリ秒単位)。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBGGIL	取得連鎖の最初の取得が完了した時点で始まり、新しい連鎖の最初の取得が発行された時点で終わる間隔で経過した時間 (ミリ秒単位)。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
JBRTI	これは、何らかのデータ (FMH-7 を含む) を送信するために発行された要求入出力コマンドの数です。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBRR1	これは、何らかのデータ (FMH-7 を含む) を受信するために発行された REQIO の数です。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBSZWT	占有待ち時間の合計 (ミリ秒)。(注 2 (105 ページ) を参照してください。)	PD (15,3)
JBSKSC	ソケット送信の数。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBSKBS	送信されたソケット・バイトの数。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBSKRC	ソケット受信の数。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBSKBR	受信されたソケット・バイトの数。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBXRFR	ストリーム・ファイル読み取り。(注 2 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBXRFW	ストリーム・ファイル書き出し。(注 2 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBXSLR	ファイル・システム・シンボリック・リンク読み取り。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBXDYR	ファイル・システム・ディレクトリー読み取り。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBDLCH	ファイル・システム・ディレクトリー検索キャッシュ・ヒット。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBDLCM	ファイル・システム検索キャッシュ脱落。	PD (11,0)
JBSJNM	実行依頼者のジョブ名。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	C (10)
JBSJUS	実行依頼者のジョブのユーザー。ファイル・システム・ディレクトリー検索キャッシュ・ヒット。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	C (10)
JBSJNB	実行依頼者のジョブ番号。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	C (6)



フィールド名	説明	属性
JBSJFG	発行されたジョブ・フラグ。このフラグは、ローカルで発行されたジョブを、リモート・システムから発行されたジョブと区別するために設計されています。現時点でこのフラグがサポートしているのは、ローカルで発行されたジョブのみです。(注 3(105 ページ)を参照してください。)	C (1)
JBRSYS	予約済み	C (10)
JBDEVN	予約済み	C (10)
JBRLNM	予約済み	C (8)
JBLLNM	予約済み	C (8)
JBMODE	予約済み	C (8)
JBRMNT	予約済み	C (8)
JBINSX	予約済み	PD (11,0)
JBBUP	予約済み	PD (11,0)
JBBDL	予約済み	PD (11,0)
JBBFE	予約済み	PD (11,0)
JBBCO	予約済み	PD (11,0)
JBBRO	予約済み	PD (11,0)
JBLBO	予約済み	PD (11,0)
JLBC	予約済み	PD (11,0)
JLBI	予約済み	PD (11,0)
JLBS	予約済み	PD (11,0)
JBDQS	予約済み	PD (11,0)
JBDQR	予約済み	PD (11,0)
JBNDA	予約済み	PD (11,0)
JBNUS	予約済み	PD (11,0)
JBSIT1	予約済み	PD (11,0)
JBSIT2	予約済み	PD (11,0)
JBSIT3	予約済み	PD (11,0)
JBTCPU	合計ジョブ CPU (ミリ秒単位)。マルチスレッド・ジョブのすべてのスレッドによって使用された合計 CPU。 注: これらの値の収集と報告には時間のずれがあるため、これは、すべてのジョブ・スレッドでの JBCPU の合計ではありません。(注 3(105 ページ)を参照してください。)	PD (15,3)
JBTHDF	2 次スレッド・フラグ。マルチスレッド・ジョブの 2 次スレッドを識別します。値は、タスクおよび 1 次スレッドの場合は 0、2 次スレッドの場合は 1 です。	PD (1,0)

フィールド名	説明	属性
JBTHID	スレッド ID。 4 バイトの表示可能スレッド ID。プロセス内でのスレッドで固有の HEX ストリング。タスクおよび以前のリリースのデータの場合は空白です。	C (8)
JBTHAC	活動状態のスレッド。データのサンプリング時にプロセス内で活動状態になっていたスレッドの数 (その時点での)。活動状態スレッドは、その資源に対して活動状態で実行、中断、または待機のいずれかを行っていることが考えられます。 1 次スレッドも含まれます。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBTHCT	作成されたスレッド。このジョブで開始されたスレッドの数。活動状態のスレッドと終了されたスレッドの両方を含みます。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	PD (11,0)
JBMTXT	mutex 待ち時間 (ミリ秒単位)。スレッドが mutex を待っている累積時間。(注 2 (105 ページ) を参照してください。)	PD (15,3)
JBIBM1	予約済み	PD (11,0)
JBSTSF	状況フラグ: この間隔に関連するジョブ状況を示します。値は 0 (通常の間隔コレクション)、1 (間隔で開始されたジョブ)、2 (間隔で終了したジョブ)、3 (開始および終了されたジョブ) です。経路指定または転送されたジョブは、終了レコード (JBSTSF = 2) および新規ジョブ・レコード (JBSTSF = 1) になります。	PD (1,0)
JBSVIF	サーバー対話式フラグ。機能によって消費される資源がシステムの対話型のフィーチャーに充てられている場合、1 に設定されます。	C (1)
JBTFLT	ページ不在の合計。	PD (11,0)
JBEDBC	データベース CPU 時間。単一のスレッドまたはタスクにおいてデータベース処理を実行するために使用される CPU 時間の総計 (ミリ秒単位)。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	P (15,3)

フィールド名	説明	属性
JBTDBC	データベース CPU 時間の合計。マルチスレッド化されたジョブのすべてのスレッドでデータベース処理を実行するために使用される CPU 時間の総計 (ミリ秒単位)。 注: これは、すべてのジョブ・スレッドにおける JBEDBC の合計とは異なる場合があります。(注 3 (105 ページ) を参照してください。)	P (15,3)
JBSVRT	サーバー・タイプ。ジョブによって表されているサーバーのタイプ。値がブランク (またはブランク・スペース) である場合そのジョブはサーバーの一部ではないことを示しています。	C (30)
JBCOP	タスクの下で実行された 1 次コミット操作の回数。	PD (11,0)
JBCOS	タスクの下で実行された 2 次コミット操作の回数。これには、アプリケーションおよびシステムによって提供された参照保全コミットも含まれます。	PD (11,0)
JBDOP	タスクの下で実行された 1 次コミット解除操作の回数。	PD (11,0)
JBDOS	タスクの下で実行された 2 次コミット解除操作の回数。これには、アプリケーションおよびシステムによって提供された参照保全コミット解除も含まれます。	PD (11,0)
JBPJE	タスクの下で実行されたディスクへの物理ジャーナル書き込み操作の回数。	PD (11,0)
JBNSJE	SMAPP に直接関連していないジャーナル項目の数。	PD (11,0)
JBUJD	ユーザー提供のジャーナルに保管された、SMAPP に起因するジャーナル項目の数。	PD (11,0)
JBSJD	システム提供 (デフォルト) のジャーナルに保管された、SMAPP に起因するジャーナル項目の数。	PD (11,0)
JBBFW	ディスクに書き込まれたジャーナル・バイトの数。これらの項目は、ジャーナル・レシーバーの永続域にパッケージされます。これらは、検索および表示が可能な従来のジャーナル項目です。	PD (15,0)

フィールド名	説明	属性
JBBFA	ジャーナル・レシーバーの永続域に保管されたバイト数。このカウントには、ディスクにすでに書き込まれたバイト数、およびメイン・メモリーにまだキャッシュされているバイト数が含まれます。これらは、検索および表示が可能な従来のジャーナル項目です。	PD (15,0)
JBBTW	ディスクに書き込まれた一時域ジャーナル・レシーバー・バイトの数。一時域には、ユーザーが CHGJRN コマンドで *RmvIntEnt を指定した場合にのみ、システムによって作成され、IPL 時に使用され、この一時域に送られる隠れジャーナル項目が入っています。この一時域は、ディスク上の別個の区域であり、通常のジャーナル項目を保管するために使用されるディスク・スペースとは区別されています。	PD (15,0)
JBBTA	ジャーナル・レシーバーの一時域用に生成されたバイト数。このカウントには、ディスクにすでに書き込まれた一時バイト数、およびメイン・メモリーにまだキャッシュされているバイト数が含まれます。一時域には、ユーザーが CHGJRN コマンドで *RmvIntEnt を指定した場合にのみ、システムによって作成され、IPL 時に使用され、この一時域に送られる隠れジャーナル項目が入っています。この一時域は、ディスク上の別個の区域であり、通常のジャーナル項目を保管するために使用されるディスク・スペースとは区別されています。	PD (15,0)
JBTWT	ジャーナル・バンドルがディスクに書き込まれるのをこのタスクが待機するのに費やした時間の長さ (ミリ秒)。これには、サービスを受けるタスクによって開始された物理ディスク書き込み操作の待機時間が含まれるほか、同じジャーナル・バンドルに常駐するジャーナル項目を持つ他のタスクによって開始された物理ディスク書き込み操作の待機時間が含まれます。	PD (11,0)
JBTNW	ジャーナル・バンドルがディスクに書き込まれるのをこのタスクが待機した回数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
JBXRRR	ランダム・ストリーム・ファイル読み取り操作の数。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (11,0)
JBXRRW	ランダム・ストリーム・ファイル書き込み操作の数。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (11,0)
JBXRFS	fsync 操作の数。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (11,0)
JBXRBR	ストリーム・ファイルの読み取られたバイト数。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (15,0)
JBXRBW	ストリーム・ファイルの書き込まれたバイト数。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (15,0)
JBFSH	サーバー認証を使用するフル Secure Sockets Layer (SSL) ハンドシェイクの数。	PD (11,0)
JBASH	サーバー認証を使用する省略 (高速) Secure Sockets Layer (SSL) ハンドシェイクの数。	PD (11,0)
JBFSHA	サーバーおよびクライアントの認証を使用するフル Secure Sockets Layer (SSL) ハンドシェイクの数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
JBASHA	サーバーおよびクライアントの認証を使用する省略 (高速) Secure Sockets Layer (SSL) ハンドシェイクの数。	PD (11,0)
JBPGA	ジョブが開始してから、ジョブによって割り振られている一時、および永続記憶域のページの合計数。	P (11,0)
JBPGD	ジョブが開始してから、ジョブによって割り振り解除されている一時、および永続記憶域のページの合計数。	P (11,0)
JBCUSR	データがサンプルとされたときにジョブが実行していたユーザー・プロフィール。	C (10)
JBFSOPN	ファイル・システムのオープン。このカウントの中には、以下のファイル・システムが含まれます。ルート・ファイル・システム、QOpenSys ファイル・システム、およびユーザー定義ファイル・システム。	PD (11,0)
JBFSDC	ファイル・システム・ディレクトリーの作成。このカウントの中には、以下のファイル・システムが含まれます。ルート・ファイル・システム、QOpenSys ファイル・システム、およびユーザー定義ファイル・システム。	PD (11,0)
JBFSNDC	ファイル・システムのディレクトリー以外の作成。ファイルやシンボリック・リンクなど、非ディレクトリー・オブジェクトの作成操作のカウントです。このカウントの中には、以下のファイル・システムが含まれます。ルート・ファイル・システム、QOpenSys ファイル・システム、およびユーザー定義ファイル・システム。	PD (11,0)
JBFSDD	ファイル・システム・ディレクトリーの削除。このカウントの中には、以下のファイル・システムが含まれます。ルート・ファイル・システム、QOpenSys ファイル・システム、およびユーザー定義ファイル・システム。	PD (11,0)
JBFSNDD	ファイル・システムのディレクトリー以外の削除。ファイルやシンボリック・リンクなど、非ディレクトリー・オブジェクトの削除操作のカウントです。このカウントの中には、以下のファイル・システムが含まれます。ルート・ファイル・システム、QOpenSys ファイル・システム、およびユーザー定義ファイル・システム。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
JBACPU	累計ジョブ CPU 時間 (ミリ秒単位)。ジョブの開始以降、マルチスレッド・ジョブのすべてのスレッドによって使用されたの累計 CPU 時間。 <b>注:</b> このフィールドは、1 次スレッドに対してのみ作成されます。	PD (15,3)
JBIPAF	リモート IP アドレス・ファミリー・フラグは、フィールド JBIPAD で提供されている IP アドレス情報のタイプを示します。以下がサポートされています。(これらの値について詳しくは、<sys/socket.h> および JBIPAD の下で参照されている API を参照してください。)  <ul style="list-style-type: none"> <li>• Hex 00 = 未設定</li> <li>• Hex 02 = AF_INET ( IPv4)</li> <li>• Hex 18 = AF_INET6 (IPv6)</li> </ul> <b>注:</b> 現行接続がない場合は、アドレスは使用可能ではありません。	C (1)
JBIPAD	リモート IP アドレス (IPv4 または IPv6)。このフィールドは、現在使用されている IPv4 または IPv6 アドレスをバイナリー形式で表示します。ソケット接続が確立されていないか、または終了した場合は、このフィールドはブランクの可能性があります。 IPv4 アドレスは 4 バイト長で、フィールド内で左寄せされています。IPv6 アドレスはすべて 16 バイトを使用します。	C (16)
JBIPPT	リモートのポート番号。このフィールドは、この接続で使用されているポート番号を表示します。	Z (5,0)
JBUAUF	予約済み	C (1)
<b>注:</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. タスク・タイプ・エクステンダーの詳細情報については、「タスク・タイプ・エクステンダーの定義」を参照してください。</li> <li>2. これらのフィールドは、個々のタスクまたはスレッド単位で作成されます。マルチスレッド・ジョブの場合、これらはスレッド間で合計されていません。</li> <li>3. これらのフィールドは、1 次スレッドに対してのみ作成されます。このフィールドが数字カウンターの場合、マルチスレッド・ジョブのすべてのジョブの累積合計です。</li> </ol>		

## 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリーとファイルの関係』  
 収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL) オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』

データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

238 ページの『収集サービス・データ・ファイル: Task type extender』

タスク・タイプ・エクステンダーは、タスクによって提供される機能的なサポートの区域を識別します。

### 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンド

パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンドを参照してください。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMJOBWT

このデータベース・ファイルには、ジョブ、タスク、スレッドの待ち条件に関する情報が含まれます。

間隔中に CPU を消費したそれぞれのジョブ、タスク、スレッドごとに、少なくとも 1 つのレコードが書き込まれます (特にサービス活動中には、複数のレコードが書き込まれる可能性があります)。

このファイルの目的は、ジョブ (つまりタスク、1 次スレッド、または 2 次スレッド) が費やす待ち時間を計り、待機のタイプを何らかの形で示すことです。待機の理由は多数あり、個別に扱うのが難しいため、関係する機能ごとに待機がセットとしてグループ分けされています。各グループごとに、待機の数と、ジョブが待機に費やした時間とが報告されます。QAPMJOBWTD ファイルは、各カウンター・セットごとに待ち条件のタイプに関する記述を提供します。

このファイルには最大で 32 セットのカウンター用のフィールドが含まれていますが、そのすべてが使用されるとは限りません。実際に使用されるカウンター・セット (バケット) は、別のファイル QAPMJOBWTD で報告されます。

このファイルのユーザーは、ファイルの内容の動的性質に注意する必要があります。カウンター・セットは、オペレーティング・システムの新規リリースによって、追加または再定義されることがあります。さらに、IBM 技術員は、ジョブの待機統計をより細かく専門的に調べることができるように、新規のカウンター・セットを定義したり、既存のカウンター・セットを再定義することができます。結果として、ユーザーはこのファイルの内容が、常に同一であると想定することはできません。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
JWTDE	システム・タスク ID。	X (8)
JWCURT	現行待機時間: ジョブが現行の待機に費やした時間 (ミリ秒)。現行の待機が完了したときに更新されるカウンター・セット (バケット) に関しては、JWCURB フィールドを参照してください。(この時間は、他の待機カウンター・セットには含まれません。)	B (9,0)
JWCURE	予約済み	B (9,0)
JWCURB	現行のカウンター・セット (バケット): このフィールドがゼロ以外の場合は、待機が完了したときに更新されるカウンター・セットを反映します。	B (4,0)
JWDSEQ	記述の順序番号: この待機データに関連した QAPMJOBWTD レコードを識別します。	B (4,0)



フィールド名	説明	属性
JWCT01	カウント 1。ジョブがこのグループに関連した待ち条件を検出した回数。	B (9,0)
JWTM01	時間 1。ジョブがこのグループにおいて待機に費やした時間 (ミリ秒)。	B (9,0)
JWCTnn JWTMnn	カウントと時間は、レコードあたり 32 までのカウンター・セットについて繰り返されます。注 1 を参照してください。	

注:

1. QAPMJOBWT ファイル・データが、オペレーティング・システム・バージョン i5/OS V5R4 のシステムで収集された場合は、最初の 16 のカウンター・セットだけが提供されます。
2. 待機中のジョブは、間隔内で何の処理も行わなかった場合は報告されません。ただし、CPU を使用していないジョブの現在の待機は、待機ギャップ・ファイル QAPMJOBWTG で報告されます。

関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリーとファイルの関係』  
 収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
 オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
 データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRTA) コマンド  
 パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成  
 (CRTPFRTA) コマンドを参照してください。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMJOBWTD

このデータベース・ファイルには、QAPMJOBWT ファイルに存在するカウンター・セットに関する記述が含まれます。

待機データの最初のインスタンスが検出されたとき (通常は収集の最初の時点で)、活動状態の各カウンター・セットごとに 1 つのレコードが書き込まれます。サービス活動中に、このデータのインスタンスが複数検出される場合もあります。

フィールド名	説明	属性
DTETIM	間隔日付 (yyymmdd) と時刻 (hhmmss): これらの記述を提供する、サンプル間隔の日付と時刻。通常、これは *MGTCOL オブジェクト内の最初の間隔です。	C (12)
DTECEN	世紀桁: 0 は 19XX を示し、1 は 20XX を示します。	C (1)
JWDSEQ	説明の順序番号: これは、記述セットの固有 ID となります。この値は、カウンター・データを記述セットに関連付けるために、QAPMJOBWT ファイルの JWDSEQ フィールドで使用されます。更新された記述がこのファイルに書き込まれるたびに、その記述セットに関する新しい値がこのフィールドに含まれます。	B (4,0)
JWTNUM	報告された待機カウンター・セットの合計数。	B (4,0)
JWSNBR	このレコードが記述しているカウンター・セット番号。	B (4,0)

フィールド名	説明	属性
JWDESC	JWCTnn および JWTMnn フィールドに報告されたデータのタイプに関する記述。 注: このフィールドは Unicode です。	G (50)

### 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリとファイルの関係』  
収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMJOBWTG

このデータベース・ファイルには、QAPMJOBWT ファイルでは入手できない、ジョブ、タスク、スレッド  
の現行待機条件に関する情報が含まれます。

間隔中に CPU を消費しなかったそれぞれのジョブ、タスク、またはスレッドごとに (QAPMJOBWT では  
報告されない)、1 つのレコードが書き込まれます。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプ ル・データベース間隔。	PD (5,0)
JWTDE	システム・タスク ID。このフィールドは QAPMJOBMI と JBTDE フィールドの結合フィールドとして使用し、 このレコードと関連したジョブに関する情報を入手でき ます。	X (8)
JWCURE	予約済み	B (9,0)
JWCURT	現行待機時間: ジョブが現行の待機に費やした時間 (マイ クロ秒単位)。(待機が開始してからの合計時間。注 1 を 参照。)	B (18,0)
JWCURINT	この間隔の現行待機時間: この間隔中にジョブが待機に 費やした時間 (マイクロ秒単位)。(注 1 を参照。)	B (9,0)
JWDSEQ	記述の順序番号: この待機データに関連した QAPMJOBWTD レコードを識別します。	B (4,0)
JWCURB	現行のカウンター・セット (バケット): このフィールド がゼロ以外および正の場合は、ジョブが現在待機中であ り、どのカウンター・セットが現行の待機と関連付けら れているかを示します。このフィールドがゼロの場合、 待機状態情報はこのジョブについて (例えば、この間隔 中に終了したジョブについて) 入手できません。まれな ケースとして、値 -1 は、サンプリング時にデータが入 手不可であったことを示します。	B (4,0)

### 注:

1. ジョブ・データが V6R1 より前のリリースで収集された場合、収集されたデータには、待機ギャッ  
プ・ファイルについての十分な情報が含まれません。

- レコードは、収集中に最終的に実行されたジョブに対してのみ書き込まれます。収集中に実行されなかったジョブについては表記されません。
- この待機状態の合計待機 (JWCURT フィールド) は見積もりであり、正確な測定と見なすべきではありません。

### 収集サービス・データ・ファイル: QAPMJSUM

これらのデータベース・ファイル項目には、ジョブの要約情報が含まれています。

このファイルは、\*JOBMI、\*JOBOS、および \*SYSLVL カテゴリーがすべてパフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドから要求された場合にのみ作成されます。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	ジョブ間隔項目およびジョブ完了日に関する間隔の日付 (yymmdd) と、ジョブ完了項目に関する時間 (hhmmss)。	C (12)
INTSEC	経過した間隔 (秒単位)。	PD (7,0)
DTECEN	世紀桁。	C (1)

フィールド名	説明	属性
JSCBKT	<p>ジョブ・グループ: このレコード内でデータが報告されるジョブのタイプを示します。以下の値がサポートされています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• DDM: 分散データ管理機能</li> <li>• CA4: System i アクセス</li> <li>• PAS: パススルー</li> <li>• MRT: 複数要求元端末</li> <li>• S6E: System/36 環境</li> <li>• CME: 通信バッチ</li> <li>• AUT: 自動開始バッチ</li> <li>• BCH: バッチ・ジョブ (他のグループには含まれません)</li> <li>• INT: 対話式ジョブ (ジョブ・タイプ「I」は、上記のその他のパケットでは報告されません)</li> <li>• SPL: スプール・ジョブおよび CPF 開始ジョブ</li> </ul> <p><b>注:</b> すべてのジョブは、上記のジョブ・グループの 1 つ、および 1 つだけでカテゴリー化され、報告されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• INF: 対話式フィーチャー (このグループは、マシンが対話式と見なすジョブと関連するデータを報告します。これらのジョブで消費される資源は、対話式フィーチャー使用率に含まれる場合があります)。</li> </ul>	C (3)
JSCPU	使用された処理装置時間 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
JSTRNT	合計トランザクション時間 (秒単位)。	PD (15,3)
JSTRNS	トランザクションの数。	PD (11,0)
JSPRTL	印刷行の数: プログラムによって書き出された行の数。実際に印刷される行数とは異なります。スプール・ファイルでは、最終的に複数のコピーが作成されたり印刷されたりする場合があります。	PD (11,0)
JSPRTP	印刷ページの数。	PD (11,0)
JSSPD	合計の中断時間 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
JSRRT	再経路指定中にジョブが待機した合計時間 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
JSNEW	新しいジョブ。	PD (11,0)
JSTERM	終了したジョブ。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
JSJBCT	ジョブ数。	PD (11,0)
JSPDBR	同期的なデータベースの読み取りの数：データベース機能での、同期的な物理データベースの読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
JSPNDB	同期的な非データベースの読み取りの数：非データベース機能での、同期的な物理データベースの読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
JSPWRT	書き出しの数：物理データベースおよび非データベースの書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
JSLDBR	データベース読み取りの数 (論理)：データベース・モジュールが呼び出された回数。これには、読み取りプログラム/書き出しプログラムへの入出力操作や、CPYSPLF または DSPSPLF コマンドによる入出力操作は含まれていません。SEQONLY(*YES) が指定されている場合、これらの数は、読み取られた個々のレコードの数ではなく、読み取られたレコードの各ブロックを示しています。	PD (11,0)
JSLDBW	データベース書き出しの数 (論理)：内部データベース書き出し機能が呼び出された回数。これには、読み取りプログラム/書き出しプログラムへの入出力操作や、CPYSPLF または DSPSPLF コマンドによる入出力操作は含まれていません。SEQONLY(*YES) が指定されている場合、これらの数は、書き出された個々のレコードの数ではなく、書き出されたレコードの各ブロックを示しています。	PD (11,0)
JSLDBU	さまざまなデータベース操作の数：更新、削除、データの強制終了、および解放 (論理)。	PD (11,0)
JSCMPT	通信書き出しの数：これには、リモート・ワークステーションの活動は含まれません。入出力がシステム間通信機能 (ICF) 装置に対するものである場合、システム間通信機能 (ICF) ファイルに関連した活動のみがこれに含まれます。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
JSCMGT	通信読み取りの数 (論理): これには、リモート・ワークステーションの活動は含まれません。入出力がシステム間通信機能 (ICF) 装置に対するものである場合、システム間通信機能 (ICF) ファイルに関連した活動のみがこれに含まれます。	PD (11,0)
JSBRG	予約済み	PD (11,0)
JSPRG	予約済み	PD (11,0)
JSNDW	同期的な非データベースの書き出しの数: 非データベース機能での、同期的な物理非データベースの書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
JSDBW	同期的なデータベースの書き出しの数: データベース機能での、同期的な物理データベースの書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
JSANDW	非同期的な非データベースの書き出しの数: 非データベース機能での、非同期的な物理非データベースの書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
JSADBW	非同期的なデータベースの書き出しの数: データベース機能での、非同期的な物理データベースの書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
JSANDR	非同期的な非データベースの読み取り数: 非データベース機能での、非同期的な物理非データベースの読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
JSADBR	非同期的なデータベースの読み取りの数: データベース機能での、非同期的な物理データベースの読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
JSPW	同期的な永続的書き出しの数。	PD (11,0)
JSCS	予約済み	PD (11,0)
JSPAGF	PAG 障害の数。プログラム・アクセス・グループ (PAG) が参照されたが主記憶装置になかった合計回数。ライセンス内部コードでは、データをキャッシュに入れるための処理アクセス・グループは使用しなくなりました。このインプリメンテーションのため、現行リリース以降ではこのフィールドは必ず 0 になります。	PD (11,0)
JSEAO	予約済み	PD (11,0)
JSOBIN	2 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
JSODEC	10 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
JSOFLP	浮動小数点オーバーフローの数。	PD (11,0)
JSIPF	補助記憶域入出力操作に使われていたアドレスでページ不在が発生した回数。	PD (11,0)
JSWIO	未解決の非同期入出力操作の完了を明示的に待機した回数。	PD (11,0)
JSSKSC	ソケット送信の数。	PD (11,0)
JSSKBS	送信されたソケット・バイトの数。	PD (11,0)
JSSKRC	ソケット受信の数。	PD (11,0)
JSSKBR	受信されたソケット・バイトの数。	PD (11,0)
JSXRFR	ストリーム・ファイル読み取り。	PD (11,0)
JSXRFW	ストリーム・ファイル書き出し。	PD (11,0)
JSXSLR	ファイル・システム・シンボリック・リンク読み取り。	PD (11,0)
JSXDYR	ファイル・システム・ディレクトリー読み取り。	PD (11,0)
JSDLCH	ファイル・システム・ディレクトリー検索キャッシュ・ヒット。	PD (11,0)
JSDLCM	ファイル・システム検索キャッシュ脱落。	PD (11,0)
JSSZWT	占有待ち時間の合計 (ミリ秒)。	PD (11,0)

#### 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリーとファイルの関係』  
収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

#### 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFDRDTA) コマンド  
パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成  
(CRTPFDRDTA) コマンドを参照してください。

### 収集サービス・データ・ファイル: QAPMJVM

このファイルには、データのサンプリング時にプロセス内で活動状態の Java 仮想マシン (JVM) のデータ  
が含まれます。活動状態の JVM がある各プロセスに対して間隔ごとに 1 つのレコードがあります。

注: サポートされる唯一の JVM は、IBM Technology for Java (J9) です。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFDRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)

フィールド名	説明	属性
DTETIM	ジョブ間隔項目およびジョブ完了日に関する間隔の日付 (yyymmdd) と、ジョブ完了項目に関する時間 (hhmmss)。	C (12)
INTSEC	経過した間隔 (秒単位)。最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
DTECEN	世紀桁。	C (1)
JVNAME	ジョブ名/ワークステーション名。	C (10)
JVUSER	ジョブのユーザー。	C (10)
JVNBR	ジョブ番号。	C (6)
JVTDE	システム・タスク ID。ジョブの初期スレッドと関連付けられたシステム・タスク ID。このフィールドは、レコードを QAPMJOBMI フィールド JBTDE に結合するために使用できません。	H (8)
JVTYPE	ジョブ・タイプ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0: IBM Technology for Java - 32 ビット</li> <li>• 1: IBM Technology for Java - 64 ビット</li> </ul>	C (1)
JVVRSN	JVM のバージョン (UTF-16 CCSID 1200)。	G (10)
JVPID	プロセス ID。	B (9,0)
JVPOLICY	ガーベッジ・コレクション・ポリシー (UTF-16 CCSID 1200)。	G (15)
JVHEAPC	割り振られている現行ヒープ。この JVM に割り振られたヒープ・ストレージの現行量 (キロバイト単位)。	B (18,0)
JVHEAPU	使用中のヒープ。実際に使用中の割り振られたヒープの量 (キロバイト単位)。	B (18,0)
JVMLCMEM	Malloc メモリー・サイズ (KB)。	B (18,0)
JVINTMEM	内部メモリー・サイズ (KB)。	B (18,0)
JVJITMEM	JIT メモリー・サイズ (KB)。	B (18,0)
JVSCLMEM	共有クラス・サイズ (KB)。	B (18,0)
JVGCCNBR	最終ガーベッジ・コレクション・サイクル番号。	B (9,0)
JVGCCTME	最終ガーベッジ・コレクション・サイクル時間。最終ガーベッジ・コレクション・サイクル中にガーベッジ・コレクション・タスクを実行するために費やされた時間 (ミリ秒単位)。	B (18,0)



フィールド名	説明	属性
JVGCITME	間隔ガーベッジ・コレクション時間。 このコレクション間隔中にガーベッジ・コレクション・タスクの実行に費やされた時間 (ミリ秒単位)。	B (18,0)
JVGCTTME	合計ガーベッジ・コレクション時間。 JVM の開始以降にすべてのタスクによりガーベッジ・コレクションの実行に費やされた時間の合計。	B (18,0)

#### 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリーとファイルの関係』  
収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』

データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

### 収集サービス・データ・ファイル: QAPMLAPD

このデータベース・ファイルには、サービス総合ディジタル網 (ISDN) の LAPD ファイル項目が含まれており、LAPD ファイル内のフィールドをリストしています。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
LDIOP	予約済み	C (1)
LDTYPE	このレコードに表示されている IOP またはアダプターの資源タイプ。	C (4)
LDNWI	ネットワーク・インターフェース: ネットワーク・インターフェース記述の名前。	C (10)
LDLSP	リンク速度: このチャンネルの速度 (ビット/秒単位)。	PD (11,0)
LDPRCL	プロトコル・タイプ: D (LAPD 用)。	C (1)
LPLOFA	フレーム位置合わせの消失: 有効な回線コード違反の対が検出されずに、2 つの 48 ビット・フレームに相当する期間が経過した回数の合計。	PD (11,0)
LPLECV	予約済み	PD (11,0)
LPDTSI	予約済み	PD (11,0)
LPDTSO	予約済み	PD (11,0)
LPFECV	予約済み	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
LPES	エラーの秒数: 1 つまたは複数のバス・コード違反、1 つまたは複数のフレーム外障害、1 つまたは複数の制御スリップ・イベント、またはアラーム指示信号障害の検出が発生した秒数の合計。	PD (5,0)
LPSES	深刻なエラーの秒数: 320 以上のバス・コード違反エラー・イベント、1 つまたは複数のフレーム外障害、またはアラーム指示信号イベントの検出が発生した秒数の合計。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ESF 信号の場合、320 以上のバス・コード違反エラー・イベント、1 つまたは複数のフレーム外障害、またはアラーム指示信号障害の検出が発生した秒数の合計。</li> <li>E1-CRC 信号の場合、832 以上のバス・コード違反エラー・イベント、または 1 つまたは複数のフレーム外障害が発生した秒数の合計。</li> <li>E1-noCRC 信号の場合、2048 以上の回線コード違反が発生した秒数。</li> <li>D4 信号の場合、フレーム・エラー・イベント、1 つのフレーム外障害、または 1544 以上の回線コード違反が発生した秒数。</li> </ul>	PD (5,0)
LPCOL	衝突検出: TE が、同じバスの使用を試行した別の TE によって壊された送信フレームを検出した回数。	PD (11,0)
LLCRCE	受信 CRC エラー: CRC (サイクル冗長検査) エラーがあった受信フレームの数。	PD (11,0)
LLSFE	短フレーム・エラー: 受信した短フレームの数。短フレームは、開始フラグと終了フラグとの間のオクテットが許容限界より少ないフレームです。	PD (11,0)
LLORUN	受信オーバーラン: ローカル制御装置の過負荷が原因で、ISDN サブシステムが着信データのペースを維持できなかった回数。	PD (11,0)
LLURUN	送信アンダーラン: ローカル制御装置の過負荷が原因で、ISDN サブシステムが発信データのペースを維持できなかった回数。	PD (11,0)
LLABRT	打ち切り受信数: 受信したフレームに HDLC 打ち切り標識が含まれていたフレームの数。	PD (11,0)
LLFRIE	エラーの受信フレーム数: 受信サイクル冗長検査 (CRC) エラー、短フレーム・エラー、受信オーバーラン、送信アンダーラン、打ち切り受信数、およびフレーム・シーケンス・エラー (LLCRCE、LLSFE、LLORUN、LLURUN、LLABRT、LSSEQE) の合計。	PD (11,0)
LSFRT	再送信されたフレーム。	PD (11,0)
LSSEQE	シーケンス・エラー: フレームが失われたことを示す順序番号が入った受信フレームの数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
LSFTRN	送信フレームの合計数: これには、リモート・リンク・ステーションに送信された情報 (I)、非番号付き情報 (UI) および監視 (S) フレームが含まれます。これには、正常に送信されたものの他に、再送信されたフレーム、および送信アンダーランによって停止された転送で送信されたフレームも含まれます。	PD (11,0)
LSFRCV	受信フレーム数の合計数: これには、リモート・リンク・ステーションから受信した情報 (I)、非番号付き情報 (UI) および監視 (S) フレームが含まれます。これにはエラーは含まれません。	PD (11,0)
LSBTRN	送信したバイトの合計: リモート・リンク・ステーションに送信したバイトの合計数。これには、正常に送信されたものの他に、再送信されたバイト、および送信アンダーランによって停止された転送で送信されたバイトも含まれます。	PD (11,0)
LSBRCV	受信したバイトの合計: リモート・リンク・ステーションから受信したバイトの合計数。これにはエラーは含まれません。	PD (11,0)
LQTOC	発信呼び出しの合計: 発信呼び出し試行の数。 X.31 の場合、これにはパケット交換接続を要求する SETUP メッセージの発信が含まれます。 Q.932 の場合、REGISTER メッセージの発信はこのカウントには含まれません。	PD (11,0)
LQROC	発信呼び出しの再試行: ネットワークに拒否された発信呼び出しの数。 X.31 の場合、これにはパケット交換接続を要求する SETUP メッセージの発信の再試行が含まれます。 Q.932 の場合、REGISTER メッセージの発信の再試行はこのカウントには含まれません。	PD (11,0)
LQTIC	着信呼び出しの合計: 着信呼び出し試行の数。 X.31 の場合、これにはパケット交換接続を要求する SETUP メッセージの着信が含まれます。 Q.932 の場合、REGISTER メッセージの着信はこのカウントには含まれません。	PD (11,0)
LQRIC	着信呼び出しの拒否: TE によって拒否された着信呼び出しの数。受動バスの場合、その呼び出しは、同じ受動バスを共有する別の TE のためのものであることが考えられます。これには、 IOP と IOM の両方によって直接拒否された呼び出しも含まれます。 X.31 の場合、これにはパケット交換接続を要求する SETUP メッセージの拒否された着信が含まれます。 Q.932 の場合、REGISTER メッセージの拒否された着信はこのカウントには含まれません。	PD (11,0)
LDCHLS1	S1 保守チャンネル: S1 保守チャンネルが活動状態であった場合は 1 に設定されます。	PD (1,0)
LPLES	回線エラーの秒数: 1 つまたは複数の回線コード違反が発生した秒数。	PD (5,0)
LPCSS	制御スリップの秒数: 1 つまたは複数の制御スリップ・イベントが発生した秒数。	PD (5,0)

フィールド名	説明	属性
LPBES	バースト性エラーの秒数 (エラー秒タイプ B): 2 以上 320 未満のバス・コード違反エラー・イベントが発生しているが、深刻なエラーのフレーム障害および着信アラーム指示信号障害の検出は発生していない秒数。	PD (5,0)
LPSEFS	深刻なエラーのフレームの秒数: 1 つまたは複数のフレーム外障害またはアラーム指示信号障害の検出が発生した秒数。	PD (5,0)
LPDM	低下時間 (分単位): 見積もられたエラー率が 1E-6 を超えているが、1E-3 は超えていない時間 (分単位)。	PD (5,0)
LPUS	使用不可秒数: インターフェースが使用できない秒数。	PD (5,0)

### 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリとファイルの関係』  
収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

### 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンド  
パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成  
(CRTPFRDTA) コマンドを参照してください。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMLIOP

このデータベース・ファイルには平衡型 IOP データ・ファイル項目が含まれており、平衡型 IOP データ・ファイル内のフィールドをリストしています。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
LHOP	予約済み	C (1)
LITYPE	IOP タイプ。	C (4)
LIRIDC	制御装置の資源 ID: フィールドは表示できません。	C (8)
LITPKT	転送されたパケットの合計。	PD (11,0)
LIKBYO	バス間で IOP からシステムに送信された KB の合計。	PD (11,0)
LIKBYI	バスを介してシステムから IOP に送信された KB の合計。	PD (11,0)
LIOPSR	通常フローを使用する別のバス単位から受信した、OPSTART バス単位メッセージ。	PD (11,0)
LIOPSS	反転フロー方法 2 を使用する別のバス単位から受信した、OPSTART バス単位メッセージ。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
LISGLR	別のバス単位から受信した信号バス単位メッセージ。	PD (11,0)
LIOPST	反転フロー方法 2 を使用する別のバス単位に送信した OPSTART。	PD (11,0)
LISGLS	別のバス単位に送信された信号。	PD (11,0)
LIRSTQ	別のバス単位に送信された再始動待ち行列のバス単位メッセージ。	PD (11,0)
LIRQDO	データの出力のために送信された DMA 要求: IOP がシステムに送信する、IOP からバスを介してシステムにデータを送信する要求の数。	PD (11,0)
LIRQDI	データの入力のために送信された DMA 要求: IOP がシステムに送信する、システムからバスを介して IOP にデータを送信する要求の数。	PD (11,0)
LIBNAR	受信した BNA のオカレンス。	PD (11,0)
LIOQC	入出力待ちの待ち行列のカウント: サンプルング時に入出力待ちの待ち行列に置かれていた入出力要求の数。入出力待ちの待ち行列は、処理中のまたは処理を待機中の入出力要求を保持します。	PD (11,0)
LISQC	延期の待ち行列のカウント: サンプルング時に延期の待ち行列に置かれていた要素の数。	PD (11,0)
LIAQC	活動状態の待ち行列のカウント: サンプルング時に活動状態の待ち行列に置かれていた要素の数。活動状態の待ち行列は、ホスト・システムから送信されたが、まだ入出力待ちの待ち行列に送信されていない入出力要求を保持します。	PD (11,0)
LITWIU	平衡型使用カウント: 入出力待ちの待ち行列がサンプルリングされた時点での回数 (カウントがゼロ (入出力が進行中) でない場合)。この値をサンプルリングのカウントで割ると、結果 (100 倍する) は入出力が行われた時点の回数の割合 (パーセント) になります。	PD (5,0)
LISMPL	サンプルリングの回数: さまざまな IOP 待ち行列がサンプルリングされたスナップショット間隔中の回数。	PD (5,0)
LHIDLC	アイドル・カウント (注を参照): ワークステーション IOP がアイドル・ループを実行した回数。これは、IOP に実行すべき作業がないときに実行されます。この回数は、アイドル・ループの時間と共に利用されます。	PD (11,0)
LHIDLT	アイドル・ループ時間 (× 0.01 マイクロ秒) (注を参照): アイドル・ループを 1 回実行する時間 (マイクロ秒の 100 分の 1 単位)。	PD (11,0)

注: アイドル・ループ・カウントおよびアイドル・ループ時間が以下のように使用されて、通信 IOP 使用率が計算されます。

1. アイドル・ループ・カウント回数とアイドル・ループ時間の積を、マイクロ秒の 100 分の 1 単位から秒に変換します。これを間隔時間から引き、その結果を間隔時間で割ります。たとえば、次のようになります。

$$\text{IOP 使用率} = (\text{INTSEC} - (\text{CIIDLC} * \text{CIIDLT})/10^{**}8) / \text{INTSEC}$$

2. バージョン 3 リリース 7 から、パフォーマンス・モニターで報告される入出力処理機構 (IOP) の統計は変更され、バージョン 3 リリース 7 以降のリリースに導入されている IOP のパフォーマンス統計は、QAPMMIOP ファイルで報告されます。パフォーマンス統計は、IOP が 3 つの IOP 機能 (通信、ディスク、ローカル・ワークステーション) の 1 つしかサポートしていない場合でも、QAPMMIOP ファイルで報告されます。バージョン 3 リリース 7 より前で導入されていた IOP のパフォーマンス統計は、引き続き適当な IOP ファイル (QAPMCIOP、QAPMDIOP、QAPMLIOP、および QAPMMIOP) で報告されます。

#### 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリとファイルの関係』  
収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL) オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

#### 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFDRDTA) コマンド  
パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成 (CRTPFDRDTA) コマンドを参照してください。

### 収集サービス・データ・ファイル: QAPMLPAR

このデータベース・ファイルには、IBM Director サーバーが収集サービスを実行している区画にインストールされて (およびサーバー・ジョブが実行して) おり、\*LPAR カテゴリが選択されている場合に収集される、論理区画パフォーマンス・データが含まれます。

IBM Director Agent は、他の区画から収集されるデータ用に、それらの区画にインストールされている必要があります。収集間隔ごとの各論理区画に 1 つのレコードがあります。

ディスク・データは、すべての区画について記録されます。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFDRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): ローカル収集サービス・ジョブがこのデータを要求した日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: エージェントで測定された最後のサンプル間隔からの秒数。エージェントがしばらく非活動状態であった後に再度活動状態になった場合には、この値が複数の間隔にまたがる場合があります。	PD (7,0)
DTECEN	世紀桁。0 は 19xx を示し、1 は 20xx を示します。	C (1)
LPPID	区画 ID。これは、PN の GKEY を持つ QAPMCONF ファイル中の区画番号と整合したバイナリー値です。	B (4,0)

フィールド名	説明	属性
LPCPUU	使用される CPU ナノ秒。この区画中のすべてのプロセッサがこの間隔で使用する、プロセッサ・ナノ秒数。	B (18,0)
LPCPUA	使用可能な CPU ナノ秒。この区画中のすべてのプロセッサに対してこの間隔で使用可能な、プロセッサ・ナノ秒数。このフィールドがオペレーティング・システムによってサポートされていない場合は、0 になります。	B (18,0)
LPVPRC	仮想プロセッサ。現在この区画に構成されている仮想プロセッサ数。	B (4,0)
LPPUN	処理装置。現在この区画に割り振られている処理装置の数として表される区画キャパシティー。	PD (5,2)
LPDTTM	区画の日時。 <i>YYYYMMDDhhmmss</i> フォーマットで表される区画のローカル日付と時刻。	C (14)
LPUTCO	UTC オフセット。区画用の分単位の協定世界時オフセット。	B (4,0)
LPCLKO	クロック・オフセット。このフィールドは、単一システムの異なる区画上のシステム・クロック間の相違を判別する方法を提供します。このフィールドは、スタンドアロン・ベースで参照する場合は意味がありません。ただし、この値がシステムの 2 つ (またはそれ以上) の区画で設定されている場合、それらの値の相違は、その 2 つの区画間の時間差 (秒単位) です。このフィールドがオペレーティング・システムによってサポートされていない場合は、0 になります。	B (18,0)
LPOSID	オペレーティング・システム ID。現在区画で実行中のオペレーティング・システム。 100 = i5/OS、 200 = AIX <sup>®</sup> 、および 300 = Linux <sup>®</sup> 。	B (4,0)
LPVRM	オペレーティング・システムのバージョン。このフィールドは、オペレーティング・システムで定義された形式で表示されます。たとえば、i5/OS バージョン 5 リリース 4 モディフィケーション 0 は V5R4M0 と表されます。	C (11)
LPDDTM	ディスク・データが収集された日時。 <i>YYYYMMDDhhmmss</i> フォーマットで表される区画のローカル日付と時刻。	C (14)
LPCAP	選択したすべてのディスクの合計ディスク容量 (バイト)。	B (18)

フィールド名	説明	属性
LPAVL	選択したすべてのディスクの、使用可能なディスク容量の合計。	B (18)
LPBSY	選択したすべてのディスクの、ディスク使用中時間 (マイクロ秒)。	B (18)
LPRSP	選択したすべてのディスクの、ディスク応答時間 (マイクロ秒)。	B (18)
LPRDS	ディスク読み取りコマンド。	B (18)
LPWRTS	ディスク書き込みコマンド。	B (18)
LPDISK	選択されたディスク数。	B (4)
LPMEM	システムの合計記憶域 (バイト)。	B (18)

### 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリとファイルの関係』  
収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL) オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

### 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンド  
パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンドを参照してください。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMLPARH

このデータベース・ファイルには、ハイパーバイザーが把握しているのと同じ論理区画構成と使用率データが含まれています。

このデータは、収集区画がその入手を許可されている場合に収集されます。この許可は、ハードウェア管理コンソール (HMC) 上に設定された区画構成属性です。

このデータが使用可能であるには、ファームウェア・レベル xxxxxxxx 以降が必要です。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
DTECEN	世紀桁。	C (1)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	B (4,0)
HPPID	区画 ID。これは、PN の GKEY を持つ QAPMCONF ファイル中の区画番号と整合したバイナリー値です。	B (4,0)
HPOSID	オペレーティング・システム ID。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 = 不明</li> <li>• 100 = i5/OS 区画</li> </ul>	B (4,0)



フィールド名	説明	属性
HPSHRF	<p>共用プロセッサ・フラグ。区画が共用プロセッサを使用しているかどうかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 = 区画は物理プロセッサを共用しません。</li> <li>• 1 = 区画は物理プロセッサを共用し、上限あります。</li> <li>• 2 = 区画は物理プロセッサを共用し、上限なしです。</li> </ul>	C (1)
HPATRF	予約済み	C (1)
HPVPRC	仮想プロセッサ。現在この区画に構成されている仮想プロセッサ数。	B (4,0)
HPVPID	仮想共有プール ID。これは区画の現行仮想共用プロセッサ・プールの ID です。	B (4,0)
HVPPID	予約済み	B (4,0)
HPVALA	予約済み	B (4,0)
HPPRCCC	現行の処理キャパシティー。現在この区画に割り振られている処理装置の数として表される区画キャパシティー。	B (5,2)
HPINTCC	予約済み	B (5,2)
HPMEMC	区画メモリー。これは区画に現在割り振られているメモリー量 (メガバイト単位) です。	B (18,0)
HPPRCE	プロセッサ許可時間。処理キャパシティーに基づいて区画に消費が許可されたプロセッサ時間の量 (ミリ秒単位)。	B (18,0)
HPPRCEU	使用されたプロセッサ許可時間。区画により消費されたプロセッサ時間の量 (ミリ秒単位)。この値は、区画許可時間 (HPPRCE フィールド) を上回ることはありません。共用プロセッサ区画の場合、これは使用された上限ありキャパシティーを表します。	B (18,0)
HPPRCUU	使用された上限なしプロセッサ時間。共用上限なし区画により許可キャパシティーを超過して消費されたプロセッサ時間の量 (ミリ秒単位)。(HPPRCEU および HPPRCUU フィールドを、上限なし区画により使用された合計処理時間に合わせて追加する必要があります。)	B (18,0)
HPPRCD	付与されたプロセッサ時間。区画により物理共用プロセッサ・プールに付与されたプロセッサ時間の量 (ミリ秒単位)。この値は、その未使用 CPU を付与できる専用区画に対してのみ非ゼロにすることができます。	B (18,0)

フィールド名	説明	属性
HPPRCIDL	<p>プロセッサ・アイドル時間。区画によりハイパーバイザーに報告された、区画がアイドルであったプロセッサ時間の量 (ミリ秒単位)。</p> <p>すべての区画で (特に専用区画で)、ハイパーバイザーが報告した、使用されたプロセッサ時間には、区画がプロセッサを制御していたが、それを実作業には使用していなかった時間が含まれます。アイドル時間の区画ビューは、それを報告する区画についてここで反映されず (オペレーティング・システム依存)。</p> <p>次の公式により、区画パースペクティブから使用される時間が算出されます。 <math>HPPRCPU + HPPRCU = HPPRCIDL</math></p>	B (18,0)
HPCYCL	区画サイクル。区画によるプロセッサ実行サイクルの数。	B (18,0)
HPINST	区画命令。区画によるプロセッサ実行命令の数。	B (18,0)
HPMEML	最小メモリー - この区画で必要とされるメモリーの最小量 (メガバイト単位)。	B (18,0)
HPMEMH	最大メモリー - この区画に割り当てることができるメモリーの最大量 (メガバイト単位)。	B (18,0)
HPVPRL	最小仮想プロセッサ。この区画で必要とされる仮想プロセッサの最小数。	B (4,0)
HPVPRH	最大仮想プロセッサ。この区画に割り当てることができる仮想プロセッサの最大数。	B (4,0)
HPPRCCL	最小処理キャパシティー。この区画で必要とされる処理キャパシティーの最小量。	B (5,2)
HPPRCCH	最大の処理キャパシティー。この区画に割り当てることができる処理キャパシティーの最大量。	B (5,2)
HPINTCL	予約済み	B (5,2)
HPINTCH	予約済み	B (5,2)
HPVALB	予約済み	H (4)
HPNAME	区画名。HMC に入力した区画の名前 (7 ビット ASCII)。このファイル内では名前には空白が埋め込まれます。	C (48)
HPVAL01	予約済み	B (18,0)
HPVAL02	予約済み	B (18,0)
HPVAL03	予約済み	B (18,0)
HPVAL04	予約済み	B (18,0)
HPVAL05	予約済み	B (18,0)
HPVAL06	予約済み	B (18,0)
HPVAL07	予約済み	B (18,0)
HPVAL08	予約済み	B (18,0)

## 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリとファイルの関係』  
 収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
 オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
 データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

#### 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンド  
 パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成  
 (CRTPFRDTA) コマンドを参照してください。

### 収集サービス・データ・ファイル: QAPMMIOP

このデータベース・ファイルには多機能 IOP ファイル項目が含まれており、多機能 IOP ファイル内のフ  
 ィールドをリストしています。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
MIIOP	予約済み	C (1)
MITYPE	IOP タイプ。	C (4)
MIPRCU	プロセッサ使用率: この多機能 IOP がアイドル状態で経過した固定時間間隔の数。	PD (11,0)
MIRAMU	使用可能ローカル・ストレージ (バイト単位): IOP 内の使用可能な空きローカル・ストレージのバイト数。空きローカル・ストレージは、フラグメント化のためおそらく不連続になっています。	PD (11,0)
MITPKT	転送されたパケットの合計。	PD (11,0)
MIKBYO	バス間で IOP からシステムに送信された KB の合計。	PD (11,0)
MIKBYI	バスを介してシステムから IOP に送信された KB の合計。	PD (11,0)
MIOPSR	通常フローを使用する別のバス単位から受信した、OPSTART バス単位メッセージ。	PD (11,0)
MIOPSS	反転フロー方法 2 を使用する別のバス単位から受信した、OPSTART バス単位メッセージ (常に 0)。	PD (11,0)
MISGLR	受信した信号。	PD (11,0)
MIOPST	送信された OPSTART。	PD (11,0)
MISLGS	送信された信号。	PD (11,0)
MIRSTQ	送信された再始動待ち行列。	PD (11,0)
MIRQDO	データの出力のために送信された DMA 要求: IOP がシステムに送信する、IOP からバスを介してシステムにデータを送信する要求の数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
MIRQDI	データの入力のために送信された DMA 要求: IOP がシステムに送信する、システムからバスを介して IOP にデータを送信する要求の数。	PD (11,0)
MIBNAR	受信した BNA のオカレンス。	PD (11,0)
MIIDLC	アイドル・ループ・カウント (注を参照): 1 次 IOP プロセッサがアイドル・ループを実行した回数。これは、IOP に実行すべき作業がないときに実行されます。このカウントとアイドル・ループ時間を使用して、1 次 IOP プロセッサ使用率 (秒単位) を計算します。	PD (11,0)
MIIDLT	アイドル・ループ時間 (注を参照): 1 次 IOP プロセッサがアイドル・ループを 1 回実行する時間 (マイクロ秒の 100 分の 1 単位)。報告された値が、実際のアイドル・ループ時間の倍数になっている場合があります。その場合、計算される IOP プロセッサ使用率を正しいものにするために、アイドル・ループ・カウントとして報告されている値が同じ倍数で約分されます。	PD (11,0)
MISYSF	IOP システム機能時間: 1 次 IOP プロセッサで実行している基本システム機能の IOP で使用される処理装置時間の合計 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
MIDISK	ディスク時間: 1 次 IOP プロセッサで実行しているディスク・タスクで使用される処理装置時間の合計 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
MICOMM	通信時間の合計: 1 次 IOP プロセッサで実行しているすべての通信プロトコル・タスクで使用される処理装置時間の合計 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
MISDLC	SDLC 通信時間: 1 次 IOP プロセッサで実行している SDLC 通信プロトコル・タスクで使用される処理装置時間の合計 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
MIASYN	ASYN 通信時間: 1 次 IOP プロセッサで実行している非同期通信タスクで使用される処理装置時間の合計 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
MIBSC	BSC 通信時間: 1 次 IOP プロセッサで実行している BSC 通信タスクで使用される処理装置時間の合計 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
MIX25L	X.25 LLC 通信時間: 1 次 IOP プロセッサで実行している X.25 LLC 通信タスクで使用される処理装置時間の合計 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
MIX25P	X.25 PLC 通信時間: 1 次 IOP プロセッサで実行している X.25 パケット層通信 (PLC) タスクで使用される処理装置時間の合計 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
MIX25D	X.25 DLC 通信時間: 1 次 IOP プロセッサで実行している X.25 データ・リンク制御 (DLC) および Point-to-Point Protocol (PPP) 通信タスクで使用される処理装置時間の合計 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
MILAN	LAN 通信時間: トークンリング・ネットワーク、イーサネット、フレーム・リレー、ファイバー分散データ・インターフェース (FDDI)、および非同期転送モード (ATM) 通信タスクで使用される処理装置時間の合計 (ミリ秒単位)。これには、トークンリングおよびイーサネット LAN エミュレーションによる処理時間が含まれます。	PD (11,0)
MISDLD	SDLC 短期保留モード時間: 1 次 IOP プロセッサで実行している SDLC 短期保留モード・タスクで使用される処理装置時間の合計 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
MIRV02	ISDN 通信時間: 1 次 IOP プロセッサで実行している ISDN LAPD、LAPE、および PMI 通信タスクで使用される処理装置時間の合計 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
MIRV03	ISDN 通信時間: 1 次 IOP プロセッサで実行している ISDN Q.931 通信タスクで使用される処理装置時間の合計 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
MISP	サービス・プロセッサ時間: 1 次 IOP プロセッサで実行しているサービス・プロセッサ機能で使用される処理装置時間の合計 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
MIF1ID	副次機能 1 の ID: 1 次 IOP プロセッサで実行できる追加機能の ID。	C (2)
MIF1TM	副次機能 1 の時間: 1 次 IOP プロセッサで実行している IOP 機能で使用される処理装置時間の合計 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
MIF2ID	副次機能 2 の ID: 1 次 IOP プロセッサで実行できる追加機能の ID。	C (2)
MIF2TM	副次機能 2 の時間: 1 次 IOP プロセッサで実行している IOP 機能で使用される処理装置時間の合計 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
MIF3ID	副次機能 3 の ID: 1 次 IOP プロセッサで実行できる追加機能の ID。	C (2)
MIF3TM	副次機能 3 の時間: 1 次 IOP プロセッサで実行している IOP 機能で使用される処理装置時間の合計 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
MIF4ID	副次機能 4 の ID: 1 次 IOP プロセッサで実行できる追加機能の ID。	C(2)
MIF4TM	副次機能 4 の時間: 1 次 IOP プロセッサで実行している IOP 機能で使用される処理装置時間の合計 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
MIF5ID	副次機能 5 の ID: 1 次 IOP プロセッサで実行する追加機能の ID。	C(2)
MIF5TM	副次機能 5 の時間 (1 次 IOP プロセッサで実行している IOP 機能で使用される時間 (ミリ秒単位))。	PD (11,0)
MITWNX	1 次 IOP プロセッサで実行しているワークステーションおよびローカル平衡型タスクで使用される処理装置時間の合計 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
MICPU2	プロセッサ 2 使用率: 特殊機能を扱う 2 番目の IOP プロセッサの使用率 (ミリ秒単位)。このフィールドは、統合 xSeries サーバー (入出力アダプター・バージョンは除く) に適用され、他の IOP の場合はゼロになります。収集サービスでは、統合 xSeries サーバー の値は報告されません。	PD (11,0)
MIADP	予約済み	PD (11,0)
MIOTH	他の機能時間: 1 次 IOP プロセッサで実行している他の IOP 機能によって使われた処理装置時間の合計 (ミリ秒)。他の機能には、副次機能 1-5 の ID フィールドがすべて使用中であるために、副次機能 1-5 ID フィールドに報告されないものが含まれます。	PD (11,0)
MIINT	割り込みレベルの時間: 1 次 IOP プロセッサで実行している割り込みレベル処理によって使われた処理装置時間の合計 (ミリ秒単位)。これには、特定のタスクに関連付けることができる割り込みレベル処理時間は含まれません。	PD (11,0)
MIRA	リモート・アクセス時間: 1 次 IOP プロセッサで実行しているリモート・アクセス・タスクによって使われた処理装置時間の合計 (ミリ秒)。	PD (11,0)

注: アイドル・ループ・カウントおよびアイドル・ループ時間が以下のように使用されて、多機能 IOP 使用率が計算されます。

1. アイドル・ループ・カウント回数とアイドル・ループ時間の積を、マイクロ秒の 100 分の 1 単位から秒に変換します。これを間隔時間から引き、その結果を間隔時間で割ります。たとえば、次のようにします。

$$\text{IOP 使用率} = (\text{INTSEC} - (\text{MIIDLE} * \text{MIIDLT})/10^{**}8) / \text{INTSEC}$$

2. バージョン 3 リリース 7 から、パフォーマンス・モニターで報告される入出力処理機構 (IOP) の統計は変更され、バージョン 3 リリース 7 以降のリリースに導入されている IOP のパフォーマンス統計は、QAPMMIOP ファイルで報告されます。パフォーマンス統計は、IOP が 3 つの IOP 機能 (通信、ディスク、ローカル・ワークステーション) の 1 つしかサポートしていない場合でも、QAPMMIOP ファイルで報告されます。バージョン 3 リリース 7 より前で導入されていた IOP のパフォーマンス統計は、引き続き適当な IOP ファイル (QAPMCIOP、QAPMDIOP、QAPMLIOP、および QAPMMIOP) で報告されます。
3. 機能 1 から 5 の ID は、1 次 IOP プロセッサで実行できる追加機能で使用されます。各機能 ID には、関連付けられている機能時間値があります。機能 ID は以下の値を持っています。

値	説明
00	時間値が与えられていません。
11	統合 xSeries サーバー のパイプ・タスク (統合 xSeries サーバー は、以前のファイル・サーバー入出力処理機構および FSIOP です)
20	ストレージ・サブシステム・タスク
22	テープ・タスク
23	ディスク・タスク
24	光ディスク・タスク

30	通信サブシステム・タスク
42	ローカル・トーク・タスク
43	無線タスク
60	暗号タスク

### 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリとファイルの関係』  
収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

### 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンド  
パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成  
(CRTPFRDTA) コマンドを参照してください。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMPOOL および QAPMPOOLL

QAPMPOOLL ファイルは、収集サービスとパフォーマンス・モニターの間の互換性を持たせるために提供されています。QAPMPOOL ファイルは、パフォーマンス・モニターのデータベース・ファイルがパフォーマンス・データの変換 (CVTPFRDTA) コマンドによって新しいリリースにマイグレーションされるときに作成されます。収集サービスでは QAPMPOOL ファイルは作成されません。代わりに、収集サービスは QAPMPOOLL ファイルを作成します。

このデータには主記憶域プールのファイル項目が含まれており、その記憶域プール・ファイル内のフィールドをリストしています。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
PONBR	プール番号: このプールの固有 ID を指定します。値は 1 から 64 です。	C (2)
POACTL	プール活動レベル設定: マシンで同時に活動状態にできるプロセスの最大数。	PD (5,0)
POSIZ	プール・サイズ (KB 単位): プールに割り当てられているメイン・ストレージの量。	PD (9,0)
PORES	プール予約済みサイズ (KB 単位): マシン機能専用になっている、プールからのストレージの量を指定します。	PD (9,0)
PODBF	プール・データベース不在: MI 命令がデータベース機能を処理できるようにするため、データをプールに転送するのに必要だったプロセス (このプールに割り当てられるとは限りません) に対する割り込みの合計数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
PONDBF	プール非データベース不在: MI 命令が非データベース機能を処理できるようにするため、データをプールに転送するのに必要だったプロセス (このプールに割り当てられるとは限りません) に対する割り込みの合計数。	PD (11,0)
PODBPG	読み取られたプール・データベース・ページ: セット・アクセス状態、暗黙的なアクセス・グループ移動、および内部マシン・アクションの結果として命令を実行できるようにするために、補助ストレージからプールへ転送されたデータベース・データのページの合計数。	PD (11,0)
PONDPG	読み取られたプール非データベース・ページ: セット・アクセス状態、暗黙的なアクセス・グループ移動、および内部マシン・アクションの結果として命令を実行できるようにするために、補助ストレージからプールへ転送されたデータベース・データのページの合計数。	PD (11,0)
POAW	活動から待ちへ移行した回数: このプールに割り当てられたプロセスが活動状態から待ち状態へ移行した回数。	PD (11,0)
POWI	待ちから不適格へ移行した回数: このプールに割り当てられたプロセスが待ち状態から不適格状態へ移行した回数。	PD (11,0)
POAI	活動から不適格へ移行した回数: このプールに割り当てられたプロセスが活動状態から不適格状態へ移行した回数。	PD (11,0)
PTTYPE	調整のタイプ: ストレージ・プールを調整するためにシステムが使用する方式。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 -- 調整なし</li> <li>• 1 -- 静的調整</li> <li>• 2 -- メイン・ストレージへの転送の動的調整</li> <li>• 3 -- メイン・ストレージおよび補助ストレージへの転送の動的調整</li> </ul>	C (1)
PTPAGE	ページ処理を変更します。変更されたページを補助ストレージに書き出す時を判別するのにシステムが使用する方式。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 -- システム・デフォルトを使用します</li> <li>• 1 -- 変更されたページを補助ストレージへ定期的に書き出します</li> </ul>	C (1)
PTNDBF	非データベース・ブロック化因数。補助ストレージから非データベース・オブジェクトを読み取る要求が行われた時に、メイン・ストレージに送られるデータの量 (KB 単位)。	PD (3,0)
PTDBF1	データベース・ブロック化因数 (クラス 1)。補助ストレージからデータベース・オブジェクトを読み取る要求が行われた時に、メイン・ストレージに送られるデータの量 (KB 単位)。	PD (3,0)



フィールド名	説明	属性
PTDEX1	データベース交換操作タイプ (クラス 1)。作業セット・サイズを減らすために使用される交換操作。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 -- システム・デフォルトを使用します</li> <li>• 1 -- 交換操作を許可します</li> <li>• 2 -- 交換操作を使用不可にします</li> <li>• 3 -- 交換操作を使用不可にします</li> </ul> メイン・ストレージ内にすでに存在しているデータは、ストレージ・プール内で追加のストレージが必要な時に置換するのに適しています。	C (1)
PTDTS1	補助ストレージへの転送のデータベース・タイプ (クラス 1)。オブジェクトを補助ストレージに書き出すための要求を処理するのに、システムが使用する方式。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 -- システム・デフォルトを使用します</li> <li>• 1 -- メイン・ストレージからオブジェクトを除去します</li> <li>• 2 -- 補助ストレージにオブジェクトを書き出します</li> <li>• 3 -- オブジェクトが置換に適していることを示します</li> <li>• 4 -- システム・ページ置換アルゴリズムを使用します</li> </ul>	C (1)
PTDBF2	データベース・ブロック化因数 (クラス 2)。 PTDBF1 を参照してください。	PD (3,0)
PTDEX2	データベース許可交換操作 (クラス 2)。 PTDEX1 を参照してください。	C (1)
PTDTS2	補助ストレージへの転送のデータベース・タイプ (クラス 2)。 PTDTS1 を参照してください。	C (1)
PTDBF3	データベース・ブロック化因数 (クラス 3)。 PTDBF1 を参照してください。	PD (3,0)
PTDEX3	データベース許可交換操作 (クラス 3)。 PTDEX1 を参照してください。	C (1)
PTDTS3	補助ストレージへの転送のデータベース・タイプ (クラス 3)。 PTDTS1 を参照してください。	C (1)
PTDBF4	データベース・ブロック化因数 (クラス 4)。 PTDBF1 を参照してください。	PD (3,0)
PTDEX4	データベース許可交換操作 (クラス 4)。 PTDEX1 を参照してください。	C (1)
PTDTS4	補助ストレージへの転送のデータベース・タイプ (クラス 4)。 PTDTS1 を参照してください。	C (1)

## 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリーとファイルの関係』  
 収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
 オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
 データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

## 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンド

パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンドを参照してください。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMPOOLB

このデータベース・ファイルにはメイン・ストレージ・プール・ファイル項目が含まれており、システム・ストレージ・プールのカウンターをリストしています。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
DTECEN	世紀桁。	C (1)
PONBR	プール番号: このプールの固有 ID を指定します。値は 1 から 64 です。	C (3)
POACTL	プール活動レベル設定: マシンで同時に活動状態にできるプロセスの最大数。	PD (5,0)
POSIZ	プール・サイズ (KB 単位): プールに割り当てられているメイン・ストレージの量。	PD (9,0)
PORES	プール予約済みサイズ (KB 単位): マシン機能専用になっている、プールからのストレージの量を指定します。	PD (9,0)
PODBF	プール・データベース不在: MI 命令がデータベース機能を処理できるようにするため、データをプールに転送するのに必要だったプロセス (このプールに割り当てられるとは限りません) に対する割り込みの合計数。	PD (11,0)
PONDBF	プール非データベース不在: MI 命令が非データベース機能を処理できるようにするため、データをプールに転送するのに必要だったプロセス (このプールに割り当てられるとは限りません) に対する割り込みの合計数。	PD (11,0)
PODBPG	読み取られたプール・データベース・ページ: セット・アクセス状態、暗黙的なアクセス・グループ移動、および内部マシン・アクションの結果として命令を実行できるようにするために、補助ストレージからプールへ転送されたデータベース・データのページの合計数。	PD (11,0)
PONDPG	読み取られたプール非データベース・ページ: セット・アクセス状態、暗黙的なアクセス・グループ移動、および内部マシン・アクションの結果として命令を実行できるようにするために、補助ストレージからプールへ転送されたデータベース・データのページの合計数。	PD (11,0)
POAW	活動から待ちへ移行した回数: このプールに割り当てられたプロセスが活動状態から待ち状態へ移行した回数。	PD (11,0)
POWI	待ちから不適格へ移行した回数: このプールに割り当てられたプロセスが待ち状態から不適格状態へ移行した回数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
POAI	活動から不適格へ移行した回数: このプールに割り当てられたプロセスが活動状態から不適格状態へ移行した回数。	PD (11,0)
POUNAL	割り当てされていないプール・スペース (KB)。すでにプールにある仮想データを置換することなく、新規データを主記憶域プールに転送するのに使用可能なプール記憶域の量。	PD (9,0)

### 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリとファイルの関係』  
収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

### 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンド  
パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成  
(CRTPFRDTA) コマンドを参照してください。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMPOOLT

このデータベース・ファイルにはメイン・ストレージ・プール・ファイル項目が含まれており、そのストレージ・プールの調整情報をリストしています。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
DTECEN	世紀桁。	C (1)
PONBR	プール番号: このプールの固有 ID を指定します。値は 1 から 64 です。	C (3)
PTTYPE	調整のタイプ: ストレージ・プールを調整するためにシステムが使用する方式。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 -- 調整なし</li> <li>• 1 -- 静的調整</li> <li>• 2 -- メイン・ストレージへの転送の動的調整</li> <li>• 3 -- メイン・ストレージおよび補助ストレージへの転送の動的調整</li> </ul>	C (1)

フィールド名	説明	属性
PTPAGE	ページ処理を変更します。変更されたページを補助ストレージに書き出す時を判別するのにシステムが使用する方式。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 -- システム・デフォルトを使用します</li> <li>• 1 -- 変更されたページを補助ストレージへ定期的に書き出します</li> </ul>	C (1)
PTNDBF	非データベース・ブロック化因数。補助ストレージから非データベース・オブジェクトを読み取る要求が行われた時に、メイン・ストレージに送られるデータの量 (KB 単位)。	PD (3,0)
PTDBF1	データベース・ブロック化因数 (クラス 1)。補助ストレージからデータベース・オブジェクトを読み取る要求が行われた時に、メイン・ストレージに送られるデータの量 (KB 単位)。	PD (3,0)
PTDEX1	データベース交換操作タイプ (クラス 1)。作業セット・サイズを減らすために使用される交換操作。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 -- システム・デフォルトを使用します</li> <li>• 1 -- 交換操作を許可します</li> <li>• 2 -- 交換操作を使用不可にします</li> <li>• 3 -- 交換操作を使用不可にします</li> </ul> <p>メイン・ストレージ内にすでに存在しているデータは、ストレージ・プール内で追加のストレージが必要な時に置換するのに適しています。</p>	C (1)
PTDTS1	補助ストレージへの転送のデータベース・タイプ (クラス 1)。オブジェクトを補助ストレージに書き出すための要求を処理するのに、システムが使用する方式。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 -- システム・デフォルトを使用します</li> <li>• 1 -- メイン・ストレージからオブジェクトを除去します</li> <li>• 2 -- 補助ストレージにオブジェクトを書き出します</li> <li>• 3 -- オブジェクトが置換に適していることを示します</li> <li>• 4 -- システム・ページ置換アルゴリズムを使用します</li> </ul>	C (1)
PTDBF2	データベース・ブロック化因数 (クラス 2)。 PTDBF1 を参照してください。	PD (3,0)
PTDEX2	データベース許可交換操作 (クラス 2)。 PTDEX1 を参照してください。	C (1)
PTDTS2	補助ストレージへの転送のデータベース・タイプ (クラス 2)。 PTDTS1 を参照してください。	C (1)
PTDBF3	データベース・ブロック化因数 (クラス 3)。 PTDBF1 を参照してください。	PD (3,0)
PTDEX3	データベース許可交換操作 (クラス 3)。 PTDEX1 を参照してください。	C (1)
PTDTS3	補助ストレージへの転送のデータベース・タイプ (クラス 3)。 PTDTS1 を参照してください。	C (1)

フィールド名	説明	属性
PTDBF4	データベース・ブロック化因数 (クラス 4)。 PTDBF1 を参照してください。	PD (3,0)
PTDEX4	データベース許可交換操作 (クラス 4)。 PTDEX1 を参照してください。	C (1)
PTDTS4	補助ストレージへの転送のデータベース・タイプ (クラス 4)。 PTDTS1 を参照してください。	C (1)

### 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリーとファイルの関係』  
収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

### 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFDRDTA) コマンド  
パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成  
(CRTPFDRDTA) コマンドを参照してください。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMPPP

このデータベース・ファイルには、Point-to-Point Protocol (2 地点間プロトコル、 PPP) ファイルのフィールドが含まれます。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFDRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
DTECEN	世紀桁: 0 は 19XX を示し、1 は 20XX を示します。	C (1)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
PPTYPE	このレコードに表示されている IOP またはアダプターの資源タイプ。	C (4)
PPLND	回線記述: この回線の記述の名前。	C (10)
PPLSP	回線速度: 回線のビット/秒 (bps) 速度。	BIN (18,0)
PPRCL	プロトコル・タイプ: P (PPP)。	C (1)
PPBTRN	送信済みバイト: 再送信されたバイトを含む、送信済みバイトの数。	BIN (18,0)
PPBRCV	受信済みバイト: エラーのあるフレーム内のバイトもすべて含んだ、受信済みバイトの数。	BIN (18,0)
PPFTRN	伝送されたフレーム: 伝送されたフレームの数。	BIN (18,0)
PPEFFR	エラー・フリーの受信フレーム数: エラー・フリーで受信されたフレームの数。	BIN (18,0)

フィールド名	説明	属性
PPFRIE	エラーの受信フレーム数: フレーム検査シーケンス・エラー、異常終了、受信オーバーラン、フレーム切り捨てエラーのいずれかのエラーで受信されたフレームの数。	BIN (9,0)
PPIFR	受信した無効フレーム数: 残余エラー (フレームがバイト境界上にない) 状態で受信されたフレームの数。	BIN (9,0)

### 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリとファイルの関係』  
収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

### 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンド  
パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成  
(CRTPFRDTA) コマンドを参照してください。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMRESP

このデータベース・ファイルには、ローカル・ワークステーションの応答時ファイル項目が含まれており、  
ローカル・ワークステーション制御装置内で収集されたデータに基づくトランザクション情報が含まれてい  
ます。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
LRIOP	予約済み	C (1)
LRBKT1	最初の応答時間モニター・ブラケット内のトランザクション: 0 以上で、スナップショット間隔内でのこのワークステーションの n 秒以下であるトランザクションの数。n 値は応答時間モニター 1 ブラケットの上限で、「System i Navigator」インターフェース内の「収集サービスのプロパティ」ページの「拡張ローカル応答時間オプション (Advanced Local Response Time Options)」ダイアログで指定します。トランザクションは、Enter キーまたは機能キーが押されたためにキーボードがロックされた時から、画面が更新されたためにキーボードがアンロックされた時までの時間として定義されます。	PD (7,0)
LRBKT2	2 番目の応答時間モニター・ブラケット内のトランザクション: 応答時間モニター 1 より大きく、応答時間モニター 2 の限界以下であるトランザクションの数。	PD (7,0)

フィールド名	説明	属性
LRBKT3	3 番目の応答時間モニター・ブラケット内のトランザクション: 応答時間モニター 2 より大きく、応答時間モニター 3 の限界以下であるトランザクションの数。	PD (7,0)
LRBKT4	4 番目の応答時間モニター・ブラケット内のトランザクション: 応答時間モニター 3 より大きく、応答時間モニター 4 の限界以下であるトランザクションの数。	PD (7,0)
LRBKT5	5 番目の応答時間モニター・ブラケット内のトランザクション: 応答時間モニター 4 の限界よりも上の (長い) トランザクションの数。	PD (7,0)
LRPORT	ワークステーションのポート番号。	PD (3,0)
LRSTN	ワークステーション番号。	PD (3,0)
LRTRNS	オーバーフロー (LRBKT5) を含む、このレコードで測定され報告されたすべてのやり取りの個々の時間すべての合計。すべてのトランザクションの合計時間 (秒単位)。	PD (7,0)
LRCUD	制御装置記述名。	C (10)

### 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリとファイルの関係』  
収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

### 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンド  
パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成  
(CRTPFRDTA) コマンドを参照してください。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMSAP

このデータベース・ファイルには、サービス・アクセス・ポイント (SAP) ファイル項目が含まれており、  
SAP ファイル内のフィールドをリストしています。

活動状態の TRLAN、イーサネット、DDI、およびフレーム・リレー回線記述の SAP 統計が報告されます  
(それぞれは、TRLAN、イーサネット、DDI、およびフレーム・リレー・ポートに関連付けられています)。  
また SAP 統計は、トークンリングおよびイーサネット LAN エミュレーションをサポートする ATM ポ  
ートについても報告します。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yyymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
SCIOPI	予約済み	C (1)

フィールド名	説明	属性
SCTYPE	このレコードに表示されている IOP またはアダプターの資源タイプ。	C (4)
SCSSAP	SSAP ID: ソース SAP (SSAP) ID。	C (2)
SCLND	回線記述: 上記でリストされている SAP を含む、回線の記述の名前。フレーム・リレーの場合、これはネットワーク・インターフェース (NWI) 記述です。	C (10)
SCLSPD	回線速度: 回線のビット/秒 (bps) 速度。複数の回線の場合、この値は時間によって変わることがあります。	PD (11,0)
SCIRCV	受信した UI フレーム: この SSAP で受信した UI フレームの合計数。	PD (11,0)
SCIXMT	送信した UI フレーム: この SSAP で送信した UI フレームの合計数。	PD (11,0)
SCBRCV	受信した UI バイト: UI フレーム内に含まれている、この SSAP で受信したバイトの合計数。	PD (11,0)
SCBXMT	送信した UI バイト: UI フレーム内に含まれている、この SSAP で送信したバイトの合計数。	PD (11,0)
SCIDSC	この SSAP で受信し、廃棄された UI フレームの数。	PD (11,0)
SCPRCL	プロトコル・タイプは、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• E:トークンリング</li> <li>• F:DDI</li> <li>• T:イーサネット</li> <li>• Y:フレーム・リレー</li> </ul>	C (1)

### 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリーとファイルの関係』  
 収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
 オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
 データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

### 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンド  
 パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成  
 (CRTPFRDTA) コマンドを参照してください。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMSNA

このデータベース・ファイルでは、システム・ネットワーク体系 (SNA) ファイル・レコード内のフィールド  
 を定義しています。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプ ル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yyymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日 付と時刻。	C (12)



フィールド名	説明	属性
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
SCTLNM	制御装置記述名。	C (10)
SLINNM	回線記述名。	C (10)
STSKNM	T2 端末入出力管理機能 (SIOM) のタスク名。	C (6)
SLIOMT	回線入出力管理機能のタスク名。	C (6)
SACPNM	隣接制御点 (CP) 名。	C (8)
SANWID	隣接ネットワーク ID。	C (8)
SAPPN	APPN 可能 (Y=はい、N=いいえ)。	C (1)
SCTYP	制御装置タイプ (A=APPC、H=ホスト)。	C (1)
SSMFS	送信最大フレーム・サイズ。	PD (11,0)
SRMFS	受信最大フレーム・サイズ。	PD (11,0)
STLLBU	隣接システムとの最新の接続が確立された時の日付 (yymmdd) および時間 (hhmmss)。	C (12)
SNLBU	リモート・システムとの接続が確立された回数。	PD (11,0)
STACVO	デバイスを自動的に作成またはオンに構成変更 (あるいはその両方) するのにかかった累積経過時間。	PD (11,0)
SNACVO	自動的に作成またはオンに構成変更 (あるいはその両方) した装置の数。	PD (11,0)
SNADD	自動的に削除された装置の数。	PD (11,0)
SNWAIN	他の T2 SIOM タスクから送信される作業活動の数 (受け取ったメッセージなど)。	PD (11,0)
SNWAOU	他の T2 SIOM タスクに送信される作業活動の数 (受け取ったメッセージなど)。	PD (11,0)
以下のフィールドは末端地点セッション属性を参照します。		
ENNSS	開始されたネットワーク優先順位セッションの数。	PD (11,0)
ENNSE	終了されたネットワーク優先順位セッションの数。	PD (11,0)
ENNB	すべてのネットワーク優先順位セッションで送信および受信された、開始ブラケットを持つ要求単位の数。	PD (11,0)
ENNEB	すべてのネットワーク優先順位セッションで送信および受信された、終了ブラケットを持つ要求単位の数。	PD (11,0)
ENSPWT	セッション・レベル送信メッセージによるすべてのネットワーク優先順位セッションの累積待ち時間 (ミリ秒単位)。この待ち時間は、隣接システムから受け取るペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間を測定します。	PD (11,0)
ENSPNW	セッション・レベル送信ペーシングでのすべてのネットワーク優先順位セッションで発生した待機の数。つまり、隣接システムから受け取るペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
ENSPPW	セッション・レベル送信ペーシングでのすべてのネットワーク優先順位セッションで発生する可能性がある待機の数。これは、隣接システムが送信する各ペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データの送信が遅れた時に発生する最悪の場合です。	PD (11,0)
ENSPWS	セッション・レベル送信ペーシングでのすべてのネットワーク優先順位セッションの累積ウィンドウ・サイズ。ネットワーク優先順位セッションで隣接システムからペーシング応答を受信するたびに、このカウントは、ペーシング応答で指定したウィンドウ・サイズずつ増加します。	PD (11,0)
ENIPWT	内部セッション・レベル・ペーシングでのすべてのネットワーク優先順位セッションの累積待ち時間 (ミリ秒単位)。つまり、隣接システムに転送されるデータを待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)
ENIPNW	内部セッション・レベル・ペーシングでのすべてのネットワーク優先順位セッションで発生した待機の数。つまり、隣接システムに転送されるデータを待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)
ENQNRE	送信優先順位待ち行列に入れる、ネットワーク優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
ENQLRE	送信優先順位待ち行列に入れる、ネットワーク優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
ENQNRL	送信優先順位待ち行列から出す、ネットワーク優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
ENQLRL	送信優先順位待ち行列から出す、ネットワーク優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
ENQTRR	ネットワーク送信優先順位の待ち行列内での累積待ち時間。	PD (11,0)
ENNRUD	隣接システムに転送される、ネットワーク優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
ENLRUD	隣接システムに転送される、ネットワーク優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
ENTRUD	ネットワーク優先順位の要求応答単位を隣接システムに転送する累積サービス時間。	PD (11,0)
ENNRUR	隣接システムから受信される、ネットワーク優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
ENLRUR	隣接システムから受信される、ネットワーク優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
EHNSS	開始された高優先順位セッションの数。	PD (11,0)
EHNSE	終了された高優先順位セッションの数。	PD (11,0)
EHNBB	すべての高優先順位セッションで送信および受信された、開始ブラケットを持つ要求単位の数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
EHNEB	すべての高優先順位セッションで送信および受信された、終了ブラケットを持つ要求単位の数。	PD (11,0)
EHSPWT	セッション・レベル送信メッセージによるすべての高優先順位セッションの累積待ち時間 (ミリ秒単位)。この待ち時間は、隣接システムから受け取るペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間を測定します。	PD (11,0)
EHSPNW	セッション・レベル送信ペーシングでのすべての高優先順位セッションで発生した待機の数。つまり、隣接システムから受け取るペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)
EHSPPW	セッション・レベル送信ペーシングでのすべての高優先順位セッションで発生する可能性がある待機の数。これは、隣接システムが送信する各ペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データの送信が遅れた時に発生する最悪の場合です。	PD (11,0)
EHSPWS	セッション・レベル送信ペーシングでのすべての高優先順位セッションの累積ウィンドウ・サイズ。ネットワーク優先順位セッションで隣接システムからペーシング応答を受信するたびに、このカウントは、ペーシング応答で指定したウィンドウ・サイズずつ増加します。	PD (11,0)
EHIPWT	内部セッション・レベル・ペーシングでのすべての高優先順位セッションの累積待ち時間 (ミリ秒単位)。つまり、隣接システムに転送されるデータを待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)
EHIPNW	内部セッション・レベル・ペーシングでのすべての高優先順位セッションで発生した待機の数。つまり、隣接システムに転送されるデータを待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)
EHQNRE	送信優先順位待ち行列に入れる、高優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
EHQLRE	送信優先順位待ち行列に入れる、高優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
EHQNRL	送信優先順位待ち行列から出す、高優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
EHQLRL	送信優先順位待ち行列から出す、高優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
EHQTRR	高送信優先順位の待ち行列内での累積待ち時間。	PD (11,0)
EHN Rud	隣接システムに転送される、高優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
EHL Rud	隣接システムに転送される、高優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
EHR Rud	高優先順位の要求応答単位を隣接システムに転送する累積サービス時間。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
EHNRRUR	隣接システムから受信される、高優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
EHLRUR	隣接システムから受信される、高優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
EMNSS	開始された中優先順位セッションの数。	PD (11,0)
EMNSE	終了された中優先順位セッションの数。	PD (11,0)
EMNBB	すべての中優先順位セッションで送信および受信された、開始ブラケットを持つ要求単位の数。	PD (11,0)
EMNEB	すべての中優先順位セッションで送信および受信された、終了ブラケットを持つ要求単位の数。	PD (11,0)
EMSPWT	セッション・レベル送信メッセージによるすべての中優先順位セッションの累積待ち時間 (ミリ秒単位)。この待ち時間は、隣接システムから受け取るペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間を測定します。	PD (11,0)
EMSPNW	セッション・レベル送信ペーシングでのすべての中優先順位セッションで発生した待機の数。つまり、隣接システムから受け取るペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)
EMSPPW	セッション・レベル送信ペーシングでのすべての中優先順位セッションで発生する可能性がある待機の数。これは、隣接システムが送信する各ペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データの送信が遅れた時に発生する最悪の場合です。	PD (11,0)
EMSPWS	セッション・レベル送信ペーシングでのすべての中優先順位セッションの累積ウィンドウ・サイズ。ネットワーク優先順位セッションで隣接システムからペーシング応答を受信するたびに、このカウントは、ペーシング応答で指定したウィンドウ・サイズずつ増加します。	PD (11,0)
EMIPWT	内部セッション・レベル・ペーシングでのすべての中優先順位セッションの累積待ち時間 (ミリ秒単位)。つまり、隣接システムに転送されるデータを待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)
EMIPNW	内部セッション・レベル・ペーシングでのすべての中優先順位セッションで発生した待機の数。つまり、隣接システムに転送されるデータを待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)
EMQNRE	送信優先順位待ち行列に入れる、中優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
EMQLRE	送信優先順位待ち行列に入れる、中優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
EMQNRL	送信優先順位待ち行列から出す、中優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
EMQLRL	送信優先順位待ち行列から出す、中優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
EMQTRR	中送信優先順位の待ち行列内での累積待ち時間。	PD (11,0)
EMNRUD	隣接システムに転送される、中優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
EMLRUD	隣接システムに転送される、中優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
EMTRUD	中優先順位の要求応答単体を隣接システムに転送する累積サービス時間。	PD (11,0)
EMNRUR	隣接システムから受信される、中優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
EMLRUR	隣接システムから受信される、中優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
ELNSS	開始された低優先順位セッションの数。	PD (11,0)
ELNSE	終了された低優先順位セッションの数。	PD (11,0)
ELNBB	すべての低優先順位セッションで送信および受信された、開始ブラケットを持つ要求単位の数。	PD (11,0)
ELNEB	すべての低優先順位セッションで送信および受信された、終了ブラケットを持つ要求単位の数。	PD (11,0)
ELSPWT	セッション・レベル送信メッセージによるすべての低優先順位セッションの累積待ち時間 (ミリ秒単位)。この待ち時間は、隣接システムから受け取るペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間を測定します。	PD (11,0)
ELSPNW	セッション・レベル送信ペーシングでのすべての低優先順位セッションで発生した待機の数。つまり、隣接システムから受け取るペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)
ELSPPW	セッション・レベル送信ペーシングでのすべての低優先順位セッションで発生する可能性がある待機の数。これは、隣接システムが送信する各ペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データの送信が遅れた時に発生する最悪の場合です。	PD (11,0)
ELSPWS	セッション・レベル送信ペーシングでのすべての低優先順位セッションの累積ウィンドウ・サイズ。ネットワーク優先順位セッションで隣接システムからペーシング応答を受信するたびに、このカウントは、ペーシング応答で指定したウィンドウ・サイズずつ増加します。	PD (11,0)
ELIPWT	内部セッション・レベル・ペーシングでのすべての低優先順位セッションの累積待ち時間 (ミリ秒単位)。つまり、隣接システムに転送されるデータを待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
ELIPNW	内部セッション・レベル・ペーシングでのすべての低優先順位セッションで発生した待機の数。つまり、隣接システムに転送されるデータを待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)
ELQNRE	送信優先順位待ち行列に入れる、低優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
ELQLRE	送信優先順位待ち行列に入れる、低優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
ELQNRL	送信優先順位待ち行列から出す、低優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
ELQLRL	送信優先順位待ち行列から出す、低優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
ELQTRR	低送信優先順位の待ち行列内での累積待ち時間。	PD (11,0)
ELNRUD	隣接システムに転送される、低優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
ELLRUD	隣接システムに転送される、低優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
ELTRUD	低優先順位の要求応答単位を隣接システムに転送する累積サービス時間。	PD (11,0)
ELNRUR	隣接システムから受信される、低優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
ELLRUR	隣接システムから受信される、低優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
以下のフィールドは中間セッションを参照します。		
INNSS	開始されたネットワーク優先順位セッションの数。	PD (11,0)
INNSE	終了されたネットワーク優先順位セッションの数。	PD (11,0)
INNBB	すべてのネットワーク優先順位セッションで送信および受信された、開始ブラケットを持つ要求単位の数。	PD (11,0)
INNEB	すべてのネットワーク優先順位セッションで送信および受信された、終了ブラケットを持つ要求単位の数。	PD (11,0)
INSPWT	セッション・レベル送信メッセージによるすべてのネットワーク優先順位セッションの累積待ち時間 (ミリ秒単位)。この待ち時間は、隣接システムから受け取るペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間を測定します。	PD (11,0)
INSPNW	セッション・レベル送信ペーシングでのすべてのネットワーク優先順位セッションで発生した待機の数。つまり、隣接システムから受け取るペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
INSPPW	セッション・レベル送信ペースングでのすべてのネットワーク優先順位セッションで発生する可能性がある待機の数。これは、隣接システムが送信する各ペースング応答を待つことにより、アプリケーション・データの送信が遅れた時に発生する最悪の場合です。	PD (11,0)
INSPWS	セッション・レベル送信ペースングでのすべてのネットワーク優先順位セッションの累積ウィンドウ・サイズ。ネットワーク優先順位セッションで隣接システムからペースング応答を受信するたびに、このカウントは、ペースング応答で指定したウィンドウ・サイズずつ増加します。	PD (11,0)
INIPWT	内部セッション・レベル・ペースングでのすべてのネットワーク優先順位セッションの累積待ち時間 (ミリ秒単位)。つまり、隣接システムに転送されるデータを待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)
INIPNW	内部セッション・レベル・ペースングでのすべてのネットワーク優先順位セッションで発生した待機の数。つまり、隣接システムに転送されるデータを待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)
INQNRE	送信優先順位待ち行列に入れる、ネットワーク優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
INQLRE	送信優先順位待ち行列に入れる、ネットワーク優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
INQNRL	送信優先順位待ち行列から出す、ネットワーク優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
INQLRL	送信優先順位待ち行列から出す、ネットワーク優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
INQTRR	ネットワーク送信優先順位の待ち行列内での累積待ち時間。	PD (11,0)
INNRUD	隣接システムに転送される、ネットワーク優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
INLRUD	隣接システムに転送される、ネットワーク優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
INTRUD	ネットワーク優先順位の要求応答単位を隣接システムに転送する累積サービス時間。	PD (11,0)
INNRUR	隣接システムから受信される、ネットワーク優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
INLRUR	隣接システムから受信される、ネットワーク優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
IHNSS	開始された高優先順位セッションの数。	PD (11,0)
IHNSE	終了された高優先順位セッションの数。	PD (11,0)
IHNBB	すべての高優先順位セッションで送信および受信された、開始ブラケットを持つ要求単位の数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
IHNEB	すべての高優先順位セッションで送信および受信された、終了ブラケットを持つ要求単位の数。	PD (11,0)
IHSPWT	セッション・レベル送信メッセージによるすべての高優先順位セッションの累積待ち時間 (ミリ秒単位)。この待ち時間は、隣接システムから受け取るペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間を測定します。	PD (11,0)
IHSPNW	セッション・レベル送信ペーシングでのすべての高優先順位セッションで発生した待機の数。つまり、隣接システムから受け取るペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)
IHSPPW	セッション・レベル送信ペーシングでのすべての高優先順位セッションで発生する可能性がある待機の数。これは、隣接システムが送信する各ペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データの送信が遅れた時に発生する最悪の場合です。	PD (11,0)
IHSPWS	セッション・レベル送信ペーシングでのすべての高優先順位セッションの累積ウィンドウ・サイズ。ネットワーク優先順位セッションで隣接システムからペーシング応答を受信するたびに、このカウントは、ペーシング応答で指定したウィンドウ・サイズずつ増加します。	PD (11,0)
IHIPWT	内部セッション・レベル・ペーシングでのすべての高優先順位セッションの累積待ち時間 (ミリ秒単位)。つまり、隣接システムに転送されるデータを待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)
IHIPNW	内部セッション・レベル・ペーシングでのすべての高優先順位セッションで発生した待機の数。つまり、隣接システムに転送されるデータを待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)
IHQNRE	送信優先順位待ち行列に入れる、高優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
IHQLRE	送信優先順位待ち行列に入れる、高優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
IHQNRL	送信優先順位待ち行列から出す、高優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
IHQLRL	送信優先順位待ち行列から出す、高優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
IHQTRR	高送信優先順位の待ち行列内での累積待ち時間。	PD (11,0)
IHNRUD	隣接システムに転送される、高優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
IHLRUD	隣接システムに転送される、高優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
IHTRUD	高優先順位の要求応答単位を隣接システムに転送する累積サービス時間。	PD (11,0)



フィールド名	説明	属性
IHNRRUR	隣接システムから受信される、高優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
IHLRUR	隣接システムから受信される、高優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
IMNSS	開始された中優先順位セッションの数。	PD (11,0)
IMNSE	終了された中優先順位セッションの数。	PD (11,0)
IMNBB	すべての中優先順位セッションで送信および受信された、開始ブラケットを持つ要求単位の数。	PD (11,0)
IMNEB	すべての中優先順位セッションで送信および受信された、終了ブラケットを持つ要求単位の数。	PD (11,0)
IMSPWT	セッション・レベル送信メッセージによるすべての中優先順位セッションの累積待ち時間 (ミリ秒単位)。この待ち時間は、隣接システムから受け取るペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間を測定します。	PD (11,0)
IMSPNW	セッション・レベル送信ペーシングでのすべての中優先順位セッションで発生した待機の数。つまり、隣接システムから受け取るペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)
IMSPPW	セッション・レベル送信ペーシングでのすべての中優先順位セッションで発生する可能性がある待機の数。これは、隣接システムが送信する各ペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データの送信が遅れた時に発生する最悪の場合です。	PD (11,0)
IMSPWS	セッション・レベル送信ペーシングでのすべての中優先順位セッションの累積ウィンドウ・サイズ。ネットワーク優先順位セッションで隣接システムからペーシング応答を受信するたびに、このカウントは、ペーシング応答で指定したウィンドウ・サイズずつ増加します。	PD (11,0)
IMIPWT	内部セッション・レベル・ペーシングでのすべての中優先順位セッションの累積待ち時間 (ミリ秒単位)。つまり、隣接システムに転送されるデータを待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)
IMIPNW	内部セッション・レベル・ペーシングでのすべての中優先順位セッションで発生した待機の数。つまり、隣接システムに転送されるデータを待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)
IMQNRE	送信優先順位待ち行列に入れる、中優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
IMQLRE	送信優先順位待ち行列に入れる、中優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
IMQNRL	送信優先順位待ち行列から出す、中優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
IMQLRL	送信優先順位待ち行列から出す、中優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
IMQTRR	中送信優先順位の待ち行列内での累積待ち時間。	PD (11,0)
IMNRUD	隣接システムに転送される、中優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
IMLRUD	隣接システムに転送される、中優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
IMTRUD	中優先順位の要求応答単体を隣接システムに転送する累積サービス時間。	PD (11,0)
IMNRUR	隣接システムから受信される、中優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
IMLRUR	隣接システムから受信される、中優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
ILNSS	開始された低優先順位セッションの数。	PD (11,0)
ILNSE	終了された低優先順位セッションの数。	PD (11,0)
ILNBB	すべての低優先順位セッションで送信および受信された、開始ブラケットを持つ要求単位の数。	PD (11,0)
ILNEB	すべての低優先順位セッションで送信および受信された、終了ブラケットを持つ要求単位の数。	PD (11,0)
ILSPWT	セッション・レベル送信メッセージによるすべての低優先順位セッションの累積待ち時間 (ミリ秒単位)。この待ち時間は、隣接システムから受け取るペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間を測定します。	PD (11,0)
ILSPNW	セッション・レベル送信ペーシングでのすべての低優先順位セッションで発生した待機の数。つまり、隣接システムから受け取るペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)
ILSPPW	セッション・レベル送信ペーシングでのすべての低優先順位セッションで発生する可能性がある待機の数。これは、隣接システムが送信する各ペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データの送信が遅れた時に発生する最悪の場合です。	PD (11,0)
ILSPWS	セッション・レベル送信ペーシングでのすべての低優先順位セッションの累積ウィンドウ・サイズ。ネットワーク優先順位セッションで隣接システムからペーシング応答を受信するたびに、このカウントは、ペーシング応答で指定したウィンドウ・サイズずつ増加します。	PD (11,0)
ILIPWT	内部セッション・レベル・ペーシングでのすべての低優先順位セッションの累積待ち時間 (ミリ秒単位)。つまり、隣接システムに転送されるデータを待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
ILIPNW	内部セッション・レベル・ペーシングでのすべての低優先順位セッションで発生した待機の数。つまり、隣接システムに転送されるデータを待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)
ILQNRE	送信優先順位待ち行列に入れる、低優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
ILQLRE	送信優先順位待ち行列に入れる、低優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
ILQNRL	送信優先順位待ち行列から出す、低優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
ILQLRL	送信優先順位待ち行列から出す、低優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
ILQTRR	低送信優先順位の待ち行列内での累積待ち時間。	PD (11,0)
ILNRUD	隣接システムに転送される、低優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
ILLRUD	隣接システムに転送される、低優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
ILTRUD	低優先順位の要求応答単位を隣接システムに転送する累積サービス時間。	PD (11,0)
ILNRUR	隣接システムから受信される、低優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
ILLRUR	隣接システムから受信される、低優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)

#### 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリーとファイルの関係』  
収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

#### 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンド  
パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成  
(CRTPFRDTA) コマンドを参照してください。

### 収集サービス・データ・ファイル: QAPMSNADS

このデータベース・ファイルでは、SNA 配布サービス (SNADS) ファイル・レコード内のフィールドを定義しています。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)

フィールド名	説明	属性
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
SNJNAM	SNADS ジョブ名。	C (10)
SNJUSR	SNADS ジョブ・ユーザー。	C (10)
SNJNBR	SNADS ジョブ番号。	C(6)
SNFTYP	これは、このジョブが実行している SNADS 機能を示す SNADS 機能タイプです。 SNFTYP フィールドは、この SNADS ジョブが扱う活動のタイプを判別するのに使用します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 -- SNADS ルーター</li> <li>• 2 -- SNADS 受信機能</li> <li>• 3 -- SNADS 送信機能</li> <li>• 8 -- SNADS DLS ゲート (文書ライブラリー・サービス)</li> <li>• 9 -- SNADS RPDS ゲート (VM/MVS ブリッジ、SMTP、X.400)</li> </ul>	PD (3,0)
SNNTR	トランザクション・カウント。	PD (11,0)
SNTRT	トランザクション時間: 配布が待ち行列に置かれてから、このジョブ内でのその配布の処理が完了するまでの時間	PD (11,0)
SNRUT	資源使用時間: 配布が処理される時間の合計 (配布が待ち行列で待っている時間は含まれません)。	PD (11,0)
SNATN	活動状態移行: 条件 (処理する配布) が満たされるまでの待機と配布の処理の開始の間の移行の数。	PD (11,0)
SNERR	エラー・カウント: エラー終了したトランザクションの数。	PD (11,0)
SNNRC	宛先の数: 配布で識別されている宛先の数。	PD (11,0)
SNFSO	ファイル・サーバー・オブジェクト (FSO) カウント: データ・オブジェクトまたは文書を処理するのに必要なトランザクションの数。	PD (11,0)
SNFSOB	FSO バイト・カウント: トランザクションによって処理される FSO (データ・オブジェクトおよび文書) のサイズ。	PD (11,0)
SNFOC	ファンアウト・カウント: 経路指定中に配布のコピーを受信した配布待ち行列の数の累算値。ルーターが処理する配布が 1 つの場合、この値は、配布がシステムから出される送信側トランザクション (パス) の数です。これは、システムから出される配布コピーの数です。(このフィールドをサポートしているのは、ルーター・ジョブのみです。)	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
SNLOC	ローカル転送待ち行列が、経路指定中に配布のコピーを受け取った場合は '1' に設定されます。これは、ローカル・システムがその配布の宛先だったことを示しています。(このフィールドをサポートしているのは、ルーター・ジョブのみです。)	PD (11,0)

### 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリとファイルの関係』  
収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL) オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

### 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRTA) コマンド  
パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRTA) コマンドを参照してください。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMSTND

このデータベース・ファイルには、FDDI 端末ファイル項目が含まれています。

これは、分散データ・インターフェース (DDI) 情報用の端末カウンター・ファイルです。これらのフィールドは DDI 端末カウンター・ファイル内にあります。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
SDIOPI	予約済み	C (1)
SDTYPE	このレコードに表示されている IOP またはアダプターの資源タイプ。	C (4)
SDPCEP	プロバイダー接続末端地点 (PCEP) ID。	C (8)
SDLND	回線記述: この回線の記述の名前。	C (10)
SDSTNN	端末名: この回線上の端末の名前。	C (10)
SDLSPD	回線速度: ビット/秒 (bps) で表される回線速度。	PD (11,0)
SDTXMT	送信されたタイプ II フレームの合計数。	PD (11,0)
SDTRCV	受信されたタイプ II フレームの合計数。	PD (11,0)
SDBXMT	すべての I フレーム内の送信されたバイトの合計数。	PD (11,0)
SDBRCV	すべての I フレーム内の受信されたバイトの合計数。	PD (11,0)
SDIXMT	送信された I フレームの合計数。	PD (11,0)
SDIRCV	受信された I フレームの合計数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
SDIREX	再送された I フレームの数。	PD (11,0)
SDBREX	I フレーム内での再送されたバイト数。	PD (11,0)
SDRNRX	送信された受信不可のフレームの数。	PD (5,0)
SDRNR	受信された受信不可のフレームの数。	PD (5,0)
SDFRMX	送信されたフレーム拒否のフレームの数。	PD (5,0)
SDFRMR	受信されたフレーム拒否のフレームの数。	PD (5,0)
SDREJR	受信された拒否フレームの数。	PD (5,0)
SDREJX	送信された拒否フレームの数。	PD (5,0)
SDSABX	送信された拡張非同期平衡モード設定のフレームの数。	PD (5,0)
SDSABR	受信された拡張非同期平衡モード設定のフレームの数。	PD (5,0)
SDDISX	送信された切断フレームの数。	PD (5,0)
SDDISR	受信された切断フレームの数。	PD (5,0)
SDDMF	送信された切断モード・フレームの数。	PD (5,0)
SDDMFR	受信された切断モード・フレームの数。	PD (5,0)
SDN2RE	N2 再試行終了カウント: このカウントは、ホストが端末への通信を n 回試行し、端末が応答する前に T1 タイマーが n 回終了した時点で更新されます。	PD (5,0)
SDT1TE	T1 タイマー終了カウント: T1 タイマーが終了した回数。このカウントは、ホストが端末への通信を n 回試行し、端末が応答する前に T1 タイマーが n 回終了した時点で更新されます。	PD (5,0)
SDTITE	Ti タイマー終了カウント: Ti タイマー (非活動タイマー) が終了した回数。	PD (5,0)
SDLBCT	ローカル・ビジー・カウント: 端末がローカル・ビジー副状態になった回数。	PD (5,0)
SDPRCL	プロトコル・タイプ: C (DDI 用)。	C (1)

## 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリーとファイルの関係』  
収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

## 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンド  
パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成  
(CRTPFRDTA) コマンドを参照してください。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMSTNE

このデータベース・ファイルには、イーサネット端末ファイル項目が含まれており、イーサネット端末ファイル内のフィールドをリストしています。

イーサネット LAN 端末統計は、イーサネット・ポート、およびイーサネット LAN エミュレーションをサポートする ATM ポートと関連付けられている、活動状態のイーサネット回線記述について報告しま

す。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFDRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
STIOPI	予約済み	C (1)
STTYPE	このレコードに表示されている IOP またはアダプターの資源タイプ。	C (4)
STPCEP	プロバイダー接続エンドポイント (PCEP) ID。	C (8)
STLND	回線記述: この回線の記述の名前。	C (10)
STSTNN	端末名: この回線上の端末の名前。	C (10)
STLSPD	回線速度: ビット/秒 (bps) で表される回線速度。複数の回線の場合、この値は時間によって変わることがあります。	PD (11,0)
STTXMT	送信されたタイプ II フレームの合計数。	PD (11,0)
STTRCV	受信されたタイプ II フレームの合計数。	PD (11,0)
STBXMT	すべての I フレーム内の送信されたバイトの合計数。	PD (11,0)
STBRCV	すべての I フレーム内の受信されたバイトの合計数。	PD (11,0)
STIXMT	送信された I フレームの合計数。	PD (11,0)
STIRCV	受信された I フレームの合計数。	PD (11,0)
STIREX	再送された I フレームの数。	PD (11,0)
STBREX	I フレーム内での再送されたバイト数。	PD (11,0)
STRNRX	送信された受信不可のフレームの数。	PD (5,0)
STRNRR	受信された受信不可のフレームの数。	PD (5,0)
STFRMX	送信されたフレーム拒否のフレームの数。	PD (5,0)
STFRMR	受信されたフレーム拒否のフレームの数。	PD (5,0)
STREJR	受信された拒否フレームの数。	PD (5,0)
STREJX	送信された拒否フレームの数。	PD (5,0)
STSABX	送信された拡張非同期平衡モード設定のフレームの数。	PD (5,0)
STSABR	受信された拡張非同期平衡モード設定のフレームの数。	PD (5,0)
STDISX	送信された切断フレームの数。	PD (5,0)
STDISR	受信された切断フレームの数。	PD (5,0)
STDMFX	送信された切断モード・フレームの数。	PD (5,0)
STDMFR	受信された切断モード・フレームの数。	PD (5,0)
STN2RE	N2 再試行終了カウント: このカウントは、ホストが端末への通信を n 回試行し、端末が応答する前に T1 タイマーが n 回終了した時点で更新されます。	PD (5,0)

フィールド名	説明	属性
STTITE	T1 タイマー終了カウント: T1 タイマーが終了した回数。このカウントは、ホストが端末への通信を n 回試行し、端末が応答する前に T1 タイマーが n 回終了した時点で更新されます。	PD (5,0)
STTITE	Ti タイマー終了カウント: Ti タイマー (非活動タイマー) が終了した回数。	PD (5,0)
STLBCT	ローカル・ビジー・カウント: 端末がローカル・ビジー副状態になった回数。	PD (5,0)
STPRCL	プロトコル・タイプ: T (イーサネット・ネットワーク用)	C (1)

### 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリーとファイルの関係』  
収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

### 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRTA) コマンド  
パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成  
(CRTPFRTA) コマンドを参照してください。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMSTNL

このデータベース・ファイルには、トークンリング端末ファイル項目が含まれており、トークンリング・ローカル・エリア・ネットワーク (LAN) 端末ファイル内のフィールドをリストしています。

トークンリング LAN 端末統計は、イーサネット・ポート、およびトークンリング LAN エミュレーションをサポートする ATM ポートと関連付けられている、活動状態のトークンリング回線記述について報告します。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
SLIOPI	予約済み	C (1)
SLTYPE	このレコードに表示されている IOP またはアダプターの資源タイプ。	C (4)
SLPCEP	プロバイダー接続末端地点 (PCEP) ID。	C (8)
SLLND	回線記述: この回線の記述の名称。	C (10)
SLSTNN	端末名: この回線上の端末の名称。	C (10)
SLLSPD	回線速度: ビット/秒 (bps) で表される回線速度。	PD (11,0)
SLTXMT	送信されたタイプ II フレームの合計数。	PD (11,0)



フィールド名	説明	属性
SLTRCV	受信されたタイプ II フレームの合計数。	PD (11,0)
SLBXMT	すべての I フレーム内の送信されたバイトの合計数。	PD (11,0)
SLBRCV	すべての I フレーム内の受信されたバイトの合計数。	PD (11,0)
SLIXMT	送信された I フレームの合計数。	PD (11,0)
SLIRCV	受信された I フレームの合計数。	PD (11,0)
SLIREX	再送された I フレームの数。	PD (11,0)
SLBREX	I フレーム内での再送されたバイト数。	PD (11,0)
SLRNRX	送信された受信不可のフレームの数。	PD (5,0)
SLRNRR	受信された受信不可のフレームの数。	PD (5,0)
SLFRMX	送信されたフレーム拒否のフレームの数。	PD (5,0)
SLFRMR	受信されたフレーム拒否のフレームの数。	PD (5,0)
SLREJR	受信された拒否フレームの数。	PD (5,0)
SLREJX	送信された拒否フレームの数。	PD (5,0)
SLSABX	送信された拡張非同期平衡モード設定のフレームの数。	PD (5,0)
SLSABR	受信された拡張非同期平衡モード設定のフレームの数。	PD (5,0)
SLDISX	送信された切断フレームの数。	PD (5,0)
SLDISR	受信された切断フレームの数。	PD (5,0)
SLDMFX	送信された切断モード・フレームの数。	PD (5,0)
SLDMFR	受信された切断モード・フレームの数。	PD (5,0)
SLN2RE	N2 再試行終了カウント: このカウントは、ホストが端末への通信を n 回試行し、端末が応答する前に T1 タイマーが n 回終了した時点で更新されます。	PD (5,0)
SLT1TE	T1 タイマー終了カウント: T1 タイマーが終了した回数。このカウントは、ホストが端末への通信を n 回試行し、端末が応答する前に T1 タイマーが n 回終了した時点で更新されます。	PD (5,0)
SLTITE	Ti タイマー終了カウント: Ti タイマー (非活動タイマー) が終了した回数。	PD (5,0)
SLLBCT	ローカル・ビジー・カウント: 端末がローカル・ビジー副状態になった回数。	PD (5,0)
SLPRCL	プロトコル・タイプ: E (トークンリング・ネットワーク用)	C (1)

## 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリーとファイルの関係』  
収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

## 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRTA) コマンド  
パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成  
(CRTPFRTA) コマンドを参照してください。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMSTNY

このデータベース・ファイルには、フレーム・リレー端末ファイル項目が含まれており、フレーム・リレー端末ファイル内のフィールドをリストしています。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
SYIOPI	予約済み	C (1)
SYTYPE	このレコードに表示されている IOP またはアダプターの資源タイプ。	C (4)
SYPCEP	プロバイダー接続末端地点 (PCEP) ID。	C (8)
SYLND	ネットワーク・インターフェース (NWI) 記述: このネットワーク・インターフェースの記述の名前。	C (10)
SYSTNN	端末名: この回線上の端末の名前。	C (10)
SYLSPD	回線速度: ビット/秒 (bps) で表される回線速度。	PD (11,0)
SYTXMT	送信されたタイプ II フレームの合計数。	PD (11,0)
SYTRCV	受信されたタイプ II フレームの合計数。	PD (11,0)
SYBXMT	すべての I フレーム内の送信されたバイトの合計数。	PD (11,0)
SYBRCV	すべての I フレーム内の受信されたバイトの合計数。	PD (11,0)
SYIXMT	送信された I フレームの合計数。	PD (11,0)
SYIRCV	受信された I フレームの合計数。	PD (11,0)
SYIREX	再送された I フレームの数。	PD (11,0)
SYBEX	I フレーム内での再送されたバイト数。	PD (11,0)
SYRNRX	送信された受信不可のフレームの数。	PD (5,0)
SYRNR	受信された受信不可のフレームの数。	PD (5,0)
SYFRMX	送信されたフレーム拒否のフレームの数。	PD (5,0)
SYFRMR	受信されたフレーム拒否のフレームの数。	PD (5,0)
SYREJR	受信された拒否フレームの数。	PD (5,0)
SYREJX	送信された拒否フレームの数。	PD (5,0)
SYSABX	送信された拡張非同期平衡モード設定のフレームの数。	PD (5,0)
SYSABR	受信された拡張非同期平衡モード設定のフレームの数。	PD (5,0)
SYDISX	送信された切断フレームの数。	PD (5,0)
SYDISR	受信された切断フレームの数。	PD (5,0)
SYDMFX	送信された切断モード・フレームの数。	PD (5,0)
SYDMFR	受信された切断モード・フレームの数。	PD (5,0)
SYN2RE	N2 再試行終了カウント: このカウントは、ホストが端末への通信を n 回試行し、端末が応答する前に T1 タイマーが n 回終了した時点で更新されます。	PD (5,0)

フィールド名	説明	属性
SYTITE	T1 タイマー終了カウント: T1 タイマーが終了した回数。このカウントは、ホストが端末への通信を n 回試行し、端末が応答する前に T1 タイマーが n 回終了した時点で更新されます。	PD (5,0)
SYTITE	Ti タイマー終了カウント: Ti タイマー (非活動タイマー) が終了した回数。	PD (5,0)
SYLBCT	ローカル・ビジー・カウント: 端末がローカル・ビジー副状態になった回数。	PD (5,0)
SYPRCL	プロトコル・タイプ: Y (フレーム・リレー用)	C (1)

### 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリーとファイルの関係』  
収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

### 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンド  
パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成  
(CRTPFRDTA) コマンドを参照してください。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMSYS および QAPMSYSL

QAPMSYS ファイルは、パフォーマンス・モニターのデータベース・ファイルがパフォーマンス・データ  
の変換 (CVTPFRDTA) コマンドによって新しいリリースにマイグレーションされるときに作成されます。

収集サービスでは、このファイルは作成されません。 QAPMSYSL ファイルは、パフォーマンス・モニター  
との互換のために作成されるもので、 QAPMJSUM、QAPMSYSCPU、および QAPMSYSTEM の各ファ  
イルのデータを結合させます。このファイルは、パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンド  
でこれらすべてのカテゴリーが要求された場合に作成されます。このファイルには、システム間隔ファイル  
の項目が含まれています。

フィールドの説明の中では、以下の用語が、ジョブのグループごとに繰り返し用いられています。

- データベース読み取り操作の数。データベース機能に対して行われた物理的な読み取り操作の合計数。
- 非データベース読み取り操作の数。非データベース機能に対して行われた物理的な読み取り操作の合計数。
- 書き出し操作の数。物理的な書き出し操作の合計数。
- 印刷行数。プログラムによって書き出された行数。実際に印刷される行数とは異なります。スプール・ファイルでは、最終的に複数のコピーが作成されたり印刷されたりする場合があります。
- データベース書き出し/読み取り (論理) の数。データベース・モジュールが呼び出された回数。読み取り/書き出しプログラムへの入出力操作、あるいはスプール・ファイルのコピー (CPYSPLF) コマンドやスプール・ファイルの表示 (DSPSPLF) コマンドによって実行された入出力操作は、これに含まれません。SEQONLY(\*YES) が有効な場合、これらの数値は、個々のレコードの読み取り/書き出しの数ではなく、各ブロックごとのレコードの読み取り/書き出しの数を示します。

- 通信書き出し/読み取り (論理) の数。これには、リモート・ワークステーションの活動は含まれません。入出力が通信デバイスに対するものである場合、システム間通信機能 (ICF) ファイルに関連して行われた活動のみがこれに含まれます。

ブロックになっている入出力は、1 つの入出力操作として認識されるので注意してください。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
SYDPGF	ディレクトリー・ページ不在: 補助記憶域ディレクトリーのページが探索や割り振り操作のために主記憶装置に転送された回数。	PD (11,0)
SYAPGF	アクセス・グループ・メンバー・ページ不在: アクセス・グループ内に含まれているオブジェクトのページがアクセス・グループから独立して主記憶装置に転送された回数。この転送は、そのページが含まれているアクセス・グループが除去された場合や、そのアクセス・グループのある部分が主記憶装置から移されたために行われます。	PD (11,0)
SYMPGF	マイクロコード・ページ不在: マイクロコードのページが主記憶装置に転送された回数。	PD (11,0)
SYMCTR	マイクロタスク読み取り操作: 処理ではなく、マイクロタスクのために 1 ページ以上のデータが補助記憶域から転送された回数。	PD (11,0)
SYMCTW	マイクロタスク書き出し操作: 処理ではなく、マイクロタスクのために 1 ページ以上のデータが主記憶装置から補助記憶域に転送された回数。	PD (11,0)
SYSASP	使用可能な補助記憶域プール・スペース: マシン・インターフェース (MI) オブジェクトやマシン内部の機能に現在割り当てられておらず、システム ASP で割り振ることのできる補助記憶域のスペースのバイト数。	PD (15,0)

フィールド名	説明	属性
SYPRMW	主記憶装置から転送された永続データ：直前のサンプル以降に、主記憶装置から補助記憶域内のシステム ASP に転送された永続データの 512 バイト・ブロックの数。	PD (11,0)
SYXSRW	予約済み	PD (11,0)
SYEAOT	予約済み	PD (11,0)
SYEAOL	予約済み	PD (11,0)
SYBSYC	予約済み	PD (11,0)
SYSIZC	サイズのカウント：サイズ例外の合計数。	PD (11,0)
SYDECD	10 進数データのカウント：10 進数データ例外の合計数。	PD (11,0)
SYSEZC	占有のカウント：占有待機の合計数。	PD (11,0)
SYSZWT	ミリ秒単位の占有/待機時間。	PD (11,0)
SYSYNL	同期ロックの競合のカウント。	PD (11,0)
SYASYL	非同期ロックの競合のカウント。	PD (11,0)
SYVFYC	検査のカウント。	PD (11,0)
SYAUTH	オブジェクト権限の検査。オブジェクトで権限が検査された回数。1 つのオブジェクト権限の検査の結果、キャッシュ付きたまたはキャッシュなしのユーザー権限探索が 0 回、1 回、または複数回行われます (SYNUAL フィールドの説明を参照)。	PD (11,0)
SYCHNB	予約済み	PD (11,0)
SYEXPN	例外の合計数。	PD (11,0)
SYLRT1	最初の応答時間モニター・ブラケット内のトランザクション：応答時間が「i5/OS」インターフェース内の「収集サービスのプロパティ」ページから「拡張ローカル応答時間オプション (Advanced Local Response Time Options)」ダイアログで指定された境界 1 の値より小さいローカル・ワークステーション・トランザクションの合計数。	PD (9,0)

フィールド名	説明	属性
SYLRT2	2 番目の応答時間モニター・ブラケット内のトランザクション: 応答時間が「i5/OS」インターフェース内の「収集サービスのプロパティ」ページから「拡張ローカル応答時間オプション (Advanced Local Response Time Options)」ダイアログで指定された境界 2 の値より小さく、境界 1 の値より大きいローカル・ワークステーション・トランザクションの合計数。	PD (9,0)
SYLRT3	3 番目の応答時間モニター・ブラケット内のトランザクション: 応答時間が「i5/OS」インターフェース内の「収集サービスのプロパティ」ページから「拡張ローカル応答時間オプション (Advanced Local Response Time Options)」ダイアログで指定された境界 3 の値より小さく、境界 2 の値より大きいローカル・ワークステーション・トランザクションの合計数。	PD (9,0)
SYLRT4	4 番目の応答時間モニター・ブラケット内のトランザクション: 応答時間が「i5/OS」インターフェース内の「収集サービスのプロパティ」ページから「拡張ローカル応答時間オプション (Advanced Local Response Time Options)」ダイアログで指定された境界 4 の値より小さく、境界 3 の値より大きいローカル・ワークステーション・トランザクションの合計数。	PD (9,0)
SYLRT5	5 番目の応答時間モニター・ブラケット内のトランザクション: 応答時間が「i5/OS」インターフェース内の「収集サービスのプロパティ」ページから「拡張ローカル応答時間オプション (Advanced Local Response Time Options)」ダイアログで指定された境界 4 の値より大きいローカル・ワークステーション・トランザクションの合計数。	PD (9,0)
SDCPU	ターゲット分散データ管理機能 (DDM ジョブ) に使用された処理装置時間の合計 (ミリ秒)。	PD (11,0)
SDRES1	予約済み	PD (15,3)
SDRES2	予約済み	PD (11,0)
SDPRTL	すべてのターゲット DDM ジョブの印刷行の合計数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
SDPRTP	すべてのターゲット DDM ジョブの印刷ページの合計数。	PD (11,0)
SDSPD	ターゲット DDM ジョブの中断時間の合計カウント。	PD (11,0)
SDRRT	ターゲット DDM ジョブが再ルーティングの間待機した時間の合計カウント。	PD (11,0)
SDNEW	新規のターゲット DDM ジョブの数。	PD (11,0)
SDTERM	終了したターゲット DDM ジョブの数。	PD (11,0)
SDJBCT	DDM ジョブの数。	PD (11,0)
SDPDBR	ターゲット DDM ジョブによる物理的な同期データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SDPNDB	ターゲット DDM ジョブによる物理的な同期非データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SDPWRT	ターゲット DDM ジョブによる物理的な同期データベースおよび非データベース書き出しの合計数。	PD (11,0)
SDLDBR	ターゲット DDM ジョブによる論理データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SDLDBW	ターゲット DDM ジョブによる論理データベース書き出しの合計数。	PD (11,0)
SDLDBU	ターゲット DDM ジョブによる各種データベース操作の合計数。	PD (11,0)
SDCMPT	ターゲット DDM ジョブによる通信書き出しの合計数。	PD (11,0)
SDCMGT	ターゲット DDM ジョブによる通信読み取りの合計数。	PD (11,0)
SDBRG	予約済み	PD (11,0)
SDPRG	予約済み	PD (11,0)
SDNDW	同期非データベース書き出しの数: ターゲット DDM ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な同期非データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SDDBW	同期データベース書き出しの数: ターゲット DDM ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な同期データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
SDANDW	非同期非データベース書き出しの数: ターゲット DDM ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な非同期非データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SDADBW	非同期データベース書き出しの数: ターゲット DDM ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な非同期データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SDANDR	非同期非データベース読み取りの数: ターゲット DDM ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な非同期非データベース読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
SDADBR	非同期データベース読み取りの数: ターゲット DDM ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な非同期データベース読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
SDPW	ターゲット DDM ジョブによる永続的書き出しの数。	PD (11,0)
SDCS	予約済み	PD (11,0)
SDPAGF	PAG 障害の数。ターゲット DDM ジョブによってプログラム・アクセス・グループ (PAG) が参照されたが、それが主記憶装置に存在しなかった合計回数。ライセンス内部コードでは、データをキャッシュに入れるための処理アクセス・グループは使用しなくなりました。このインプリメンテーションのため、現行リリース以降ではこのフィールドは必ず 0 になります。	PD (11,0)
SDEAO	予約済み	PD (11,0)
SDOBIN	ターゲット DDM ジョブによる 2 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
SDODEC	ターゲット DDM ジョブによる 10 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
SDOFLP	ターゲット DDM ジョブによる浮動小数点オーバーフローの数。	PD (11,0)
SDIPF	補助記憶域入出力操作に使われていたアドレスでターゲット分散データ管理機能 (DDM ジョブ) にページ不在が発生した回数。	PD (11,0)
SDWIO	ターゲット分散データ管理機能 (DDM ジョブ) が未解決の非同期入出力操作の完了を明示的に待機した回数。	PD (11,0)
SDSKSC	ソケット送信の DDM 番号。	PD (11,0)



フィールド名	説明	属性
SDSKBS	送信されたソケット・バイトの DDM 番号。	PD (11,0)
SDSKRC	ソケット受信の DDM 番号。	PD (11,0)
SDSKBR	受信されたソケット・バイトの DDM 番号。	PD (11,0)
SDXRFR	DDM ストリーム・ファイル読み取り。	PD (11,0)
SDXRFW	DDM ストリーム・ファイル書き出し。	PD (11,0)
SDXSLR	DDM ファイル・システム・シンボリック・リンク読み取り。	PD (11,0)
SDXDYR	DDM ファイル・システム・ディレクトリー読み取り。	PD (11,0)
SDDLCH	DDM ファイル・システム検索キャッシュ・ヒット。	PD (11,0)
SDDLCM	DDM ファイル・システム検索キャッシュ脱落。	PD (11,0)
SDSZWT	ミリ秒単位の DDM 占有/待機時間。	PD (11,0)
SWCPU	System i アプリケーションに使用された処理装置時間の合計 (ミリ秒)。	PD (11,0)
SWRES1	予約済み	PD (15,3)
SWRES2	予約済み	PD (11,0)
SWPRTL	すべての System i Access アプリケーション・ジョブの印刷行の合計数。	PD (11,0)
SWPRTP	すべての System i Access アプリケーション・ジョブの印刷ページの合計数。	PD (11,0)
SWSPD	System i Access アプリケーション・ジョブが延期された合計時間。	PD (11,0)
SWRRT	System i Access アプリケーション・ジョブが再ルーティングの間待機した合計時間。	PD (11,0)
SWNEW	開始済みの System i Access アプリケーション・ジョブの数。	PD (11,0)
SWTERM	終了済みの System i Access アプリケーション・ジョブの数。	PD (11,0)
SWJBCT	System i Access ジョブの数。	PD (11,0)
SWPDBR	System i Access アプリケーション・ジョブによる物理的な同期データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SWPNDB	System i Access アプリケーション・ジョブによる物理的な同期非データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
SWPWRT	System i Access アプリケーション・ジョブによる物理的な同期データベースおよび非データベース書き出しの合計数。	PD (11,0)
SWLDBR	System i Access アプリケーション・ジョブによる論理データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SWLDBW	System i Access アプリケーション・ジョブによる論理データベース書き出しの合計数。	PD (11,0)
SWLDBU	System i Access アプリケーション・ジョブによる各種データベース操作の合計数。	PD (11,0)
SWCMPT	System i Access アプリケーション・ジョブによる通信書き出しの合計数。	PD (11,0)
SWCMGT	System i Access アプリケーション・ジョブによる通信読み取りの合計数。	PD (11,0)
SWBRG	予約済み	PD (11,0)
SWPRG	予約済み	PD (11,0)
SWNDW	同期非データベース書き出しの数: System i Access アプリケーション・ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な同期非データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SWDBW	同期データベース書き出しの数: System i Access アプリケーション・ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な同期データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SWANDW	非同期非データベース書き出しの数: System i Access アプリケーション・ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な非同期非データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SWADBW	非同期データベース書き出しの数: System i Access アプリケーション・ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な非同期データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SWANDR	非同期非データベース読み取りの数: System i Access アプリケーション・ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な非同期非データベース読み取り操作の合計数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
SWADBR	非同期データベース読み取りの数: System i Access アプリケーション・ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な非同期データベース読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
SWPW	System i アクセス・アプリケーションによる永続的書き出しの数。	PD (11,0)
SWCS	予約済み	PD (11,0)
SWPAGF	PAG 障害の数。 System i アクセス・アプリケーション・ジョブによってプログラム・アクセス・グループ (PAG) が参照されたが、それが主記憶装置に存在しなかった合計回数。ライセンス内部コードでは、データをキャッシュに入れるための処理アクセス・グループは使用しなくなりました。このインプリメンテーションのため、現行リリース以降ではこのフィールドは必ず 0 になります。	PD (11,0)
SWEAO	予約済み	PD (11,0)
SWOBIN	System i アクセス・アプリケーションによる 2 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
SWODEC	System i アクセス・アプリケーションによる 10 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
SWOFLP	System i Access アプリケーションによる浮動小数点オーバーフローの数。	PD (11,0)
SWIPF	補助記憶域入出力操作に使われていたアドレスで System i Access アプリケーション・ジョブにページ不在が発生した回数。	PD (11,0)
SWWIO	System i Access アプリケーション・ジョブが未解決の非同期入出力操作の完了を明示的に待機した回数。	PD (11,0)
SWSKSC	ソケット送信の System i Access 番号。	PD (11,0)
SWSKBS	送信されたソケット・バイトの System i Access 番号。	PD (11,0)
SWSKRC	ソケット受信の System i Access 番号。	PD (11,0)
SWSKBR	受信されたソケット・バイトの System i Access 番号。	PD (11,0)
SWXRFR	System i Access ストリーム・ファイル読み取り。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
SWXRFW	System i Access ストリーム・ファイル書き出し。	PD (11,0)
SWXSLR	System i Access ファイル・システム・シンボリック・リンク読み取り。	PD (11,0)
SWXDYR	System i Access ファイル・システム・ディレクトリー読み取り。	PD (11,0)
SWDLCH	System i Access ファイル・システム検索キャッシュ・ヒット。	PD (11,0)
SWDLCM	System i Access ファイル・システム検索キャッシュ脱落。	PD (11,0)
SWSZWT	ミリ秒単位の System i Access 占有/待機時間。	PD (11,0)
SPCPU	パススルー・ターゲット・ジョブに使用された処理装置時間の合計 (ミリ秒)。	PD (11,0)
SPRES1	パススルー・ターゲット・ジョブによる合計トランザクション時間。	PD (15,3)
SPRES2	パススルー・ターゲット・ジョブによるトランザクションの合計数。	PD (11,0)
SPPRTL	すべてのパススルー・ターゲット・ジョブの印刷行の合計数。	PD (11,0)
SPPRTP	すべてのパススルー・ターゲット・ジョブの印刷ページの合計数。	PD (11,0)
SPSPD	パススルー・ターゲット・ジョブの中断時間の合計カウント。	PD (11,0)
SPRRT	パススルー・ターゲット・ジョブが再ルーティングの間待機した時間の合計カウント。	PD (11,0)
SPNEW	開始されたパススルー・ターゲット・ジョブの数。	PD (11,0)
SPTERM	終了したパススルー・ターゲット・ジョブの数。	PD (11,0)
SPJBCT	パススルー・ターゲット・ジョブの数。	PD (11,0)
SPPDBR	パススルー・ターゲット・ジョブによる物理的な同期データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SPPNDB	パススルー・ターゲット・ジョブによる物理的な同期非データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SPPWRT	パススルー・ターゲット・ジョブによる物理的な同期データベースおよび非データベース書き出しの合計数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
SPLDBR	パススルー・ターゲット・ジョブによる論理データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SPLDBW	パススルー・ターゲット・ジョブによる論理データベース書き出しの合計数。	PD (11,0)
SPLDBU	パススルー・ターゲット・ジョブによる各種データベース操作の合計数。	PD (11,0)
SPCMPT	パススルー・ターゲット・ジョブによる通信書き出しの合計数。	PD (11,0)
SPCMGT	パススルー・ターゲット・ジョブによる通信読み取りの合計数。	PD (11,0)
SPBRG	予約済み	PD (11,0)
SPPRG	予約済み	PD (11,0)
SPNDW	同期非データベース書き出しの数: パススルー・ターゲット・ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な同期非データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SPDBW	同期データベース書き出しの数: パススルー・ターゲット・ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な同期データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SPANDW	非同期非データベース書き出しの数: パススルー・ターゲット・ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な非同期非データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SPADBW	非同期データベース書き出しの数: パススルー・ターゲット・ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な非同期データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SPANDR	非同期非データベース読み取りの数: パススルー・ターゲット・ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な非同期非データベース読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
SPADBR	非同期データベース読み取りの数: パススルー・ターゲット・ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な非同期データベース読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
SPPW	パススルー・ターゲット・ジョブによる永続的書き出しの数。	PD (11,0)
SPCS	予約済み	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
SPPAGF	PAG 障害の数: パススルー・ターゲット・ジョブによってプログラム・アクセス・グループ (PAG) が参照されたが、それが主記憶装置に存在しなかった合計回数。ライセンス内部コードでは、データをキャッシュに入れるための処理アクセス・グループは使用しなくなりました。このインプリメンテーションのため、現行リリース以降ではこのフィールドは必ず 0 になります。	PD (11,0)
SPEAO	予約済み	PD (11,0)
SPOBIN	パススルー・ターゲット・ジョブによる 2 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
SPODEC	パススルー・ターゲット・ジョブによる 10 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
SPOFLP	パススルー・ターゲット・ジョブによる浮動小数点オーバーフローの数。	PD (11,0)
SPIPF	補助記憶域入出力操作に使われていたアドレスでパススルー・ターゲット・ジョブにページ不在が発生した回数。	PD (11,0)
SPWIO	パススルー・ターゲット・ジョブが未解決の非同期入出力操作の完了を明示的に待機した回数。	PD (11,0)
SPSKSC	ソケット送信のパススルー番号。	PD (11,0)
SPSKBS	送信されたソケット・バイトのパススルー番号。	PD (11,0)
SPSKRC	ソケット受信のパススルー番号。	PD (11,0)
SPSKBR	受信されたソケット・バイトのパススルー番号。	PD (11,0)
SPXRFR	パススルー・ストリーム・ファイル読み取り。	PD (11,0)
SPXRFW	パススルー・ストリーム・ファイル書き出し。	PD (11,0)
SPXSLR	パススルー・ファイル・システム・シンボリック・リンク読み取り。	PD (11,0)
SPXDYR	パススルー・ファイル・システム・ディレクトリー読み取り。	PD (11,0)
SPDLCH	パススルー・ファイル・システム検索キャッシュ・ヒット。	PD (11,0)
SPDLCM	パススルー・ファイル・システム検索キャッシュ脱落。	PD (11,0)
SPSZWT	ミリ秒単位のパススルー占有/待機時間。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
SMCPU	複数要求端末 (MRT) ジョブ (システム/36 環境のみ) に使用された処理装置時間の合計 (ミリ秒)。	PD (11,0)
SMRES1	予約済み	PD (15,3)
SMRES2	予約済み	PD (11,0)
SMPRTL	すべての複数要求端末 (MRT) ジョブ (システム/36 環境のみ) の印刷行の合計数。	PD (11,0)
SMPRTP	すべての MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) の印刷ページの合計数。	PD (11,0)
SMSPD	MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) が中断された合計時間。	PD (11,0)
SMRRT	MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) が再ルーティングの間待機した合計時間。	PD (11,0)
SMNEW	開始された MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) の数。	PD (11,0)
SMTERM	終了した MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) の数。	PD (11,0)
SMJBCT	MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) の数。	PD (11,0)
SMPDBR	MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) による物理的な同期データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SMPNDB	MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) による物理的な同期非データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SMPWRT	MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) による物理的な同期データベースおよび非データベース書き出しの合計数。	PD (11,0)
SMLDBR	MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) による論理データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SMLDBW	MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) による論理データベース書き出しの合計数。	PD (11,0)
SMLDBU	MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) による各種データベース操作の合計数。	PD (11,0)
SMCMPT	MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) による通信書き出しの合計数。	PD (11,0)
SMCMGT	MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) による通信読み取りの合計数。	PD (11,0)
SMBRG	予約済み	PD (11,0)
SMPRG	予約済み	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
SMNDW	同期非データベース書き出しの数: MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) が非データベース機能に対して行った 物理的な同期非データベース書き出し 操作の合計数。	PD (11,0)
SMDBW	同期データベース書き出しの数: MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) がデ ータベース機能に対して行った物理的 な同期データベース書き出し操作の合 計数。	PD (11,0)
SMANDW	非同期非データベース書き出しの数: MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) が非データベース機能に対して行った 物理的な非同期非データベース書き出 し操作の合計数。	PD (11,0)
SMADBW	非同期データベース書き出しの数: MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) がデータベース機能に対して行った物 理的な非同期データベース書き出し操 作の合計数。	PD (11,0)
SMANDR	非同期非データベース読み取りの数: MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) が非データベース機能に対して行った 物理的な非同期非データベース読み取 り操作の合計数。	PD (11,0)
SMADBR	非同期データベース読み取りの数: MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) がデータベース機能に対して行った物 理的な非同期データベース読み取り操 作の合計数。	PD (11,0)
SMPW	MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) による永続的書き出しの数。	PD (11,0)
SMCS	予約済み	PD (11,0)
SMPAGF	PAG 障害の数: MRT ジョブ (システ ム/36 環境のみ) によってプログラ ム・アクセス・グループ (PAG) が参 照されたが、それが主記憶装置に存在 しなかった合計回数。ライセンス内部 コードでは、データをキャッシュに入 れるための処理アクセス・グループは 使用しなくなりました。このインプリ メンテーションのため、現行リリース 以降ではこのフィールドは必ず 0 に なります。	PD (11,0)
SMEAO	予約済み	PD (11,0)
SMOBIN	MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) による 2 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)



フィールド名	説明	属性
SMODEC	MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) による 10 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
SMOFLP	MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) による浮動小数点オーバーフローの数。	PD (11,0)
SMIPF	補助記憶域入出力操作に使われていたアドレスで MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) にページ不在が発生した回数。	PD (11,0)
SMWIO	MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) が未解決の非同期入出力操作の完了を明示的に待機した回数。	PD (11,0)
SMSKSC	ソケット送信の MRTS 番号。	PD (11,0)
SMSKBS	送信されたソケット・バイトの MRTS 番号。	PD (11,0)
SMSKRC	ソケット受信の MRTS 番号。	PD (11,0)
SMSKBR	受信されたソケット・バイトの MRTS 番号。	PD (11,0)
SMXRFR	MRTS ストリーム・ファイル読み取り。	PD (11,0)
SMXRFW	MRTS ストリーム・ファイル書き出し。	PD (11,0)
SMXSLR	MRTS ファイル・システム・シンボリック・リンク読み取り。	PD (11,0)
SMXDYR	MRTS ファイル・システム・ディレクトリー読み取り。	PD (11,0)
SMDLCH	MRTS ファイル・システム検索キャッシュ・ヒット。	PD (11,0)
SMDLCM	MRTS ファイル・システム検索キャッシュ脱落。	PD (11,0)
SMSZWT	ミリ秒単位の MRTS 占有/待機時間。	PD (11,0)
S6CPU	システム/36 環境ジョブに使用された処理装置時間の合計 (ミリ秒)。	PD (11,0)
S6TRNT	合計応答時間。	PD (15,3)
S6TRNS	トランザクションの数。	PD (11,0)
S6PRTL	すべてのシステム/36 環境ジョブの印刷行の合計数。	PD (11,0)
S6PRTTP	すべてのシステム/36 環境ジョブの印刷ページの合計数。	PD (11,0)
S6SPD	システム/36 環境ジョブが延期された合計時間。	PD (11,0)
S6RRT	システム/36 環境ジョブが再ルーティングの間待機した合計時間。	PD (11,0)
S6NEW	開始されたシステム/36 環境ジョブの数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
S6TERM	終了したシステム/36 環境ジョブの数。	PD (11,0)
S6JBCT	システム/36 環境ジョブの数。	PD (11,0)
S6PDBR	システム/36 環境ジョブによる物理的な同期データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
S6PNDB	システム/36 環境ジョブによる物理的な同期非データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
S6PWRT	システム/36 環境ジョブによる物理的な同期データベースおよび非データベース書き出しの合計数。	PD (11,0)
S6LDBR	システム/36 環境ジョブによる論理データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
S6LDBW	システム/36 環境ジョブによる論理データベース書き出しの合計数。	PD (11,0)
S6LDBU	システム/36 環境ジョブによる各種データベース操作の合計数。	PD (11,0)
S6CMPT	システム/36 環境ジョブによる通信書き出しの合計数。	PD (11,0)
S6CMGT	システム/36 環境ジョブによる通信読み取りの合計数。	PD (11,0)
S6BRG	予約済み	PD (11,0)
S6PRG	予約済み	PD (11,0)
S6NDW	同期非データベース書き出しの数: システム/36 環境ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な同期非データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
S6DBW	同期データベース書き出しの数: システム/36 環境ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な同期データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
S6ANDW	非同期非データベース書き出しの数: システム/36 環境ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な非同期非データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
S6ADBW	非同期データベース書き出しの数: システム/36 環境ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な非同期データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
S6ANDR	非同期非データベース読み取りの数: システム/36 環境ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な非同期非データベース読み取り操作の合計数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
S6ADBR	非同期データベース読み取りの数: システム/36 環境ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な非同期データベース読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
S6PW	システム/36 環境ジョブによる永続的書き出しの数。	PD (11,0)
S6CS	予約済み	PD (11,0)
S6PAGF	PAG 障害の数: システム/36 環境ジョブによってプログラム・アクセス・グループ (PAG) が参照されたが、それが主記憶装置に存在しなかった合計回数。ライセンス内部コードでは、データをキャッシュに入れるための処理アクセス・グループは使用しなくなりました。このインプリメンテーションのため、現行リリース以降ではこのフィールドは必ず 0 になります。	PD (11,0)
S6EAO	予約済み	PD (11,0)
S6OBIN	システム/36 環境ジョブによる 2 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
S6ODEC	システム/36 環境ジョブによる 10 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
S6OFLP	システム/36 環境ジョブによる浮動小数点オーバーフローの数。	PD (11,0)
S6IPF	補助記憶域入出力操作に使われていたアドレスでシステム/36 環境ジョブにページ不在が発生した回数。	PD (11,0)
S6WIO	システム/36 環境ジョブが未解決の非同期入出力操作の完了を明示的に待機した回数。	PD (11,0)
S6SKSC	ソケット送信の S36E 番号。	PD (11,0)
S6SKBS	送信されたソケット・バイトの S36E 番号。	PD (11,0)
S6SKRC	ソケット受信の S36E 番号。	PD (11,0)
S6SKBR	受信されたソケット・バイトの S36E 番号。	PD (11,0)
S6XRFR	S36E ファイル・システム・ディレクトリー読み取り。	PD (11,0)
S6XRFW	S36E ファイル・システム・ディレクトリー書き出し。	PD (11,0)
S6XSLR	S36E ファイル・システム・シンボリック・リンク読み取り。	PD (11,0)
S6XDYR	S36E ディレクトリー・ストリーム・ファイル読み取り。	PD (11,0)
S6DLCH	S36E ファイル・システム検索キャッシュ・ヒット。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
S6DLCM	S36E ファイル・システム検索キャッシュ脱落。	PD (11,0)
S6SZWT	ミリ秒単位の S36E 占有/待機時間。	PD (11,0)
SECPU	通信バッチ・ジョブに使用された処理装置時間の合計 (ミリ秒)。	PD (11,0)
SERES1	予約済み	PD (15,3)
SERES2	予約済み	PD (11,0)
SEPRTL	すべての通信バッチ・ジョブの印刷行の合計数。	PD (11,0)
SEPRTTP	すべての通信バッチ・ジョブの印刷ページの合計数。	PD (11,0)
SESPD	通信バッチ・ジョブが延期された合計時間。	PD (11,0)
SERRT	通信バッチ・ジョブが再ルーティングの間待機した合計時間。	PD (11,0)
SENEW	開始された通信バッチ・ジョブの数。	PD (11,0)
SETERM	終了した通信バッチ・ジョブの数。	PD (11,0)
SEJBCT	通信バッチ・ジョブの数。	PD (11,0)
SEPDBR	通信バッチ・ジョブによる物理的な同期データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SEPNDB	通信バッチ・ジョブによる物理的な同期非データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SEPWRT	通信バッチ・ジョブによる物理的な同期データベースおよび非データベース書き出しの合計数。	PD (11,0)
SELDBR	通信バッチ・ジョブによる論理データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SELDBW	通信バッチ・ジョブによる論理データベース書き出しの合計数。	PD (11,0)
SELDBU	通信バッチ・ジョブによる各種データベース操作の合計数。	PD (11,0)
SECMPT	通信バッチ・ジョブによる通信書き出しの合計数。	PD (11,0)
SECMGT	通信バッチ・ジョブによる通信読み取りの合計数。	PD (11,0)
SEBRG	予約済み	PD (11,0)
SEPRG	予約済み	PD (11,0)
SENDW	同期非データベース書き出しの数: 通信バッチ・ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な同期非データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SEDBW	同期データベース書き出しの数: 通信バッチ・ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な同期データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
SEANDW	非同期非データベース書き出しの数: 通信バッチ・ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な非同期非データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SEADBW	非同期データベース書き出しの数: 通信バッチ・ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な非同期データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SEANDR	非同期非データベース読み取りの数: 通信バッチ・ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な非同期非データベース読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
SEADBR	非同期データベース読み取りの数: 通信バッチ・ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な非同期データベース読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
SEPW	通信バッチ・ジョブによる永続的書き出しの数。	PD (11,0)
SECS	予約済み	PD (11,0)
SEPAGF	PAG 障害の数: 通信バッチ・ジョブによってプログラム・アクセス・グループ (PAG) が参照されたが、それが主記憶装置に存在しなかった合計回数。ライセンス内部コードでは、データをキャッシュに入れるための処理アクセス・グループは使用しなくなりました。このインプリメンテーションのため、現行リリース以降ではこのフィールドは必ず 0 になります。	PD (11,0)
SEEAO	予約済み	PD (11,0)
SEOBIN	通信バッチ・ジョブによる 2 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
SEODEC	通信バッチ・ジョブによる 10 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
SEOFLP	通信バッチ・ジョブによる浮動小数点オーバーフローの数。	PD (11,0)
SEIPF	補助記憶域入出力操作に使われていたアドレスで通信バッチ・ジョブにページ不在が発生した回数。	PD (11,0)
SEWIO	通信バッチ・ジョブが未解決の非同期入出力操作の完了を明示的に待機した回数。	PD (11,0)
SESKSC	ソケット送信の呼び出し番号。	PD (11,0)
SESKBS	送信されたソケット・バイトの呼び出し番号。	PD (11,0)
SESKRC	ソケット受信の呼び出し番号。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
SESKBR	受信されたソケット・バイトの呼び出し番号。	PD (11,0)
SEXRFRR	呼び出しファイル・システム・ディレクトリー読み取り。	PD (11,0)
SEXRFWR	呼び出しファイル・システム・ストリーム・ファイル書き出し。	PD (11,0)
SEXSLR	呼び出しファイル・システム・シンボリック・リンク読み取り。	PD (11,0)
SEXDYR	呼び出しストリーム・ファイル読み取り。	PD (11,0)
SEDLCH	呼び出しファイル・システム検索キャッシュ・ヒット。	PD (11,0)
SEDLCM	呼び出しファイル・システム検索キャッシュ脱落。	PD (11,0)
SESZWT	ミリ秒単位の呼び出し占有/待機時間。	PD (11,0)
SACPU	自動開始ジョブに使用された処理装置時間の合計 (ミリ秒)。	PD (11,0)
SARES1	予約済み	PD (15,3)
SARES2	予約済み	PD (11,0)
SAPRTL	すべての自動開始ジョブの印刷行の合計数。	PD (11,0)
SAPRTP	すべての自動開始ジョブの印刷ページの合計数。	PD (11,0)
SASPD	自動開始ジョブが延期された合計時間。	PD (11,0)
SARRT	自動開始ジョブが再ルーティングの間待機した合計時間。	PD (11,0)
SANEW	開始された自動開始ジョブの数。	PD (11,0)
SATERM	終了した自動開始ジョブの数。	PD (11,0)
SAJBCT	自動開始ジョブの数。	PD (11,0)
SAPDBR	自動開始ジョブによる物理的な同期データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SAPNDB	自動開始ジョブによる物理的な同期非データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SAPWRT	自動開始ジョブによる物理的な同期データベースおよび非データベース書き出しの合計数。	PD (11,0)
SALDBR	自動開始ジョブによる論理データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SALDBW	自動開始ジョブによる論理データベース書き出しの合計数。	PD (11,0)
SALDBU	自動開始ジョブによる各種データベース操作の合計数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
SACMPT	自動開始ジョブによる通信書き出しの合計数。	PD (11,0)
SACMGT	自動開始ジョブによる通信読み取りの合計数。	PD (11,0)
SABRG	予約済み	PD (11,0)
SAPRG	予約済み	PD (11,0)
SANDW	同期非データベース書き出しの数: 通信バッチ・ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な同期非データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SADBW	同期データベース書き出しの数: 自動開始ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な同期データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SAANDW	非同期非データベース書き出しの数: 自動開始ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な非同期非データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SAADBW	非同期データベース書き出しの数: 自動開始ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な非同期データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SAANDR	非同期非データベース読み取りの数: 自動開始ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な非同期非データベース読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
SAADBR	非同期データベース読み取りの数: 自動開始ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な非同期データベース読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
SAPW	自動開始ジョブによる永続的書き出しの数。	PD (11,0)
SACS	予約済み	PD (11,0)
SAPAGF	PAG 障害の数: 自動開始ジョブによってプログラム・アクセス・グループ (PAG) が参照されたが、それが主記憶装置に存在しなかった合計回数。ライセンス内部コードでは、データをキャッシュに入れるための処理アクセス・グループは使用しなくなりました。このインプリメンテーションのため、現行リリース以降ではこのフィールドは必ず 0 になります。	PD (11,0)
SAEAO	予約済み	PD (11,0)
SAOBIN	自動開始ジョブによる 2 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
SAODEC	自動開始ジョブによる 10 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
SAOFLP	自動開始ジョブによる浮動小数点オーバーフローの数。	PD (11,0)
SAIPF	補助記憶域入出力操作に使われていたアドレスで自動開始ジョブにページ不在が発生した回数。	PD (11,0)
SAWIO	自動開始ジョブが未解決の非同期入出力操作の完了を明示的に待機した回数。	PD (11,0)
SASKSC	ソケット送信の自動開始番号。	PD (11,0)
SASKBS	送信されたソケット・バイトの自動開始番号。	PD (11,0)
SASKRC	ソケット受信の自動開始番号。	PD (11,0)
SASKBR	受信されたソケット・バイトの自動開始番号。	PD (11,0)
SAXRFR	自動開始ストリーム・ファイル読み取り。	PD (11,0)
SAXRFW	自動開始ストリーム・ファイル書き出し。	PD (11,0)
SAXSLR	自動開始ファイル・システム・シンボリック・リンク読み取り。	PD (11,0)
SAXDYR	自動開始ファイル・システム・ディレクトリー読み取り。	PD (11,0)
SADLCH	自動開始ファイル・システム検索キャッシュ・ヒット。	PD (11,0)
SADLCM	自動開始ファイル・システム検索キャッシュ脱落。	PD (11,0)
SASZWT	ミリ秒単位の自動開始占有/待機時間。	PD (11,0)
SBCPU	バッチ・ジョブに使用された処理装置時間の合計 (ミリ秒)。	PD (11,0)
SBRES1	予約済み	PD (15,3)
SBRES2	予約済み	PD (11,0)
SBPRTL	すべてのバッチ・ジョブの印刷行の合計数。	PD (11,0)
SBPRTP	すべてのバッチ・ジョブの印刷ページの合計数。	PD (11,0)
SBSPPD	バッチ・ジョブが延期された合計時間。	PD (11,0)
SBRRT	バッチ・ジョブが再ルーティングの間待機した合計時間。	PD (11,0)
SBNEW	開始されたバッチ・ジョブの数。	PD (11,0)
SBTERM	終了したバッチ・ジョブの数。	PD (11,0)



フィールド名	説明	属性
SBJBCT	バッチ・ジョブの数。	PD (11,0)
SBPDDBR	バッチ・ジョブによる物理的な同期データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SBPNDB	バッチ・ジョブによる物理的な同期非データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SBPWRT	バッチ・ジョブによる物理的な同期データベースおよび非データベース書き出しの合計数。	PD (11,0)
SBLDBR	バッチ・ジョブによる論理データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SBLDBW	バッチ・ジョブによる論理データベース書き出しの合計数。	PD (11,0)
SBLDBU	バッチ・ジョブによる各種データベース操作の合計数。	PD (11,0)
SBCMPT	バッチ・ジョブによる通信書き出しの合計数。	PD (11,0)
SBCMGT	バッチ・ジョブによる通信読み取りの合計数。	PD (11,0)
SBBRG	予約済み	PD (11,0)
SBPRG	予約済み	PD (11,0)
SBNDW	同期非データベース書き出しの数: バッチ・ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な同期非データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SBDBW	同期データベース書き出しの数: バッチ・ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な同期データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SBANDW	非同期非データベース書き出しの数: バッチ・ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な非同期非データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SBADBW	非同期データベース書き出しの数: バッチ・ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な非同期データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SBANDR	非同期非データベース読み取りの数: バッチ・ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な非同期非データベース読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
SBADBR	非同期データベース読み取りの数: バッチ・ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な非同期データベース読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
SBPW	バッチ・ジョブによる永続的書き出しの数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
SBCS	予約済み	PD (11,0)
SBPAGF	PAG 障害の数: バッチ・ジョブによってプログラム・アクセス・グループ (PAG) が参照されたが、それが主記憶装置に存在しなかった合計回数。ライセンス内部コードでは、データをキャッシュに入れるための処理アクセス・グループは使用しなくなりました。このインプリメンテーションのため、現行リリース以降ではこのフィールドは必ず 0 になります。	PD (11,0)
SBEAO	予約済み	PD (11,0)
SBOBIN	バッチ・ジョブによる 2 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
SBODEC	バッチ・ジョブによる 10 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
SBOFLP	バッチ・ジョブによる浮動小数点オーバーフローの数。	PD (11,0)
SBIPF	補助記憶域入出力操作に使われていたアドレスでバッチ・ジョブにページ不在が発生した回数。	PD (11,0)
SBWIO	バッチ・ジョブが未解決の非同期入出力操作の完了を明示的に待機した回数。	PD (11,0)
SBSKSC	ソケット送信のバッチ番号。	PD (11,0)
SBSKBS	受信されたソケット・バイトのバッチ番号。	PD (11,0)
SBSKRC	ソケット受信のバッチ番号。	PD (11,0)
SBSKBR	受信されたソケット・バイトのバッチ番号。	PD (11,0)
SBXRFR	バッチ・ストリーム・ファイル読み取り。	PD (11,0)
SBXRFW	バッチ・ストリーム・ファイル書き出し。	PD (11,0)
SBXSLR	バッチ・ファイル・システム・シンボリック・リンク読み取り。	PD (11,0)
SBXDYR	バッチ・ファイル・システム・ディレクトリー読み取り。	PD (11,0)
SBDLCH	バッチ・ファイル・システム検索キャッシュ・ヒット。	PD (11,0)
SBDLCM	バッチ・ファイル・システム検索キャッシュ脱落。	PD (11,0)
SBSZWT	ミリ秒単位のバッチ占有/待機時間。	PD (11,0)
SICPU	対話型ジョブに使用された処理装置時間の合計 (ミリ秒)。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
SITRNT	対話型ジョブによる合計トランザクション時間。	PD (15,3)
SITRNS	対話型ジョブによるトランザクションの合計数。	PD (11,0)
SIPRTL	すべての対話型ジョブの印刷行の合計数。	PD (11,0)
SIPRTP	すべての対話型ジョブの印刷ページの合計数。	PD (11,0)
SISPD	対話型ジョブが延期された合計時間。	PD (11,0)
SIRRT	対話型ジョブが再ルーティングの間待機した合計時間。	PD (11,0)
SINEW	開始された対話型ジョブの数。	PD (11,0)
SITERM	終了した対話型ジョブの数。	PD (11,0)
SIJBCT	対話型ジョブの数。	PD (11,0)
SIPDBR	対話型ジョブによる物理的な同期データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SIPNDB	対話型ジョブによる物理的な同期非データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SIPWRT	対話型ジョブによる物理的な同期データベースおよび非データベース書き出しの合計数。	PD (11,0)
SILDBR	対話型ジョブによる論理データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SILDBW	対話型ジョブによる論理データベース書き出しの合計数。	PD (11,0)
SILDBU	対話型ジョブによる各種データベース操作の合計数。	PD (11,0)
SICMPT	対話型ジョブによる通信書き出しの合計数。	PD (11,0)
SICMGT	対話型ジョブによる通信読み取りの合計数。	PD (11,0)
SIBRG	予約済み	PD (11,0)
SIPRG	予約済み	PD (11,0)
SINDW	同期非データベース書き出しの数: 対話型ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な同期非データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SIDBW	同期データベース書き出しの数: 対話型ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な同期データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SIANDW	非同期非データベース書き出しの数: 対話型ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な非同期非データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
SIADBW	非同期データベース書き出しの数: 対話型ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な非同期データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SIANDR	非同期非データベース読み取りの数: 対話型ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な非同期非データベース読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
SIADBR	非同期データベース読み取りの数: 対話型ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な非同期データベース読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
SIPW	対話型ジョブによる永続的書き出しの数。	PD (11,0)
SICS	予約済み	PD (11,0)
SIPAGF	PAG 障害の数: 対話型ジョブによってプログラム・アクセス・グループ (PAG) が参照されたが、それが主記憶装置に存在しなかった合計回数。ライセンス内部コードでは、データをキャッシュに入れるための処理アクセス・グループは使用しなくなりました。このインプリメンテーションのため、現行リリース以降ではこのフィールドは必ず 0 になります。	PD (11,0)
SIEAO	予約済み	PD (11,0)
SIOBIN	対話型ジョブによる 2 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
SIODEC	対話型ジョブによる 10 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
SIOFLP	対話型ジョブによる浮動小数点オーバーフローの数。	PD (11,0)
SIIPF	補助記憶域入出力操作に使われていたアドレスで対話型ジョブにページ不在が発生した回数。	PD (11,0)
SIWIO	対話型ジョブが未解決の非同期入出力操作の完了を明示的に待機した回数。	PD (11,0)
SISKSC	ソケット送信の対話式番号。	PD (11,0)
SISKBS	送信されたソケット・バイトの対話式番号。	PD (11,0)
SISKRC	ソケット受信の対話式番号。	PD (11,0)
SISKBR	受信されたソケット・バイトの対話式番号。	PD (11,0)
SIXRFR	対話式ストリーム・ファイル読み取り。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
SIXRFW	対話式ストリーム・ファイル書き出し。	PD (11,0)
SIXSLR	対話式ファイル・システム・シンボリック・リンク読み取り。	PD (11,0)
SIXDYR	対話式ファイル・システム・ディレクトリー読み取り。	PD (11,0)
SIDLCH	対話式ファイル検索キャッシュ・ヒット。	PD (11,0)
SIDLCH	対話式ファイル検索キャッシュ脱落。	PD (11,0)
SISZWT	ミリ秒単位の対話式占有/待機時間。	PD (11,0)
SXCPU	CPF 開始 (SCPF) ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブに使用された処理装置時間の合計 (ミリ秒)。	PD (11,0)
SXRES1	予約済み	PD (15,3)
SXRES2	予約済み	PD (11,0)
SXPRTL	SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブの印刷行の合計数。	PD (11,0)
SXPRTTP	SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブの印刷ページの合計数。	PD (11,0)
SXSPD	SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブが中断された合計時間。	PD (11,0)
SXRRT	SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブが再ルーティングの間待機した合計時間。	PD (11,0)
SXNEW	開始された SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブの数。	PD (11,0)
SXTERM	終了した SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブの数。	PD (11,0)
SXJBCT	SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブの数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
SXPDBR	SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブによる物理的な同期データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SXPNDDB	SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブによる物理的な同期非データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SXPWRT	SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブによる物理的な同期データベースおよび非データベース書き出しの合計数。	PD (11,0)
SXLDBR	SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブによる論理データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SXLDBW	SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブによる論理データベース書き出しの合計数。	PD (11,0)
SXLDBU	SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブによる各種データベース操作の合計数。	PD (11,0)
SXCMPT	SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブによる通信書き出しの合計数。	PD (11,0)
SXCMGT	SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブによる通信読み取りの合計数。	PD (11,0)
SXBRG	予約済み	PD (11,0)
SXPRG	予約済み	PD (11,0)
SXNDW	同期非データベース書き出しの数: SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な同期非データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
SXDBW	同期データベース書き出しの数: SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な同期データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SXANDW	非同期非データベース書き出しの数: SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な非同期非データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SXADBW	非同期データベース書き出しの数: SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な非同期データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SXANDR	非同期非データベース読み取りの数: SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な非同期非データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SXADBR	非同期データベース読み取りの数: SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な非同期データベース読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
SXPW	SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブによる永続的書き出しの数。	PD (11,0)
SXCS	予約済み	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
SXPAGF	PAG 障害の数: SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブによってプログラム・アクセス・グループ (PAG) が参照されたが、それが主記憶装置に存在しなかった合計回数。ライセンス内部コードでは、データをキャッシュに入れるための処理アクセス・グループは使用しなくなりました。このインプリメンテーションのため、現行リリース以降ではこのフィールドは必ず 0 になります。	PD (11,0)
SXEAO	予約済み	PD (11,0)
SXOBIN	SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブによる 2 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
SXODEC	SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブによる 10 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
SXOFLP	SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブによる浮動小数点オーバーフローの数。	PD (11,0)
SXIPF	補助記憶域入出力操作に使われていたアドレスで SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブにページ不在が発生した回数。	PD (11,0)
SXWIO	SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブが未解決の非同期入出力操作の完了を明示的に待機した回数。	PD (11,0)
SXSKSC	ソケット送信のスプール番号。	PD (11,0)
SXSKBS	送信されたソケット・バイトのスプール番号。	PD (11,0)
SXSKRC	ソケット受信のスプール番号。	PD (11,0)
SXSKBR	受信されたソケット・バイトのスプール番号。	PD (11,0)
SXXRFR	スプール・ストリーム・ファイル読み取り。	PD (11,0)
SXXRFW	スプール・ストリーム・ファイル書き出し。	PD (11,0)
SXXSLR	スプール・ファイル・システム・シンボリック・リンク読み取り。	PD (11,0)



フィールド名	説明	属性
SXXDYR	スプール・ファイル・システム・ディレクトリー読み取り。	PD (11,0)
SXXDLCH	スプール・ファイル・システム検索キャッシュ・ヒット。	PD (11,0)
SXXDLCM	スプール・ファイル・システム検索キャッシュ脱落。	PD (11,0)
SXSZWT	ミリ秒単位のスプール占有/待機時間。	PD (11,0)
SHCPU	マイクロコード/システム・ジョブに使用された処理装置時間の合計 (ミリ秒)。	PD (11,0)
SMPLP	マシン・プール・ページング: マシン・プールの内外に転送されたページの数。	PD (11,0)
SMUPL	最高ユーザー・プール・ページング: ユーザー・プールの内外に転送されたページの最高数。	PD (11,0)
SUPLI	最高ページングのあったプール: 最高数のページが内外に転送されたプールの番号。	C (2)
SMXDU	最大ディスク使用率。すべての単一パス・ディスク装置およびすべてのマルチパス・ディスク装置の最大使用率。	PD (11,0)
SMXDUI	使用率が最大のアクチュエーター。	C (4)
SMMMT	すべての MRT 要求によって MRTMAX で費やされた時間 (秒)。	PD (11,0)
SMME	MRT に経路指定されたリクエストの数。	PD (11,0)
SYFOPN	システム全体での全オープンの回数。	PD (11,0)
SYIXRB	システム全体での索引再作成の回数。	PD (11,0)
SYJOXR	ユーザーによって開始されたジャーナル開始操作の回数。	PD (11,0)
SYJOXP	ユーザーによって開始されたジャーナル停止操作の回数。	PD (11,0)
SYJOIR	システムによって開始されたジャーナル開始操作の回数。	PD (11,0)
SYJOIP	システムによって開始されたジャーナル停止操作の回数。	PD (11,0)
SYJOXD	ユーザーがジャーナル処理したオブジェクトの結果のジャーナル保管。	PD (11,0)
SYJOID	システムがジャーナル処理したオブジェクトの結果のジャーナル保管。	PD (11,0)
SYJOJP	システムがジャーナル処理したオブジェクトの結果の、ユーザーが作成したジャーナルへのジャーナル保管。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
SYJOBJ	ユーザーが作成したジャーナルへのバンドル書き出し。	PD (11,0)
SYJOBDB	システム内部のジャーナルへのバンドル書き出し。	PD (11,0)
SYJOJY	システムによって現在ジャーナル処理されている公開アクセス・パス。	PD (11,0)
SYJOJN	現在ジャーナル処理されていない公開アクセス・パス。	PD (11,0)
SYJOSE	システムが見積もった公開アクセス・パスの回復時間 (ミリ秒)。	PD (11,0)
SYJORT	システム管理の公開アクセス・パス調整。	PD (11,0)
SYJOND	システムが見積もった、システムでジャーナル処理されている公開アクセス・パスがない場合の公開アクセス・パスの回復時間 (ミリ秒)。	PD (11,0)
SYSCPU	最初の処理装置 (処理装置が 1 つしかない場合も含む) で使用された処理時間の合計 (ミリ秒)。	PD (9,0)
SYCPU2...4	2 番目から 4 番目の処理装置で使用された処理時間の合計 (ミリ秒)。該当する番号の処理装置がシステムに存在しない場合は、値がブランクになります。	PD (9,0)
SYCP5...32	5 番目から 32 番目の処理装置で使用された処理時間の合計 (ミリ秒)。該当する番号の処理装置がシステムに存在しない場合は、値がブランクになります。	PD (9,0)
SYHEAO	任意のテラスペース内にある 16 MB 境界の交差の数。テラスペースの EAO 例外も呼び出されます。	PD (11,0)
SYHFTS	余分な処理を必要とするスペース・アドレス計算 (テラスペースのアドレッシングではない) の数。符号付きの値を減算または加算した結果が、スペース・オブジェクトの先頭ページ内や、マシンが位置合わせを選択しなかった関連スペース内になると、このように余分な処理が必要になる場合があります。偽のトラップも呼び出されます。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
SYHFTH	余分な処理を必要とするテラスペース・アドレス計算の数。符号付きの値を減算または加算した結果が、テラスペースにある 16 MB 境界の直後のページ内になると、このように余分な処理が必要になります。偽のトラップも呼び出されます。	PD (11,0)
SYIFUS	対話型 CPU 時間。使用された対話型 CPU 時間の合計 (ミリ秒)。	PD (9,0)
SYIFTE	しきい値を超えた対話型 CPU 時間。対話型 CPU しきい値を超えて使用された対話型 CPU 時間 (ミリ秒)。	PD (9,0)
SYSDBC	データベース CPU 時間。データベース処理に使用された CPU 時間の合計 (ミリ秒)。	PD (9,0)
SYSSWC	2 次ワークロードの CPU 時間。専用サーバーのリソースを十分に利用できないワークロードを実行するすべてのジョブにかかる CPU 時間の合計 (ミリ秒)。	PD (9,0)
SYLPTB	LPAR 時間基準。このフィールドは、単一システムの異なる区画上のシステム・クロック間の相違を判別する方法を提供します。このフィールドは、スタンドアロン・ベースで参照する場合は意味がありません。ただし、この値がシステムの 2 つ (またはそれ以上) の区画で設定されている場合、それらの値の相違は、その 2 つの区画間の時間差 (秒単位) です。	PD (11,0)
SYNUAL	キャッシュなしユーザー権限探索。キャッシュなしユーザー権限探索が実行された回数。1 つのオブジェクト権限の検査の結果、ユーザー権限探索が 0 回、1 回、または複数回行われます。ユーザー権限探索は、ユーザー、ユーザーのグループ、または借用ユーザーについて行われ、キャッシュ付きでもキャッシュなしでも構いません。	PD (15,0)
SYIFTA	使用可能な対話型 CPU 時間。区画内で使用可能だった対話式 CPU 時間の長さ。これは、区画内で使用するために構成された対話式キャパシティーです (対話式しきい値としても表示される)。	PD (11,0)
SYSPTU	使用された CPU 時間。区画に使用された処理時間の合計 (ミリ秒)。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
SYSCTA	使用可能な構成済み CPU 時間。この区画に使用できるように構成されたか、またはそのように保証された合計処理時間 (ミリ秒単位)。これは間隔内で処理装置割り振りによって決定される、システム処理キャパシティーです。注: 上限なしの区画の場合、実際に使用される CPU はこの値を超えても構いません。	PD (11,0)
SYSUTA	使用可能な上限なしの CPU 時間。この区画用に使用可能にされた合計処理時間 (ミリ秒単位) (時間外の構成変更用に調整)。保証された構成済みキャパシティーと、他の区画に使用されていなかった共用プール時間の両方が含まれます。上限あり、および、専用区画の場合、または共用プール・データが使用できない場合、これは構成済みの上限なし CPU 時間 (SYSUTC) と同じです。	PD (11,0)
SYSUTC	構成済みの上限なしの CPU 時間。この区画が共用プール内での使用のために構成 (許可) される CPU 時間の最大量 (時間外の構成変更用に調整)。このフィールドは、最小限に構成された仮想プロセッサ、および構成された共用プール・プロセッサを定義します。上限あり、および、専用区画の場合、これは使用可能な構成済み CPU 時間 (SYSCTA) と同じです。	PD (11,0)
SYSPLU	使用された共用プール CPU 時間。プールを共用するすべての区画が、共用プール内で使用する CPU の合計。共用プールが使用されない場合、またはデータが使用できない場合はゼロに設定されます。	PD (11,0)
SYSPLA	使用可能な共用プール CPU 時間。共用プール内で使用可能な CPU の合計時間。この値は、プールに割り振られる物理プロセッサの数に基づいて決定されます。共用プールが使用されない場合、またはデータが使用できない場合はゼロに設定されます。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
SYVCPU	構成済みの仮想プロセッサ時間。構成済みで、時間による構成変更に対して調整済みの仮想プロセッサの数を基にした、オペレーティング・システムに可視の処理容量 (ミリ秒)。このフィールドは SYSUTC に似ていますが、共用プール構成または区画の capped/uncapped 状態に影響されない点が異なります。式 SYVCPU/INTSEC は、インターバル内での構成済み仮想プロセッサの平均数を与えます。	PD (11,0)
SYDPCH	合計ディスパッチ時間。オペレーティング・システムが、ジョブ、タスク、またはスレッドをプロセッサにディスパッチした時間数 (ミリ秒)。プロセッサの仮想化の影響があるため、これは使用された CPU 時間と同一ではありません。	PD (11,0)
SYSHRF	共用プロセッサ・フラグ。区画が共用プロセッサを使用しているかどうかを示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 = 区画は物理プロセッサを共用しません。</li> <li>• 1 = 区画は物理プロセッサを共用します。</li> </ul>	C (1)
SCBGN	予約済み	Z (3,0)
SYSIUL	予約済み	PD (5,0)
SYSCIU	予約済み	PD (7,0)

#### 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリーとファイルの関係』  
 収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
 オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
 データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

#### 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンド  
 パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成  
 (CRTPFRDTA) コマンドを参照してください。

### 収集サービス・データ・ファイル: QAPMSYSCPU

- 1 このデータベース・ファイルは仮想プロセッサ装置の使用率を報告します。
- 1 仮想プロセッサは、プロセッサが割り当てられている論理区画内の、オペレーティング・システムのビ  
 1 ューを表します。仮想プロセッサについて報告される使用率は、オペレーティング・システムがどれほど

1 仮想プロセッサを使用したかを表示します。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
DTECEN	世紀桁。	C (1)
SCTNUM	報告されたシステム CPU の合計数。報告される CPU の数には、構成変更のために現在使用されていない CPU が含まれることがあります。フィールド SCTACT には、活動中のプロセッサの数が含まれます。	Z (3,0)
SCBGN	このレコードで報告される最初の CPU の CPU 番号。	Z (3,0)
SCPU01....32	1 番目から 32 番目の CPU で使用された処理時間の合計 (ミリ秒)。	PD (9,0)
SCIFUS	対話型 CPU 時間。使用された対話型 CPU 時間の合計 (ミリ秒)。	PD (9,0)
SCIFTE	しきい値を超えた対話型 CPU 時間。対話型 CPU しきい値を超えて使用された対話型 CPU 時間 (ミリ秒)。	PD (9,0)
SCTACT	データがサンプルとされたときに活動中であるプロセッサの現在の数。	Z (3,0)

### 関連概念

#### CPU 使用率の報告

仮想プロセッサで消費される合計 CPU が報告される方法を調べます。

#### 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリーとファイルの関係』  
収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL) オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』

データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

#### 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンド

パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンドを参照してください。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMSYSPRC

このデータベース・ファイルは、ハイパーバイザーから入手したデータに基づき、システムの物理プロセッサ装置の使用状況データを報告します。各間隔のプロセッサごとに 1 つのレコードが書き込まれます。

物理プロセッサとは、物理システム内に含まれる実ハードウェア・プロセッサです。システムの物理プロセッサの使用率とは、プロセッサがハイパーバイザーによりそのいずれかの区画で作業を行うために使用可能にされた時間のことです。専用プロセッサは、ハイパーバイザーが区画によるプロセッサの使用方法を制御しないため、100% の使用率となります。

物理プロセッサ・データは、収集区画がその入手を許可されている場合にのみ報告されます。この許可は、ハードウェア管理コンソール (HMC) 上に設定された区画構成属性です。

このデータが使用可能であるには、ファームウェア・レベル xxxxxxxx 以降が必要です。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
DTECEN	世紀桁。	C (1)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	B (4,0)
SPPID	プロセッサ ID。各プロセッサのユニーク ID。	H (2)
SPTYPE	プロセッサのタイプ。‘1’ = 物理プロセッサ。	C (1)
SPATTR1	予約済み	C (1)
SPATTR2	予約済み	B (4,0)
SPTIME	処理時間。このプロセッサが一部の区画にディスパッチされた時間 (ミリ秒)。	B (18, 0)
SPVAL01	予約済み	B (18, 0)
SPVAL02	予約済み	B (18, 0)
SPVAL03	予約済み	B (18, 0)
SPVAL04	予約済み	B (18, 0)
SPVAL05	予約済み	B (18, 0)
SPVAL06	予約済み	B (18, 0)
SPVAL07	予約済み	B (18, 0)
SPVAL08	予約済み	B (18, 0)
SPVAL09	予約済み	B (18, 0)
SPVAL10	予約済み	B (18, 0)

### 関連概念

CPU 使用率の報告

仮想プロセッサで消費される合計 CPU が報告される方法を調べます。

### 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリとファイルの関係』  
 収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
 オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
 データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

#### 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンド  
 パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成  
 (CRTPFRDTA) コマンドを参照してください。

### 収集サービス・データ・ファイル: QAPMSYSTEM

このデータベース・ファイルは、システム全体のパフォーマンス・データを報告します。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
DTECEN	世紀桁。	C (1)
SYDPGF	ディレクトリー・ページ不在: 補助記憶域ディレクトリーのページが探索や割り振り操作のために主記憶装置に転送された回数。	PD (11,0)
SYAPGF	アクセス・グループ・メンバー・ページ不在: アクセス・グループ内に含まれているオブジェクトのページがアクセス・グループから独立して主記憶装置に転送された回数。この転送は、そのページが含まれているアクセス・グループが除去された場合や、そのアクセス・グループのある部分が主記憶装置から移されたために行われます。	PD (11,0)
SYMPGF	マイクロコード・ページ不在: マイクロコードのページが主記憶装置に転送された回数。	PD (11,0)
SYMCTR	マイクロタスク読み取り操作: 処理ではなく、マイクロタスクのために 1 ページ以上のデータが補助記憶域から転送された回数。	PD (11,0)
SYMCTW	マイクロタスク書き出し操作: 処理ではなく、マイクロタスクのために 1 ページ以上のデータが主記憶装置から補助記憶域に転送された回数。	PD (11,0)



フィールド名	説明	属性
SYSASP	使用可能なシステム補助記憶域プール・スペース: マシン・インターフェース (MI) オブジェクトやマシン内部の機能に現在割り当てられておらず、システム補助記憶域プールで割り振ることのできる補助記憶域のスペースのバイト数。	PD (15,0)
SYPRMW	主記憶装置から転送された永続データ: 直前のサンプル以降に、主記憶装置から補助記憶域内のシステム補助記憶域プールに転送された永続データの 512 バイト・ブロックの数。	PD (11,0)
SYSIZC	サイズのカウント: サイズ例外の合計数。	PD (11,0)
SYDECD	10 進数データのカウント: 10 進数データ例外の合計数。	PD (11,0)
SYSEZC	占有カウント: 占有待機例外の合計数。	PD (11,0)
SYSZWT	ミリ秒単位の占有/待機時間。	PD (11,0)
SYSYNL	同期ロックの競合のカウント。	PD (11,0)
SYASYL	非同期ロックの競合のカウント。	PD (11,0)
SYVFYC	検査のカウント。	PD (11,0)
SYAUTH	オブジェクト権限の検査。オブジェクトで権限が検査された回数。1 つのオブジェクト権限の検査の結果、キャッシュ付きまたはキャッシュなしのユーザー権限探索が 0 回、1 回、または複数回行われます (SYNUAL フィールドの説明を参照)。	PD (11,0)
SYEXPN	例外の合計数。	PD (11,0)
SYLRT1	最初の応答時間モニター・ブラケット内のトランザクション: 応答時間が「System i Navigator」インターフェース内の「収集サービスのプロパティ」ページから「拡張ローカル応答時間オプション (Advanced Local Response Time Options)」ダイアログで指定された境界 1 の値より小さいローカル・ワークステーション・トランザクションの合計数。	PD (9,0)

フィールド名	説明	属性
SYLRT2	2 番目の応答時間モニター・ブラケット内のトランザクション: 応答時間が「System i Navigator」インターフェース内の「収集サービスのプロパティ」ページから「拡張ローカル応答時間オプション (Advanced Local Response Time Options)」ダイアログで指定された境界 2 の値より小さく、境界 1 の値より大きいローカル・ワークステーション・トランザクションの合計数。	PD (9,0)
SYLRT3	3 番目の応答時間モニター・ブラケット内のトランザクション: 応答時間が「System i Navigator」インターフェース内の「収集サービスのプロパティ」ページから「拡張ローカル応答時間オプション (Advanced Local Response Time Options)」ダイアログで指定された境界 3 の値より小さく、境界 2 の値より大きいローカル・ワークステーション・トランザクションの合計数。	PD (9,0)
SYLRT4	4 番目の応答時間モニター・ブラケット内のトランザクション: 応答時間が「System i Navigator」インターフェース内の「収集サービスのプロパティ」ページから「拡張ローカル応答時間オプション (Advanced Local Response Time Options)」ダイアログで指定された境界 4 の値より小さく、境界 3 の値より大きいローカル・ワークステーション・トランザクションの合計数。	PD (9,0)
SYLRT5	5 番目の応答時間モニター・ブラケット内のトランザクション: 応答時間が「System i Navigator」インターフェース内の「収集サービスのプロパティ」ページから「拡張ローカル応答時間オプション (Advanced Local Response Time Options)」ダイアログで指定された境界 4 の値より大きいローカル・ワークステーション・トランザクションの合計数。	PD (9,0)
SHCPU	マイクロコード/システム・ジョブに使用された処理装置時間の合計 (ミリ秒)。	PD (11,0)
SMPLP	マシン・プール・ページング: マシン・プールの内外に転送されたページの数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
SMUPL	最高ユーザー・プール・ページング: ユーザー・プールの内外に転送された ページの最高数。	PD (11,0)
SUPLI	最高ページングのあったプール: 最高 数のページが内外に転送されたプールの 番号。	C (2)
SMXDU	最大ディスク使用率。すべての単一パス・ ディスク装置およびすべてのマルチパス・ ディスク装置の最大使用率。	PD (11,0)
SMXDUI	使用率が最大のアクチュエーター。	C (4)
SMMMT	すべての MRT 要求によって MRTMAX で費やされた時間 (秒)。	PD (11,0)
SMME	MRT に経路指定されたリクエストの 数。	PD (11,0)
SYFOPN	システム全体での全オープン回数。	PD (11,0)
SYIXRB	システム全体での索引再作成回数。	PD (11,0)
SYJOXR	ユーザーによって開始されたジャーナル 開始操作回数。	PD (11,0)
SYJOXP	ユーザーによって開始されたジャーナル 停止操作回数。	PD (11,0)
SYJOIR	システムによって開始されたジャーナル 開始操作回数。	PD (11,0)
SYJOIP	システムによって開始されたジャーナル 停止操作回数。	PD (11,0)
SYJOXD	ユーザーがジャーナル処理したオブジェ クトの結果のジャーナル保管。	PD (11,0)
SYJOID	システムがジャーナル処理したオブジェ クトの結果のジャーナル保管。	PD (11,0)
SYJOJP	システムがジャーナル処理したオブジェ クトの結果の、ユーザーが作成した ジャーナルへのジャーナル保管。	PD (11,0)
SYJOBJ	ユーザーが作成したジャーナルへのバ ンドル書き出し。	PD (11,0)
SYJOBBD	システム内部のジャーナルへのバンド ル書き出し。	PD (11,0)
SYJOJY	システムによって現在ジャーナル処理 されている公開アクセス・パス。	PD (11,0)
SYJOJN	現在ジャーナル処理されていない公開 アクセス・パス。	PD (11,0)
SYJOSE	システムが見積もった公開アクセス・ パスの回復時間 (ミリ秒)。	PD (11,0)
SYJORT	システム管理の公開アクセス・パス調 整。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
SYJOND	システムが見積もった、システムでジャーナル処理されている公開アクセス・パスがない場合の公開アクセス・パスの回復時間 (ミリ秒)。	PD (11,0)
SYHEAO	任意のテラスペース内にある 16 MB 境界の交差の数。テラスペースの EAO 例外も呼び出されます。	PD (11,0)
SYHFTS	余分な処理を必要とするスペース・アドレス計算 (テラスペースのアドレッシングではない) の数。符号付きの値を減算または加算した結果が、スペース・オブジェクトの先頭ページ内や、マシンが位置合わせを選択しなかった関連スペース内になると、このように余分な処理が必要になる場合があります。偽のトラップも呼び出されます。	PD (11,0)
SYHFTH	余分な処理を必要とするテラスペース・アドレス計算の数。符号付きの値を減算または加算した結果が、テラスペースにある 16 MB 境界の直後のページ内になると、このように余分な処理が必要になります。偽のトラップも呼び出されます。	PD (11,0)
SYSDBC	データベース CPU 時間。データベース処理に使用されている CPU 時間の総計 (ミリ秒)。	PD (9,0)
SYSSWC	2 次ワークロードの CPU 時間。専用サーバーのリソースを十分に利用できないワークロードを実行しているすべてのジョブにかかる CPU 時間の総計 (ミリ秒)。 <b>注:</b> このメトリックは、Domino サーバー上の Domino 以外の CPU 使用を測定します。Domino 以外のサーバーでは、このメトリックはサポートされないため、報告値は 0 になります。	PD (9,0)
SYJOER	要求された SMAPP 評価の数。このカウントは、明示的にジャーナル処理されたオブジェクトが、可能性がある SMAPP 適格変更について調べられた回数を示します。この評価は以下の 3 つの結果のいずれか 1 つになります。1 - アクションなし。2 - SMAPP によりこの索引の保護を開始する。3 - SMAPP によるこの索引の保護を終了する。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
SYJOES	保守された SMAPP 評価の数。これは、関連した索引の保護状態の変更を決定する評価の数です。	PD (11,0)
SYJOIB	SMAPP 索引作成時間見積もりの数。バックグラウンド SLIC タスクが、データベース・キー付き論理ファイルまたは SQL 索引を、索引を最初から再作成するためにかかる時間を見積もるために参照するように求められた回数。再作成にかかる時間が長いと見積もられるものは SMAPP を実行されます。この回数が大きいことは、アプリケーションがファイルを頻繁にオープンまたはクローズしていることを示します。	PD (11,0)
SYJOS1	最初のジャーナル・エン트리・タイプ。このフィールドは、ジャーナル・コードの SLIC 層がジャーナル・キャッシュを予定より早く空にした原因となった、さまざまなジャーナル・エン트리・タイプの中の最も頻繁に発生したものを報告します。このエン트리・タイプによって強制されたバンドルの数は、フィールド SYJOC1 に報告されます。	C (2)
SYJOC1	フィールド SYJOS1 で報告されたジャーナル・エン트리・タイプによって、予定より早く強制されたジャーナル・バンドルの数。	PD (15,0)
SYJOS2	2 番目のジャーナル・エン트리・タイプ。このフィールドは、ジャーナル・コードの SLIC 層がジャーナル・キャッシュを予定より早く空にした原因となった、さまざまなジャーナル・エン트리・タイプの中の 2 番目に最も頻繁に発生したものを報告します。このエン트리・タイプによって強制されたバンドルの数は、フィールド SYJOC2 に報告されます。	C (2)
SYJOC2	フィールド SYJOS2 で報告されたジャーナル・エン트리・タイプによって、予定より早く強制されたジャーナル・バンドルの数。	PD (15,0)

フィールド名	説明	属性
SYJOS3	3 番目のジャーナル・エントリー・タイプ。このフィールドは、ジャーナル・コードの SLIC 層がジャーナル・キャッシュを予定より早く空にした原因となった、さまざまなジャーナル・エントリー・タイプの中の 3 番目に最も頻繁に発生したものを報告します。このエントリー・タイプによって強制されたバンドルの数は、フィールド SYJOC3 に報告されます。	C (2)
SYJOC3	フィールド SYJOS3 で報告されたジャーナル・エントリー・タイプによって、予定より早く強制されたジャーナル・バンドルの数。	PD (15,0)
SYSDFE	書き込まれたが、永続記憶域には強制されていないストリーム・ファイルの数。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (11,0)
SYSDFO	ターゲット露出時間を超過して現在露出されているストリーム・ファイルの数。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (11,0)
SYSDET	露出時間 (ミリ秒単位)。ストリーム・ファイルが書き込まれてから、ファイルが永続記憶域に強制されるまでの時間 (ミリ秒単位)。この時間は、間隔中に公開されていたすべてのファイルについての合計です。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (15,0)

フィールド名	説明	属性
SYSDNST	ストリーム・ファイルを永続記憶域に強制している、実行しているタスクの数。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (5,0)
SYSDFAL	露出しており、強制する必要があるストリーム・ファイルの数。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (11,0)
SYSDFRL	非同期で永続記憶域に強制されているストリーム・ファイルの数。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (11,0)
SYSDPFD	非同期で永続記憶域に強制されているストリーム・ファイル・ページの数。このカウントには、fsync 操作によって強制されたページは含まれません。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (15,0)
SYSDPFF	fsync 操作の結果として永続記憶域に明示的に強制されたストリーム・ファイル・ページの数。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (15,0)

フィールド名	説明	属性
SYBTAC	実行された非同期消去操作の数。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (11,0)
SYBTAP	実行された非同期事前実行操作の数。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (11,0)
SYBTAPP	実行された並列事前実行操作の数。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (11,0)
SYBTAPC	実行された非同期作成操作の数。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (11,0)
SYBTAPD	実行された非同期削除操作の数。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (11,0)



フィールド名	説明	属性
SYLPTB	LPAR 時間基準。このフィールドは、単一システムの異なる区画上のシステム・クロック間の相違を判別する方法を提供します。このフィールドは、スタンドアロン・ベースで参照する場合は意味がありません。ただし、この値がシステムの 2 つ (またはそれ以上) の区画で設定されている場合、それらの値の相違は、その 2 つの区画間の時間差 (秒単位) です。	B (11,0)
SYNUAL	キャッシュなしユーザー権限探索。キャッシュなしユーザー権限探索が実行された回数。1 つのオブジェクト権限の検査の結果、ユーザー権限探索が 0 回、1 回、または複数回行われます。ユーザー権限探索は、ユーザー、ユーザーのグループ、または借用ユーザーについて行われ、キャッシュ付きでもキャッシュなしでも構いません。	PD (15,0)
SYIFUS	使用される対話型 CPU 時間。使用された対話型 CPU 時間の合計 (ミリ秒)。	PD (9,0)
SYIFTE	しきい値を超えて使用される対話型 CPU 時間。対話型 CPU しきい値を超えて使用された対話型 CPU 時間 (ミリ秒)。	PD (9,0)
SYIFTA	使用可能な対話型 CPU 時間。区画内で使用可能だった対話式 CPU 時間の長さ。これは、区画内で使用するために構成された対話式キャパシティーです (対話式しきい値としても表示される)。	PD (11,0)
SYSPTU	使用された CPU 時間。区画に使用された処理時間の合計 (ミリ秒)。	PD (11,0)
SYSCTA	区画用に構成された合計 CPU 時間。この区画用に構成されている、またはこの区画で保証されている合計処理時間 (ミリ秒単位)。これは間隔内で処理装置割り振りによって決定される、システム処理キャパシティーです。注: 上限なしの区画の場合、実際に使用される CPU はこの値を超えても構いません。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
SYSUTA	この区画により使用可能だった CPU 時間。この区画により使用可能だった合計処理時間 (ミリ秒単位) (時間外の構成変更用に調整)。保証された構成済みキャパシティーと、他の区画に使用されていなかった共用プール時間の両方が含まれます。上限あり、および、専用区画の場合、または共用プール・データが使用できない場合、これは構成済みの上限なし CPU 時間と同じです。	PD (11,0)
SYSUTC	構成済みの上限なしの CPU 時間。この区画が共用プール内での使用のために構成 (許可) される CPU 時間の最大量 (時間外の構成変更用に調整)。このフィールドは、最小限に構成された仮想プロセッサ、および構成された共用プール・プロセッサを定義します。上限あり、および、専用区画の場合、これは区画用に構成された合計 CPU 時間と同じです。	PD (11,0)
SYSPLU	使用された共用プール CPU 時間。プールを共用するすべての区画が、共用プール内で使用する CPU の合計。共用プールが使用されない場合、またはデータが使用できない場合はゼロに設定されます。	PD (11,0)
SYSPLA	使用可能な共用プール CPU 時間。共用プール内で使用可能な CPU の合計時間。この値は、プールに割り振られる物理プロセッサの数に基づいて決定されます。共用プールが使用されない場合、またはデータが使用できない場合はゼロに設定されます。	PD (11,0)
SYVCPU	構成済みの仮想プロセッサ時間。構成済みで、時間による構成変更に対して調整済みの仮想プロセッサの数を基にした、オペレーティング・システムに可視の処理時間の容量 (ミリ秒)。このフィールドは SYSUTC に似ていますが、共用プール構成または区画の capped/uncapped 状態に影響されない点が異なります。式 $SYVCPU/(INTSEC*1000)$ は、インターバル内での構成済み仮想プロセッサの平均数を与えます。注: V5R4 より前に取得したデータの場合は、ゼロ。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
SYDPCH	合計ディスパッチ時間。オペレーティング・システムが、ジョブ、タスク、またはスレッドをプロセッサにディスパッチした時間数 (ミリ秒)。プロセッサの仮想化の影響があるため、これは使用された CPU 時間と同一ではありません。注: ファイル QAPMJOBWT データが使用可能な場合のみ、このフィールドにはデータが含まれます。	PD (11,0)
SYSHRF	共用プロセッサ・フラグ。区画が共用プロセッサを使用しているかどうかを示します。  ' ' = 不明  '0' = 区画は物理プロセッサを共用しません。  '1' = 区画は物理プロセッサを共用します。	C (1)
SYSIUL	予約済み	PD (5,0)
SYSCIU	予約済み	PD (7,0)
SYJDUM	予約済み	PD (1,0)
SYJDDM	予約済み	C (3)
SYJCA4	予約済み	C (3)
SYJPAS	予約済み	C (3)
SYJMRT	予約済み	C (3)
SYJS6E	予約済み	C (3)
SYJCME	予約済み	C (3)
SYJAUT	予約済み	C (3)
SYJBCH	予約済み	C (3)
SYJINT	予約済み	C (3)
SYJSPL	予約済み	C (3)
I SYVPID	仮想共有プール ID。これは区画の現行仮想共有プロセッサ・プールの ID です。	B (4,0)
I SYVPCAP	仮想共有プール・ライセンス・キャパシティー。区画の現行仮想共有プロセッサ・プールのライセンス・キャパシティー (物理プロセッサの 1/100 の単位)。	B (9,0)

フィールド名	説明	属性
SYPPLU	使用された物理共用プール CPU 時間。プールを共用するすべての区画が、物理共用プロセッサ・プール内で使用する CPU 時間の合計 (ミリ秒単位)。物理共用プールが使用されない場合、またはデータが使用できない場合はゼロに設定されます。	B (18,0)
SYPLA	使用可能な物理共用プール CPU 時間。物理共用プロセッサ・プール内で使用可能な CPU 時間の合計 (ミリ秒単位)。この値は、プールに割り振られる物理プロセッサの数に基づいて決定されます。物理共用プールが使用されない場合、またはデータが使用できない場合はゼロに設定されます。  このフィールドは、プールと関連付けられた専用区画が未使用 CPU サイクルをプールに付与するように構成されていた場合は、それらの区画により付与された CPU 時間を反映していることに注意してください。	B (18,0)
SYPTHV	ハイパーバイザー CPU 時間。内部的必要のためにハイパーバイザーにより使用された CPU 時間 (ミリ秒単位)。この時間は SYSPTU に含まれていません。	B (18,0)
SYPTINT	中断 CPU 時間。処理の中断のためにオペレーティング・システムにより使用された CPU 時間 (ミリ秒単位)。この時間は SYSPTU に含まれていません。	B (18,0)
SYPTWS	タスク待機時間。SMT モードでタスク待機により使用された CPU 時間 (ミリ秒単位)。この時間は SYSPTU に含まれていません。	B (18,0)
SYPTDN	付与された CPU 時間。この区画により物理共用プロセッサ・プールに付与された CPU 時間の量 (ミリ秒単位)。この時間は、未使用の CPU サイクルを物理共用プールに付与するように構成された専用区画についてのみ報告されます。	B (18,0)

フィールド名	説明	属性
I SYSSPTU	使用された見積もり CPU 時間 (ミリ秒単位)。一部のシステム・モデル上では、電力消費量または操作温度に応じて、プロセッサが異なる速度と異なる時間に作動する場合があります。SYSSPTU 対 SYSPTU の比率は、通常のプロセッサ速度と比較した現行のプロセッサ速度を示します。	B (18,0)
I SYUCAPF	区画上限なしフラグ。区画キャパシティーが上限なしかどうかを示します。  ' ' = 不明  '0' = 区画キャパシティーは上限があるか、またはこの区画は物理プロセッサを共用しません。  '1' = 区画キャパシティーは上限がありません。	C (1)
I SYDONF	区画付与フラグ。区画が未使用の処理時間を物理共用プロセッサ・プールに付与することをサポートするかどうかを示します。  ' ' = 不明  '0' = 区画は処理時間の付与をサポートしません。  '1' = 区画は処理時間の付与をサポートします。	C (1)

### 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリーとファイルの関係』  
収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

### 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンド  
パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成  
(CRTPFRDTA) コマンドを参照してください。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMTCP

このデータベース・ファイルには、システム全体の TCP/IP データが入ります。

収集間隔ごとに 1 つのレコードが存在します。

注: TCP/IP パフォーマンス・データは、インターネット・プロトコル (Internet Protocol) バージョン 4  
(IPv4) および インターネット・プロトコル (Internet Protocol) バージョン 6 (IPv6) 両方のデータを含

んでいます。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) および時刻 (hhmmss)。サンプル間隔の日付および時刻。	C (12)
INTSEC	このサンプル間隔で TCP/IP が活動状態であった秒数。	PD (7,0)
DTECEN	世紀桁。	C (1)
TCDIRV	インターフェースから受信した入力データグラムの数 (エラーで受信したものも含む)。	PD (15,0)
TCDIHE	IP ヘッダーのエラーが原因で破棄された入力データグラムの数。	PD (11,0)
TCDIAE	IP ヘッダーの無効なアドレスが原因で破棄された入力データグラムの数。	PD (11,0)
TCDIUP	不明またはサポートされないプロトコルが原因で破棄された入力データグラムの数。	PD (11,0)
TCDIDS	その他の問題 (例: バッファ・スペースの不足) が原因で破棄された入力データグラムの数。	PD (11,0)
TCDIFW	転送されたデータグラムの数。ソース経路からこのシステムまでを含む。	PD (15,0)
TCDIDL	IP ユーザー・プロトコルに正常に送達された入力データグラムの数 (ICMP を含む)。	PD (15,0)
TCDOTR	IP ユーザー・プロトコルが送信用に提供したデータグラムの数 (ICMP を含む)。	PD (15,0)
TCDONR	宛先に送信するための経路を検出できなかったために破棄された出力データグラムの数。	PD (11,0)
TCDODS	その他の問題 (例: バッファ・スペースの不足) が原因で破棄された出力データグラムの数。	PD (11,0)
TCASMR	再組み立てが必要な、受信された IP 断片の数。	PD (15,0)
TCASMS	正常に再組み立てされたデータグラムの数。	PD (15,0)
TCASMF	再組み立てアルゴリズムによって検出された失敗の数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
TCFRGS	正常にフラグメント化されたデータグラムの数。	PD (15,0)
TCFRGF	フラグメント化失敗の数。	PD (11,0)
TCFRGN	生成されたデータグラム・フラグメントの数。	PD (15,0)
TCAOPN	CLOSED 状態から SYN-SENT 状態に遷移された TCP 接続の回数。	PD (11,0)
TCPOPN	LISTEN 状態から SYN-RCVD 状態に遷移された TCP 接続の回数。	PD (11,0)
TCFOPN	失敗した TCP 接続確立試行の回数。	PD (11,0)
TCCRST	TCP 接続がリセットされた回数。	PD (11,0)
TCSGRV	受信された TCP セグメントの数。	PD (15,0)
TCSGTR	送信された TCP セグメントの数。	PD (15,0)
TCSGRT	再送された TCP セグメントの数。	PD (11,0)
TCSGER	エラーで受信された TCP セグメントの数。	PD (11,0)
TCUDRV	UDP ユーザーに送達される UDP データグラムの数。	PD (15,0)
TCUDTR	送信された UDP データグラムの数。	PD (15,0)
TCUDNP	宛先ポート上にアプリケーションがない、受信された UDP データグラムの数。	PD (11,0)
TCUDER	その他の理由で送達できなかった、受信された UDP データグラムの数。	PD (11,0)
TCICRV	受信された ICMP メッセージの数。	PD (15,0)
TCICTR	送信が試行された ICMP メッセージの数。	PD (15,0)
TCICIE	ICMP 固有のエラーがあった、受信された ICMP メッセージの数。	PD (11,0)
TCICOE	ICMP 固有の問題によって送信されなかった ICMP メッセージの数。	PD (11,0)

### 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリーとファイルの関係』  
収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

### 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンド  
パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成  
(CRTPFRDTA) コマンドを参照してください。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMTCPIFC

このデータベース・ファイルには、個別の TCP/IP インターフェースに関連付けられている TCP/IP データが入ります。

それぞれの収集間隔の TCP/IP インターフェースごとに 1 つのレコードが存在します。

注: TCP/IP パフォーマンス・データは、インターネット・プロトコル (Internet Protocol) バージョン 4 (IPv4) および インターネット・プロトコル (Internet Protocol) バージョン 6 (IPv6) 両方のデータを含んでいます。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) および時刻 (hhmmss)。サンプル間隔の日付および時刻。	C (12)
INTSEC	このサンプル間隔で TCP/IP インターフェースが活動状態であった秒数。	PD (7,0)
DTECEN	世紀桁。	C (1)
TINUM	TCP/IP インターフェース番号。	PD (5,0)
TITYPE	TCP/IP インターフェース・タイプ。指定可能な TCP/IP インターフェース・タイプには、次のものがあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 01 = その他</li> <li>• 05 = RFC877 X25</li> <li>• 06 = イーサネット CSMACD</li> <li>• 07 = ISO88023 CSMACD</li> <li>• 09 = ISO88025 トークンリング</li> <li>• 15 = FDDI</li> <li>• 23 = PPP</li> <li>• 24 = ソフトウェア・ループバック</li> <li>• 28 = SLIP</li> <li>• 32 = フレーム・リレー</li> </ul> <p>これはリストの一部です。リスト全体については、RFC 1213 を参照してください。</p>	PD (5,0)
TILIND	回線記述オブジェクト名。	C (10)
TISTAT	インターフェース状況。指定可能な値には、次のものがあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 - アクティブ</li> <li>• 2 - 非アクティブ</li> <li>• 3 - テスト</li> </ul>	PD (3,0)



フィールド名	説明	属性
TIMTU	インターフェースの MTU サイズ。	PD (5,0)
TIBIRV	インターフェース上で受信したバイトの数。	PD (15,0)
TIPIUC	受信されたユニキャスト・パケットの数。	PD (15,0)
TIPINU	受信された非ユニキャスト・パケットの数。	PD (15,0)
TIPIER	エラーが含まれるインバウンド・パケットの数。	PD (11,0)
TIPIUP	プロトコル・エラーがあるインバウンド・パケットの数。	PD (11,0)
TIPIDS	その他の理由 (例: バッファ・スペースの不足) で破棄されたインバウンド・パケットの数。	PD (11,0)
TIBOTR	インターフェースから送信されたバイトの数。	PD (15,0)
TIPOUC	送信が要求されたユニキャスト・パケットの数。	PD (15,0)
TIPONU	送信が要求された非ユニキャスト・パケットの数。	PD (15,0)
TIPOER	エラーが原因で送信できなかったアウトバウンド・パケットの数。	PD (11,0)
TIPODS	その他の理由 (例: バッファ・スペースの不足) で破棄されたアウトバウンド・パケットの数。	PD (11,0)

### 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリとファイルの関係』  
収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

### 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンド  
パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成  
(CRTPFRDTA) コマンドを参照してください。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMUSRTNS

このデータベース・ファイルは、ユーザー定義トランザクションおよび Application Response Measurement (ARM) トランザクションのパフォーマンス・データを含んでいます。

間隔中の特定のジョブに対して発生したトランザクションのそれぞれのタイプに対して、1 つのレコードが作成されます。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
DTECEN	世紀桁: 0 は 19XX を示し、1 は 20XX を示します。	C (1)
UTNAM	ジョブ名。	C (10)
UTUSR	ジョブのユーザー。	C (10)
UTNUM	ジョブ番号。	C (6)
UTTYP	<p>トランザクション・タイプ。このジョブについてこのレコードで報告されたユーザー定義トランザクションのタイプ。このトランザクション・タイプの値は、トランザクションの開始 API および トランザクションの終了 API に渡されたアプリケーション ID パラメーターと同じです。収集サービスは、このジョブについて 15 を超えるトランザクション・タイプを検出する場合、すべての追加のトランザクション・タイプのトランザクション・データを、トランザクション・タイプ *OTHER に結合します。</p> <p>Application Response Measurement (ARM) トランザクション・データが QAPMUSRTNS ファイルに報告されるとき、このフィールドは ARM トランザクション・タイプ名を含んでいます。ARM トランザクション・タイプ名は、接頭部 『QARM』 で始まります。ARM トランザクションについての追加情報は、オプションの 2 次ファイル QAPMARMTRT にあります。</p>	C (20)
UTTIM	このジョブのこのタイプのすべてのトランザクションによって使用される合計時間 (マイクロ秒単位)。	B (18,0)
UTNUMT	このジョブのこのタイプのトランザクションの合計数。これはトランザクションの終了 API の呼び出しの数を表します。	B (9,0)
UTSTR	<p>このトランザクション・タイプおよびジョブの、トランザクションの開始 API の呼び出しの数。</p> <p>ARM トランザクション・タイプでは、ARM API が「トランザクションの開始」API を通らないため、このフィールドは 0 です。</p>	B (9,0)
UTBAD	誤ったトランザクションの開始時刻を渡した、このトランザクション・タイプおよびジョブの、トランザクションの終了 API の呼び出しの数。これはさまざまな理由で発生する可能性があります。たとえば、開始時刻がゼロである、開始時刻が終了時刻よりも後である、開始時刻がジョブ開始時刻よりも前である、などです。	B (9,0)

フィールド名	説明	属性
UTNUMC	このトランザクション・タイプおよびジョブに関連付けられた、ユーザー指定のカウンターの数 (N)。これらのカウンターは、最初の N UTCT <sub>n</sub> フィールドに報告されます。ユーザー指定のカウンターがない場合、このフィールドはゼロです。	B (9,0)
UTCT1	ユーザー指定のカウンター 1。  ARM トランザクション・タイプでは、このフィールドは、ARM トランザクションの合計キューイング時間 (ミリ秒) を含んでいます。	B (18,0)
UTCT2	ユーザー指定のカウンター 2。	B (18,0)
UTCT3	ユーザー指定のカウンター 3。	B (18,0)
UTCT4	ユーザー指定のカウンター 4。	B (18,0)
UTCT5	ユーザー指定のカウンター 5。	B (18,0)
UTCT6	ユーザー指定のカウンター 6。	B (18,0)
UTCT7	ユーザー指定のカウンター 7。	B (18,0)
UTCT8	ユーザー指定のカウンター 8。	B (18,0)
UTCT9	ユーザー指定のカウンター 9。	B (18,0)
UTCT10	ユーザー指定のカウンター 10。	B (18,0)
UTCT11	ユーザー指定のカウンター 11。	B (18,0)
UTCT12	ユーザー指定のカウンター 12。	B (18,0)
UTCT13	ユーザー指定のカウンター 13。	B (18,0)
UTCT14	ユーザー指定のカウンター 14。	B (18,0)
UTCT15	ユーザー指定のカウンター 15。	B (18,0)
UTCT16	ユーザー指定のカウンター 16。	B (18,0)
注: ARM トランザクション・データは、オペレーティング・システムに付属の ARM API インプリメンテーションを呼び出すアプリケーションに対してのみ報告されます。		

### 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリーとファイルの関係』  
収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

15 ページの『収集サービス・データ・ファイル: QAPMARMTRT』  
このデータベース・ファイルには、QAPMUSRTNS ファイルに報告される、Application Response  
Measurement (ARM) トランザクション・タイプについての情報が含まれています。

### 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンド  
パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成  
(CRTPFRDTA) コマンドを参照してください。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMWASAPP

このデータには、IBM WebSphere Application Server 上で実行するアプリケーションに関する情報が含まれます。

このデータ・ファイルには、間隔ごとの各アプリケーションに対して 1 レコードが含まれます。アプリケーションは以下のいずれかのタイプにすることができます。

- サーブレット・セッション
- Web アプリケーション (サーブレットおよび JSP)

ほとんどのデータは、WebSphere Performance Monitoring Infrastructure (PMI) データおよびトランザクション・カウンターからのものです。PMI データが直接使用される場合、PMI の名前フィールドが提供されます。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
DTECEN	世紀桁。0 は 19XX を示し、1 は 20XX を示します。	C (1)
WSNAME	サーバー・ジョブのジョブ名。	C (10)
WSUSER	サーバー・ジョブのユーザー名。	C (10)
WSNBR	サーバー・ジョブのジョブ番号。	C (6)
WSJKEY	サーバー・ジョブ・キー。	H (16)
WAKEY	アプリケーション・キー。	H (8)
WAAPP	アプリケーション名 (名前がこのフィールドよりも長い場合は、先頭から 10 文字が取られます)。このフィールドは Unicode です。	G (40)
サーブレット・セッション・カウンター		
WACRT	作成されたサーブレット・セッション。間隔中に作成されたサーブレット・セッションの数。 (PMI: servletSessionsModule.createdSessions)	B (9,0)
WAINV	無効にされたサーブレット・セッション。間隔中に無効にされたサーブレット・セッションの数。 (PMI: servletSessionsModule.invalidatedSessions)	B (9,0)
WATLIF	サーブレット・セッション累算存続時間。間隔中の累積サーブレット・セッション存続時間 (無効にされた時間から作成された時間を除算する: ミリ秒単位)。 (PMI: servletSessionsModule.sessionLifeTime)  平均存続時間を計算するには次のようにします。 WATLIF / WAINV	B (18,0)
WALIV	サーブレット・セッションの現行ライブ・カウント。データのサンプリング時にメモリー内にキャッシュされたセッションの数。 (PMI: servletSessionsModule.liveSessions)	B (9,0)

フィールド名	説明	属性
Web アプリケーション・カウンター - サーブレット		
WASLD	ロードされたサーブレット。間隔中にロードされたサーブレットの総数。このフィールドには、サーブレットと JSP の両方が含まれます。 (PMI: webAppModule.numLoadedServlets; CountStatistic)	B (9,0)
WASRD	再ロードされたサーブレット。間隔中に再ロードされたサーブレットの総数。このフィールドには、サーブレットと JSP の両方が含まれます。 (PMI: webAppModule.numReloads; CountStatistic)	B (9,0)
WASCNT	現行サーブレット。データのサンプリング時のサーブレットの数。このフィールドには JSP は含まれません。	B (9,0)
WASCNTNZ	非ゼロの応答時間の現行サーブレット。データのサンプリング時に応答時間 > 0 であったサーブレットの数。このフィールドには JSP は含まれません。	B (9,0)
WASREQ	サーブレット要求。間隔中にサーブレットが処理した要求の数。このフィールドには JSP は含まれません。 (PMI: webAppModule.servlets.totalRequests; CountStatistic)	B (9,0)
WASRT	サーブレット応答時間。間隔中のサーブレットに対する合計累積応答時間 (ミリ秒単位)。このフィールドには JSP は含まれません。 (PMI: webAppModule.servlets.responseTime; TimeStatistic)  サーブレットごとの応答時間を計算するには次のようにします。 WASRT / WASREQ	B (18,0)
WASWE	エラーがある現行サーブレット。データのサンプリング時にエラー・カウント > 0 であったサーブレットの数。このフィールドには JSP は含まれません。 (PMI: webAppModule.servlets.numErrors > 0 のサーブレットの数)	B (9,0)
WASERR	サーブレット・エラー・カウント。すべてのサーブレットのエラーの総数。このフィールドには JSP は含まれません。 (PMI: webAppModule.servlets.numErrors; CountStatistic)	B (9,0)
Web アプリケーション・カウンター - JSP		
WAJCNT	現行 JSP。データのサンプリング時の JSP の数。	B (9,0)
WAJREQ	JSP 要求。間隔中に JSP が処理した要求の数。 (PMI: webAppModule.servlets.totalRequests; CountStatistic)	B (9,0)
WAJRT	合計 JSP 応答時間。間隔中のすべての JSP に対する合計累積応答時間 (ミリ秒単位)。 (PMI: webAppModule.servlets.responseTime; TimeStatistic)  JSP ごとの応答時間を計算するには次のようにします。 WAJRT/WAJREQ	B (18,0)

フィールド名	説明	属性
WAJWE	エラーがある JSP カウント。データのサンプリング時にエラー・カウント > 0 であった JSP の数。 (PMI: webAppModule.servlets.numErrors > 0 の JSP の数)。	B (9,0)
WAJERR	JSP エラー・カウント。間隔中の JSP のエラーの総数。 (PMI: webAppModule.servlets.numErrors; CountStatistic).	B (9,0)
予約フィールド		
WARES1	予約済み	B (9,0)
WARES2	予約済み	B (9,0)
WARES3	予約済み	B (9,0)
WARES4	予約済み	B (9,0)
WARES5	予約済み	B (18,0)
WARES6	予約済み	B (18,0)


### 関連資料


236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリとファイルの関係』  
収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

### 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRTA) コマンド  
パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成  
(CRTPFRTA) コマンドを参照してください。

 [WebSphere サブレット・セッション・カウンター](#)  
WebSphere サブレット・セッション・カウンター・データについて詳しくは、『WebSphere サブレット・セッション・カウンター』を参照してください。

 [WebSphere Web アプリケーション・カウンター](#)  
WebSphere Web アプリケーション・カウンター・データについて詳しくは、『WebSphere Web アプリケーション・カウンター』を参照してください。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMWASCFG

このデータには、さまざまなサーバー・ジョブに関する構成情報が含まれます。

この情報は静的であり、したがってサーバーの存続期間中は変更されません。サーバーごとに 1 つのレコードがあります。WebSphere サーバーが停止し、後から再始動する場合、異なるジョブ名/ユーザー名/ジョブ番号を持つこととなりますが、サーバー名は同じです。

フィールド名	説明	属性
WSNAME	サーバー・ジョブのジョブ名。	C (10)
WSUSER	サーバー・ジョブのユーザー名。	C (10)
WSNBR	サーバー・ジョブのジョブ番号。	C (6)
WSJKEY	サーバー・ジョブ・キー。	H (16)

フィールド名	説明	属性
WSLIB	WebSphere ライブラリー名。	C (10)
WSIHP	初期ヒープ・サイズ (バイト単位)。	B (18,0)
WSMHP	最大ヒープ・サイズ (バイト単位)。 0 = *NOMAX	B (18,0)
WSPRF	プロファイル名 (名前がこのフィールドよりも長い場合は、先頭から 40 文字が取られます)。このフィールドは Unicode です。	G (40)
WSNODE	ノード名 (名前がこのフィールドよりも長い場合は、先頭から 40 文字が取られます)。このフィールドは Unicode です。	G (40)
WSCELL	セル名 (名前がこのフィールドよりも長い場合は、先頭から 40 文字が取られます)。このフィールドは Unicode です。	G (40)
WSSVR	サーバー名 (名前がこのフィールドよりも長い場合は、先頭から 40 文字が取られます)。このフィールドは Unicode です。	G (40)
WSVER	WebSphere バージョン (名前がこのフィールドよりも長い場合は、先頭から 40 文字が取られます)。このフィールドは Unicode です。	G (40)
WSED	WebSphere エディション (名前がこのフィールドよりも長い場合は、先頭から 40 文字が取られます)。このフィールドは Unicode です。	G (40)
WSJDK	JDK バージョン (名前がこのフィールドよりも長い場合は、先頭から 40 文字が取られます)。このフィールドは Unicode です。	G (40)
WSSEC	セキュリティ情報 (名前がこのフィールドよりも長い場合は、先頭から 40 文字が取られます)。このフィールドは Unicode です。	G (40)
WSSTRS	開始統計レベル (名前がこのフィールドよりも長い場合は、先頭から 40 文字が取られます)。このフィールドは Unicode です。	G (40)
WSREF	参照フラグによる受け渡し。	C (1)
WSJVM	汎用 JVM 呼び出しストリング (名前がこのフィールドよりも長い場合は、先頭から 200 文字が取られます)。このフィールドは Unicode です。	G (200)
WSCRES1	予約済み	G (20)
WSCRES2	予約済み	G (20)
WSCRES3	予約済み	G (40)
WSCRES4	予約済み	G (40)

## 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリーとファイルの関係』  
 収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
 オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
 データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMWASEJB

このデータには、IBM WebSphere Application Server 上で実行するエンタープライズ Java Bean (EJB) を使用したアプリケーションに関する情報が含まれます。

各レコードは、間隔ごとのそれぞれのアプリケーションの EJB の 1 タイプを表します (ステートフル、ステートレス、エンティティ、またはメッセージ駆動など)。特定の EJB タイプに対する Bean アクティビティがない場合、書き込まれるレコードはありません。

ほとんどのデータは、WebSphere Performance Monitoring Infrastructure (PMI) データおよびトランザクション・カウンターからのものです。PMI データが直接使用される場合、PMI の名前フィールドが提供されます。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
DTECEN	世紀桁。0 は 19XX を示し、1 は 20XX を示します。	C (1)
WSNAME	サーバー・ジョブのジョブ名。	C (10)
WSUSER	サーバー・ジョブのユーザー名。	C (10)
WSNBR	サーバー・ジョブのジョブ番号。	C (6)
WSJKEY	サーバー・ジョブ・キー。	H (16)
WAKEY	アプリケーション・キー。	H (8)
WEAPP	アプリケーション名 (名前がこのフィールドよりも長い場合は、先頭から 10 文字が取られます)。このフィールドは Unicode です。	G (40)
WETYPE	Bean のタイプ。  '1' = ステートフル '2' = ステートレス '3' = エンティティ '4' = メッセージ駆動	C (1)
WEHOME	EJB ホーム。データのサンプリング時の EJB ホームの数。	B (9,0)
WECRT	作成された Bean。間隔中に作成された Bean の総数。 (PMI: beanModule.create; CountStatistic)	B (9,0)
WERMV	除去された Bean。間隔中に除去された Bean の総数。 (PMI: beanModule.remove; CountStatistic)	B (9,0)
WEPSV	非活性化された Bean。間隔中に非活性化された Bean の総数。 (PMI: beanModule.passivate; CountStatistic)	B (9,0)
WELOAD	ロードされた Bean。間隔中にロードされた Bean の総数。このフィールドはエンティティ Bean にのみ適用されます。 (PMI: beanModule.load; CountStatistic)	B (9,0)



フィールド名	説明	属性
WESTORE	保管された Bean。間隔中に保管された Bean の総数。このフィールドはエンティティ Bean にのみ適用されます。 (PMI: beanModule.stores; CountStatistic)	B (9,0)
WERSP	Bean メソッドの合計累積応答時間。間隔中の Bean メソッド (ホーム、リモート、ローカル) の合計応答時間 (ミリ秒単位)。  Bean ごとの平均応答時間を計算するには次のようにします。 WERSP / WECALL (PMI: beanModule.avgMethodRt; TimeStatistic)	B (18,0)
WERDY	現行の作動可能 Bean。データのサンプリング時の作動可能 Bean の数。 (PMI: beanModule.readyCount; RangeStatistic)	B (9,0)
WELIV	現行のライブ Bean。データのサンプリング時のライブ Bean の数。 (PMI: beanModule.concurrentLives; RangeStatistic)	B (9,0)
WECALL	Bean メソッド呼び出し。間隔中の Bean メソッド呼び出しの総数。 (PMI: beanModule.totalMethodCalls; CountStatistic)	B (9,0)
WERTP	プールに戻る。間隔中に Bean をプールに戻る呼び出しの総数。このフィールドは、ステートレスおよびエンティティ Bean にのみ適用されます。 (PMI: beanModule.returnsToPool; CountStatistic)	B (9,0)
WEDISC	破棄に戻る。間隔中に、プールが満杯のために、戻された Bean が破棄された合計回数。このフィールドは、ステートレスおよびエンティティ Bean にのみ適用されます。 (PMI: beanModule.returnsDiscarded; CountStatistic)	B (9,0)
WEPOOL	プール内の現行 Bean。データのサンプリング時のプール内の Bean の数。このフィールドは、ステートレスおよびエンティティ Bean にのみ適用されます。 (PMI: beanModule.poolSize; RangeStatistic)	B (9,0)
WEMSG	配信されたメッセージ。間隔中に Bean onMessage メソッドに配信されたメッセージの総数。このフィールドはメッセージ駆動 Bean にのみ適用されます。 (PMI: beanModule.messageCount; CountStatistic)	B (9,0)
WERES1	予約済み	B (9,0)
WERES2	予約済み	B (9,0)
WERES3	予約済み	B (9,0)
WERES4	予約済み	B (9,0)
WERES5	予約済み	B (18,0)
WERES6	予約済み	B (18,0)

## 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリとファイルの関係』  
 収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
 オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
 データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

### 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンド  
 パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成  
 (CRTPFRDTA) コマンドを参照してください。

### WebSphere EJB カウンター

WebSphere EJB カウンター・データについて詳しくは、『WebSphere EJB カウンター』を参照してく  
 ださい。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMWASPRSC

このデータには、IBM WebSphere Application Server に関するプール・リソースに関する情報が含まれま  
 す。

各レコードは、間隔ごとの 1 つのプール・リソースを表します。プール・リソースのタイプは、JDBC 接  
 続プール、J2C 接続プール、またはスレッド・プールにすることができます。すべてのフィールドがそれ  
 ぞれのプール・リソース・タイプに適用できるわけではありません。リソースが存在するが使用されていな  
 い (何も作成、破棄、割り振り、または戻されていない) 場合、レコードは作成されません。

ほとんどのデータは、WebSphere Performance Monitoring Infrastructure (PMI) データおよびトランザクシ  
 ョン・カウンターからのものです。PMI データが直接使用される場合、PMI の名前フィールドが提供され  
 ます。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプ ル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日 付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
DTECEN	世紀桁。0 は 19XX を示し、1 は 20XX を示します。	C (1)
WSNAME	サーバー・ジョブのジョブ名。	C (10)
WSUSER	サーバー・ジョブのユーザー名。	C (10)
WSNBR	サーバー・ジョブのジョブ番号。	C (6)
WSJKEY	サーバー・ジョブ・キー。	H (16)
WPKEY	プール・リソース・キー。	H (8)
WPRSCNM	プール・リソース名。このフィールドは Unicode です。	G (40)
WPTYPE	プール・リソースのタイプ:  '1' = JDBC '2' = J2C '3' = スレッド・プール	C (1)

フィールド名	説明	属性
WPCRT	作成。間隔中に作成された接続またはスレッドの総数。 (PMI: JDBC: connectionPoolModule.numCreates; CountStatistic) (PMI: J2C: j2cModule.numManagedConnectionsCreated; CountStatistic) (PMI: スレッド・プール: threadPoolModule.threadCreates; CountStatistic)	B (9,0)
WPDST	破棄。間隔中に破棄された接続またはスレッドの総数。 (PMI: JDBC: connectionPoolModule.numDestroys; CountStatistic) (PMI: J2C: j2cModule.numManagedConnectionsDestroyed; CountStatistic) (PMI: スレッド・プール: threadPoolModule.threadDestroys; CountStatistic)	B (9,0)
WPALC	割り振り。間隔中に割り振られた接続の総数。スレ ッド・プールには適用されません。 (PMI: JDBC: connectionPoolModule.numAllocates; CountStatistic) (PMI: J2C: j2cModule.numManagedConnectionsAllocated; CountStatistic) (PMI: スレッド・プール: 0 に設定)	B (9,0)
WPRTN	戻す。間隔中にプール戻された接続の総数。スレッド・ プールには適用されません。 (PMI: JDBC: connectionPoolModule.numReturns; CountStatistic) (PMI: J2C: j2cModule.numManagedConnectionsReleased; CountStatistic) (PMI: スレッド・プール: 0 に設定)	B (9,0)
WPACT	活動状態のカウント。データのサンプリング時の活動状 態の接続またはスレッドの数。 (PMI: JDBC: 割り振り-戻りからの計算; CountStatistic) (PMI: J2C: 割り振り-戻りからの計算; CountStatistic) (PMI: スレッド・プール: threadPoolModule.activeThreads; RangeStatistic)	B (9,0)
WPWAITM	待機時間。間隔中に、接続が許可されるまで待機に費や した総累積時間 (ミリ秒単位)。スレッド・プールには適 用されません。 (PMI: JDBC: connectionPoolModule.avgWaitTime; TimeStatistic) (PMI: J2C: j2cModule.avgWait; TimeStatistic) (PMI: スレッド・プール: 0 に設定)	B (18,0)
WPUSETM	使用時間。間隔中に JDBC 接続が使用された総累積時間 (ミリ秒単位)。 J2C またはスレッド・プールには適用さ れません。 (PMI: JDBC: connectionPoolModule.avgUseTime; TimeStatistic) (PMI: J2C: j2cModule.useTime; TimeStatistic) (PMI: スレッド: 0 に設定)	B (18,0)

フィールド名	説明	属性
WPCONN	<p>管理対象接続の数。間隔中に JDBC および J2C プールに対して使用中の管理対象接続の総数。スレッド・プールには適用されません。</p> <p>(PMI: JDBC: connectionPoolModule.numManagedConnections; CountStatistic)</p> <p>(PMI: J2C: j2cModule.numManagedConnections; CountStatistic)</p> <p>(PMI: スレッド: 0 に設定)</p>	B (9,0)
WPSMTD	<p>準備済みステートメントの廃棄。間隔中にステートメント・キャッシュの最長未使用時間 (LRU) アルゴリズムにより廃棄されたステートメントの総数。J2C またはスレッド・プールには適用されません。</p> <p>(PMI: JDBC: connectionPoolModule.prepStmtCacheDiscards; CountStatistic)</p> <p>(PMI: J2C: 0 に設定)</p> <p>(PMI: スレッド: 0 に設定)</p>	B (9,0)
WJPDBC	<p>JDBC 時間。間隔中に JDBC ドライバーでの実行に費やされた総累積時間 (ミリ秒単位)。これには、JDBC ドライバー、ネットワーク、およびデータベースで費やされた時間が含まれます (5.0 DataSource のみに適用)。J2C またはスレッド・プールには適用されません。</p> <p>(PMI: JDBC: connectionPoolModule.jdbcOperationTimer; TimeStatistic)</p> <p>(PMI: J2C: 0 に設定)</p> <p>(PMI: スレッド: 0 に設定)</p>	B (9,0)
WPWAIT	<p>現在の待機側。データのサンプリング時に接続を待機している JDBC または J2C スレッドの数。スレッド・プールには適用されません。</p> <p>(PMI: JDBC: connectionPoolModule.concurrentWaiters; RangeStatistic)</p> <p>(PMI: J2C: j2cModule.concurrentWaiters)</p> <p>(PMI: スレッド: 0 に設定)</p>	B (9,0)
WPPCTU	<p>使用パーセント。データのサンプリング時に使用中の JDBC または J2C プールの現行平均パーセント。スレッド・プールには適用されません。</p> <p>(PMI: JDBC: connectionPoolModule.percentUsed; RangeStatistic)</p> <p>(PMI: J2C: j2cModule.percentUsed; RangeStatistic)</p> <p>(PMI: スレッド: 0 に設定)</p>	B (5,0)
WPPCTM	<p>最大パーセント。データのサンプリング時にすべての接続が使用中である時間の、現行平均パーセント。</p> <p>(PMI: JDBC: connectionPoolModule.percentMaxed; RangeStatistic)</p> <p>(PMI: J2C: j2cModule.percentMaxed; RangeStatistic)</p> <p>(PMI: スレッド: threadPoolModule.percentMaxed)</p>	B (5,0)

フィールド名	説明	属性
WPTC	スレッド・カウント。データのサンプリング時のプール内の接続またはスレッドの平均数。 (PMI: JDBC: <code>connectionPoolModule.poolSize</code> ; <code>BoundedRangeStatistic</code> ) (PMI: J2C: <code>j2cModule.freePoolSize</code> ) (PMI: スレッド: <code>threadPoolModule.poolSize</code> ; <code>BoundedRangeStatistic</code> )	B (9,0)
WPTH	開始したスレッド・ハング。間隔中にハングと宣言されたスレッドの総数。 JDBC または J2C プールには適用されません。 (PMI: JDBC: 0 に設定) (PMI: J2C: 0 に設定) (PMI: スレッド: <code>threadPoolModule.declaredThreadHung</code> ; <code>CountStatistic</code> )	B (9,0)
WPTHE	終了したスレッド・ハング。間隔中にクリアされたスレッド・ハングの総数。 JDBC または J2C プールには適用されません。 (PMI: JDBC: 0 に設定) (PMI: J2C: 0 に設定) (PMI: スレッド: <code>threadPoolModule.declaredThreadHangCleared</code> ; <code>CountStatistic</code> )	B (9,0)
WPCTH	現行のスレッド・ハング。データのサンプリング時のハング・スレッドの数。 JDBC または J2C プールには適用されません。 (PMI: JDBC: 0 に設定) (PMI: J2C: 0 に設定) (PMI: スレッド: <code>threadPoolModule.concurrentlyHungThreads</code> ; <code>RangeStatistic</code> )	B (9,0)
WPRES1	予約済み	B (9,0)
WPRES2	予約済み	B (9,0)
WPRES3	予約済み	B (9,0)
WPRES4	予約済み	B (9,0)
WPRES5	予約済み	B (18,0)
WPRES6	予約済み	B (18,0)

### 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリーとファイルの関係』  
収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

### 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRTA) コマンド  
パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成  
(CRTPFRTA) コマンドを参照してください。

#### WebSphere JDBC 接続プール・カウンター

WebSphere JDBC 接続プール・カウンター・データについて詳しくは、『WebSphere JDBC 接続プール・カウンター』を参照してください。

#### WebSphere J2C 接続プール・カウンター

WebSphere J2C 接続プール・カウンター・データについて詳しくは、『WebSphere J2C 接続プール・カウンター』を参照してください。

#### WebSphere スレッド・プール・カウンター

WebSphere スレッド・プール・カウンター・データについて詳しくは、『WebSphere スレッド・プール・カウンター』を参照してください。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMWASSVR

このデータには、IBM WebSphere Application Server 上で実行するサーバー・ジョブに関する情報が含まれます。

これには間隔ごとの各サーバー・ジョブに対して 1 つのレコードが含まれます。ほとんどのデータは、WebSphere Performance Monitoring Infrastructure (PMI) データおよびトランザクション・カウンターからのものです。PMI データが直接使用される場合、PMI の名前フィールドが提供されます。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yyymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
DTECEN	世紀桁。0 は 19XX を示し、1 は 20XX を示します。	C (1)
WSDTIM	データが収集された日時 (YYYYMMDDhhmmss)。	C (14)
WSNAME	サーバー・ジョブのジョブ名。	C (10)
WSUSER	サーバー・ジョブのユーザー名。	C (10)
WSNBR	サーバー・ジョブのジョブ番号。	C (6)
WSJKEY	サーバー・ジョブ・キー。	H (16)
WSIHP	初期ヒープ・サイズ (バイト単位)。	B (18,0)
WSMHP	最大ヒープ・サイズ (バイト単位)。 0 = *NOMAX	B (18,0)
WSUMEM	データのサンプリング時の JVM により使用されたメモリーの量 (バイト単位)。 (PMI: jvmRuntimeModule.usedMemory; CountStatistic)	B (18,0)
WSTMEM	データのサンプリング時の JVM ランタイム内の合計メモリー (バイト単位)。 (PMI: jvmRuntimeModule.totalMemory; BoundedRangeStatistic)	B (18,0)
WSMMEM	データのサンプリング時の JVM ランタイム内の (サーバー・ジョブの存続期間を通じた) 最大監視合計メモリー (バイト単位)。 (PMI: jvmRuntimeModule.totalMemory; BoundedRangeStatistic)	B (18,0)

フィールド名	説明	属性
WSNHMU	予約済み	B (18,0)
WSNHMC	予約済み	B (18,0)
WSUPTM	アップ時間。間隔中に JVM が実行中であった時間 (ミリ秒単位)。 (PMI: <code>jvmRuntimeModule.upTime</code> ; <code>CountStatistic</code> )	B (9,0)
WSGBG	開始されたグローバル・トランザクション。間隔中にサーバー上で開始されたグローバル・トランザクションの総数。 (PMI: <code>transactionModule.globalTransBegun</code> ; <code>CountStatistic</code> )	B (9,0)
WSLBG	開始されたローカル・トランザクション。間隔中にサーバー上で開始されたローカル・トランザクションの総数。 (PMI: <code>transactionModule.localTransBegun</code> ; <code>CountStatistic</code> )	B (9,0)
WSGTRT	グローバル・トランザクション時間。間隔中のグローバル・トランザクションの累積時間 (ミリ秒単位)。 (PMI: <code>transactionModule.globalTranDuration</code> ; <code>TimeStatistic</code> )  グローバル・トランザクションごとの時間を計算するには次のようにします。 $WSGTRT / (WSGCMT + WSGRBK)$	B (18,0)
WSLTRT	ローカル・トランザクション時間。間隔中のローカル・トランザクションの累積時間 (ミリ秒単位)。 (PMI: <code>transactionModule.localTranDuration</code> ; <code>TimeStatistic</code> )  ローカル・トランザクションごとの時間を計算するには次のようにします。 $WSLTRT / (WSLCMT + WSLRBK)$	B (18,0)
WSGCMT	コミットされたグローバル・トランザクション。コミットされた (完了した) グローバル・トランザクションの総数。 (PMI: <code>transactionModule.globalTransCommitted</code> ; <code>CountStatistic</code> )	B (9,0)
WSLCMT	コミットされたローカル・トランザクション。間隔中にコミットされた (完了した) ローカル・トランザクションの総数。 (PMI: <code>transactionModule.globalTransCommitted</code> ; <code>ContStatistic</code> )	B (9,0)
WSGRBK	ロールバックされたグローバル・トランザクション。間隔中にロールバックされたグローバル・トランザクションの総数。 (PMI: <code>transactionModule.globalTransRolledBack</code> ; <code>CountStatistic</code> )	B (9,0)
WSLRBK	ロールバックされたローカル・トランザクション。間隔中にロールバックされたローカル・トランザクションの総数。 (PMI: <code>transactionModule.globalTransRolledBack</code> ; <code>CountStatistic</code> )	B (9,0)

フィールド名	説明	属性
WSGTMO	タイムアウトになったグローバル・トランザクション。間隔中にタイムアウトになったグローバル・トランザクションの総数。 (PMI: transactionModule.globalTransTimeout; CountStatistic)	B (9,0)
WSLTMO	タイムアウトになったローカル・トランザクション。間隔中にタイムアウトになったローカル・トランザクションの総数。 (PMI: transactionModule.localTransTimeout; CountStatistic)	B (9,0)
WSGCC	ガーベッジ・コレクション・カウント。間隔中のガーベッジ・コレクション・イベントの数。JDK 5.0 のみ。 (GarbageCollectorMXBean.getCollectionCount())	B (18,0)
WSGCT	ガーベッジ・コレクション時間。間隔中のガーベッジ・コレクション・イベントの累積時間 (ミリ秒単位)。JDK 5.0 のみ。 (GarbageCollectorMXBean.getCollectionTime())	B (18,0)
WSRES1	予約済み	B (9,0)
WSRES2	予約済み	B (9,0)
WSRES3	予約済み	B (9,0)
WSRES4	予約済み	B (9,0)
WSRES5	予約済み	B (18,0)
WSRES6	予約済み	B (18,0)


## 関連資料


236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリーとファイルの関係』  
収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

## 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFDRDTA) コマンド  
パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成  
(CRTPFDRDTA) コマンドを参照してください。

 [WebSphere JVM データ・カウンター](#)  
WebSphere JVM データ・カウンター・データについて詳しくは、『WebSphere JVM データ・カウンター』  
を参照してください。

 [WebSphere トランザクション・カウンター](#)  
WebSphere トランザクション・カウンター・データについて詳しくは、『WebSphere トランザクシ  
ョン・カウンター』を参照してください。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMX25

このデータベース・ファイルには、X.25 ファイル項目が含まれており、X.25 ファイル内のフィールドをリス  
トしています。

フィールド名のラベル指定は以下のとおりです。



- ラベルの XH 接頭部は HDLC カウンターを示します。
- XL は X.25 論理リンク制御 (LLC) カウンターを示します。
- XP はパケット・レベル制御 (PLC) カウンターを示します。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
XIOPID	予約済み	C (1)
XITYPE	このレコードに表示されている IOP またはアダプターの資源タイプ。	C (4)
XLLND	回線記述: この回線の記述の名前。	C (10)
XLLSP	回線速度: この回線のビット/秒 (bps) 速度。	PD (11,0)
XHBTRN	送信済みバイト数: 再送信されたバイト数を含む、送信されたバイト数。	PD (11,0)
XHBRCV	受信済みバイト: エラーのあるフレーム内のすべてのバイトも含めた、受信済みバイトの数。	PD (11,0)
XHPRCL	プロトコル・タイプ: X (X.25 用)	C (1)
XHFTRN	送信済みフレーム: 再送信されたフレームを除外した、送信済みフレーム (I フレーム、監視フレーム、番号のないフレーム) の数。	PD (11,0)
XHIFTR	送信済み I フレーム: 再送信された I フレームを除外した、送信済み I フレームの数。	PD (11,0)
XHIFRT	再送信済み I フレーム: 再送信された I フレームの数。	PD (11,0)
XHFRT	再送信済みフレーム: 再送信された、I フレームと監視フレームと番号のないフレームの数。	PD (11,0)
XHEFFR	エラー・フリーの受信フレーム数: エラー・フリーで受信された I フレームと監視フレームと番号なしのフレームの数 (これらがリモート側から再送信されているかどうかにはかかわらない)。	PD (11,0)
XHEFIR	エラー・フリーの受信 I フレーム数: エラー・フリーで受信された I フレームの数 (これらがリモート側から再送信されているかどうかにはかかわらない)。	PD (11,0)
XHFRIE	エラーの受信フレーム数: エラーで受信された I フレームと監視フレームと番号なしフレームの数。次の 3 つのエラーの可能性がありますが: (1) 監視フレームまたは I フレームが、フレームの再送信を要求する Nr カウントで受信された。(2) I フレームが、フレームが欠落したことを示す Ns カウントで受信された。(3) フレームが、検査シーケンス・エラー、異常終了、受信オーバーラン、フレーム切り捨てエラーのいずれかのエラーで受信された。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
XHIFR	受信された無効フレーム: 受信された無効フレームの数。これらは次のような状況で受信されたフレームです: (1) 短フレーム・エラーのフレームが 32 ビット未満だった。 (2) 残りのエラー・フレームはバイト境界上にならない。	PD (11,0)
XHRRFT	送信された受信可監視フレームの数。	PD (11,0)
XHRRFR	受信された受信可監視フレームの数。	PD (11,0)
XHRNRT	送信された受信不可監視のフレームの数。	PD (11,0)
XHRNRR	受信された受信不可監視のフレームの数。	PD (11,0)
XHLNKR	リンク・リセット: 端末が既に正規応答モードにあるときに、通常応答モード設定 (SNRM)が受信された回数。	PD (11,0)
XLITR	送信されたインターフェース・プロトコル・データ単位 (LLC レベル)。	PD (11,0)
XLIRC	受信されたインターフェース・プロトコル・データ単位。	PD (11,0)
XLIRT	再送信されたインターフェース・プロトコル・データ単位。	PD (11,0)
XLIRE	エラーで受信されたインターフェース・プロトコル・データ単位 (チェックサム)。	PD (11,0)
XLLXTR	送信された XID フレームの数。	PD (11,0)
XLXRC	受信された XID の数。	PD (11,0)
XLTT	送信されたテストの数。	PD (11,0)
XLTR	受信されたテストの数。	PD (11,0)
XLLJT	送信された LLC 拒否の数。	PD (11,0)
XLLJR	受信された LLC 拒否の数。	PD (11,0)
XLRLD	破棄された受信 LLC プロトコル・データ単位の数。	PD (11,0)
XLTO	タイムアウトの数。	PD (11,0)
XLCED	検出されたチェックサム・エラー。	PD (11,0)
XLSRA	正常な回復試行。	PD (11,0)
XLRA	回復試行。	PD (11,0)
XLRSI	パケット・リンク制御からのリセット指示の数。	PD (11,0)
XLCLS	パケット・リンク制御からの端末クローズ指示の数。	PD (11,0)
XLRNR	受信された LLC 受信不可フレーム数。	PD (11,0)
XPTPT	送信されたパケットの合計。	PD (11,0)
XPTPR	受信されたパケットの合計。	PD (11,0)
XPDPT	送信データ・パケット数。	PD (11,0)
XPDPR	受信データ・パケット数。	PD (11,0)
XPRPT	送信リセット・パケット数。	PD (11,0)
XPROR	受信リセット・パケット数。	PD (11,0)
XPRNR	受信された受信不可パケット数。	PD (11,0)

## 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリとファイルの関係』  
収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

#### 関連情報

パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンド  
パフォーマンス・データベース・ファイルの作成方法については、パフォーマンス・データ作成  
(CRTPFRDTA) コマンドを参照してください。

## 収集サービス・データ・ファイル: 構成データベース・ファイルのフィールド・データ

構成データは、セッションごとに一度収集されます。構成データ・ファイル内に  
QAPMCONF、QAPMHDWR、および QAPMSBSD ファイルを見つけることができます。

以下のパフォーマンス・データ・ファイルは、ファイル名、簡単な説明、およびシステム構成データ、サブ  
システム・データ、およびハードウェア構成データに関するフィールド・データの詳細 (提供される場合)  
への参照を示しています。

フィールド名	説明
QAPMCONF	システム構成データ。
QAPMHDWR	システム・ハードウェア構成。
QAPMSBSD	サブシステム・データ。フィールドおよびバイト・データ はありません。

#### 関連資料

236 ページの『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリとファイルの関係』  
収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL)  
オブジェクトに保管されます。

#### 関連情報

収集サービス  
収集サービスは、後で分析するパフォーマンス・データを収集するために使用します。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMCONF

このデータベース・ファイルには、収集に関する一般情報が含まれています。

QAPMCONF には、収集オプションに関する情報、生成されたデータベース・ファイルの特性、およびデ  
ータが収集されたシステムに関する情報が含まれます。このファイルには、報告された項目ごとに 1 つの  
レコードが書き出されます (GKEY フィールドを参照)。このファイルはオプションではありません。この  
ファイル内のデータは、すべてのデータベース・コレクションで生成されます。このデータは収集の開始時  
にのみ報告されます。収集の間、このファイル内のデータはほとんど変更されませんが、中には変更されて  
いるデータもあり得ます。変更は報告されません。

**GRES** 予約済み。

属性: C (4)

**GKEY** GDES フィールドの中にどのようなデータが含まれているかを示す ID。下記の表の説明を参照し  
てください。

属性: C (2)

**GDES** 関連した **GKEY** 値のデータ。下記の表の値を参照してください。特に注記がない限り、システム値はすべて、データが収集された区画に関連しています。特に注記がない限り、このフィールドではすべてのデータは左揃えです。

属性: C (10)

GKEY	GDES
1	パフォーマンス・モニターまたはデータの開始日付。データは C (7) の値で報告され、(yyymmddc) の形式を取ります。
2	パフォーマンス・モニターまたはデータの開始時刻。時刻は C (6) の値で報告され、(hhmmss) の形式を取ります。
3	4 文字の型式番号とそれに続く 4 文字のシステム・タイプ。
4	区画のメモリー (KB) (ゾーン (10,0))。
5	収集された通信データ。これは、通信ファイルが作成された場合にだけ Y に設定されます。
6	機械シリアル番号 (10 文字)。
7	最初の応答時間境界 (ミリ秒) (ゾーン (10,0))。最初の応答時間モニター・ブラケットは 0 から最初の応答時間境界までです (最初の境界も含む)。
8	2 番目の応答時間境界 (ミリ秒) (ゾーン (10,0))。2 番目の応答時間モニター・ブラケットは最初の応答時間境界から 2 番目の応答時間境界までです (2 番目の境界も含む)。
9	3 番目の応答時間境界 (ミリ秒) (ゾーン (10,0))。3 番目の応答時間モニター・ブラケットは 2 番目の応答時間境界から 3 番目の応答時間境界までです (3 番目の境界も含む)。
10	4 番目の応答時間境界 (ミリ秒) (ゾーン (10,0))。4 番目の応答時間モニター・ブラケットは 3 番目の応答時間境界から 4 番目の応答時間境界までです (4 番目の境界も含む)。5 番目以降の応答時間境界は、5 番目の応答時間モニター・ブラケットの範囲に収まります。
11	システム ASP のキャパシティー (KB) (ゾーン (10,0))。データ用の記憶域としてシステム ASP に割り当てられた補助記憶域の合計 KB 数です。  このフィールドを格納可能な最大数 (999999999) に設定すると、システム ASP のキャパシティーはこのレコードに収まるには大きすぎるので、代わりに GKEY 21 を使用する必要があります。
12	(Y/N) 式のチェックサム保護。
13	区画に割り当てられた論理プロセッサの数 (PD (3,0))。
14	最初のリモート応答時間境界 (ミリ秒) (ゾーン (10,0))。最初の応答時間モニター・ブラケットは 0 から最初の応答時間境界までです (最初の境界も含む)。このデータは、パフォーマンス・モニターの開始 (STRPFRMON) コマンドで要求されたときにだけ表示されます。
15	2 番目のリモート応答時間境界 (ミリ秒) (ゾーン (10,0))。2 番目の応答時間モニター・ブラケットは最初の応答時間境界から 2 番目の応答時間境界までです (2 番目の境界も含む)。このデータは、パフォーマンス・モニターの開始 (STRPFRMON) コマンドで要求されたときにだけ表示されます。
16	3 番目のリモート応答時間境界 (ミリ秒) (ゾーン (10,0))。3 番目の応答時間モニター・ブラケットは 2 番目の応答時間境界から 3 番目の応答時間境界までです (3 番目の境界も含む)。このデータは、STRPFRMON コマンドで要求されたときにだけ表示されます。
17	4 番目のリモート応答時間境界 (ミリ秒) (ゾーン (10,0))。4 番目の応答時間モニター・ブラケットは 3 番目の応答時間境界から 4 番目の応答時間境界までです (4 番目の境界も含む)。5 番目以降の応答時間境界は、5 番目の応答時間モニター・ブラケットの範囲に収まります。このデータは、STRPFRMON コマンドで要求されたときにだけ表示されます。
21	システム ASP のキャパシティー (KB)。データ用の記憶域としてシステム ASP に割り当てられた補助記憶域の合計 KB 数です。この数値は、符号なし 8 バイトの 2 進値として報告されます。

GKEY	GDES
AP	マシン用に持続する永続 16 MB アドレス。このアドレスは、符号なし 8 バイトの 2 進値として報告されます。
AT	マシン用に持続する一時 16 MB アドレス。このアドレスは、符号なし 8 バイトの 2 進値として報告されます。
B1	最初のディスク応答時間境界 (ミリ秒) (B(9,0))。最初のディスク応答時間バケットは 0 から最初の応答時間境界までです。
B2	2 番目のディスク応答時間境界 (ミリ秒) (B(9,0))。2 番目のディスク応答時間バケットは、最初の応答時間境界 (その境界も含む) から 2 番目の応答時間境界までです。
B3	3 番目のディスク応答時間境界 (ミリ秒) (B(9,0))。3 番目のディスク応答時間バケットは、2 番目の応答時間境界 (その境界も含む) から 3 番目の応答時間境界までです。
B4	4 番目のディスク応答時間境界 (ミリ秒) (B(9,0))。4 番目のディスク応答時間バケットは、3 番目の応答時間境界 (その境界も含む) から 4 番目の応答時間境界までです。
B5	5 番目のディスク応答時間境界 (ミリ秒) (B(9,0))。5 番目のディスク応答時間バケットは、4 番目の応答時間境界 (その境界も含む) から 5 番目の応答時間境界までです。6 番目のディスク応答時間バケットには、上記のすべてと、5 番目の応答時間境界が含まれます。
CD	コレクション・データ。このレコードは収集サービスでしか提供されません。指定される値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>0: この収集は、従来のパフォーマンス・モニターである *SYS コレクションで作成されるファイルと一致する。</li> <li>1: コレクション・データは *SYS ではない。収集で生成されるデータベース・ファイルは、従来のパフォーマンス・モニターのデータを基にするアプリケーション (Performance Tools 報告、PM for System i5™) など) に対しては不十分である場合がある。</li> </ul>
CI	内部データ収集 (Y/N)。
CL	コレクション・ライブラリー。管理収集オブジェクトが常駐するライブラリーの名前。
CN	コレクション名。管理収集オブジェクトの名前。
DB	データベースの整合性。このレコードは収集サービスでしか提供されません。指定される値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>0: データベース・ファイル内に、問題は検出されなかった。</li> <li>1: 選択された内部サイズか、収集間隔の矛盾のために、生成されたデータベース・ファイルには、欠落間隔や、従来のパフォーマンス・モニターのデータを基にするアプリケーションに対して問題を引き起こしかねない矛盾が含まれている可能性がある。</li> </ul>
DL	データベースの限度。全体のシステム CPU に対するパーセンテージを示す B (4,1) の値です。例として、125 は 12.5% を表します。
DM	オンデマンド・メモリー情報。マシンに存在する (GB) 単位のオンデマンド・メモリーの合計量 (4 バイト・バイナリー)。それに続いて、依然として割り振り可能な (GB) 単位のオンデマンド・メモリー量 (4 バイト・バイナリー)。永続、一時的、または計量キャパシティー・アップグレードにより活動化されたメモリーは、使用可能とは見なされません。このレコードは、オンデマンド・メモリーを持つシステムでのみ表示されます。
DP	オンデマンド・プロセス情報。これはマシンに存在するオンデマンド・プロセッサの合計数 (2 バイト・バイナリー) と、それに続く、依然として割り振り可能なオンデマンド・プロセッサ数 (2 バイト・バイナリー) です。永続、一時的、または計量キャパシティー・アップグレードにより活動化されたプロセッサは、使用可能とは見なされません。このレコードは、オンデマンド・プロセッサを持つシステムでのみ表示されます。
DT	データベースの限界値。全体のシステム CPU に対するパーセンテージを示す B (4,1) の値です。例として、125 は 12.5% を表します。

GKEY	GDES
ED	終了日。収集の最後の間隔に関連付けられた日付。この日付は、左寄せ CHAR(7) フィールドとして報告されます。「CYYMMDD」というフォーマットで表示されます。
ET	終了時刻。収集の最後の間隔に関連付けられた時刻。この時刻は、左寄せ CHAR(6) フィールドとして報告されます。「HHMMSS」というフォーマットで表示されます。 注: 以下は、活動状態の収集と非活動状態の収集両方の、「終了日」および「終了時刻」フィールドの内容についての説明です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>非活動状態の収集の場合、日付と時刻は、管理収集オブジェクト内に存在する最後の間隔から取得されます。</li> <li>*ACTIVE の収集の場合、日付と時刻は、CRTPFRTA で処理された最後の間隔から取得されます。</li> </ul>
F	ファイル・レベル (PD (2,0))。この値は、パフォーマンス・データベース・ファイルのレベルを指定します。このフィールドの値は 21 で、これは、パフォーマンス・データベース・ファイルの形式が変更されるたびに変化します。
FC	プロセッサ・フィーチャー・コード (4 文字)。
FI	対話型のフィーチャー (4 文字)。対話式フィーチャーを持たないサーバーの場合は、対話式フィーチャー・フィールドはブランクです。
FP	プロセッサ機能 (4 文字)。
HM	ハイパーバイザー・メモリー。これは、ハイパーバイザーによって使用される、メガバイト単位のメモリーの合計量です。物理マシン・メモリーで、区画のメモリー割り振りとは関連していません。メモリーの量は、区画および各区画の属性の数により決まります。値は、符号なしの 4 バイト・バイナリーとして報告されます。
I	間隔 (PD (2,0))。システム・パフォーマンス・データの各収集の間の時間間隔 (分)。
IL	構成された処理装置のパーセントとしての対話式制限 (区画に割り振られた処理装置 (PU) を参照)。値は、2 バイト・バイナリー B(4,1) 値、続いて 4 バイト・バイナリー B(5,2) 値という 2 つの異なるフォーマットで報告されます。たとえば、2 番目のフォーマットでは、値 1250 は 12.50% を表します。より正確なデータを得るには、2 番目の値を使用します。
IS	間隔秒数 (PD (4,0))。このレコードは収集サービスでしか提供されません。システム・パフォーマンス・データの各収集の間の時間間隔 (秒)。
IT	構成された処理装置のパーセントとしての対話式しきい値 (区画に割り振られた処理装置 (PU) を参照)。値は、2 バイト・バイナリー B(4,1) 値、続いて 4 バイト・バイナリー B(5,2) 値という 2 つの異なるフォーマットで報告されます。たとえば、2 番目のフォーマットでは、値 1250 は 12.50% を表します。より正確なデータを得るには、2 番目の値を使用します。
OS	出力ファイル・システム (8 文字)。このレコードは収集サービスでしか提供されません。この値は、データベース・ファイルが生成されるシステムを示します。
PC	区画カウント。値は、99 という上限を持つゾーン (2,0) 値、続いて符号なしの 4 バイト・バイナリー値という 2 つの異なるフォーマットで報告されます。より正確なデータを得るには、2 番目の値を使用します。このレコードは収集サービスでしか提供されません。
PN	区画 ID (1 文字)。このレコードは収集サービスでしか提供されません。
PP	基本区画 (1 文字)。このレコードは収集サービスでしか提供されません。
PU	区画に割り振られた処理装置。この値は、4 バイトの 2 進 B (5,2) として報告されます。たとえば、175 は 1.75 の処理装置を意味します。
R	バージョン番号 (PD (2,0)) とリリース番号 (PD (3,1))。
S	システム名 (8 文字)。

GKEY	GDES
SJ	ジョブ選択 (SLTJOB) パラメーター値 (10 文字)。この値は *ALL か *ACTIVE となります。このパラメーターは、パフォーマンス・モニターに当てはまりません。収集サービスは、SJ パラメーターは使用しません。
SP	Shared processor/pool attributes. このレコードには、共用プロセッサ・プールに関連した区画属性が含まれます。最初の項目は、区画が共用プールを使用するかどうかを識別します。データの残りは、共用が影響するかどうかを設定します。  バイト 1: CHAR(1) - プロセッサ共用。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• '0' = 区画は物理プロセッサを共用しません。</li> <li>• '1' = 区画は物理プロセッサを共用します。</li> </ul> バイト 2: CHAR(1) - 上限あり/上限なし <ul style="list-style-type: none"> <li>• '0' = 区画には上限があります。</li> <li>• '1' = 区画には上限がありません。</li> </ul>
S1	QPFRAJ システム値の値 (1 文字)。
S2	QDYNPTYSCD システム値の値 (1 文字)。
S3	QDYNPTYADJ システム値の値 (1 文字)。
T	トレース・タイプ (5 文字)。パフォーマンス・モニターの開始コマンドで開始された内部トレースのタイプを指定します (*ALL または *NONE)。収集サービスは常に *NONE を報告します。
I UP	区画使用カウント。この記録は、5761-SS1 フィーチャー 5052 (ユーザー・ライセンス・キー) をサポートするシステム上に存在します。1 メトリックは 4 バイトのバイナリー値として戻されます。使用カウント - この区画で使用可能な指定ユーザー数。
I US	システム使用カウント。この記録は、5761-SS1 フィーチャー 5052 (ユーザー・ライセンス・キー) をサポートするシステム上に存在します。2 つのメトリックが 4 バイトのバイナリー値として戻されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 使用制限 - 許可される指定ユーザー数。この制限は、システム・ベースであり、区画ベースではありません。正確な報告は、報告区画上のカスタマーが入力する必要があるライセンス・キー情報に依存しています。</li> <li>• 使用カウント - システムで使用可能な指定ユーザー数。この値は、システム・ベースであり、区画ベースではありません。</li> </ul>
I XP	入手された PM Agent データ。この収集が PM Agent データ要件について処理されたかどうかを示します。起点システムにのみ適用されます。これは値 1 の、1 バイト文字フィールドです。この記録は、PM Agent データが入手されていない場合は存在しません。
I XS	作成された要約データ。要約データがこの収集で作成されたかどうかを示します。これは値 1 の、1 バイト文字フィールドです。この記録は、要約データが作成されていない場合は存在しません。

## 関連概念

共用プロセッサ・プール

処理キャパシティが複数の論理区画間で共用されるプロセッサについては、『共用プロセッサ・プール』のトピックを参照してください。

## 関連情報

- I i5/OS ライセンス交付
- I フィーチャー 5052 (ユーザー・ライセンス・キー) については、『i5/OS ライセンス交付』のトピックを参照してください。

## 収集サービス・データ・ファイル: QAPMHDWR

このファイルは、ハードウェア・リソースの表示 (DSPHDWRSC) コマンドに生成される出力ファイルです。

このファイルには、区画内の各ハードウェア構成要素の 1 レコードが含まれています。

出力ファイルの形式は、物理ファイル・モデル QARZALLF、およびこれに関連したレコード形式モデル QRZALL の形式と同様です。

収集サービスが開始すると、これは、次のようなパラメーターで DSPHDWRSC コマンドを発行します。

```
DSPHDWRSC TYPE(*AHW) OUTPUT(*OUTFILE)
OUTFILE(myperformance_lib/QAPMHDWR)
OUTMBR(myperformance_mbr *REPLACE)
OUTFILFMT (*type2)
```

*myperformance\_lib* は出力ファイルのライブラリーです。

*myperformance\_mbr* はデータベース・ファイル・メンバーの名前です。

フィールド名	説明	属性
DORCEN	世紀のリトリブ: 0=19xx, 1=20xx	C (1)
DORDAT	日付のリトリブ: 年/月/日	C (6)
DORTIM	時刻のリトリブ: 時/分/秒	C (6)
DOSNAM	System name (システム名)	C (8)
DOSTYP	システム・ハードウェア・タイプ	C (4)
DOSMOD	システム型式番号	C (3)
DOSSER	システム通し番号	C (10)
DORECF	レコード・フォーマット ID	C (1)
DOSVRM	オペレーティング・システムのレベル	C (6)
DORSVD	予約済み	C (36)
DORSVF	予約済み	C (2)
DOCRPF	暗号機能: 0=No, 1=Yes	C (1)
DOCSAF	結合システム・アダプター機能: 0=No, 1=Yes	C (1)
DOCMNF	通信機能: 0=No, 1=Yes	C (1)
DOLWSF	ローカル・ワークステーション機能: 0=No, 1=Yes	C (1)
DOSTGF	ストレージ機能: 0=No, 1=Yes	C (1)
DOPRCF	プロセッサ機能: 0=No, 1=Yes	C (1)
DORLVL	リソース・レベル	C (1)
DORDSC	リソース記述	C (2)
DORNAM	システム定義リソース名	C (10)
DORPAR	システム定義の以前のレベルのリソース名	C (10)
DORTYP	リソース・タイプ	C (4)
DORMOD	リソース型式番号	C (3)
DORPRT	リソース部品番号	C (12)
DORSER	リソース通し番号	C (10)
DORDSA	リソース直接選択アドレス	C (4)



フィールド名	説明	属性
DORUAA	リソース装置アドレス	C (8)
DORSTS	リソース状況	C (1)
DORRID	リソース・フレーム ID	C (2)
DOREIA	リソース EIA ロケーション	C (2)
DORCSL	リソース・カード位置	C (3)
DORDSL	リソース装置位置	C (4)
DOCFGO	構成オブジェクト名	C (10)
DOCFGP	以前のレベルの構成オブジェクト名	C (10)
DOREDS	リソース拡張記述	C (2)
DORSVC	予約済み	C (8)
DOSYTM	結合システム名	C (8)
DOSMTP	結合システム・タイプ	C (4)
DOSMDL	結合システム・モデル	C (3)
DOSSRN	結合システム通し番号	C (10)
DORSVA	予約済み	C (8)
DORKBD	キーボードの国または地域コード	C (3)
DORCOL	カラー対応表示: 0=No、1=Yes	C (1)
DORSWD	画面幅: 0=Standard、1=Wide	C (1)
DORIWS	プログラマブル・ワークステーション: 0=No、1=Yes	C (1)
DORPOR	ポート番号: 00-06	C (2)
DORSWT	スイッチ設定: 00-06	C (2)
DORSVL	予約済み	C (8)
DORMSZ	主記憶カード容量 (MB)	PD (10,0)
DORSVP	予約済み	C (8)
DORAFI	代替フレーム ID	C (4)
DORACP	代替カード位置	C (5)
DORADP	代替装置位置	C (5)
DORTTY	転送型定義	C (2)
DORTF1	転送ロケーション・フィールド 1	C (4)
DORTF2	転送ロケーション・フィールド 2	C (4)
DORTF3	転送ロケーション・フィールド 3	C (4)
DORTFR	予約済み	C (8)
DORUAT	装置アドレス・タイプ	C (2)
DORUA1	装置アドレス・フィールド 1	C (4)
DORUA2	装置アドレス・フィールド 2	C (4)
DORUA3	装置アドレス・フィールド 3	C (4)
DORUA4	装置アドレス・フィールド 4	C (4)
DORUA5	装置アドレス・フィールド 5	C (4)
PRCFCD	プロセッサ・フィーチャー・コード	C (4)
PRCFD	プロセッサ・フィーチャー	C (4)
PRCIFD	対話式フィーチャー	C (4)

フィールド名	説明	属性
LOCCOD	位置コード	C (79)

#### 関連資料

『収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリとファイルの関係』  
 収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL) オブジェクトに保管されます。

251 ページの『データ・ファイル: ファイルの略語』  
 データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

## 収集サービス・データベース・ファイル: トレース・データベース・ファイルのフィールド・データ

トレース・データは、データのトレースを選択する場合に限り収集されます。トレース・データ・ファイル内に QAPMDMPT を見つけることができます。

トレース・データには、システム内部のトレース・データが含まれます。これは、特定のジョブやトランザクションに関して付加的な情報を得るために収集される詳細データです。この種のデータは、Performance Tools ライセンス・プログラムを使用して分析を行わない限り、収集されることはありません。パフォーマンス・トレースの開始 (STRPFTRC) コマンドの使用時に、システムは以下のパフォーマンス・データ・ファイルをサポートします。

ファイル名	説明
QAPMDMPT	システム・トレース・データ (フィールドやバイトに関する詳細は含まれません)。

## 収集サービス・データ・ファイル: システム・カテゴリとファイルの関係

収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL) オブジェクトに保管されます。

パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドは、管理収集オブジェクトからデータをエクスポートしてから、パフォーマンス・データ・ファイルにデータを書き込みます。収集サービスが別個に制御して収集するそれぞれのデータ・タイプは、データ・カテゴリと表現します。それぞれのデータ・カテゴリには、1 つまたは複数のパフォーマンス・データ・ファイルに書き込まれるデータを含んでいるかまたは提供します。作成されるデータベース・ファイルまたはメンバーの場合、ファイルまたはメンバーが依存しているカテゴリ (またはカテゴリのグループ) が存在しており、CRTPFRDTA によって処理されなければなりません。下記の表は、カテゴリとファイルの関係を示しています。以下の 3 つのタイプの関係があります。

関係	説明
1 次ファイル	これらのファイルは、カテゴリと関連付けられ、カテゴリから生成されます。
互換性ファイル	これらのファイルは、パフォーマンス・データベース互換性を提供するための 1 次ファイルを、以前のファイル構造と結合する論理ファイルです。システムが、関係するすべてのファイル (1 次カテゴリ) を生成する場合、互換性ファイルも生成されます。

関係	説明
2 次ファイル	これらのファイルは、カテゴリまたは 1 次ファイル内に含まれているデータから派生した一部のデータと関連付けられており、それらを含んでいます。ただし、これらのファイルは、そのカテゴリによって制御されません。

ユーザーは、以下のことに注意する必要があります。

1. CRTPFRTA コマンドは、データベース・ファイルが、選択されたカテゴリ用の 1 次ファイルである場合にのみ、そのファイルを生成します。
2. 1 次ファイルが複数のカテゴリ用にリストされている場合、ファイルを生成するためにそれらの各カテゴリを選択する必要があります。
3. 1 つのカテゴリ用の 1 次ファイルが別のカテゴリ用の 2 次ファイルとしてリストされている場合、生成されたデータベース・ファイル内の情報を完全なものにするために 2 番目のカテゴリを選択する必要があります。たとえば、下記の表で示しているように、QAPMECL 用の完全なデータベース・ファイルを生成するには、\*CMNBASE と \*CMNSTN の両方を選択する必要があります。
4. 関連したすべての 1 次ファイルを生成する場合にのみ、システムは互換性ファイルを生成します。

下記の表では、システム・カテゴリとパフォーマンス・データベース・ファイルとの間の関係を示しています。

カテゴリ	1 次ファイル	互換性ファイル	2 次ファイル
*APPN	QAPMAPPN		
*CMNBASE	QAPMASYN QAPMBSC QAPMDDI QAPMECL QAPMETH QAPMFRLY QAPMHDLC QAPMIDLC QAPMLAPD QAPMPPP QAPMX25		
*CMNSAP	QAPMSAP		
*CMNSTN	QAPMSTND QAPMSTNE QAPMSTNL QAPMSTNY なし		QAPMDDI QAPMETH QAPMECL QAPMFRLY QAPMX25
*DISK	QAPMDISK		QAPMSYSTEM
*DOMINO	QAPMDOMINO		
*DPS	QAPMDPS		
*EACACHE	なし		QAPMDISK 注を参照してください。
*HDWCFG	QAPMHDWR		
*HTTP	QAPMHTTPB QAPMHTTPD		

カテゴリー	1 次ファイル	互換性ファイル	2 次ファイル
*IOPBASE	QAPMIOPD QAPMLIOP QAPMDIOP QAPMCIOP QAPMMIOP		
*IPCS	QAPMIOPD QAPMTSK		
*JAVA	QAPMJVM		
*JOBMI	QAPMJOBMI QAPMJOBWT QAPMJOBWTD QAPMJOBWTG QAPMJSUM	QAPMJOBL QAPMSYSL	QAPMSYSTEM
*JOBOS	QAPMJOBOS QAPMJSUM	QAPMJOBL QAPMSYSL	QAPMSYSTEM
*LCLRSP	QAPMRESP		
*LPAR	QAPMLPAR QAPMLPARH		
*POOL	QAPMPOOLB	QAPMPOOLL	
*POOLTUNE	QAPMPOOLT	QAPMPOOLL	
*SNA	QAPMSNA		
*SNADS	QAPMSNADS		
*SUBSYSTEM	QAPMSBSD		
*SYSBUS	QAPMBUS		
*SYSCPU	QAPMSYSCPU QAPMSYSPRC QAPMSYSAFN	QAPMSYSL	
*SYSLVL	QAPMSYSTEM	QAPMSYSL	
*TCPBASE	QAPMTCP		
*TCPIFC	QAPMTCPIFC		
*USRTNS	QAPMUSRTNS		QAPMARMTRT
注: このカテゴリーは、CRTPFRTA には選択可能ではありません。ただし、追加データが *DISK カテゴリーによって報告されるようにします。			

## 関連情報

### 収集サービス

収集サービスは、後で分析するパフォーマンス・データを収集するために使用します。

## 収集サービス・データ・ファイル: Task type extender

タスク・タイプ・エクステンダーは、タスクによって提供される機能的なサポートの区域を識別します。

このタスク・タイプ・エクステンダーのフィールドは、同じ種類の操作を実行するタスク同士を論理的にグループ化する場合に使用します。このフィールドは、主にパフォーマンスのモニターに使用されます。下の表は、タスク・タイプ・エクステンダーをリストしたもので、最初の列が 2 つの EBCDIC 文字、次の列がそのタスク・タイプ・エクステンダーの説明を示しています。

パフォーマンス・タスク ('A' から 'A9')	
フィールド名	説明
AP	パフォーマンス収集サービス・プローブ
バス・トランスポート・タスク ('B' から 'B9')	
フィールド名	説明
BB	トランスポート・バス
BC	トランスポート・クラスター
BI	トランスポート SPD IOBU
BL	トランスポート・ログ
BM	トランスポート SPD 保守データ
BR	トランスポート・リモート記憶域
BT	トランスポート・ツイン光ディスク
クライアント・サーバー・タスク ('C' から 'C9')	
フィールド名	説明
CS	共用フォルダー
装置ドライバー・タスク ('D' から 'D9')	
フィールド名	説明
DA	ワークステーション IOM
DB	PU2 端末 IOM
DC	オープン端末 IOM
DD	イーサネット LAN IOM
DE	2 進同期 3270 IOM
DF	5294 端末 IOM
DG	X25 端末 IOM
DI	FDDI IOM
DJ	ISDN IOM
DK	ディスケット IOM
DL	IDLC IOM
DO	光ディスク IOM
DP	PPP データ・リンク・ドライバー
DR	暗号化ドライバー
DS	DASD IOM
DT	IOP ドライバー
DU	LAN ドライバー
DV	仮想端末 LUD IOM
DW	無線回線 IOM
DX	FAX 回線 IOM
DY	フレーム・リレー IOM
DZ	ILAN 回線 IOM
D0	サービス・プロセッサ IOM
D1	非同期端末 IOM
D2	非同期回線 IOM

パフォーマンス・タスク ('A' から 'A9')	
フィールド名	説明
D3	トークンリング IOM
D4	テープ IOM
D5	ワークステーション IOM
D6	平衡型 IOM
D7	SDLC 回線 IOM
D8	2 進同期 IOM
D9	MTAM IOM
その他のタスク ('E' から 'E9')	
フィールド名	説明
EH	保守ハードウェア資源情報
EI	各種 I/O
EL	エラー・ログ
ES	暗号方式シード管理
EV	権限管理拡張検査
統合 xSeries サーバー 入出力管理タスク ('F' から 'F9')	
フィールド名	説明
F0	統合 xSeries サーバー IOM
FP	AIX IOP IOM
FS	統合 xSeries サーバー 記憶域管理 IOM
IPCF タスク ('I' から 'I9')	
フィールド名	説明
IR	IPCF ルーター
IS	IPCF サーバー
ストリーム・カーネル・タスク ('K' から 'K9')	
フィールド名	説明
KO	ストリーム・サーバー
保管と復元、ロードとダンプのタスク ('L' から 'L9')	
フィールド名	説明
LM	メインのロードとダンプ
LP	ロードとダンプのパイプライン
MSCP タスク ('M' から 'M9')	
フィールド名	説明
M0	MSCP
M1	回答マネージャー
M2	SNAP
パススルー・タスク ('P' から 'P9')	
フィールド名	説明
PS	ソース表示パススルー
PT	ターゲット表示パススルー
資源管理タスク ('R' から 'R9')	

パフォーマンス・タスク ('A' から 'A9')	
フィールド名	説明
フィールド名	説明
RC	資源管理マシン・データ・コレクター
RM	資源管理サービス
RP	プロセス
記憶域管理入出力タスク ('S' から 'S9')	
フィールド名	説明
SA	非同期の記憶域管理
SD	記憶域管理 DASD サーバー
SP	ページアウト
SW	活動時保管
SX	エキスパート・キャッシュ
データベース・タスク ('T' から 'T9')	
フィールド名	説明
TD	データベース・サーバー
TX	トランザクション管理タイマー
サービス機能 ('V' から 'V9')	
サービス機能	説明
サーバー・メッセージ・ブロック・タスク ('W' から 'W9')	
フィールド名	説明
WB	TCP/IP での NETBIOS
WS	サーバー・メッセージ・ブロック
その他のタスク ('Z' から 'Z9')	
フィールド名	説明
ZF	非同期のバイト・ストリーム・ファイル
ZI	中断されたタスクのクラス
ZR	回復
アドバンスト/36 タスク ('3' から '39')	
フィールド名	説明
3A	アドバンスト/36 ディスク
3C	アドバンスト/36 ワークステーション制御装置
3I	アドバンスト/36 ディスケット
3L	アドバンスト/36 通信回線
3T	アドバンスト/36 テープ
3W	アドバンスト/36 ワークステーション/プリンター
36	アドバンスト/36 エミュレーター・メインタスク

## | Disk Watcher データ・ファイル

| Disk Watcher データベース・ファイルの名前、説明、および属性については、このトピックを参照してください。

## Disk Watcher データ・ファイル: QAPYDWINTI

- このファイルには、Disk Watcher セッションから取られた各サンプルに関する情報が含まれています。
- 各間隔ごとに 1 つのレコードが作成されます。

フィールド名	説明	属性
INTERVAL	間隔番号。	B (8)
IISTARTTOD	間隔の開始時刻。この間隔に対してデータ収集が開始された時刻。	タイム・スタンプ
IIENTOD	間隔の終了時刻。この間隔に対してデータ収集が終了した時刻。	タイム・スタンプ
IIASPCNT	補助記憶域プール・カウント。この間隔でディスク入出力情報が収集された ASP の数。	B (4)
IIPATHCNT	ディスク装置のパス・カウント。この間隔でディスク入出力情報が収集されたディスク装置のパスの数。	B (4)
IIDATAMISS	失われたデータ。この間隔でデータが失われたかどうかを示します。データ収集バッファが折り返すほど収集間隔が長い場合に、収集可能なデータが失われることがあります。 0 = この間隔でデータは失われていません。 1 = この間隔でデータは失われています。	C (1)
IICONDSTS	条件状況。条件収集の場合、この間隔内で条件が満たされたかどうかを示します。 0 = この間隔内で条件が満たされなかったか、または条件が存在していません。 1 = 条件が満たされています。	C (1)
IIRESERVE1	予約済み	B (8)
IIRESERVE2	予約済み	B (8)

## Disk Watcher データ・ファイル: QAPYDWOBJR

- このファイルには、オブジェクト解決情報が含まれています。
- 注: 解決データはすべてのオブジェクトについて入手できるわけではありません。収集の試行時にデータが入手不可であったという可能性もあります。
- このファイルには、QAPYDWTRC ファイル内のレコードに関連付けられたオブジェクト情報が含まれます。入出力操作が実行されたオブジェクトごとに 1 つのレコードが作成されます。

フィールド名	説明	属性
SEGKEY	セグメント・キー。このオブジェクトの基本セグメントの ID。	H (8)
ORSEGTYPE	セグメント・タイプ。マシン定義のセグメント・タイプ。	C (2)
OROBJTYPE	オブジェクト・タイプ。	C (1)
OROBJSTYPE	オブジェクト・サブタイプ。	C (1)



フィールド名	説明	属性
OROBJPATR	オブジェクト・パフォーマンス属性。オブジェクト・パフォーマンス属性フィールド。このフィールドの値は、スペースの作成 (CRTS) MI 命令の下で文書化されます。	C (4)
OROBJNAME	オブジェクト名。	C (30)
OROBJASP	オブジェクト ASP。このオブジェクトが置かれる補助記憶域プール (ASP)。	B (4)
ORIFSPATH	IFS パス名。これが IFS オブジェクトの場合、この値はオブジェクトの IFS パスです。これが IFS オブジェクトではない場合、このフィールドはブランクになります。	Varchar (256) Dft (16)

## Disk Watcher データ・ファイル: QAPYDWPGMR

このファイルには、プログラムまたはプロシージャーの解決情報が含まれています。

注: 解決データはすべてのプログラムまたはプロシージャーについて入手できるわけではありません。収集の試行時にデータが入手不可であったという可能性もあります。

このファイルには、QAPYDWTRC ファイル内のレコードに関連付けられたプログラムまたはプロシージャーの情報が含まれます。入出力操作を開始したプログラムまたはプロシージャーごとに 1 つのレコードが作成されます。

フィールド名	説明	属性
PROCKEY	プロシージャー・キー。プログラムまたはプロシージャーの ID。	H (8)
PRMPGMLIB	MI プログラム・ライブラリー名。プログラムが置かれるライブラリーの名前。	C (10)
PRMPGMNAME	MI プログラム名。入出力操作を開始したプログラムの名前。	C (30)
PRMOBJTYP	MI オブジェクト・タイプ。プログラムのオブジェクト・タイプ。	B (4)
PRMOBJSTYP	MI オブジェクト・サブタイプ。プログラムのオブジェクト・サブタイプ。	B (4)
PRMODNAME	モジュール名。 ILE モジュール名。	Varchar (256) Dft (32)
PRFRMTYPE	フレーム・タイプ。このプログラムにより生成されたスタック・フレームのタイプ。  0 = SLIC フレーム 1 = NMI フレーム 2 = OMI フレーム 3 = Java フレーム 4 = PASE フレーム	B (2)
PRSTRHDL	プロシージャー開始ハンドル。このプロシージャーの開始ハンドル。	H (8)

フィールド名	説明	属性
PRENDHDL	プロシージャ終了ハンドル。このプロシージャの終了ハンドル。	H (8)
PRNAME	プロシージャ名。このプロシージャの名前。	Varchar (256) Dft (64)

## Disk Watcher データ・ファイル: QAPYDWRUNI

このファイルには、Disk Watcher セッションに関する情報が含まれています。

各 Disk Watcher セッションごとに 1 つのレコードが作成されます。このレコードは、新規間隔が収集されるごとに現行データで上書きされます。

フィールド名	説明	属性
RIINTERVAL	間隔番号。収集された最終間隔。	B (4)
RISTARTTOD	開始時刻。収集の開始時刻。	タイム・スタンプ
RIENDTOD	終了時刻。収集の終了時刻。	タイム・スタンプ
RIFILELVL	データベース・ファイル・レベル。データベース・ファイルのレベル。	B (4)
RICOLLSIZE	ファイルに書き込まれたデータのサイズ。データベース・ファイルに書き込まれたデータの量 (キロバイト単位)。	B (8)
RIENDRSN	収集の終了理由。データ収集が終了した理由。指定される値は次のとおりです。 I = 間隔制限に達しました。 T = 時間制限に達しました。 S = ストレージ制限に達しました。 C = 条件を満たしました。	C (1)
RITRCCOND	データ条件フラグのトレース。トレース・データがこのコレクション内の条件で制限されるかどうかを示します。 0 = トレース・データはこのコレクション内の条件では制限されません。 1 = トレース・データはこのコレクション内の条件で制限されます。	C (1)
RISYSNAME	システム名。収集が実行されたシステムの名前。	C (8)
RISYSSRL	システム通し番号。収集が実行されたシステムの通し番号。	C (15)
RISYSTYPE	システム・タイプ。収集が実行されたシステムのマシン・タイプ。	C (4)
RISYSMODEL	システム・モデル。収集が実行されたシステムの型。	C (4)
RINUMPPROC	物理プロセッサの数。収集が実行されたシステムの物理プロセッサの数。	B (4)
RINUMVPROC	仮想プロセッサの数。収集が実行されたシステムの仮想プロセッサの数。	B (4)

フィールド名	説明	属性
RIOSVRM	オペレーティング・システム VRM。収集が実行されたシステムのオペレーション・システム・リリース。	C (6)
RICALLJOB	呼び出しジョブ名。 Disk Watcher 収集を開始したジョブの名前。	C (26)
RICURRUSER	呼び出しジョブ現行ユーザー。 Disk Watcher が開始されたときの呼び出しジョブの現行ユーザー。	C (6)
RICOLLNAME	コレクション名。このコレクションのメンバー名。	C (10)
RICOLLDISC	コレクション記述。コレクションに付与されたテキスト記述。	C (50)
RISTRCMD	STRDW コマンド・ストリング。このコレクションを作成するために使用されたコマンド・ストリング。	C (1000)
RIDFNCM	ADDDWDFN コマンド・ストリング。このコレクションの定義を作成するために使用されたコマンド・ストリング。	C (5000)

## Disk Watcher データ・ファイル: QAPYDWSTAT

このファイルは、指定のディスク装置の要約統計を提供します。

各ディスク装置パスのサンプルごとに 1 つのレコードが作成されます。

注: ディスク装置へのパスは、装置リソース名または

STBUSNUM、STBOARDNUM、STCARDNUM、STIOADDR、STIOBUSNUM、STIOCTLADR、STIODEVADR、および STUNITNUM フィールドの 16 バイトの組み合わせのいずれかにより一意的に識別できます。

フィールド名	説明	属性
INTERVAL	間隔番号。	B (8)
DEVNAME	このディスク装置パスに関連付けられた装置の資源名。	C (10)
STBUSNUM	システム・バス番号。入出力装置のシステム・バス番号。	B (2)
STBOARDNUM	システム・ボード番号。入出力装置のシステム・ボード番号。	B (2)
STCARDNUM	システム・カード番号。入出力装置のシステム・カード番号。	B (2)
STIOADDR	入出力アダプター・アドレス。入出力装置のアダプター・アドレス。	B (2)
STIOBUSNUM	入出力バス番号。入出力装置のバス番号。	B (2)
STIOCTLADR	入出力コントローラー・アドレス。入出力装置のコントローラー・アドレス。	B (2)
STIODEVADR	入出力装置アドレス。入出力装置の装置アドレス。	B (2)
STUNITNUM	装置番号。入出力統計が戻される装置番号。	B (2)
STASPNUM	ASP 番号。このディスク装置パスに関連付けられた ASP 番号。	B (2)
STFIRSTIO	最初の入出力時間。セッション作成時から最初の入出力が実行された時間 (マイクロ秒単位)。	B (8)

フィールド名	説明	属性
STLASTIO	最終の入出力時間。セッション作成時から最終の入出力が実行された時間 (マイクロ秒単位)。	B (8)
STWRTTOTAL	合計書き込み時間。書き込み操作の実行に費やされた合計時間 (マイクロ秒単位)。	B (8)
STWRTDQ	据え置き待ち行列書き込み時間。据え置き待ち行列で待機した書き込み要求の合計時間 (マイクロ秒単位)。	B (8)
STWRTCNT	書き込みカウント。書き込み操作の総数。	B (8)
STWRTPGCNT	書き込みページ・カウント。書き込まれたページの総数。	B (8)
STWRTMIN	最小書き込み時間。書き込み操作の実行に用いられた最小時間 (マイクロ秒単位)。	B (8)
STWRTMINDQ	最小据え置き待ち行列書き込み時間。据え置き待ち行列で待機した書き込み要求の最小時間 (マイクロ秒単位)。	B (8)
STWRTMAX	最大書き込み時間。書き込み操作の実行に用いられた最大時間 (マイクロ秒単位)。	B (8)
STWRTMAXDQ	最大据え置き待ち行列書き込み時間。据え置き待ち行列で待機した書き込み要求の最大時間 (マイクロ秒単位)。	B (8)
STRDTOTAL	合計読み取り時間。読み取り操作の実行に費やされた合計時間 (マイクロ秒単位)。	B (8)
STRDDQ	据え置き待ち行列読み取り時間。据え置き待ち行列で待機した読み取り要求の合計時間 (マイクロ秒単位)。	B (8)
STRDCNT	読み取りカウント。読み取り操作の総数。	B (8)
STRDPGCNT	読み取りページ・カウント。読み取られたページの総数。	B (8)
STRDMIN	最小読み取り時間。読み取り操作の実行に用いられた最小時間 (マイクロ秒単位)。	B (8)
STRDMINDQ	最小据え置き待ち行列読み取り時間。据え置き待ち行列で待機した読み取り要求の最小時間 (マイクロ秒単位)。	B (8)
STRDMAX	最大読み取り時間。読み取り操作の実行に用いられた最大時間 (マイクロ秒単位)。	B (8)
STRDMAXDQ	最大据え置き待ち行列読み取り時間。据え置き待ち行列で待機した読み取り要求の最大時間 (マイクロ秒単位)。	B (8)
STOHTTOTAL	その他の入出力合計時間。その他の入出力操作の実行に費やされた合計時間 (マイクロ秒単位)。	B (8)
STOHTDQ	据え置き待ち行列のその他の入出力時間。据え置き待ち行列で待機したその他の入出力操作の合計時間 (マイクロ秒単位)。	B (8)
STOHTCNT	その他の入出力カウント。その他の入出力操作の総数。	B (8)
STOHTPGCNT	その他の入出力ページ・カウント。その他の入出力操作に関係したページの総数。	B (8)
STOHTMIN	その他の入出力最小時間。その他の入出力操作の実行に用いられた最小時間 (マイクロ秒単位)。	B (8)
STOHTMINDQ	据え置き待ち行列のその他の入出力最小時間。据え置き待ち行列で待機したその他の入出力操作の最小時間 (マイクロ秒単位)。	B (8)

フィールド名	説明	属性
STOTHMAX	その他の入出力最大時間。その他の入出力操作の実行に用いられた最大時間 (マイクロ秒単位)。	B (8)
STOTHMAXDQ	据え置き待ち行列のその他の入出力最大時間。据え置き待ち行列で待機したその他の入出力操作の最大時間 (マイクロ秒単位)。	B (8)
STDATAMISS	失われた入出力データ。間隔中に収集バッファが折り返したためにこのディスク装置の一部の入出力データが失われたことを示します。ある間隔から次の間隔までの時間を減らすと、このデータ消失を避けられる場合があります。  0 = データは失われていません。 1 = このディスク装置についてデータが失われています。	C (1)
STRESERVE1	予約済み	B (8)
STRESERVE2	予約済み	B (8)
STRESERVE3	予約済み	B (8)

## Disk Watcher データ・ファイル: QAPYDWTDER

このファイルは、タスク・ディスパッチング・エレメント (TDE) 解決情報を提供します。

注: 解決データはすべての TDE について入手できるわけではありません。収集の試行時にデータが入手不可であったという可能性もあります。

このファイルには、QAPYDWTRC ファイル内のレコードについての TDE 情報が含まれます。

QAPYJWTRC ファイル内の固有のタスク・カウントごとに 1 つのレコードが作成されます。

フィールド名	説明	属性
TSKCNT	タスク・カウント。 TDE のタスク・カウント。	B (8)
TRPTSKCNT	1 次スレッド・タスク・カウント。 1 次スレッドのタスク・カウント。このスレッドが 1 次である場合、この値はフィールド TSKCNT と同じになります。	B (8)
TRTHREADID	スレッド ID。この TDE のスレッド ID。	B (8)
TRTDETYPE	TDE タイプ。この項目の参照先の TDE のタイプを示します。  T = タスク。 P = 1 次スレッド。 S = 2 次スレッド。 L = ライセンス内部コード (LIC) スレッド。	C (1)
TRTDENAME	ジョブ名またはタスク名。この TDE と関連するジョブ名またはタスク名。ジョブの場合、これはジョブ名、ユーザー名、およびジョブ番号で構成される、完全修飾ジョブ名になります。	C (26)

フィールド名	説明	属性
TRCURRUSER	現行ユーザー。この TDE と関連付けられた現行ユーザー。 TDE 情報が最初に収集された場合は、これはジョブと関連付けられたユーザーです。この値は、ジョブと関連付けられたユーザーが変更された場合は更新されません。	C (10)
TRJVTHD	Java スレッド名。これが Java スレッドである場合、この値は Java スレッド名です。これが Java スレッドではない場合、この値はブランクになります。	Varchar (256) Dft (16)

## Disk Watcher データ・ファイル: QAPYDWTRC

このファイルは、指定の ASP に対して実行された各入出力 (I/O) 操作の具体的なトレース情報を提供します。

各入出力操作ごとに 1 つのレコードが作成されます。

フィールド名	説明	属性
TCASPNUM	ASP 番号。入出力操作が実行された ASP の番号。	B (2)
TCDEVRNAME	装置の資源名。このディスク装置パスに関連付けられた資源名。	C (10)
TCSEGKEY	セグメント・キー。入出力操作が実行された基本セグメントの ID。	H (8)
TCPGMKEY	プログラムまたはプロシージャ・キー。入出力の実行を要求したまたはその原因となったプログラムまたはプロシージャの ID。	H (8)
TCTASKCNT	タスク・カウント。入出力の実行の原因となったタスク・ディスパッチング要素 (TDE) のタスク・カウント。	B (8)
TCDQDEPTH	据え置き待ち行列内項目数。この入出力要求が据え置き待ち行列に置かれた場合の、待ち行列内の入出力操作の数。入出力要求が据え置き待ち行列に置かれていなかった場合、この値は 0 になります。	B (4)
TCSYNICIO	同期入出力。この入出力が同期として処理されたかどうかを示します。 0 = この入出力は同期として処理されませんでした。 1 = この入出力は同期として処理されました。	C (1)
TCTSYNICIO	要求された同期入出力。この入出力が同期として要求されたかどうかを示します。 0 = この入出力は同期として要求されませんでした。 1 = この入出力は同期として要求されました。	C (1)
TCMLTPTHIO	マルチパス入出力。この入出力が、マルチパス入出力操作をサポートするファイバー接続装置に対するものであったかどうかを示します。 0 = この入出力はマルチパスをサポートしない装置に対するものでした。 1 = この入出力はマルチパスをサポートする装置に対するものでした。	C (1)

フィールド名	説明	属性
TCIOTYPE	<p>入出力タイプ。入出力のタイプを示します。</p> <p>R = 入出力は読み取りでした。</p> <p>W = 入出力は書き込みでした。</p> <p>O = 入出力は読み取り/書き込み以外のタイプでした。</p>	C (1)
TCSUBUNIT	<p>ディスク・サブユニット。入出力が実行されたミラーリング・サブユニット。</p> <p>‘ ’ = ミラー保護された装置の一部ではありません。</p> <p>‘A’ = ペアのミラー保護された 1 次装置。</p> <p>‘B’ = ペアのミラー保護された代替装置。</p>	C (1)
TCRESERVED	予約済み	C (1)
TCPOOLNUM	<p>プール番号。入出力が実行された主記憶管理プール番号。プール番号が検索できなかった場合、値はゼロになります。</p>	B (2)
TCIOFUNCTN	<p>入出力機能。入出力操作のコマンド番号。</p> <p>0 = その他の入出力機能</p> <p>2 = 状況のレポート</p> <p>3 = 継続</p> <p>4 = 装置のリセット</p> <p>5 = DASD のフォーマット</p> <p>6 = バッファの書き込み</p> <p>7 = 再割り振り</p> <p>15 = 特殊機能</p> <p>16 = 読み取り</p> <p>17 = DASD パラメーターの読み取り</p> <p>18 = 検査</p> <p>20 = 読み取りのスキップ</p> <p>22 = バッファの読み取り</p> <p>32 = 書き込み</p> <p>33 = パターン・バイトの書き込み</p> <p>36 = 書き込みのスキップ</p> <p>37 = 照会</p> <p>119 = コマンド状況の照会</p> <p>131 = 再編成の開始</p> <p>132 = 割り振り</p> <p>133 = 割り振り解除</p> <p>134 = ディレクトリーへの書き込み</p> <p>135 = スキャン読み取り</p> <p>136 = ディレクトリーの読み取り</p> <p>137 = 圧縮メトリックの照会</p> <p>138 = 一時データの廃棄</p>	B (4)

フィールド名	説明	属性
TCSECTNUM	セクター番号。入出力操作が開始されたセクター番号。	B (8)
TCPAGECNT	ページ・カウント。入出力要求内のページの数。	B (8)
TCSMIOTYPE	<p>ストレージ管理入出力タイプ。ストレージ管理入出力タイプ (これは要求元のパースペクティブからの入出力のタイプです)。</p> <p>SFt = セグメント・アドレス範囲の不在  SCI = セグメント・アドレス範囲のクリア  SRd = セグメント・アドレス範囲の読み取り  SWt = セグメント・アドレス範囲の書き込み  SRv = セグメント・アドレス範囲の除去  SUP = セグメント・アドレス範囲のピン解除  SWp = ページアウト・タスクの書き込み  STv = セグメント・アドレス範囲の単純要求  GRf = アクセス・グループの読み取り  GPg = アクセス・グループの除去  SRP = セグメント・アドレス範囲の除去要求 IOP  SCP = セグメント・アドレス範囲のクリア要求 IOP  GCP = セグメント・アドレス範囲のクリア要求 POW  SUP = セグメント・アドレス範囲のピン解除要求 IOP  SRQ = セグメント・アドレス範囲の読み取り要求 IOP  GRQ = セグメント・アドレス範囲の読み取り要求 POW  SFP = セグメント・アドレス範囲の不在要求 IOP  GFP = セグメント・アドレス範囲の不在要求 POW  SRR = アクセス・グループの読み取り IOP  GRR = アクセス・グループの読み取り POW  SWP = セグメント・アドレス範囲の書き込み要求 IOP  GWP = セグメント・アドレス範囲の書き込み要求 POW  GPP = アクセス・グループの除去要求 IOP  SPw = セグメント・アドレス範囲のページアウト待ち要求</p>	C (3)
TCIOHNDL	入出力ハンドル。入出力操作が実行中のロケーション。	H (8)
TCDQTIME	据え置き待ち行列時間。この操作要求が据え置き入出力待ち行列上で費やした時間 (マイクロ秒単位)。	B (8)



フィールド名	説明	属性
TCIOSTART	入出力開始時刻。入出力操作の開始時刻 (セッションの作成からのマイクロ秒単位)。 注: 据え置き待ち行列時間がゼロより大きい場合、これは操作が据え置き待ち行列に置かれた時間でもありません。	B (8)
TCIOEND	入出力終了時刻。入出力操作の終了時刻 (セッションの作成からのマイクロ秒単位)。	B (8)
TCBUSNUM	システム・バス番号。入出力装置のシステム・バス番号。	B (2)
TCBOARDNUM	システム・ボード番号。入出力装置のシステム・ボード番号。	B (2)
TCCARDNUM	システム・カード番号。入出力装置のシステム・カード番号。	B (2)
TCIOADDR	入出力アダプター・アドレス。入出力装置のアダプター・アドレス。	B (2)
TCIOBUSNUM	入出力バス番号。入出力装置のバス番号。	B (2)
TCIOCTRLAD	入出力コントローラー・アドレス。入出力装置のコントローラー・アドレス。	B (2)
TCIODEVAD	入出力装置アドレス。入出力装置の装置アドレス。	B (2)
TCUNITNUM	装置番号。入出力が実行された装置番号。	B (2)
TCPGMOFSET	プログラム・オフセット。入出力を要求したまたは原因となったプログラムのオフセット。	B (8)
TCRESERVE1	予約済み	B (8)
TCRESERVE2	予約済み	B (8)

## データ・ファイル: ファイルの略語

データベース・ファイルは、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。

これらの略語には、以下のものが含まれます。

省略語	説明
1 次ファイル	これらのファイルは、カテゴリーと関連付けられ、カテゴリーから生成されます。
C	属性列内の文字
H	属性列内の 16 進数
PD	属性列内のパック 10 進数
Z	属性列内のゾーン 10 進数
IOP	入出力処理機構。ディスク、ディスプレイ装置、および通信回線など、ホスト・システムとその他の装置との間の活動を制御する処理機構。
DCE	データ回線終端装置。
MAC	中間アクセス制御。通信 IOP 内のエンティティ。
LLC	論理リンク制御。通信 IOP 内のエンティティ。

省略語	説明
ビーコン・フレーム	リングが実行不能のときに送信されるフレーム。
タイプ II フレーム	システム・ネットワーク体系 (SNA) によって使用される コネクション・オリエンテッドのフレーム (情報フレーム)。
I フレーム	情報フレーム。
B	属性列内の 4 桁 (2 バイト) の DDS バイナリー・データ。
G	グラフィック - 2 バイト Unicode データを保持するために使用されます。

## パフォーマンス用の CL コマンド

オペレーティング・システムには、システム・パフォーマンスの管理および保守に役立つ複数の CL コマンドがあります。

### 基本オペレーティング・システムに含まれる CL コマンド

これらの表は、基本オペレーティング・システムの一部である、パフォーマンス関連 CL コマンドの大半をリストしています。

表 2. リアルタイム・モニター CL コマンド

コマンド	機能
活動ジョブの処理 (WRKACTJOB)	システム上で実行する、ジョブの属性および資源の使用効率を見直し、変更します。
ディスク状況の処理 (WRKDSKSTS)	システム・ディスク装置のパフォーマンス情報、および属性を表示します。
システム状況の処理 (WRKSYSSTS)	現行システムの活動の概要を示します。特に、システム上のジョブの数、および記憶域プールの使用状況に関する情報を表示します。
システム活動の処理 (WRKSYSACT)	システム上のジョブおよびタスクを処理できます。
オブジェクト・ロックの処理 (WRKOBJLCK)	適用を待機しているロックも含め、指定されたオブジェクトのロックを処理し、表示できます。
共用記憶域プールの処理 (WRKSHRPOOL)	マシンおよび基本プールを含めた、共用記憶域プールの使用状況に関する情報を表示し、その属性を変更します。

表 3. 各種のパフォーマンス CL コマンド

コマンド	機能
コマンド・パフォーマンスの分析 (ANZCMDPFR)	単一の CL コマンドまたは一連の CL コマンドのパフォーマンスを測定します。
PM Agent の構成 (CFGPMAGT)	PM Agent パフォーマンス・データを送受信するように PM Agent を構成します。
PM Agent 回線の構成 (CFGPMLIN)	PM Agent で、接続保留状態の回線をオフに変更し、PM Agent パフォーマンス・データを送信し、次いで回線を接続保留状態に戻すことができます。

表 3. 各種のパフォーマンス CL コマンド (続き)

コマンド	機能
パフォーマンス・トレースの開始 (STRPFRTRC)	マルチプログラミング・レベルおよびトランザクション・トレース・データの収集を開始します。
パフォーマンス・トレースの終了 (ENDPFRTRC)	マルチプログラミング・レベルおよびトランザクション・トレース・データの収集を終了します。
パフォーマンス収集の削除 (DLTPFRCOL)	パフォーマンス収集をシステムから削除します。
パフォーマンス収集のコピー (CPYPFRCOL)	パフォーマンス収集のコピーを作成します。
パフォーマンス収集の変換 (CVTPFRCOL)	パフォーマンス・データを、以前のリリースから現行リリースでの処理に必要なフォーマットに変換します。
パフォーマンス収集の保管 (SAVPFRCOL)	単一のパフォーマンス収集の 1 コピー、または同じライブラリー内にある一群のパフォーマンス収集を保管します。
パフォーマンス収集のリストア (RSTPFRCOL)	単一のライブラリー内の 1 つのパフォーマンス収集または一群のパフォーマンス収集をリストアします。

表 4. 収集サービス CL コマンド

コマンド	機能
パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA)	管理収集 (*MGTCOL) オブジェクトに保管されているパフォーマンス情報から一連のデータベース・ファイルを作成します。
パフォーマンス要約の作成 (CRTPFRSUM)	既存の収集サービス・コレクションの要約情報を含む追加のデータベース・ファイルを作成します。
管理収集の変更 (CHGMGTCOL)	指定された管理収集の属性を変更します。
管理収集の削除 (DLTMGTCOL)	管理収集をシステムから削除します。
パフォーマンス収集の開始 (STRPFRCOL)	収集サービスによる、パフォーマンス・データのシステム・レベルの収集を開始します。
パフォーマンス収集の終了 (ENDPFRCOL)	システム・レベルの収集を停止します。
パフォーマンス収集の検査 (CHKPFRCOL)	収集サービス・サーバー・ジョブ (QYPSPFRCOL) の現行状況を判別します。
パフォーマンス収集の構成 (CFGPFRCOL)	特定の収集属性を変更し、収集サービスがデータ収集を管理する方法を判別します。

表 5. Disk Watcher CL コマンド

コマンド	機能
Disk Watcher 定義の追加 (ADDDWDFN)	Disk Watcher 収集時に収集するパフォーマンス・データを指定できます。
Disk Watcher の終了 (ENDDW)	Disk Watcher 収集を終了します。
Disk Watcher 定義の除去 (RMVDWDFN)	1 つ以上の Disk Watcher 定義をシステムから除去します。
Disk Watcher の開始 (STRDW)	ディスク・パフォーマンス・データの収集を開始します。

表 6. Job Watcher CL コマンド

コマンド	機能
Job Watcher 定義の追加 (ADDJWDFN)	Job Watcher 収集時に収集するパフォーマンス・データを指定できます。
Job Watcher の終了 (ENDJW)	Job Watcher コレクターを終了します。
Job Watcher 定義の除去 (RMVJWDFN)	1 つ以上の Job Watcher 定義をシステムから除去できます。
Job Watcher の開始 (STRJW)	Job Watcher コレクターを開始します。

表 7. Performance Explorer (PEX) CL コマンド

コマンド	機能
PEX フィルターの追加 (ADDPEXFTR)	新規 Performance Explorer (PEX) フィルターをシステムに追加します。
Performance Explorer 報告書の印刷 (PRTPEXRPT)	Performance Explorer が収集したデータの定様式リストを印刷します。
Performance Explorer の開始 (STRPEX)	Performance Explorer の新規セッションを開始するか、または中断された Performance Explorer セッションを再開します。
Performance Explorer の終了 (ENDPEX)	Performance Explorer セッションのデータの収集を停止します。
Performance Explorer 定義の追加 (ADDPEXDFN)	Performance Explorer の新規定義をシステムに追加します。
Performance Explorer 定義の変更 (CHGPEXDFN)	既存の Performance Explorer 定義を変更します。
Performance Explorer データの作成 (CRTPEXDTA)	Performance Explorer 管理収集オブジェクト内のデータに基づいて、Performance Explorer データベース・ファイルを作成します。
Performance Explorer データの削除 (DLTPEXDTA)	Performance Explorer ツールにより収集され、特定のライブラリー内の一連の物理ファイルに保管されたデータを削除します。
Performance Explorer 定義の除去 (RMVPEXDFN)	1 つ以上の Performance Explorer 定義をシステムから除去します。
Performance Explorer フィルターの除去 (RMVPEXFTR)	1 つ以上の Performance Explorer フィルターをシステムから除去します。
Performance Explorer 定義の処理 (WRKPEXDFN)	既存の Performance Explorer (PEX) 定義のリストを表示します。新規の定義を追加したり、既存の定義を表示、除去、または変更できます。
Performance Explorer フィルターの処理 (WRKPEXFTR)	既存の Performance Explorer フィルターのリストを表示します。新規のフィルターを追加したり、既存のフィルターを表示、除去、または変更できます。

## IBM Performance Tools for i5/OS (5761-PT1) 内に含まれる CL コマンド

この表は、IBM Performance Tools for i5/OS の一部である、いくつかの CL コマンドをリストしています。これ以外のコマンドについては、「プログラミング」トピック・コレクションの『Performance Tools for i5/OS コマンド』のトピックを参照してください。

表 8. 一般 CL コマンド

コマンド	機能
パフォーマンス・データの分析 (ANZPFRDTA)	システムのパフォーマンスを改善する勧告事項を生成します。
パフォーマンス・データの表示 (DSPPFRDTA)	収集サービスにより収集されるパフォーマンス・データを表示します。
活動報告書の印刷 (PRTACTRPT)	活動報告書を印刷します。
構成要素報告書の印刷 (PRTCPTRPT)	構成要素報告書を印刷します。
ジョブ間隔報告書の印刷 (PRTJOBTRPT)	ジョブ間隔報告書を印刷します。
ジョブ・トレース報告書の印刷 (PRTTRCRPT)	ジョブ・トレース報告書を印刷します。
ロック報告書の印刷 (PRTLCKRPT)	ロック報告書を印刷します。
プール報告書の印刷 (PRTPOLRPT)	プール報告書を印刷します。
資源報告書の印刷 (PRTRSCRPT)	資源報告書を印刷します。
システム報告書の印刷 (PRTSYSRPT)	システム報告書を印刷します。
トランザクション報告書の印刷 (PRTTNSRPT)	トランザクション報告書を印刷します。
Performance Tools の開始 (STRPFRT)	Performance Tools メニュー・インターフェースを呼び出します。

#### 関連情報

System i ナビゲーター・モニター

Performance Tools for i5/OS コマンド

Performance Tools for i5/OS コマンドのリストについては、『Performance Tools for i5/OS コマンド』のトピックを参照してください。



---

## 付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-8711  
東京都港区六本木 3-2-12  
日本アイ・ビー・エム株式会社  
法務・知的財産  
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation  
Software Interoperability Coordinator, Department YBWA  
3605 Highway 52 N  
Rochester, MN 55901  
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、IBM 機械コードのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. \_年を入れる\_. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

---

## プログラミング・インターフェース情報

本書「パフォーマンス」には、プログラムを作成するユーザーが IBM i5/OS のサービスを使用するためのプログラミング・インターフェースが記述されています。



---

## 商標

以下は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Advanced Peer-to-Peer Networking

AIX

i5/OS

IBM

Lotus Notes

OS/2

System i

System i5

System/36

WebSphere

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Sun Microsystems, Inc.の米国およびその他の国における商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

---

## 使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

**個人使用:** これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布（頒布、送信を含む）または表示（上映を含む）することはできません。

**商業的使用:** これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。







Printed in Japan